

vol.2

2025. 3

*Higher Education Studies,
University of Fukui*

福井大学高等教育研究

CONTENTS

高等教育研究 vol.2 の発刊にあたって 安田 年博 1

学術論文・報告

〈学術論文〉

オンデマンド教材と対面を組み合わせたブレンド型授業のデザイン 羽田野 慶子 5

〈報告〉

1991-2024：大学改革時代の教育経験個人史 飛田 英孝 21

高等教育推進センター活動年報

Ⅰ．福井大学における教育改革の取り組み

令和5年度「教育の質向上のための重点配分経費」採択事業について 41

Ⅱ．FDの展望

各学部のFDの取り組み 89

Ⅲ．高等教育推進センターの活動

教学企画・支援部門 98

教学IR部門 106

令和5年度高等教育推進センター名簿

高等教育研究 vol.2 の発刊にあたって

安田 年博

(高等教育推進センター長)

本学は、理念として「格致（かくち）によりて 人と社会の未来を拓（ひら）く」をあげ、これを具現化するための道標として、2040 年に向けた「福大ビジョン 2040」を策定しています。教育については、

●深い実践的教養を備える卓越高度専門職業人の育成

Society5.0 の時代にしなやかな存在感を発揮できる、Specialist でもあり Generalist でもある卓越高度専門職業人（プロフェッショナル、匠）として、学生が生涯にわたり自らの力を伸長できるよう、課題解決能力や数理データサイエンスを活用できる能力等を十分身に付けた人材を分野横断的に育成する。このために、学部を超えた多職種連携教育、異分野融合教育、数理データサイエンス教育等を推進し、単なる知識の習得に留まらない実践的教養を培う教育プログラムを構築するとともに、教学マネジメント等学びの質保証を強化し、大学院レベルの創造性・専門性を主体とする教育を向上させる。

●学生のキャンパスライフの質の向上

キャンパスは、学生が学び、交流し、人間として成長していくのに重要な場であるとの認識の下、デジタル技術を駆使したハイブリッド型教育への転換により学生が意欲的・主体的に学ぶことのできる学生中心のキャンパスを実現する。このために、学生と教職員が共に議論する体制を強化し、学生の声を反映した教育改革を推進する。

等を 2040 年の本学のあるべき姿に向けたミッションとしています。

従来から、「高等教育推進センター」は、これらミッションの実現に向けた具体的な施策の企画・実施とともに教学支援並びに教学 IR の充実など、様々な本学における高等教育改革を進める牽引車としての役割を果たしてきました。その活動の一環として、高等教育改革の情報発信ツールとなる「高等教育推進センター年報」を毎年度発刊し、11 巻まで巻を重ねてきました。他方、昨今、「学修者本位の教育の実現」並びに「個々人の可能性を最大限に伸長する教育への転換」が強く求められており、それには「教育の質保証」に向けた教学マネジメントの確立、その基盤となる教学 IR の展開、三つの方針に沿った教育プログラムと実施体制の整備、学修成果の可視化などが不可欠です。そこで、これらに応じるため、昨年度に本センターを大幅に改組し、組織を「教学 IR 部門」と「教学企画・支援部門」に集約し機能強化を図りました。これに併せ、「高等教育推進センター年報」を発展的に廃刊し、高等教育改革の情報発信ツールを強化するため「高等教育研究」を新たに発刊することといたしました。本巻がその第 2 巻となります。本巻には、国際地域学部羽田野 慶子先生からの論文並びに工学部飛田 英孝先生からの報告などを掲載しています。先

生方におかれましては、ご多忙の中、ご投稿くださり、誠に有難うございます。特に、「高等教育研究」の発刊に当たり、査読制度を導入し、査読を受けた“学术论文”並びに実践報告等の“報告”を掲載することといたしました。査読制度を導入することで、「高等教育研究」掲載論文等の学術的な価値を向上させるとともに、昨今求められている“査読付き論文”を輩出することを図っており、関係の皆様からのご投稿もお待ちしております。

「高等教育研究」が様々な教育改革の情報発信ツールとして活用され、広く教育改革に貢献できることを期待いたしております。どうぞ、関係の皆様におかれましては、よろしくご閲覧のほどお願いいたします。

学術論文・報告

05

オンデマンド教材と対面を組み合わせたブレンド型授業のデザイン
羽田野 慶子

21

1991-2024：大学改革時代の教育経験個人史
飛田 英孝

オンデマンド教材と対面を組み合わせたブレンド型授業のデザイン

羽田野 慶子*

キーワード：オンライン授業、オンデマンド教材、ブレンド型授業、反転授業、アクティブラーニング

コロナ期に実践したオンライン授業の経験を生かしておこなった、資料提示型のオンデマンド教材と対面の講義・ディスカッションを組み合わせたブレンド型授業の実践を振り返ったのち、アクティブラーニングの観点をもつて能動的学習を促す授業デザインについて考察する。受講生アンケートからは、対面のディスカッションへの評価が高い一方で、パワーポイントを用いた講義は対面よりもオンデマンド教材での学習の方が理解が深まるとの意見がみられた。これらの結果から、能動的学習を促すためには、オンデマンドによる丹念に設計された事前学習を対面のディスカッションに繋げるという反転授業の要素を取り入れたブレンド型授業が適していると考えられる。

1. はじめに ―本稿の目的

2020年に始まったコロナ禍は大学教育にオンライン授業の本格的な導入という大きな変化をもたらした。コロナ禍が収束するにつれ、徐々に対面授業に戻ってきたが、2024年現在においても、オンラインを活用したさまざまな授業方法が継続して実践されている。本稿では、筆者が2020年度から2024年度にかけて担当した授業において、オンラインと対面のそれぞれのメリットを組み合わせた授業方法を模索し実践したプロセスを、授業実践記録と受講生へのアンケート調査をもとにふり返し、そのことを通じてオンデマンド教材と対面を組み合わせたブレンド型授業のデザインを提案することを目的とする。

筆者はさきに、コロナ禍に実践した資料提示型のオンデマンド教材とリアルタイムのディスカッションを組み合わせたオンライン授業について実践報告をおこなっている。オンデマンド教材は一般に講義動画の配信という方法が採用されることが多いが、筆者は動画ではなくパワーポイントに説明文を付けた資料を「読む」教材として配信し、小課題を出してリアルタイムの回で教材の内容を抜粋した講義とディスカッションを行うという方法を採用してきた。オンデマンド教材を「読む」学習、小課題を「書く」学習、ディスカッションによる「話す」「討論する」学習を組み合わせることで、オンライン授業の特性を生かしたアクティブラーニングのあり方を考察した（羽田野 2022）。

* 教育・人文社会系部門 総合グローバル領域

本稿ではこれらの授業実践をふまえ、対面授業が可能になった後に実施した、資料提示型のオンデマンド教材と対面の講義・ディスカッションを組み合わせたブレンド型授業の実践を振り返り、アクティブラーニングの観点をつまみつつ、学習者の自発的・能動的学習を促す授業デザインについて考察する。

ポストコロナの時代にあつて、コロナ禍でのオンライン授業の経験をどう生かすことができるかを模索することは、コロナ前の対面授業に戻すだけでない、新たな授業方法を開発できるまたとない機会と考える。例えばコロナ禍における自身のオンライン授業実践を報告した山本（2023）は、講義動画の配信とリアルタイム形式のグループワークを組み合わせた演習や、双方向性に配慮したハイフレックス形式の講義において、出席率はコロナ禍前より高く、試験・レポートの結果から教育効果も概ね高くなっていると報告した上で、教育・学生双方へのアンケート調査からも、一律に対面の満足度がオンライン（オンデマンド、リアルタイム、ハイフレックス）の満足度を上回っているわけではなく、「コロナ禍が収束しても完全な対面授業のみの状態に戻すべき合理的な理由はなく、オンライン授業を部分的にでも継続していくべきである」と主張している（山本 2023 42）。一方、コロナ禍のオンライン授業を経験した学生の立場からは、オンライン授業のデメリットとして「課題が多い」「友達ができない」「授業が理解しにくい」等の声があり、「評価のための授業や課題ではなく、学びのための授業にしてほしい」との要望が上がっている（益田 2022）¹⁾。このような教員と学生双方の意見をふまえるならば、オンラインのメリットを生かしつつ学生が学びの充実感を得るために、対面とオンラインを組み合わせるブレンド型授業に可能性を見いだすことができるのではないかと考える。

2. ブレンド型授業に関連する概念の整理

2-1. ブレンディッドラーニング

はじめに、「ブレンド型授業」に関連する用語・概念について、先行研究をもとに整理しておきたい。

eラーニング研究においては、2000年代初頭からeラーニングと対面による集合学習との組み合わせを「ブレンディング型」「ブレンディッドラーニング」と呼んでいる²⁾。ブレンディッドラーニングは、もともとeラーニングによるプログラムにおける学習者のドロップアウト率の高さを克服するために生み出された方策であった。90年代にeラーニングが広まった後、そのさまざまな欠点³⁾が明らかになり、「eラーニングの持つ長所をそのまま生かし、その短所を「対面学習」という形で補う形の教育・学習方法の必要性が叫ばれ始めた」のがブレンディッドラーニングの起こりとされている（宮地編 2009 96）。

『ブレンディッドラーニングの戦略』（Bersin 2004＝訳書 2006）は、eラーニングを用いた企業内学習プログラムについて書かれたもので、日本で「ブレンディッドラーニング」を冠する最初の出版物とされているが、この中で「ブレンディッドラーニングとは、特定の顧客に対して最適のトレーニングプログラムを作

り出すために、異なるトレーニングの「メディア」（技術、活動、事象の種類）を組み合わせることである。」と定義されている（Bersin 2004=2006 3）。また宮地編（前掲書）では、ブレンディッドラーニングを「集合学習と各種eラーニングを組み合わせた学習形態であり、非同期型の個別学習と同期型の集合学習のそれぞれの短所を補って展開する学習」であり、「異なった学習形態のそれぞれの良いところを集めた学習スタイル」としている（宮地編 2009 99）。このようにブレンディッドラーニングは、既存のeラーニングによる学習プログラムを補う目的で、対面による集合学習を組み合わせた学習方法として発展してきたといえる。

2-2. 反転授業

反転授業（flipped classroom）は、教室での一斉授業と自宅での授業外学習を入れ替えた教育方法である。反転授業の萌芽となる実践は2000年頃からあったが、2007年にアメリカの公立高校教師がおこなった、オンラインの動画教材による自宅での事前学習と教室での個別指導を組み合わせた授業実践が“flipped classroom”と名付けられ、紹介されたことをきっかけに広く知られるようになった（山内・大浦 2014）。きっかけとなった授業実践でオンラインでの動画教材が用いられていたことから、反転授業にはオンラインの活用と動画教材の作成が必須であるにとらえられることが多いが、必ずしもそうしたテクノロジーの活用は必要条件ではないとする立場もある。「反転授業」を「従来授業における予習」および「ブレンド型授業」と比較・検討した澁川（2021）は、反転授業を「学習者が事前学習時に教師による解説と丹念な設計がなされた学習活動に取り組んだのちに、対面授業時に理解の定着や応用・発展を意図した学習活動に取り組む授業形態」と定義し、「テクノロジーを活用することは反転授業の必要条件や前提ではないため、定義には含めない」と結論づけている（澁川 2021 569）。要はオンラインを活用するか否かを問わず、丹念に設計された事前学習と対面授業の組み合わせを広く「反転授業」ととらえられるということである。

反転授業には二つの類型があるとされる。一つは「完全習得学習型」または「習得型」と呼ばれるもので、基礎的な知識・技能を学習者全員が一定基準以上理解することを目指すものである。もう一つは「高次能力学習型」または「探究型」と呼ばれるもので、問題解決学習やプロジェクト学習を通して思考力や判断力、表現力等の育成を目指すものである（溝上 2017 12-13）。前者は主として初等中等教育および大学等における理数系科目等が想定される。後者は初等中等教育の読解・作文・討論等を含む授業や、大学等における講義、演習、PBL型授業などが幅広く想定されるだろう。

2-3. ブレンド型授業

さきにふれたブレンディッドラーニングは、当初は企業内学習プログラムの発展型として生み出されたものであったが、学校教育にも導入が進んできた。日本

国内でも、2000年代前半から「ブレンディッドラーニング」「ブレンド型授業」の語でeラーニングと対面授業を組み合わせた方法による授業研究、実践報告が登場している。「ブレンディッドラーニング」は学校教育だけでなく広く生涯学習の射程において展開されうるが、「ブレンド型授業」は、学校教育の正規科目における授業で行われるブレンディッドラーニングを指す語として理解することができる（澁川 2021 562）。

以上をふまえ、本稿では「ブレンド型授業」を「オンラインによる学習と対面による集合学習を組み合わせた、学校教育における授業形態」として定義する。ブレンド型授業と反転授業は類似した概念であるが、ブレンド型授業はオンラインによる学習が組み込まれることが前提となっているのに対し、反転授業は必ずしもオンラインによる学習を前提としない点が相違している。オンライン学習を組み込んだ反転授業は、ブレンド型授業の一形態としてとらえられるが、ブレンド型授業の全てが反転授業のような「丹念に設計された事前学習」を含んでいるわけではない。両者の関係を図示するならば、図1のようになる。

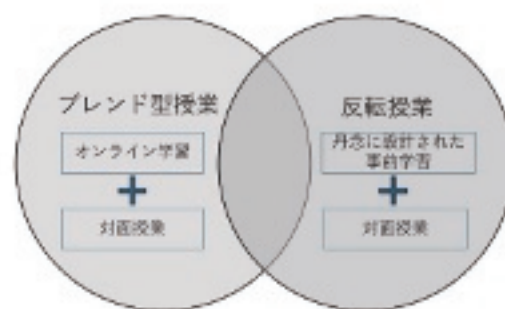


図1 ブレンド型授業と反転授業の関係

3. ブレンド型授業の教育実践

3-1. 授業方法の変遷：対面→オンライン→ブレンド型授業へ

ブレンド型授業の実践事例として、福井大学国際地域学部専門科目「生涯学習概論」の授業実践を報告する。生涯学習概論は国際地域学部の2年生以上を対象とする選択必修科目の一つであり、講義型の科目であるが、一部にアクティブラーニングの要素を含む授業である。受講人数は、年度によってややばらつきがあるが、おおむね30名～50名の範囲である。

図2はコロナ禍前の2019年度から2024年度まで授業方法の変遷を大まかに示したものである。2019年度まで対面授業のみをおこなっていたが、2020年度～2021年度は全ての回をオンライン授業とし、資料提示型のオンデ



図2 授業方法の変遷（「生涯学習概論」2019年度～2024年度）

マンド教材とリアルタイム型のディスカッションを組み合わせる方法を採用した。対面授業が可能になった2022年度以降は、対面とオンラインを組み合わせたブレンド型授業に移行している⁴⁾。

コロナ禍前の2019年度までは、対面による講義のほか、2回のディスカッションと学外研修への参加を取り入れていた(表1)。2020年度は、コロナ禍で全面オンライン授業となったため、講義部分を資料提示型のオンデマンド形式、ディスカッション部分をZoomを用いたリアルタイム形式で実施した。翌2021年度は受講生の要望をふまえて、リアルタイムでのディスカッションの回を増やし、資料提示型のオンデマンド形式とリアルタイム形式のディスカッションを組み合わせる形で行った(表2)⁵⁾。

表1 「生涯学習概論」対面授業のシラバス(2019年度まで)

回	2019年度	
	テーマ	方法
1	オリエンテーション	対面
2	生涯学習とは何か	〃
3	日本の生涯学習の現状	〃
4	思想としての生涯学習	〃
5	フレイレの識字教育	〃
6	ペダゴジーとアンドラゴジー(1)	〃
7	ペダゴジーとアンドラゴジー(2)	〃
8	まちづくりと生涯学習(1)	〃
9	まちづくりと生涯学習(2)	〃
10	グループ・ディスカッション	〃
11	男女共同参画と生涯学習(1)	〃
12	男女共同参画と生涯学習(2)	〃
13	生涯学習実践レポートの作成(1)	※学外
14	生涯学習実践レポートの作成(2)	※学外
15	グループ・ディスカッション	対面

表2 「生涯学習概論」オンライン授業のシラバス(2020年度～2021年度)

回	2020年度		2021年度	
	テーマ	方法	テーマ	方法
1	オリエンテーション	オンデマンド	オリエンテーション	リアルタイム
2	生涯学習とは何か	〃	生涯学習とは何か	オンデマンド
3	日本の生涯学習の現状	〃	日本の生涯学習の現状	〃
4	思想としての生涯学習	〃	グループ・ディスカッション	リアルタイム
5	フレイレの識字教育	〃	思想としての生涯学習	オンデマンド
6	ペダゴジーとアンドラゴジー	〃	フレイレの識字教育	〃
7	まちづくりと生涯学習(1)	〃	グループ・ディスカッション	リアルタイム
8	まちづくりと生涯学習(2)	〃	ペダゴジーとアンドラゴジー	オンデマンド
9	グループ・ディスカッション	リアルタイム	まちづくりと生涯学習	〃
10	男女共同参画と生涯学習(1)	オンデマンド	グループ・ディスカッション	リアルタイム
11	男女共同参画と生涯学習(2)	〃	男女共同参画と生涯学習(1)	オンデマンド
12	最終レポート構想をつくる(1)	〃	男女共同参画と生涯学習(2)	〃
13	最終レポート構想をつくる(2)	〃	グループ・ディスカッション	リアルタイム
14	グループ・ディスカッション	リアルタイム	最終レポート構想をつくる	オンデマンド
15	まとめ	オンデマンド	グループ・ディスカッション	リアルタイム

2022年度は、教室の収容人数に制限をかけた上で対面授業がほぼ全面的に解

禁となったため、前年度にリアルタイム形式でおこなったディスカッションの回を対面に変更し、資料提示型のオンデマンド形式と対面でのディスカッションを組み合わせるブレンド型授業とした。これにより全 15 回のうち 6 回が対面、9 回がオンデマンド形式となった。2023 年度以降は、講義のみの回にも対面を増やし、9 回を対面、4 回をオンデマンド、2 回を学外研修への参加（レポート作成含む）とした（表 3）。

表3 「生涯学習概論」ブレンド型授業のシラバス（2022年度～2024年度）

回	2022年度		2023年度・2024年度	
	テーマ	方法	テーマ	方法
1	オリエンテーション	対面	オリエンテーション	対面
2	生涯学習とは何か	オンデマンド	生涯学習とは何か	対面
3	日本の生涯学習の現状	〃	日本の生涯学習の現状	対面
4	グループ・ディスカッション	対面	思想としての生涯学習	オンデマンド
5	思想としての生涯学習	オンデマンド	フレイレの識字教育	対面
6	フレイレの識字教育	〃	ペダゴジーとアンドラゴジー	オンデマンド
7	グループ・ディスカッション	対面	グループ・ディスカッション	対面
8	ペダゴジーとアンドラゴジー	オンデマンド	まちづくりと生涯学習	オンデマンド
9	まちづくりと生涯学習	〃	グループ・ディスカッション	対面
10	グループ・ディスカッション	対面	男女共同参画と生涯学習	オンデマンド
11	男女共同参画と生涯学習（1）	オンデマンド	グループ・ディスカッション	対面
12	男女共同参画と生涯学習（2）	〃	近代日本の社会教育史	対面
13	グループ・ディスカッション	対面	生涯学習実践レポートの作成（1）	※学外
14	最終レポート構想をつくる	オンデマンド	生涯学習実践レポートの作成（2）	※学外
15	グループ・ディスカッション	対面	グループ・ディスカッション	対面

学外研修への参加は、受講生が各自で地域の生涯学習プログラム（セミナーや地域活動等）を探して参加するというものである。受講生はその体験を実践レポートとしてまとめ、最終回の授業で小グループ内で発表してディスカッションをおこなう。学外研修は 2019 年度までのシラバスには組み込んでいたが、コロナ禍で地域の生涯学習プログラムの多くが中止となり、また参加による感染の可能性や受講生の心理的負担を考慮し、2020 年度から 2022 年度の 3 年間はシラバスから除外していた。2023 年度からは学外研修を再びシラバスに組み入れる形に戻している。

3-2. ブレンド型授業の実施方法

（1）2022 年度

オンデマンド教材として、パワーポイントに説明文を付したテキスト型の教材を作成した⁶⁾。受講生は教材を読んで学習し、期日までに小課題を提出する。オンデマンドの回を 2 回おこなった後、対面の回では、受講生があらかじめ提出した 2 回分の小課題を各自で 3 部印刷して持参してもらう。オンデマンド教材の

内容を抜粋して講義をおこない、3-4名の小グループに分かれて各自の小課題をグループ内に配付し、一人ずつ発表し、相互にコメントしてもらう。これにより、受講生がお互いにオンデマンド教材でどのように学習し、授業内容を理解したのかを共有できるよう促した。このようにオンデマンド2回＋対面1回の組み合わせを4セットおこなった後、最後の2回は最終レポートの構想レジュメを作成して持ち寄り、小グループ内で発表する形とした。

（2）2023年度・2024年度

2023年度からは対面の回を増やし、オンデマンドの回を4回に減らしている。2023年5月に新型コロナが5類感染症に移行したため、全面的に対面授業に戻す選択肢もあったが、これまでおこなってきたオンデマンド教材を活用した授業方法に一定の手応えを感じていたため、基本的には対面授業に戻しつつ、部分的にオンデマンドの回を残す形とした。受講生には、対面の回は出席とコメントシート（授業の感想を数行程度）の提出、オンデマンドの回は小課題の提出（A4で1枚程度）を課した。これまで同様、小課題は対面のグループディスカッションで発表してもらった。対面の回が増え、オンデマンドの回が減ったため、受講生にとっては出席すべき回数が増えた一方、提出が必要な課題の量は減ったことになる。

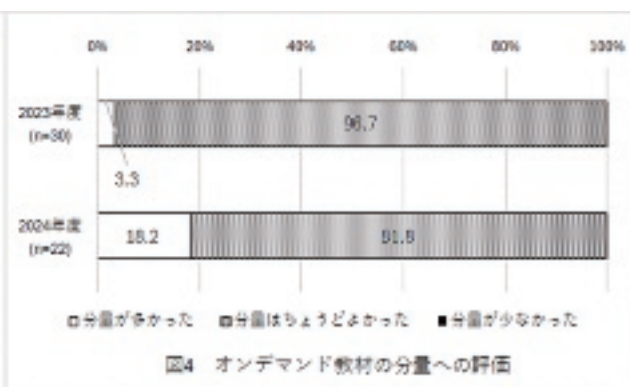
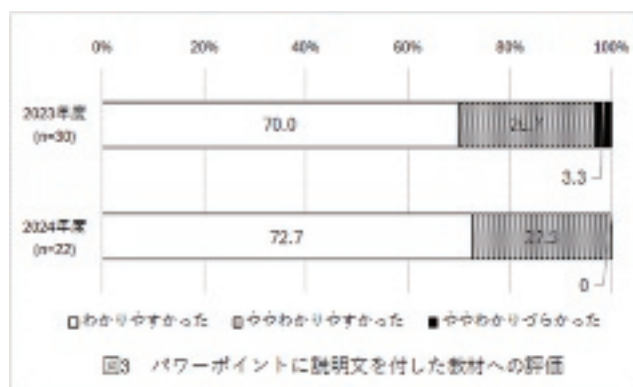
4. 学生の反応：アンケートより

ここでは、2023年度と2024年度に実施したアンケートをもとに、ブレンド型授業に対する受講生の反応を紹介する。回答数は2023年度が30（履修人数37名、回収率81.1%）、2024年度が22（同35名、回収率62.9%）であった。

4-1. オンデマンド教材と小課題について

パワーポイントに説明文を付したオンデマンド教材については、約7割が「わかりやすかった」（図3）、教材の分量については8割～9割が「ちょうどよかった」と回答している（図4）。

オンデマンドの回に提出させた小課題については、8割以上が「取り組みやすか

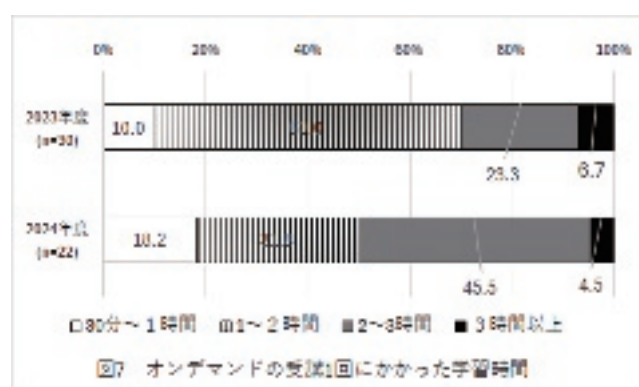
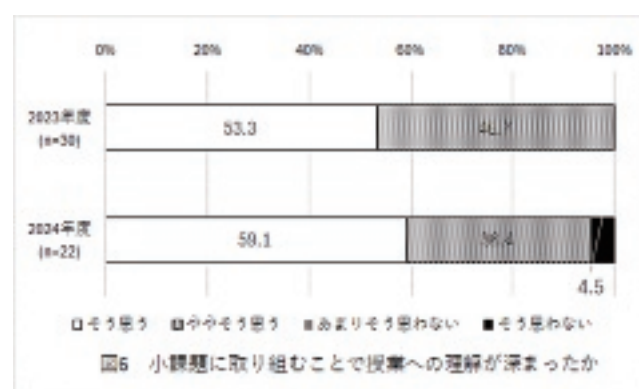
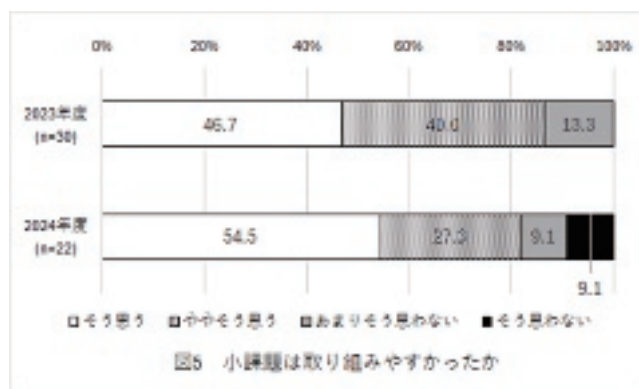


った」としており（図5、「そう思う」「ややそう思う」の合計。以下同様）、また、9割以上が「小課題に取り組むことで授業の理解が深まった」としている（図6）。なお、図表は省略するが、小課題の作成にあたって利用したもの（複数回答）を訊ねたところ、いずれの年度も「インターネット検索サイト」が8割以上ともっとも多く、「教材で紹介されていた文献、ウェブサイト」（5～6割）、「同じ授業を履修している学生との情報交換」（2～3割）が続くが、「ChatGPT」を利用したとする者が2023年度に1名、2024年度には4名おり、今後さらに増えることが予想される。

オンデマンドの回の受講1回あたりにかかった時間は、2023年度受講生は「1～2時間」が60.0%、「2～3時間」が23.3%であったが、2024年度は「1～2時間」が31.8%、「2～3時間」が45.5%であった。教材と小課題の内容と分量は、いずれの年度もほぼ同じであるが、年度によって学習時間にばらつきがみられた。ただし全体の7～8割の受講生は1時間～3時間の学習時間で収まっており、オンデマンド教材の分量はおおむね適切であったと考えられる（図7）。

4-2. ブレンド型授業の方法について

次に、ブレンド型授業における「対面」と「オンライン（オンデマンド）」のそれぞれの授業方法に対する受講生の評価を確認する。まず、対面でおこなったディスカッションについての評価は図8のとおりである。8～9割の受講生が「小課題を発表するディスカッションで学習が深まった」としており、オンデマンド教材での学習と対面によるディスカッションの組み合わせが受講生の深い学習を促していることが示唆される。また、6～8割の受講生は「ディスカッションは楽しかった」としており、「ディスカッションは負担であった」との回答はゼロであった。対面でのディスカッションが学習を「楽しい」と感じさせている



ことがわかる。一方、「ディスカッションは小課題のモチベーションになった」とする者は3～4割ほどにとどまるほか、「対面ではなくオンラインでディスカッションをしたかった」とする者も少数ながら見られる。

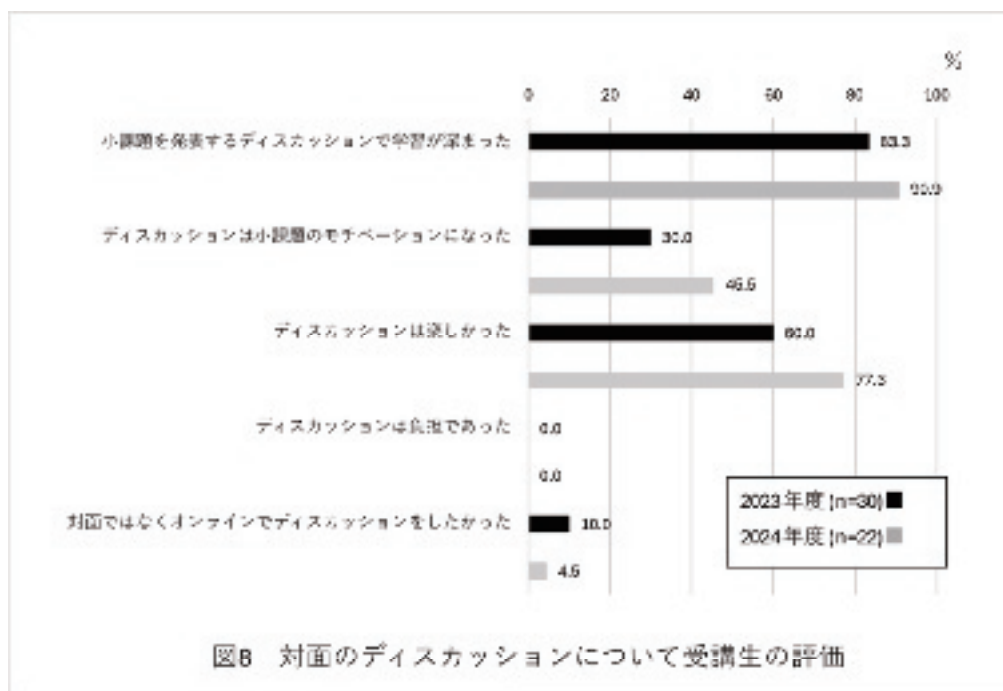


図8 対面のディスカッションについて受講生の評価

次に、オンデマンド教材と対面の組み合わせによるブレンド型授業の方法に対する評価は、図9のとおりである。9割以上の受講生が「対面とオンデマンドのバランスがちょうどよかった」と回答している。回数の内訳は前述の通り、対面9回、オンデマンド4回、学外研修2回である。全体からすると少数であるが、「もっと対面を増やしてほしい」との回答（2024年度1名）より、「もっとオンデマンドを増やしてほしい」との回答（2023年度3名、24年度1名）の方が多くなっている。

また、パワーポイントを用いた講義について、「対面授業に出席する」と「オンデマンド教材で学習して小課題を提出する」のではどちらが理解が深まると思うか、という問いに対しては、3～4割の受講生は「どちらとも

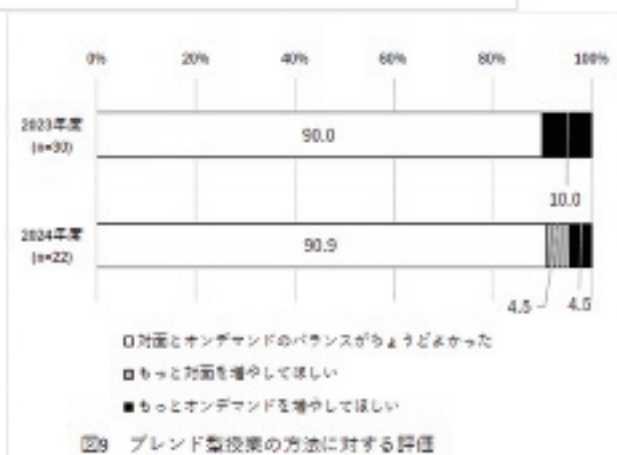


図9 ブレンド型授業の方法に対する評価

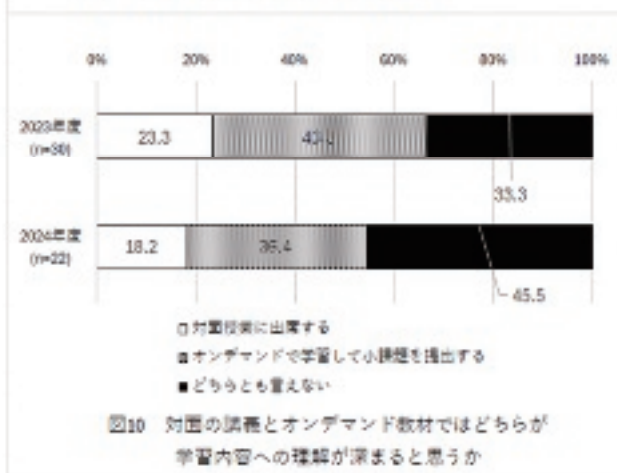


図10 対面の講義とオンデマンド教材ではどちらが学習内容への理解が深まると思うか

言えない」と回答しているが、「対面」と「オンデマンド」を比較するといずれの年度も「オンデマンド」を選ぶ者の方がが多いことが注目される（図 10）。

4-3. 自由記述から

授業方法と内容への感想を述べる自由記述では以下のような回答が見られた。

資料 2023・2024 年度「生涯学習概論」アンケート自由記述(抜粋)

1) オンデマンド教材での学習について

- ・ オンデマンドで資料をじっくり見ながら課題をする形式が、理解が深まったと感じる。 (2024)
- ・ オンデマンドを挟むことで、自分 1 人で内容への理解を深めることができたため良かった。 (2023)
- ・ パワーポイント型の講義はオンデマンドでも大丈夫であると感じた。 (2023)
- ・ オンデマンド型の授業だと、自分の理解度のスピードに合わせて講義を受講できるのでオンデマンド型の授業がもっとあればよかったと感じた。 (2023)
- ・ オンデマンドのパワポの説明文章は分かりやすく面白かったと思う。この授業のおかげで生涯学習をするモチベーションが高くなってきた。 (2023)
- ・ 講義を聞くだけでなく、オンデマンド課題で自身の思考をアウトプットする機会があったので 内容が理解しやすかったです。 (2024)
- ・ オンデマンドが多かったのも、朝が苦手な私でも受講しやすかったです。 (2024)

2) オンデマンドと対面の組合せについて

- ・ オンデマンドと対面のバランスがちょうど良く、取り組みやすかった。 (2023)
- ・ オンラインと対面のバランスが良く、最終課題を作成する期間がしっかり設けられている点が良いなと思います。 (2023)
- ・ オンデマンド授業の後に対面授業があったのは、理解が深まったので良かった。 (2023)
- ・ 対面・オンデマンド併用型の授業のよい事例だ

と考えました。多くのオンデマンド型授業では、対面の際に前回の内容を確認するということは少ないため、生涯学習概論は、自らの理解を深めるのに非常に役立ちました。 (2024)

- ・ セルブラーニング→グループディスカッション→振り返り。他の授業ではないプロセスで一番学びに良い授業のプロセスだと思います。 難しい内容は先生が講義で説明してくださったのもよかったです。 (2023)
- ・ 対面を継続しつつ、オンデマンドを取り入れるという形式は今の時代にあっていい と思いました。 (2023)

3) ディスカッションについて

- ・ ディスカッションはみんなと交流が深められて良かったです！ (2023)
- ・ グループワークが多かったため、自分の考えにはなかった他の人たちの意見がたくさん聞けて、非常に勉強になった。 (2023)
- ・ グループワークの時間はお互いの意見や考えを深く知る機会であって、そういった機会がもっと欲しかった。 (2023)

4) 課題について

- ・ オンデマンドの教材が分かりやすく、理解しやすかったが、1 週間と言う期間の中で課題をまとめることは難しかった。
- ・ オンデマンドの授業が多かったと思うのですが、正直得られる学びは深かったですが課題の負担が大きかったので、学習に対するやる気が減ってしまうなと感じました。

資料提示型のオンデマンド教材による学習は、「理解が深まった」「自分の理解度のスピードに合わせて講義を受講できる」と評価されている。また、オンデマンドの課題により「自身の思考をアウトプットする機会があった」ことで内容の理解につながったとの声がみられる。

オンデマンドと対面の組み合わせについては、アンケート結果と同様、「バランスがちょうど良かった」とする声が多かったほか、オンデマンドで学習した後、同じテーマについて対面の講義と小課題を共有するグループディスカッションを組み合わせたことで理解が深まったとする声がみられた。オンデマンド教材による「セルフラーニング」→対面授業での「グループディスカッション」と「振り返り」（講義内容の補足）という流れを良い学びのプロセスと評価する声もある。また、「対面を継続しつつオンデマンドを取り入れる形式が今の時代に合っている」というポストコロナの時代に合った授業形式との評価もみられた。

対面によるディスカッションへの評価もアンケート結果同様高く、もっとディスカッションを増やしてほしいとの要望もある。一方で、オンデマンドの回に課した小課題については、「1週間で課題をまとめるのは難しい」「課題の負担が大きいためモチベーションが低下する」との声が一部みられた。

5. 分析と考察

5-1. 反転授業の要素を含むブレンド型授業のデザイン

本稿で紹介した授業実践は、対面授業から全面オンライン授業を経て、対面とオンラインの双方を組み合わせたブレンド型授業である。ただし、単純に組み合わせるのではなく、オンデマンド教材を対面授業に向けた事前学習と位置づけて設計した。その意味で、反転授業の要素も取り入れている（図 11）。

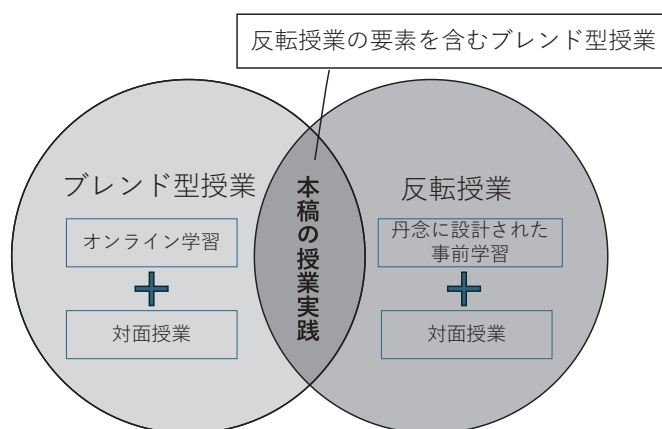


図11 本稿の授業実践の位置づけ

本授業実践では、資料提示型かつテキスト型のオンデマンド教材を対面授業に向けた事前学習に使用し、対面授業で受講生が小課題を持ち寄ってグループディスカッションで発表するという学習の流れをつくった（図 12）。事前学習は個人

学習であり、対面授業は集合学習となる。

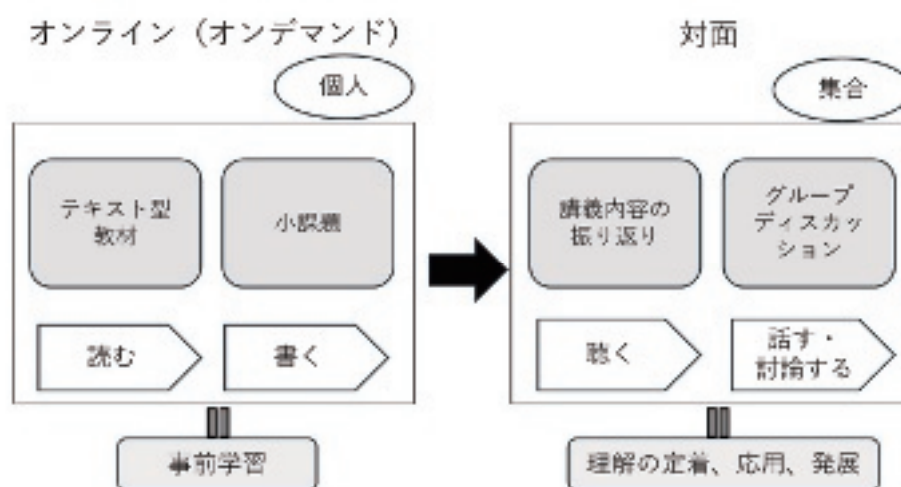


図12 反転授業の要素を含むブレンド型授業デザインの例

オンライン（オンデマンド）でテキスト型教材を読み、小課題を書くことは、対面授業でおこなう講義とグループディスカッションのための事前学習と位置づけられる。事前学習をおこなうことで、対面授業での講義内容に対する理解を定着させ、グループディスカッションを通してそれらの応用、発展をはかることが可能となる。

このように、本授業実践はオンライン（オンデマンド）授業を対面授業のために設計された事前学習と位置づけてデザインしており、反転授業の要素を含むブレンド型授業の実践事例と言える。また、本授業実践を2-2.で述べた反転授業の2類型に当てはめるならば、「高次能力学習型」または「探究型」に分類できるであろう。

5-2. ブレンド型授業のデザインにおける留意点

最後に、実践分析をふまえ、効果的なブレンド型授業をデザインするにあたって留意すべき点を述べる。

① 対面に意味を持たせる

コロナ禍を経てオンライン授業のノウハウが一定程度蓄積され、講義型の授業だけでなく、対面でしか可能ではなかったと考えられていたアクティブラーニング型の授業もかなりの程度オンラインでも可能であることが経験的に明らかになった。そのため、対面授業に戻すにあたっては、「対面であること」に意味を持たせることが求められるようになったと考える。

本授業実践では、オンデマンド教材で「読む」「書く」学習をおこなった後に対面授業を位置づけている。対面授業は、事前学習をふまえ、①講義内容を直接聴くことで理解の定着を図り、②グループディスカッションを通じて応用、発展を

促すという意味を持たせた（図 12）。受講生アンケートにおいて、対面によるディスカッションへの評価が高かったことを確認したが（図 8）、受講生にとっても、事前学習で学んだ知識を講義で再度確認し、グループディスカッションで他の受講生との意見交換をすることが対面授業に出席する目的となったと考えられる。

② オンデマンドの学習効果を活かす

コロナ禍でオンライン授業が導入された際は、オンライン授業はあくまでも対面授業の代替物であった。その後オンライン授業のノウハウが蓄積されるにつれ、対面授業でおこなっていた内容の多くはオンラインでも可能であることが明らかになった。しかし対面授業が全面的に可能になった現在、オンライン（オンデマンド）の方法を採ることは、「オンラインでも可能だからオンラインにする」、ではなく、「オンラインの方が学習効果を期待できるため、オンラインをあえて選択する」ことが求められる。

オンデマンドの利点としては、自分のペースで学習を進められること、繰り返し学習できること等が挙げられる。受講生のアンケートをふり返ると、パワーポイントを用いた講義については、「対面授業に出席する」よりも「オンデマンドで学習して小課題を提出する」方が学習内容への理解が深まるという回答が多かった。また、9 割以上の受講生が小課題で自身の思考をアウトプットすることを通して理解が深まったと回答していた。ここから、講義部分は必ずしも対面であることが最善ではなく、「読む」「書く」という能動的学習を促すテキスト型のオンデマンド教材を活用することで、対面と同等以上の学習効果を期待できると考えられる。

③ ドロップアウトを防ぐ工夫

ただ、丹念に設計したつもりのブレンド型授業デザインであっても、受講生によっては課題が多すぎると感じたり、そのことによってモチベーションが低下する場合もある。受講生がどの程度意欲を持って学習に関与するか、また学習へのレディネスが整っているか否かは、教育する側には十分にコントロールしきれないところであるため、根本的な対策を採ることは難しいが、小課題の内容や提出状況、ディスカッションへの参加状況などをモニタリングすることにより、できる限りドロップアウトを防ぐことが求められる。

5-3. 結語

本稿では、オンデマンド教材と対面を組み合わせたブレンド型授業の実践事例分析をもとに、望ましい授業デザインのあり方を検討した。学習者に能動的学習を促すためには、オンデマンドによる丹念に設計された事前学習を対面授業での講義やディスカッションに繋げるという反転授業の要素を取り入れたブレンド型授業が適していると考えられる。ブレンド型授業のデザインにおいては、オンデマンド教材と対面授業、それぞれの特性を活かして学習の深化を促すよう工夫す

ることが重要である。オンデマンド教材を準備するだけでは不十分であり、課題を出してオンデマンドによる学習のインプットをアウトプットさせるだけでなく、対面での講義の振り返りで学習内容を確認・補足することが必要だと考える。さらに、グループディスカッションで課題を発表するなど、学習者同士の対話を促すことを一連の流れとして組み合わせることによって、オンデマンドでのセルフラーニングを「深い学習」⁷⁾につなげられるのではないだろうか。

注釈

- 1) 益田（2022）は、富山大学の学生が2020年に実施した学生へのアンケート調査結果の報告である。遠隔授業（オンライン授業）のメリットとして「大学に行く手間が省ける」「自分のペースで勉強できる」「授業が理解しやすい」、デメリットとして「課題が多い」「友達ができない」「授業が理解しにくい」等が挙げられている。一方対面のメリットは「友達が簡単にできる」「勉強のモチベーションが上がる」等である。対面か遠隔かを問う2択質問では、約6割が対面派、4割が遠隔派であったという。自由記述では、「対面授業ならディスカッションを多くしたい。」「課題が多すぎると処理できない。」「対面講義が始まってから人との関わりが増えて日々の生活が充実するようになった。」「評価のための授業や課題ではなく、学びのための授業にしてほしい。」等の回答が寄せられたという。
- 2) 例として、出口・村本（2002）、林・林田（2003）など。
- 3) eラーニングの欠点としては例えば、①学生一人ひとりが孤立しがちで途中挫折する者が多い、②PCと向き合っているだけでは学習意欲がわからない、③実体験から学んだり対面の討論を通じて経験的に学ぶ機会に恵まれない、④教師は教材作成や個別対応に忙殺される、等が挙げられている（宮地編 2009 96）。
- 4) 図2では2022年度以降の「ブレンド型授業」に学外研修が含まれているが、2022年度は学外研修をおこなっていない。学外研修をシラバスに復活させたのは、新型コロナが5類に移行した2023年度以降である。
- 5) 2020年度・2021年度の授業実践報告は、羽田野（2022）を参照のこと。
- 6) パワーポイントを用いた講義型の授業のオンデマンド教材としては、講義動画を作成するのが一般的であるが、筆者は動画は作成せず、代わりにパワーポイントのスライド画像に口語調の詳細な説明文を付したテキスト型のオンデマンド教材を作成し、配付している。これにより、受講生は対面で授業を聞いているような流れでスライドの説明を読むことができる。なお、過去の受講生数名にインフォーマルな聞き取りをした結果、オンデマンド教材としての講義動画については、「速度が決まっている」「音を出さないといけない」「通信が必要」等の点で使いづらさを感じる者がおり、中には「（他の授業の）講義動画はほとんど見なかった」という者もいた。テキスト型のオンデマンド教材につ

いては、「動画よりは文章の方が自分のペースで読める」「通信できない環境でもいつでも読める」点がメリットとして挙げられた。

- 7) 松下（2015）は、プレゼンテーションなど学習の「〈外的活動における能動性〉を重視するあまり、〈内的活動における能動性〉がなおざりになりがちなアクティブラーニング型授業」を批判し、内的／外的活動の両方を重視する学習を「ディープアクティブラーニング」と呼んでいる。「深い学習 deep learning」とは、その発想のもとになったものの一つで、学習の内容を自分で理解する意図を持ち、概念を既有的知識や経験に関連付けたり、共通するパターンや根底にある原理をさがすなどして、理解を深め、より積極的な関心をもつようになる、という学習のアプローチを意味する。これに対し、授業で求められることを単に「こなす」だけの学習が「浅いアプローチ」（浅い学習）である（松下 2015 11-12、18-19）。

引用文献

- Bergmann, J. & Sams, Aaron., 2012, “*Flip Your Classroom: Reach Every Student in Every Class Every Day*”, International Society for Technology in Education.
- （山内祐平・大浦弘樹監修、上原裕美子訳、2014年、『反転授業』オデッセイコミュニケーションズ。）
- Bersin, Josh., 2004, “*The Blended Learning Book: Best Practices, Proven Methodologies, and Lessons Learned*”, John Wiley&Sons, Inc.
- （赤堀侃司監訳、2006年、『ブレンディッドラーニングの戦略』東京電機大学出版局。）
- 出口博章・村本卓、2002年、「webベース協調学習と対面講義を連携した講義方式の研究—ブレンディング型学習方式の実践」『八戸大学紀要』第27号、33-44頁。
- 羽田野慶子、2022年、「オンデマンド型、リアルタイム併用型のオンライン授業実践報告—アクティブラーニングの観点から—」『福井大学教育・人文社会系部門紀要』第6号、237-257頁。
- 林敏浩・林田行雄、2003年、「ブレンディッドラーニングに基づく自習支援のためのe-learning教材の開発」『教育システム情報学会研究報告』18巻4号、73-78頁。
- 益田耕佑、2022年、「コロナ後の大学教育—学生へのアンケートから考える」、経済教育学会『経済教育』41巻41号、13-14頁。
- 松下佳代、2015年、「序章 ディープ・アクティブラーニングへの誘い」、松下佳代・京都大学高等教育研究開発推進センター（編著）、『ディープ・アクティブラーニング』、勁草書房、1-27頁。
- 宮地功（編著）、2009年、『eラーニングからブレンディッドラーニングへ』共立出版。

溝上 慎一、2017 年、「序 アクティブラーニング型授業としての反転授業」森朋子・溝上 慎一編『アクティブラーニング型授業としての反転授業 理論編』ナカニシヤ出版、1-15 頁。

澁川 幸加、2021 年、「ブレンド型授業との比較・従来授業における予習との比較を通じた 反転授業の特徴と定義の検討」『日本教育工学会論文誌』44 巻 4 号、561-574 頁。

山本 堅一、2023 年、「オンライン授業はコロナ禍と共に 過ぎ去ってしまうのか」、北海道社会学会『現代社会学研究』第 36 巻、41-57 頁。

山内 祐平・大浦 弘樹、2014 年、「序文」、山内・大浦監修、2014 年、『反転授業』、3-12 頁。

付記：

本稿は、2022 年度～2024 年度日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究(C)）「アクティブラーニングを促すオンライン学習プログラムの開発と実践」（課題番号 22K02203）による研究成果の一部である。

1991-2024：大学改革時代の教育経験個人史

飛田 英孝*

キーワード：創成教育、環境教育、技術者倫理、反転授業、社会貢献

大学設置基準が大綱化された 1991 年に企業から福井大学工学部の教員に転身し、2025 年 3 月に定年退職する一大学教員の三十余年にわたる教育経験を個人史として記録に留める。1990 年代の学校週 5 日制をきっかけとした初等・中等教育への貢献、地球環境問題意識の高まりに伴う環境関連教育の強化、2000 年代に入ると JABEE 開始に伴う技術者倫理教育の導入、学生の主体性を育む創成教育、2004 年の国立大学法人化に伴う研究以外の負担増大、さらには 2010 年代における大学授業のアクティブ・ラーニング化・反転授業の導入、コロナ禍中で急速に進んだ教育の IT 化など、報告者自身が体験した経験をこれまでに公表した文書を引用しつつ、一個人史として概観する。

序章：1990 年代の教育経験

子どもの頃、なりたくなかった職業が 2 つある。それは、警察官と学校の先生。とにかく、人に指図するのもされるのも大嫌いで、「権威」でものを言う輩が許せない性分であった。そんな人間がひよんなことから大学教員に転職することになった。大学教員になったのは、もちろん研究するためであり、うかつにも教育に関する職務のことは考慮の埒外であった。赴任した際、専門分野が同じ先代の教授に「反応工学」以外の分野の授業を担当するよう指示を受け、大慌てで授業の準備を行ったことを懐かしく思い出す。とはいえ、赴任時に同様の経験をされた大学教員は多いのでなかろうか。これは必ずしも悪習とは言えず、このような経験を経て、たいていの分野なら勉強すれば授業できるという自信を培ったことも事実である。このような自信が、後述する様々な分野の教育に携わる際に大いに役立った。ただし、付け焼き刃で向かった初めての教室で多くの学生を前に話し始めたとき、教卓の影で密かに足が震えていたことは告白しておく。

大学院修士課程の授業では、専門の「高分子反応工学」に関する授業を開講した。授業内容は、自身が McMaster 大学の博士課程で受けた恩師の授業をもとに構成し、課した課題も恩師の授業に倣い、「授業で出てきた式を自ら設定した課題

*工学系部門 工学領域 材料開発工学講座

に適用し、実際に計算を行った上で考察を加えてレポートにて報告せよ」という高度な内容であったが、当時の学生はこのような課題にも熱心に取り組み、担当教員としてはやりがいのある授業であった。なお、北米の大学では博士課程の授業と言っても学部生や修士課程の学生も受講できる授業が多く、私が元にした **Polymer Reaction Engineering** の授業は、修士課程と博士課程の学生の受講が認められていた。1995 年には独自の英文テキスト「**Introduction to Polymer Reaction Engineering**」を作成し、授業の目的に科学技術英語の修得を加えた。

1990 年代には、工学教育における英語コミュニケーションの必要性が囂しくなり、1998 年に学科にて科学技術コミュニケーションを担当する外国人教員を初めて採用した。採用の際、東京まで出向いて複数の候補者にインタビューしたことを懐かしく思い出す。私自身も TOEIC 学習を念頭に授業外のセミナーを学生向けに実施したほか、材料開発工学科時代（1999-2015）には大学院の英語入試を担当し、入試を契機として専門分野の英語を身につける一助とすべく、学科教員に呼びかけて、「材料開発工学科 必修英単語集」を編纂し、希望者に配布して英語学習を支援した。

学生実験では、着任 2 年目の 1992 年には本学の化学系学生実験では初めてとなる計算機シミュレーションを取り入れた「拡散現象の計算機実験」を開始した。この実験では、数値計算の他、数式処理、統計処理、グラフィックスを統合して取り扱える **Mathematica**（飛田 2001）を採用した。**Mathematica** が最初にリリースされたのが 1988 年であるから大学の、しかも化学系教育で **Mathematica** を使い始めたのは、日本の大学ではかなり早い部類であったと思う。数学嫌いの化学系学生に対する数学ソフトによる学習支援効果はきわめて高いと考えている。

私が福井大学に赴任した 1991 年は奇しくも大学設置基準が大綱化され、政策的に大学改革への道筋が付けられた年である。思い起こせば、最初から大学改革の波に飲み込まれることが運命づけられていたことになる。本学での「自己点検・評価」が始まったのは 1993 年。「福井大学-現状と課題」が刊行されるようになり、福井大学創立 50 周年を迎えた 1999 年には工学部・工学研究科の外部評価が実施された。従来の大学にはなかった「仕事」が教員にも降りかかるようになってきた。

環境教育

1992 年リオで開催された所謂「地球サミット」以来、地球環境問題が東西冷戦に変わる新たなキーワードとしてクローズアップされるようになった。日本でも環境教育はブームとも言える普及をみせ（中村 2022）、大学でも環境教育が必須のものとなされるようになった。

天邪鬼な私は、ブームの中での環境教育には興味を持つことはなかったが、1996 年に在外研究員として過ごしたオーストラリアにて、日本に比べて圧倒的に脆弱な自然と環境保全意識の高さ、そして、子どもの通っていた小学校で、“No hat, no play”、つまり帽子なしでは外で遊ぶなと言われるほどオゾンホール問題が

身近に存在することが、単なる理念では無く生活に根付いた問題として環境を意識する契機となった。地球環境問題は、今や猛暑と異常気象続きで現在世代の問題ともなりつつあるが、基本的には将来世代に対する責任意識に起因する倫理問題である。私自身、子どもの将来に対する責任が世代間公平意識の根源にある。刊行直後に読んだ「Our Stolen Future」(Colborn et al. 1996)、さらに環境問題を人類史の中に位置づけた「A Green History of the World」(Ponting 1991)に刺激を受けたことも環境／倫理教育に興味を持つきっかけとなった。後者の書籍は、当時の情報検索技術の低さから日本語の翻訳がすでにあるとは知らず、本気で日本語翻訳を始めたことを懐かしく思い出す。

環境関連科目を担当することを構想していた 1998 年 3 月、上里宿舎(公務員宿舎)の町内会役員をしていたとき、宿舎南側を流れる底喰川改修問題に遭遇した。都市部を流れる地域住民の意識の低い小河川ではあるが、その無関心さが翡翠も観察できる豊かな自然を育てていた。この河川改修を巡り、福井県土木事務所との 1 年にわたる「交渉」を通じて、環境運動を体験する機会を得た。(飛田 1999) 実体験を踏まえた上で、1999 年度に共通教育科目「地球環境工学」を開講した。理系の立場から環境問題を論じるにあたり、エントロピーという視点から環境問題にアプローチした著述(槌田 1982、槌田 1992)を取り入れるとともに、工学という観点から経済の視点(室田 1979、中村 1995)も取り入れるよう心がけた。ちょうど開講の年の講義中に刊行された「物理学に基づく環境の基礎理論」(勝木 1999)には大いに助けられた。

開講初年度の授業実施計画を表 1 に示す。第 15 回目が定期試験となっていることから、当時は 15 回の講義プラス試験 1 回という文科省の指導が行われる前であったことが窺える。試験以外に、当初の「課題」には、授業を開講するに際して学習した 200 冊余りの書籍の中から読みやすい 87 の書籍をリストで示し、「リスト中から 1 冊と自分で選んだ環境関係の図書、合計 2 冊以上(2 冊ともリストから選んでも良い)を読み、環境問題について考えたことをレポートにまとめよ」という現在の老教員の視点から見るとかなり「ご無体な」課題となっている。開講当時、かなり「熱」が入っていたことが推察される。

地球環境工学は、生涯学習市民開放プログラムとしても開講(飛田 2008)するとともに、2008 及び 2009 年度、医学部の教養科目として双方向授業システムを用いて授業を行った。せっかくの「双方向」システムであるから、文京キャンパスと松岡キャンパスの学生の発言を授業に取り入れるべく努力した。当時のシステムでは、学生の姿が教員しか見られなかったため、学生同士で互いに姿が見られるようにビデオカメラを持ち込んだこともあって、多数の機器を操作しながらの授業はスリルとサスペンスにあふれた体験であった。医学部のキャンパスからも何度か配信を行った。両キャンパスの学生の理解度は、毎回、コメントシートで確認した。共通教育科目を担当する楽しさに一つは、各学部・学科の学生気質の違いを楽しむことであるが、医学部医学科・看護学科の学生の気質に触れることができたことは、私にとって貴重な体験となった。時期は前後するが、福井

医科大学との統合間もない 2005 年に福井大学の学生・教職員が医学部との交流を深めることをめざして、医学部探検バスツアーを実施したことも懐かしい思い出である。(福井大学広報センター 2005a)

表 1 1999 年度の共通教育科目「地球環境工学」授業計画

第 1 回	たわしとわたし ヤシの実と日本人
第 2 回	イースター島の警告 古代文明崩壊から学ぶこと
第 3 回	快適さにひそむ悪魔 自動車に乗るのは自由か？（ロールプレー）
第 4 回	生物としての人間、地球にとっての人間（1） 人類とエネルギー消費
第 5 回	生物としての人間、地球にとっての人間（2） 人面ゾウの落とし物（二酸化炭素問題）
第 6 回	温故知新：歴史に学ぶ（1） 地球とヒトの歴史
第 7 回	温故知新：歴史に学ぶ（2） 狩猟採集生活～農業～ヨーロッパ人の侵略
第 8 回	クラウジウスの憂鬱と江戸の知恵 近世ヨーロッパと日本
第 9 回	省エネルギーを科学する（1） エネルギー問題ではなく「エントロピー」問題！
第 10 回	省エネルギーを科学する（2） 熱エネルギーはどこまで交換できるか？
第 11 回	「えんとろピー」で考える 生産／消費の科学
第 12 回	我々は牛を食べるべきか 農業と環境
第 13 回	化学物質の氾濫 化学物質のリスクアセスメント
第 14 回	ゴミが捨てられない！ （ブレインストーミング）
第 15 回	定期試験

1999 年の改組時に「材料開発工学科」を学科名とすることが決まったとき、「開発」という名のもとで人類が行ってきたことを考えると新学科名には強い違和感があり、国際連合による定義を参考に「開発」を単に経済的（金銭的）観点から

捉えるのではなく、食料、住宅、文化といった人間として基本的に必要とするものすべてを総合的に現状より良くする活動として位置づけることを主張し、文科省への申請書類や学科パンフレットで「資源収奪・環境破壊型の材料開発から環境調和型の材料開発への転換」をアピールした。

材料開発工学科のカリキュラムにも、専門科目の必修科目として「環境と材料開発の科学」が導入され、2016年の改組まで担当した。

「地球環境工学」の授業は、2016年の改組を期に、同じく共通教育科目として開講されていた「環境化学」と統合して「科学技術と環境」と改称し、物質・生命化学科の教員4名が担当する共通教育科目として開講している。

技術者倫理教育

1999年に日本技術者教育認定機構（JABEE）が設立され、日本の大学における工学教育に技術者倫理教育が必須とされるようになった。日本での技術者倫理教育の推進には、地下鉄サリン事件を始めとするオウム真理教事件に大学の理系卒業生が多く関わっていたことに対する日本社会が受けたショックの大きさも強く影響したと記憶する。

本学工学部の全学科で必修科目として技術者倫理関連科目が設置されることになり、材料開発工学科でも「社会と技術者」と称した科目が3年後期に新設されることになった。計画当初、非常勤講師による授業も構想されていたが、学科の必修科目を非常勤講師に依存することは如何なものかという意見を述べたことがきっかけとなり、この科目の担当も引き受けることになった。

化学系の技術者倫理教育には、水俣病事件が事例として必須であると判断し、水俣病事件を一つの軸として授業の構想を立てた。とはいえ、水俣の地を訪れた経験すらなかったので、2003年の3月20日、東京出張のあと、羽田空港から鹿児島へ飛び、レンタカーで水俣に入った。この日は、イラク戦争が始まった日であり、午前10時から羽田空港は特別警戒態勢となり、10時直前にセキュリティ検査を通過したあと、乗客がほとんど入ってこなくなるという貴重な経験をした。また、まったく想定していなかったのだが、この日は、ちょうど1973年3月20日に熊本地裁であった水俣病裁判勝訴の日から30周年を迎えた日でもあったため、水俣には多くの関係者が集結していた。水俣では多くの資料収集に恵まれ、大量のコピーを抱えて意気揚々と帰路についた。レンタカーで鹿児島空港に戻る途中、「曾木の滝」という観光地がカーナビに現れた。興味本位で立ち寄ったところ、その地に建設された発電所がチッソ水俣工場建設のきっかけであることを知った。旧発電所の使われなくなった導水管の暗闇で水俣病事件について思索を巡らした体験は忘れがたい。鹿児島空港へは早めに到着したが、セキュリティーチェックは気が抜けるほど「平常通り」であった。南九州の地は、かくも「東京」、すなわち水俣病事件における「国」から遠い地にあった。かつて、日本の国立大学では、水俣病事件に関わる者は教授になれないと言われた時代もあったが、その調査のすぐ後、教授に昇任した。

調査資料の他、多くの資料を読み込んで授業準備を行い、2004年後期より3年後期の必修科目として「社会と技術者」を徳永雄次教員と分担して開講した。技術者倫理という科目の性質上、事例の中に受講者が入り込み、感情移入を通じて当事者意識を持って体感することが望ましい。水俣病事件には多数の裁判記録もあり、多くの証言が記録されている。これらの資料をもとに社長、工場長、技術部長、そして一人ひとりの技術者の証言を抽出してまとめ、簡単な人物紹介・年表とともに受講者に配布してグループ・ディスカッションやロールプレーを行った。2004年度の担当部分、特に水俣病事件に関する授業については、大学紀要（飛田・柳瀬 2005）にて報告した。「会社（上司）の命令であれば、倫理的に問題がある命令であっても違法行為でなければ従いますか？」という設問に対し、受講前には63%の学生がYesと回答したのに対し、受講後には83%の学生がNoと回答するなど、技術者倫理教育による顕著な意識の変容が示された。

「社会と技術者」は、思いのほか受講生に好評であった。中には、加害企業であるチッソ株式会社の就職試験を受けて通った学生もいた。結局、この学生は他の企業に就職したが、チッソでの面接の際、学生がこの授業の事を話したところ、「良い授業をしていますね」とのコメントがあったとのこと。この授業が技術者倫理意識を涵養するための授業であり、「告発」するための授業ではないことは、学生にも企業にも伝わったと感じている。

この授業は、2016年度の改組（3年生の科目であるので、2017年度まで）担当した。2016年に実施されたカリキュラム・アンケートの結果を見ると、「倫理観・社会的責任感の育成」という項目について、材料開発工学科（つまり2年生と3年生）の学生で「非常に良い・良い」と回答した学生は、71%にのぼり、これは、工学部全体の平均値55%を大幅に上回った。この当時、2年生後期に「環境と材料開発の科学」を、3年後期に「社会と技術者」を担当しており、多少はこのようなアンケート結果に反映されたと自負している。この年は、新学科である物質・生命化学科の学生は1年生のみであったが、初年次教育として「物質・生命化学概論」でも5回の授業を担当し、技術者倫理に関わる話題も意識して取り入れた。2016年度のカリキュラム・アンケートにて物質・生命化学科1年生の回答を見ると、「倫理観・社会的責任感の育成」という項目について「非常に良い・良い」と回答した学生は、63%となっており、これも全工学部平均（55%）を上回っている。種々の授業科目の中に技術者倫理教育を取り入れる *Ethics Across the Curriculum*（札野 2006）と呼ばれる教育方法の有効性が示唆される。

創成教育

2000年代に入ると2004年度から国立大学が独立法人化されることが周知され、一般企業ではすでに陰りを見せていた「成果主義」が大学にも遅ればせながら本格的に取り入れられ、「集中と選択」の名の下に各大学が予算獲得を競い合う時代となった。工学部では、2002年度後半から、公募に向けた新教育プログラムの作成に取り組むようになった。（鈴木 2004）私自身は2003年5月から「教育 COE

ワーキング・グループ（WG）」と命名された WG に参加したことで教育プログラム作りに関わるようになった。COE というのは Center of Excellence の略で 2002 年から文部科学省が大学教育再生の戦略的推進を掲げて実施した公募プログラムである。教育分野については、現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代 GP）、質の高い大学教育推進プログラム（特色 GP）など GP（Good Practice）と呼ばれるようになる。

この WG の活動には目覚ましいものがあり、活動を通じて「地域教育活動の場の持続的形成プログラム」[現代 GP、2005-2007]（福井大学工学部 2008）、「より高い現代的な教養教育をめざして」[特色 GP、2005-2008]（福井大学共通教育センター 2009）、「夢を形にする技術者育成プログラム」[教育 GP、2008-2010]（福井大学工学部 2011）、「学士力の礎となる初年次教育」[教育 GP、2009-2011]という 4 つのプログラムが採択された。これらのプログラムのうち、「夢を形にする技術者育成プログラム」の取組責任者となった。

このプログラムの採択には、「計画」だけでなく実績も求められる。2003 年から創成教育を推進するプログラムの準備作業に入った。その中で関係者の意欲を高めるキーワードとして提案したのが「Imagineer」という文言である。現在では、英和辞典にも掲載されている単語であるが、当時は書籍形態の辞書には掲載されておらず、インターネット上の辞書である「英辞郎」をあれこれ調べているうちに見つけた新しい英単語であった。「Imagineer」という言葉は、その後、工学部・工学研究科の理念・目的とする文言、「夢を形にする技術者、Imagineer をめざして」に採用され、今日にいたるまで本学の工学部・工学研究科を特徴づける文言として活用されている。

WG での議論を経て、2004 年度に工学部共通科目「学際実験」（2005 年度より学際実験・実習）を新設した。これは、学科・学年の枠を越えてグループをつくり、学生主体のプロジェクトを通じて能力育成を行う科目である。そもそも、JABEE や経済産業省が唱える「社会人基礎力」などで求められる能力は、座学のみでは修得困難な能力ばかりである。学際実験・実習は、「学生の学生による学生のための授業」を謳い、学生自身の自主参加、自主企画、自主運営の自主 3 原則に基づき、学生が主人公となってプロジェクトに取り組み、グループごとに教員がアドバイザーとして参画する授業である。こうした教育手法は「創成教育」と呼ばれ、2000 年代に入って多くの大学が導入を試みた。GP 終了後も継続的に実施している大学はそう多くはないと推測する。

学際実験・実習は、開講当時から 3 種のプロジェクトから構成しており、「知能ロボット」（片山 2004）、「LESSON プレビュービデオ」（桜井 2004）、「環境問題調査隊」（飛田 2005）からスタートした。「知能ロボット」は、2006 年より「知能ロボット・プロジェクト」と名称変更し、現在にいたるまで名称は同じであるが、内容的にはレゴマインドストームからロボットキット、二足歩行ロボット、モーションキャプチャー技術や VR 技術の導入など、現代的ニーズを取り入れて拡張してきた。学生視点で授業紹介ビデオを制作する「LESSON プレビュービデオ」

(2004-2005)は、より自由なビデオ制作を行う「デジタル・クリエイター・プロジェクト」(2006-2013)、さらに時代の変化を捉えて「アプリ開発プロジェクト」(2014-2022)、「AI・データサイエンス実践プロジェクト」(2023-)と情報系プロジェクトを更新してきた。「環境問題調査隊」(2004-2005)は、「エコロジー&アメニティ・プロジェクト」(2006-2014)、Imagineer プロジェクト福井(iPF)」(2015-)とプロジェクト内容を調査活動から、ものづくり／まちづくりへと拡大してきた。学際実験・実習には、Ⅰ、Ⅱを設け、学生各人が必要性を感じたときに複数回受講できるようにした。

単位認定を行わずに活動場所、機器、資金、関係教員への協力の呼びかけなど、各種の支援を行う「創成活動」とあわせ、工学部先端科学技術育成センター(2006年創設)が責任運営機関となり、工学部での創成教育を推進している。(福井大学広報センター 2006、飛田 2009、福井大学工学部先端科学技術育成センター 2011、鈴木・飛田 2013、飛田 2014a、飛田 2018)

プロジェクトの推進には、知識と意欲と経験が求められる。このうち、意欲を高める発表会の場として、2004年に第1回「元気プロジェクトまつり」を「福大生が汗を流して取り組んだプロジェクトの総合発表会」と銘打ってアカデミーホールにて開催した。(福井大学広報センター 2004)資金不足の中、モノクロでつくったチラシをファミリー(福井県内の無料宅配情報誌)の折り込み広告として直接持ち込んだ事を懐かしく思い出す。第1回の来場者数は惨憺たるものであったが、その際に暇を持て余して集まった教員間で「イルミネーションやレーザーショーなんかをやると楽しいかも」と話し合った。2007年に明石行生教員(現、工学部長)が赴任され、創成教育グループに加わって、そのような「夢」が実現した。現在ではキャンパス・イルミネーションは福井大学の恒例行事として定着している。まこと、念じた「夢」は実現するものである。

元気プロジェクトまつりは、その後も毎年開催し(福井大学広報センター 2005b)、学内のさまざまなグループと連携することで、2009年には単独イベントとして500名を越す来場者を集めるまでに成長し、2010年より大学開放事業「一日遊学」と同時開催するようになった。蛇足ではあるが、「元気プロジェクトまつり」は、寺田聡教員の提案をもとに、私が命名したものであり、「一日遊学」は私が提案した名称である。どちらも、我が子のように愛らしく感じている。

センターでは、各創成活動グループがそれぞれの分野の地区大会、全国大会、世界大会に出場することを推奨しているが、決して大会で優秀な成績を挙げることを目的とはしていない。思い出深い学生グループの受賞として、2014年に全日本学生フォーミュラ大会において、外国から参加して難渋していたチームを支援したことが評価された「スポーツマンシップ賞」を大変誇らしく記憶している。また、国際光工学会(SPIE)学生支部グループが2018年の世界大会で参加者による投票「People's Choice Award」で1位となり、審査委員投票でも3位に選ばれたことも記録に留めておく。近年では、Steel Bridge Competition チームが全国大会連覇、アジア大会でも優勝といった輝かしい成果を挙げている。

このような創成教育の取り組みは、2006年度に「工学における学際的実験・実習の実践」として第16回日本工学教育協会賞・業績賞を受賞するとともに、2018年度には、「アジアブリッジコンペティションによる国際交流およびエンジニアリングデザインへの取り組み」として、本学からは鈴木敬悟教員が第23回工学教育賞・業績部門にて受賞している。

工学部全体での創成教育の推進に加えて、2004年度から学科の実験教育（必修）にも「創成実験：スライムの科学」を導入した。これは、学生が自由に実験しても危険性がほとんどない洗濯のりを用いたスライム作成をベースとし、グループで設定したテーマに基づいて、合成方法、ゲル化理論、環境応答性を含むゲル物性、また、「硬い」材料とは異なったソフトマテリアルの利用などを体得する実験であり、2～3ヶ月間におよぶ主体的活動をプレゼンテーション、及び報告書にて成果報告を行うものである。2015年度からは、副題を「スライムからの新製品開発」とし、スライムというシーズから社会のニーズを満たす新製品開発に重点をおくようにした。改組後、受講者数が大幅に増えた2018年度からは学科教員3名で分担して担当する態勢をとった。自主的な活動に基づく実験は学生にとっては忘れ得ぬ体験となっているようである。

毎回、学生の投票により「最優秀賞」を選出しているが、2019年度に最優秀賞に選ばれたアイデアは、福井大学ビジネスプランコンテストにて最優秀賞を受賞したほか、全国大会である「テクノ愛2019」において準グランプリ¹⁾を獲得した。

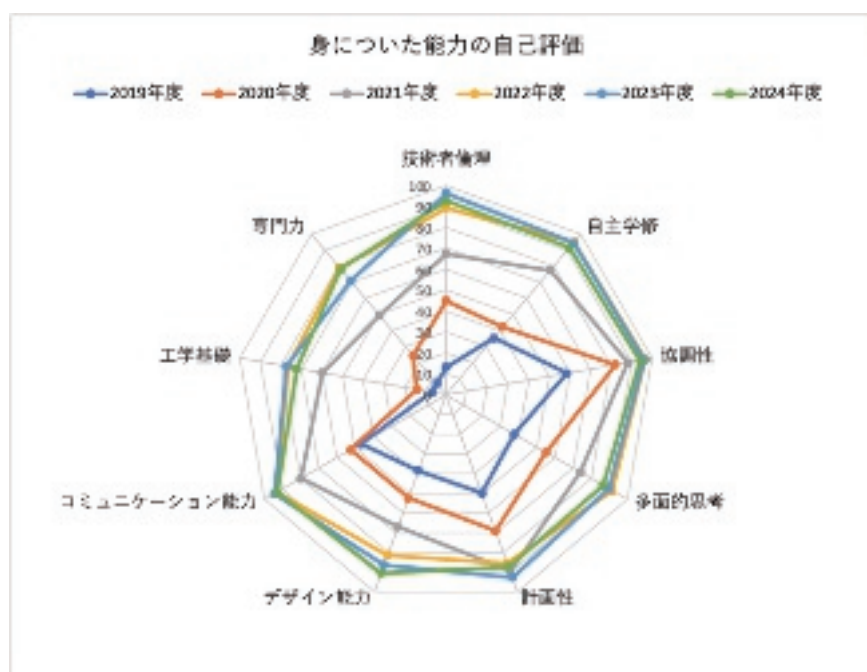


図1 創成実験を通じて身についた能力として自己評価した割合

この実験では、学科が設定した学習・教育目標に掲げる9項目の能力を獲得す

ることを目指しており、毎年、実施後にアンケート調査を行っている。図 1 に同一のアンケート形式とした 2019 年度以降の学生が身につけた能力として自己評価した項目の変化を示す。毎年、アンケートをもとに改善を加えた結果、現在では座学では修得しづらい能力については、ほぼすべての能力がバランス良く修得できていることが示されている。

「物質・生命化学に関する知識を持ち、問題解決に応用できる」を具体的文言とする「専門力」については改善の余地が残るが、図 2 に示すように創成実験を通じて、専門分野に対する興味関心は増進されていることが示されており、座学との連携を通じて、こうした能力のさらなる向上も期待できる。

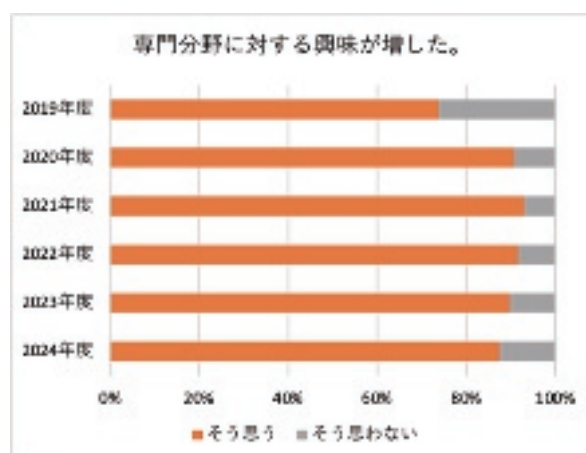


図 2 創成実験を通じて専門分野への関心が増したと回答した割合

福井大学工学部先端科学技術育成センターが運営する創成教育については、毎年 CIRCLE News²⁾にて公表しているほか、2016 年度以降の活動については、福井大学高等教育センター年報（第 7 号-11 号）及び福井大学高等教育研究（第 1 号）において「教育改善のための重点配分経費実施報告書」として公表している。

教育への IT 技術の活用

黒板は未だに授業に不可欠なツールではあるが、1990 年代の OHP から 2000 年代に入ってから Power Point (PPT) を用いた授業の普及、さらには、インターネットの活用と授業を巡る IT 機器の活用も、過去 30 年の間に大きく変化した。1990 年代の講演で、「先生は、OHP シートを換えている間も話し続けますね」と言われ、「油断すると学生が寝ますからね」と答えたと記憶する。授業での「間」の使い方が未熟であったのであろう。今回発掘した授業資料では、2004 年度に用いた授業には OHP と PPT の両方の資料があったので、この辺りが OHP から PPT への転換期であったと思われる。我が研究室にあったポータブルタイプの OHP プロジェクターは、2007 年頃まで活躍した形跡がある。私の経験では、この頃が 1980 年代にスライド映写機から王座を奪った OHP 時代の終焉である。

「環境教育」の部分で記したように 2008 年には、双方向授業システムを体験し

た。2012 年にはクリッカーを授業への導入を開始し、FD 委員会としてクリッカーの事例紹介に関する講演会を開催した。クリッカーの活用により、大人数授業での学生とのコミュニケーションが改善し、授業中の学生の理解度の把握が容易になった。その後も授業でのクリッカーの利用は継続したが、2019 年度末、150 個のクリッカーの電池をすべて交換して、次年度の授業への準備を滞りなく終えた直後、2020 年 4 月のコロナウイルス感染症に対する緊急事態宣言により対面授業が停止。その後も感染防止の観点から授業での使用は控えている。コロナ禍を経た現在では、クリッカーを使わなくても、スマホで同様のことが可能である。

2014 年に専門科目である「反応工学」に反転授業を導入した。(飛田 2014b、飛田 2019) 反転授業を始めた直接のきっかけは、サルマン・カーン氏による「世界は一つの教室」(カーン 2013) に刺激されたためである。「反応工学」は数学を多用する科目で、不合格になる学生が多く、かつては担当クラスが 3 クラスに膨れ上がったこともあった。いくら手間をかけたとしても、果たして私の授業が学生にとって親切なのかと問い直したとき、一つの答えとして「反転授業」にたどり着いた。初年度は、学生が物珍しく感じたこともあり、試験を受験した受講者全員が素点で 60 点以上の成績となった。毎年実施したアンケートでは「途中でビデオが止められる」という点が、学生に最も高く評価されている。コロナ禍を受けて導入されたビデオ授業に慣れた昨今の学生には物珍しさはなくなったが、「反転授業」の学習効果の高さは、現在でも認められる。

2015 年には、本学に WebClass (末本 2015) が導入され、上記の反転授業と連携して利用を開始した。とはいうものの、実質的な活用は、他の教員と同じく 2020 年度に遠隔授業の実施を余儀なくされてからである。コロナ禍のもと、すべての授業のビデオ化を 2020 年 5 月までに終え、オンデマンド形式での授業をベースとし、適宜、Google Meet を用いてオンライン授業を行った。コロナ禍を終えた現在では、コロナ禍が始まった当時は名前も知らなかった Google Classroom を愛用している。コロナ禍は、教育の IT 化を劇的に加速した。

コロナ禍後の現在では、作成した授業ビデオは「復習用」として活用している。復習用のビデオは、コロナ禍以前から要望が高かった。WebClass や Classroom といった LMS (Learning Management System) を用いると、学生との迅速で個別的なコミュニケーションが容易になる。学生側は、次週まで待たなくてもいつでもレポートを提出でき、教員はタイムリーな返却ができる。レポート課題で活用したのがループリック (スティーブンス・レビ 2014、中島 2018)。今年度の 1 年生の授業改善アンケートにも「ループリックがあり、課題を取り組む上でどのようなことを意識して取り組めば良いかがわかりやすかった」といったコメント寄せられている。教員側も、採点評価が容易になり、端的で建設的なコメントが可能になる。私自身、Web を通じてのレポートは、1 週間以内にコメントを付して返却するよう心がけており、以前よりも (たとえ顔は分からなくても) 個々の学生の特性は把握しやすくなったと感じている。

創成実験では、コロナ禍で発表会の開催が困難になったために、ビデオによる

プレゼンテーションに切り替えた。苦肉の策ではあったが、IT時代の学生にはビデオ制作能力も必要であると考え、対面での発表会再開後も、考案した新製品をPRするビデオ制作を課している。「瓢箪から駒」ではあるが、図3に示すように「ビデオは、これからますます重要なコミュニケーション・ツールとなると考えられます。ビデオ作成はあなたの能力育成に役立ちましたか？」という設問に対し、多くの学生が「役だった」と回答している。「役立たなかった」と回答した学生の多くは、グループ活動の中でのビデオ制作に関わらなかった学生であり、教員の適切な指導により、さらに改善できると考えている。

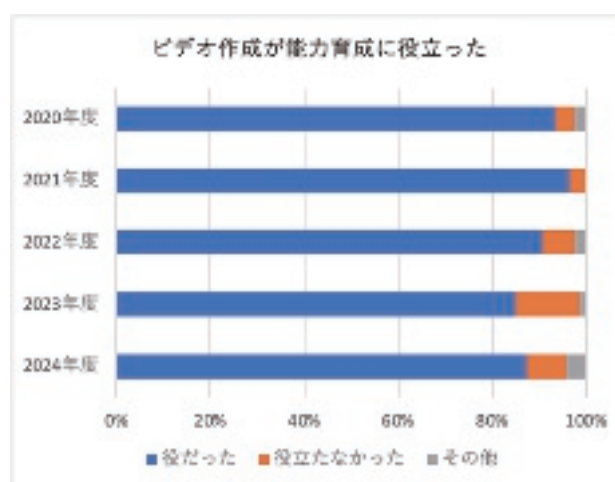


図3 創成実験でのビデオ制作が能力育成に役立ったと回答した学生の割合

教育改善への組織的取り組み：FD

工学部では、2000年度に優秀教員制度を創設し、1997年度に試行した授業アンケートが2000年度から継続して実施されるようになった。2001年度には、工学部の採用人事・昇任人事に模擬授業が実施されるようになり、まだ、言葉すら浸透していなかった「FD」関連のシンポジウムや講演会を実施して工学部全体で必要性を共有しつつ、2003年に小倉久和教員（のちの工学部長）を委員長として、工学部FD委員会が設置され、私自身もメンバーとなった。その活動の中で、小倉委員長とFDに関する意見交換を行う場として「FDフォーラム紙」(2003-2006)を創刊し、第3号までの編集にあたった。人の指図で働くことが大嫌いな私は、この仕事の際に小倉先生から頂戴した「飛田さんは、言ったとおりには絶対しないね」という言葉を人生最大の褒め言葉として胸に刻んでいる。

私にとっては、創成教育を通じた他学科の教員との交流経験が有益なFDであった。2012年4月に工学部FD委員会委員長となり、2021年3月まで委員長を務めた。委員会では、2012年に「今週のティーチング・ティップス」と題したメール配信を開始し、2012年度は6月末から11月まで、夏休みを除き、ほぼ毎週配信した。このメール配信は2013年度以降も継続し、2013年度に19回、2014年度に23回配信し、2015年度にはアクティブ・ラーニングの普及をめざし、「アクテ

イブ・ラーニング通信」と名称変更して 12 回、2016 年度 16 回、2017 年度 18 回、2018 年度 20 回、2019 年度 18 回、2020 年度には「FD 通信」と名称変更して 24 回の配信を行った。

工学部教員間の意思疎通の向上と意見交換の活性化、そして風通しの良い組織作りをめざして、工学部執行部と教員数名が持参したランチを食べながら意見交換する「FD パワーランチ・ミーティング」を 2012 年度に開始し、コーディネーターとして毎回参加した。この会は、2015 年度より「FD ランチタイムしゃべり場」と変更して、2020 年まで実施した。こうした工学部 FD 委員会の活動は、「福井大学高等教育推進センター年報」第 3 号から第 11 号に工学部の FD 活動として記録に留めた。

2013 年度から 2016 年度まで、高等教育推進センターの FD・教育企画部門長を務めた。この間の活動は、「福井大学高等教育推進センター年報」第 4 号から第 7 号に部門からの報告として記録に留めた。その間、北陸地区国立大学連携プロジェクト(大学共創プロジェクト)の一環として開催された「大学共創フォーラム」、全国大学教育研究センター等協議会、さらには、全国学生 FD サミットに参加し、他大学の熱意と工夫にあふれた教職員や学生との交流を深めたことは、私自身の教育経験にとって大きな収穫となった。

社会貢献

1990 年代、大企業ではすでに週休 2 日制が導入され、学校現場でも毎月第二土曜日の休業開始、隔週週休 2 日制を経て完全週休 2 日制が導入されていった。大学にも土曜日が休みになった子どもたちへの「貢献」が求められるようになり、1995 年に工学部が開催したオープンキャンパスでは小中学生を主な対象としていたと記憶する。1996 年に全学の事業として初めて開催した第 1 回オープンキャンパスのサブタイトル「待っている君の好奇心」、第 2 回「学ぶ楽しさ再発見」は、私が提案したキャッチフレーズである。私自身も吸水ポリマーの吸水実験やスライムの作成実験とした出し物を行うようになったほか、公民館等での講演も行うようになっていった。高校生を対象とした授業や進学相談は、2000 年代以降、特に国立大学が法人化された 2004 年以降に盛んに行われるようになったと記憶する。

2006 年に設置された「先端科学技術育成センター」では、初代センター長(2009 年度末まで。以降、副センター長。2023 年度よりセンター長再任)として学内外の連携に努めた。英語名を Center for Innovative Research and Creative Leading Education と定め、略語としての CIRCLE を愛称として「創造性を通じて人と社会を元気にするセンター」をモットーに運営を行った。ロゴマークや HP の制作、さらには広報紙 CIRCLE News²⁾の創刊など、2006 年の 4 月は 1 日も休まず作業したことを思い出す。創刊当時の CIRCLE News(第 1-4 号)では、機械の知識のない主婦が納入企業の技術者にインタビューし、私がコーディネーター／編集を担当した「センターおたから紹介コーナー」を設けたが、この記事は当時、日本機

械学会でも話題になったそうである。センター開設当時は、学外からの見学者も多く、国会議員にも施設紹介を行った。センターでは、「創成教育シンポジウム－自主性と創造性を育む教育を目指して－」（福井大学工学部先端科学技術育成センター 2011）などのシンポジウムを開催したほか、「ものづくり・創造性教育施設ネットワーク」が主催する「ものづくり・創造性教育に関するシンポジウム」に毎年参画し、現在にいたるまで情報の収集と発信に努めている。

2008 年 12 月に鈴木敏男研究科長（当時）より、東京上野の国立科学博物館が開催する「発見！体験！先端研究@上野の山シリーズ大学サイエンスフェスタ」への企画の打診があり、急遽 1 時間余りで基本構成を提案し、実行委員長として 10 ヶ月余りで企画／準備を行い、2009 年 10 月 30 日から 11 月 8 日、「エネルギーのヒミツ探検隊：私たちが求めるエネルギーって何だろう？」と題した企画展（福井大学「大学サイエンスフェスタ」実行委員会 2010）を実施した。

大学サイエンスフェスタでの実績のためか、2010 年から 2 年間、広報センター長を務めた。センター長時代には、広報センターの HP を開設（2010 年 11 月）したほか、学内情報がスムーズにセンターに届けられることを目指し、「週刊広報センター」³⁾を 2010 年 6 月 4 日から 2012 年 3 月 29 日まで、毎週欠かさず発行した。毎週、ショートエッセイを書こうとすると、身の回りの出来事に対する受信感度が高くなる。人間の学びがアウトプット優先でできていることを実感した。広報センター長在任中には、2010 年秋に 8 回シリーズで福井新聞に掲載した本学の「社会貢献シリーズ」が、広報室職員のみなさんの頑張りで「第 31 回福井広告賞 県商工会議所連合会賞」を受賞した。

高校への出前授業は数多くの高校で実施したが、「ご近所」である藤島高校ではスーパー・サイエンス・スクール（SSH）教育の一環として、1 年生全員（約 330 名）を対象に大規模講演会を 2009 年から 2022 年まで毎年開催した。こうして培った信頼関係をもとに、藤島高校の教員を中心とした高校生向け教養テキスト制作プロジェクトに加わり、シリーズ第 2 集「私たちはなぜ科学するのか－高校生のための基礎教養」（福井県立藤島高等学校教養テキスト編集委員会 2018）および、読者を大学生まで拡大した「私たちはなぜ科学するのか－学生のための基礎教養」（教養テキスト編集委員会 2023）を刊行した。この書籍は、版元の東京書籍が把握しているだけで、全国の高校 142 校、大学 12 校、小中学校 7 校、行政機関 12 が購入している。現在、意欲のある中学生も読めるような文理の枠を越えた新たな教養テキストの編集を進めている。

独立法人化の研究への影響

こうして 30 年余りの教育経験の個人史を振り返ると、2004 年の独立法人化を境として、研究活動以外への時間配分が大幅に増大したことが分かる。独立法人化以降、日本の大学の研究力が低下したことは、すでに多くのメディアで論じられているが、それらはすべて多くの研究者の平均値であり、個々の研究者の発表論文数の変遷は管見の限りでは見当たらない。そこで、自分自身の発表論文数を

振り返ってみることにした。なお、私の研究論文は、米国スタンフォード大学とElsevier社が発表した18世紀後半以降の発表論文に基づく世界のトップ科学者リスト（Ioannidis 2022, Ioannidis 2023）において上位約0.5%に位置づけられており、質的にはある程度客観的に担保されている。

図4に示すように、福井大学にて行った研究が論文掲載された1992年から独立法人化前までの期間に掲載された論文数は1年当たり6.8報であったのに対し、独立法人化後では3.6報とほぼ半減している。独立法人化の前後で研究活動に振り向ける時間が大幅に減少したことの影響が窺える。もちろん、「歴史」は再現性のない実験であるから、独立法人化がなかったからといって、研究業績がさらに向上したかどうかは不明である。

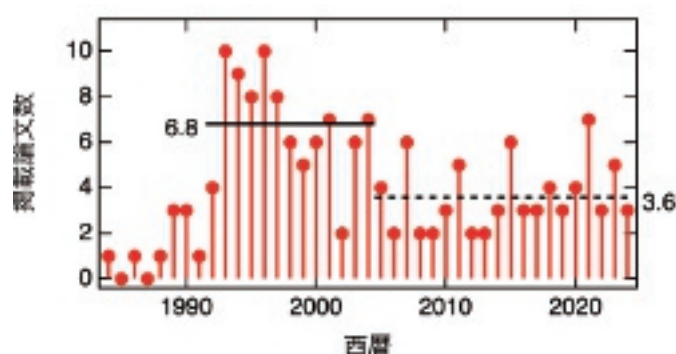


図4 報告者個人の研究論文掲載数の変遷

おわりに

教育は次世代への贈与。損得勘定で計れるものではない。教員であるなしにかかわらず、一人ひとりが次世代の育成義務を負っている。専門知識を有する大学教員が高等教育に携わることは必須の職務であろう。実際、大学での業務で悩むことは、研究ではなく教育に関することが多いというのが実感である。

教育基本法に掲げられた教育の目的は「人格の完成」。これは、カントの言う「啓蒙」⁴⁾（カント 2006）であろう。自由に考えることにより、人は自らを啓蒙することができる。だが、自由に考えることはなかなか難しい。ここでカントを引用していること自体が自由には考えられていない証左であろう。私にとって、誰がなんと言おうと自由に考えたと言い切れるのは私自身の研究。我思う故に我あり。自律した研究を行った実績があって初めて高等教育という不遜な行為が許されるのではなかろうか。子どもの頃から権威で話すことが嫌いな私が教育という気の進まぬ行為に耐えられたのは、ひとえに研究実績の賜であったと感じている。大学における教育は、研究と表裏一体。これが教育研究と称される所以ではなかろうか。

コミュニケーションの成否を決定するのは受け手である。これは、コミュニケーションと相同の形態を有する教育とて同じ。長文を締めくくるにあたり、私の座右の銘であるタゴールの言葉を記して次世代の教員に贈る。

自分が受けた教育を子どもに押しつけてはならない。
彼（彼女）は、あなたとは別の時代に生まれたのだから。

ラビンドラナート・タゴール⁵⁾

注釈

- 1) <https://www.khc.or.jp/ology/tecno2019.html> （2024.8.24 閲覧）
- 2) 先端科学技術育成センターの広報紙 CIRCLE News は下記のアドレスにて公開している。 http://www.circle.u-fukui.ac.jp/circle_back.html
- 3) 原稿記録は飛田が保管している。閲覧希望者は、tobita@u-fukui.ac.jp まで連絡されたい。
- 4) この部分については、（飛田 2014a）も参照されたい。
- 5) 引用翻訳文は（カーン 2013）より

参考文献

- Colborn, Theo, Myers, John Peterson, and Dumanoski, Dianne、 1996、『Our Stolen Future』 Little, Brown and Company, Boston, USA.
- 札野順、2006、「技術者倫理教育、その必要性、目的、方法、現状、課題」『工学教育』54, 16-23.
- 福井大学「大学サイエンスフェスタ」実行委員会、2010、『福井大学の挑戦！ 発見！体験！先端研究@上野の山シリーズ大学サイエンスフェスタ報告書』
- 福井大学工学部、2008、『地域教育活動の場の持続的形成プログラム』
- 福井大学工学部、2011、『夢を形にする技術者育成プログラム：教育 GP(Good Practice)-質の高い大学教育プログラム』
- 福井大学工学部先端科学技術育成センター、2011、『創成教育シンポジウム-自主性を育む教育を目指して-』
- 福井大学広報センター、2004、「第 1 回福井大学元気プロジェクトまつり」『CAMPUS EXPRESS』3, 3-4.
- 福井大学広報センター、2005a、「探検 松岡キャンパス～工学部学生、医学部のヒミツを探る～」『CAMPUS EXPRESS』9, 17-18.
- 福井大学広報センター、2005b、「第 2 回福井大学元気プロジェクトまつり」『CAMPUS EXPRESS』9, 19-20.
- 福井大学広報センター、2006、「各学部の魅力ある活動 工学部（創成工学教育）」『CAMPUS EXPRESS』14, 13-14.
- 福井大学共通教育センター、2009、『平成 17 年度特色ある大学教育支援プログラム：より高い現代的な教養教育をめざして；成果報告書』
- 福井県立藤島高等学校教養テキスト編集委員会、2018、『私たちはなぜ科学するのか-高校生のための基礎教養[第 2 集]』東京書籍
- Ioannidis, John P.A.、2022,"September 2022 data-update for "Updated science-wide

- author database of standardized citation indicators” (DOI: 10.17632/btchxktzyw.4)
- Ioannidis, John P.A., 2023, “October 2023 data-update for “Updated science-wide author database of standardized citation indicators” (DOI: 10.17632/btchxktzyw.6)
- カーン, サルマン (三木俊哉訳), 2013, 『世界はひとつの教室』, ダイヤモンド社
- カント, イマヌエル (中山元訳), 2006, 「啓蒙とは何か」『永遠平和のために／啓蒙とは何か 他 3 編』光文社文庫
- 片山正純, 2004, 「学際実験 知能ロボット」『FD フォーラム』福井大学工学部・工学研究科, 6, 4.
- 勝木渥, 1999, 『物理学に基づく環境の基礎理論-冷却・循環・エントロピー』, 海鳴社
- 教養テキスト編集委員会, 2023『私たちはなぜ科学するのか-学生のための基礎教養第2集』, 東京書籍
- 室田武, 1979, 『エネルギーとエントロピーの経済学』東経選書, 東洋経済新報社
- 中島英博, 2018, 『学習評価 シリーズ大学の教授法4』玉川大学出版部
- 中村和彦, 2022, 「環境教育の変遷と今後の展望-社会変革への貢献に向けて」『環境情報科学』51, 34-39.
- 中村修, 1995, 『なぜ経済学は自然を無限ととらえたか』日本経済評論社
- Ponting, Clive, 1991, 『A Green History of the World』Penguin Books, New York, USA.
- 桜井哲真, 2004, 「学際実験：レスンプレビューにおける FD 的視点」『FD フォーラム』福井大学工学部・工学研究科, 6, 5.
- 末本哲雄, 2015, 「WebClass を使った授業例」『福井大学高等教育推進センター年報』5, 16-28.
- スティーブンス, ダネル・レビ, アントニア (佐藤浩章、井上敏憲、俣野秀典訳), 2014, 『大学教員のためのルーブリック評価入門』玉川大学出版部
- 鈴木奈緒子・飛田英孝, 2013, 「工学部の創成教育における教育評価の取り組み」『福井大学高等教育センター年報』3, 27-38.
- 鈴木敏男, 2004, 「JIBUN 開発支援プロジェクト-「学際実験・実習」と「自分探求支援プログラム-」」『FD フォーラム』福井大学工学部・工学研究科, 5, 4-5.
- 飛田英孝, 1999, 「翡翠の小径計画 顛末記」『福井大学広報紙 EXPRESS』7, 18-19.
- 飛田英孝, 2001, 「Mathematica と私」『Network 福井大学情報処理センターニュース』福井大学情報処理センター, 15, 4-12.
- 飛田英孝, 2005, 「学際実験：環境問題調査隊 実施顛末記」『FD フォーラム』福井大学工学部・工学研究科, 7, 7.
- 飛田英孝, 2008, 「学問のススメ～生涯学習市民開放プログラムに想う～」『共通教育フォーラム』福井大学共通教育センター, 9, 4.
- 飛田英孝, 2009, 「夢を形にする技術者育成プログラム」『工学教育』57, 50-55.
- 飛田英孝, 2014a, 「目覚めよ、学びの好奇心！～創成教育へのいざない～」『共通教育フォーラム』福井大学共通教育センター, 16, 5.

- 飛田英孝、2014b、「反転授業 実施報告-完全習得学習をめざして-」『福井大学高等教育センター年報』 **4**、81-90.
- 飛田英孝、2018、「福井大学工学部における学生主体プロジェクト支援」『北陸信越工学教育協会会報』 **66**,62-68.
- 飛田英孝、2019、「嬉しい、楽しい、反転授業！」『北陸信越工学教育協会会報』 **67**,56-61.
- 飛田英孝・柳瀬文彦、2005、「技術者倫理教育事例としての水俣病事件-教育実践報告-」『福井大学工学部研究報告』 **53**、29-39.
- 槌田敦、1982、『資源物理学入門』NHKブックス、日本放送出版協会
- 槌田敦、1992、『熱学外論-生命・環境を含む開放系の熱理論』朝倉書店

高等教育推進センター 活動年報

I. 福井大学における教育改革の取り組み

041 令和5年度「教育の質向上のための重点配分経費」採択事業について

II. FDの展望

089 各学部のFDの取り組み

III. 高等教育推進センターの活動

098 教学企画・支援部門

106 教学IR部門

令和5年度「教育の質向上のための重点配分経費」採択事業について

1. 本事業の背景

知識基盤社会を担う優れた人材を養成し、高度化・多様化する社会からの期待に応えていけるよう、大学には様々な教育改革が求められています。このような中、将来を見据えて特色ある教育活動を創出することや既に行われている福井大学ならではの取り組みを発展させていくことは、本学の教育的価値を高める上で極めて重要な意味をもちます。そこで学長裁量経費を原資とする競争的経費を設け、教育の質の向上に資する優れた教育成果の創出、重要な課題解決（教学 IR、教育 DX、学修成果の可視化、ステークホルダーからの意見聴取（教育改善に資するもの）など）、独創的な教育手法の開発などのプロジェクトに対して重点的に予算を配分します。

また、成果の全学展開を進める観点から、部局連携プロジェクトの区分も設けてあります。

2. 申請状況

- ・申請件数：9件
- ・採択件数：7件

3. 採択事業

プロジェクト名称	申請部局名等	代表責任者名
教員養成フラッグシップ大学としてのカリキュラム改革の核となる「福井大発 STEAM 教育プログラム」の構築と教材開発	教育・人文社会系部門 教員養成領域	澁谷 政子
教学 IR データを用いた教育評価・改善のための PDCA に基づく内部質保証体制の充実	医学部	藤枝 重治
オンライン診療システム（問診+聴診）を利用したウィズコロナ時代における医学部学生の実践的効果的新実習教育法の確立	医学部	山内 高弘
高大接続と専門基礎教育の支援の充実 ー志願者数の減少と共通テスト『情報』への対応を見据えてー	工学部工学基礎教育支援センター	橋本 貴明
デジタル人材育成を目指したプロジェクト型アクティブラーニング技法の開発と実践	工学部先端科学技術育成センター	飛田 英孝
様々な学問分野に向けたデータサイエンス・AI の実践教育基盤開発プロジェクト	データ科学・AI 教育研究センター	樋口 健
【福大版教学 IR 推進プロジェクト 2023】 ～5つのアプローチで福大版教学 IR の姿を推進する～	高等教育推進センター	江端 弘樹

令和5年度「教育の質向上のための重点配分経費」実施報告書

プロジェクトの名称	教員養成フラッグシップ大学としてのカリキュラム改革の核となる「福井大発 STEAM 教育プログラム」の構築と教材開発
プロジェクト代表責任者名 (所属部局)	澁谷 政子 (教員養成領域)
プロジェクトの目的, 内容, 期待される成果 (必要に応じ実施体制を記載)	(目的) 本学は令和4年度に「教員養成フラッグシップ大学」に選定され、教員養成の在り方の変革を牽引する役割を担うことになった。教育学部では、大学が独自に設定するフラッグシップ科目として、これまでの優れた教育プログラムを継承する3つの科目「協働学習支援プロジェクトⅠ」「心理発達支援プロジェクトⅠ」「地域実践演習」に加えて、<u>新たな2科目「STEAM 総合探究Ⅰ・Ⅱ」(2年次必修)</u>を立ち上げ、教員養成機能の強化を図る。この「STEAM 総合探究」は、これまで本学部では本格的に扱ってこなかった新しいアプローチと教育内容を導入するものである。また、科目内で完結するものではなく、「協働学習支援プロジェクト」をはじめとする<u>他フラッグシップ科目や既存の教科専門科目等と有機的にリンクし、教科の枠を超えた主体的な学びや探究的思考をボトムアップさせる核となる役割を果たすものとして構想している</u>。本プロジェクトの目的は、全国の教員養成系学部モデルとなる、新しいフラッグシップ教育課程の核としての新科目「STEAM 総合探究」のための教材開発を行い、教育学部等の人材・教育リソースを十分に活用した特徴ある STEAM 教育のプログラムを構築することである。 (内容) フラッグシップ5科目は令和5年度入学生対象の教育学部カリキュラムにすでに組み込み、「STEAM 総合探究Ⅰ・Ⅱ」は2年次配当で令和7年度から開講が決まっている。この科目を来年度に本格始動させるために、<u>①国内外の STEAM 教育の最新の動向に関する全学教員を対象とする FD の実施</u> (高等教育推進センターと共催希望)、<u>②ICT を活用した特徴ある教育プログラム・教材、教育方法の研究開発</u>、<u>③福井大発 STEAM オンライン・プラットフォームの開発・構築</u>を、スピード感をもって進める。 ①国内外の STEAM 教育の最新の動向に関する全学教員を対象とした FD の実施 新たな教育内容・方法の開発に取り組むにあたり、STEAM 教育の捉え方や教育学部の特性を活かした教育プログラムのあり方についての議論を効果的に進めるため、またフラッグシップ大学として求められている教育学部と他学部との連携のシーズを生む機会とするため、他学部を含む全学教員を対象として、国内外のゲスト講師を迎えた FD や、現在公開されている STEAM 教材に関する FD を行う。学部長の諮問のもとフラッグシップ科目を含むカリキュラム編成および将来的な学部組織の検討を進めている「教育学部コース改編 WG」(主査: 教育担当副学部長) と、5月に設置予定の「教育学部 STEAM 教育プログラム開発 WG」(委員長: 特命担当副学部長、以下「プログラム開発 WG」) との連携のもと、これらの FD を年度内に複数回、計画・実施する。 ②ICT を活用した特徴ある教育プログラム・教材、教育方法の研究開発 ①の FD と並行して、具体的な教育プログラムや教材の研究開発のための定例研究会を組織・実施する。教材開発に際しては、小・中学校等で使用できる ICT ツール (Chromebook 等) を積極的に活用する。研究会はプログラム開発 WG が主催し、テーマや指導法により複数のユニットをフレキシブルに構成し、FD で得た情報等

	を踏まえ、また既存の STEAM 教材を研究しながら、学部や連合教職大学院の人材リソースや教育内容リソースを活用した特徴ある教育プログラム・教材、教育方法に関する実践的な研究開発に取り組む。また、定期的に開発内容に関して学外の専門家によるコンサルテーションを受け、STEAM 教育としての質向上を図る。R6 年度の科目スタートに向け、作成した教材について在学生等によるモニタリングを行う。 ③福井大発 STEAM オンライン・プラットフォームの開発・構築 ②で作成した STEAM 教材を蓄積し発信するためのオンライン・プラットフォームをプログラム開発 WG 中心に開発し、年度末までに試行的に稼働させる。 (期待される成果) ①学部全教員が STEAM 教育についての知見を高め、一定の共通理解を醸成することにより、R6 年度以降、実際に科目運用を支えることのできる教員数の増加につながり、持続可能な実施体制が確保できる。また、他の教職科目や教科教育・教科専門科目においても、各教員の工夫により STEAM の考え方・方法の導入が広がることが期待できる。FD を他学部にも公開することで「福大ビジョン 2040」にも資する取り組みとなる。 ②研究会方式でコンサルテーションを受けながら教材開発を行うことにより、STEAM の専門家を擁していない本学部においても、自己流の偏った教育プログラムに陥ることなく、多様な分野・テーマに関する教材の開発と、国内外の優れたプログラムと同等の高い質の担保が期待できる。 ③オンライン・プラットフォームの構築により、新たに開発した教育研究リソースを学内で共有するだけでなく、「福井大発 STEAM 教育プログラム」として簡便かつ迅速に社会に還元するシステムが実現できる。
教育の質向上への貢献 (どのように貢献したか、具体的に記載)	Society5.0 時代にふさわしい教員養成を先導するフラッグシップ大学として、本学部の各種リソースを活用した特徴のある STEAM 教育プログラムの開発・実装は、教育課程全体の質向上のエビデンスとしてアピールする準備が整った。少数の特定の教員のみには依存するのではなく、FD や研究会を通して教育学部教員全体さらには、大学全体の教育力の向上に貢献できる。ゲスト講師の招聘や外部専門家によるコンサルテーションを通して、国際的な動向を踏まえた STEAM 教育の開発が実現した。
プロジェクトの重要性 (その成果は教育改善等に寄与できたかを記載)	STEAM 教育における協働的な学び、教科横断的思考、課題発見・解決型学習、理論と実践の往還による学び等は、「令和の日本型学校教育」の中核にある新しい学習観・授業観への転換を実現するためにまさに求められているものである。このプロジェクトで開発した教材により、学生は STEAM 教育の視点や方法を身につけ、それを「協働学習支援プロジェクト」等の他フラッグシップ科目、模擬授業、また教育実習等においても応用していくことで、教員養成カリキュラム全体の機能を強化することができる。また ICT を活用した教材を開発し、「STEAM 総合探究 I・II」の授業で用いることにより、履修学生の ICT 活用の視点や発想が広がるだけでなく、今後急速に発展していくであろう ICT と STEAM 教育とを接続しながら授業づくりを構想できる学校教員としての力量形成に寄与できる。
プロジェクトの発展性 (継続のプロジェクトの場合に、従来からの発展性があったかを記載)	

実施計画 (プロジェクトの目的が達成できたかについて、実績を含めて記載)	<実施計画> 目的①国内外の STEAM 教育の最新の動向に関する全学教員を対象とした FD の実施について： STEAM 教育に関する FD を 2 回企画開催することで、目的を達成できた。 2023 年 12 月 1 日（金）13:00-14:00 共用講義棟 101（ハイブリッド開催） 第一部 13:00-13:40 講演会（zoom） 演題：「STEAM 教育に関わるこれまでの実践」 講師：瀬戸崎典夫先生（長崎大学情報データ科学部） 第二部 13:40-14:00 WG 報告 「STEAM・総合探求 I,II」のコンセプト・内容について STEAM 教育 WG 主査：湊七雄 ②2024 年 3 月 15 日（金）10:00-12:00 教育系 1 号館大 1 講義室（対面開催） FD 研修会「福井型 STEAM 教育の構築に向けて」 主催：教育学部・連合教職大学院 FD 委員会 共催：高等教育推進センター 第一部：10:00-10:45 STEAM 教育ワーキンググループ報告 （湊七雄、口分田政史、白川晋太郎） 第二部：10:50-12:00 グループワークショップ 参加者が 6 グループに分かれ、WG 報告に関する意見交換および STEAM 教育への具体的な参画の具体案を討議 目的②ICT を活用した特徴ある教育プログラム・教材、教育方法の研究開発について： 教育学部 STEAM 教育ワーキンググループ（主査：湊七雄副学部長、口分田政史、白川晋太郎、小林溪太）を結成し、定例（月 5 限）で計 14 回の研究会を開催し、STEAM 教育プログラム、教材、教育方法の研究開発に取り組んだ。その結果、STEAM 教育プログラムについては、福井大学独自の「共同主義的 STEAM 教育」というコンセプトを前面に出した、フラッグシップ科目「STEAM・総合探究 I、II」のカリキュラム案を構築した。教材、教育方法の研究開発については、本経費以外の予算も活用しながら先進的な STEAM 教育に取り組む教育施設の訪問調査を行い、学生が広く利活用できる「STEAM 教育ラボ」や「STEAM 教育 Café」を構想し、STEAM 教材や工具類を揃え、令和 6 年度からの試行運用に向けての準備を進めた。 研究会のうち、ゲスト講師を招いての講演会は次のとおりである。 ・瀬戸崎典夫先生 日時：2023 年 7 月 10 日（月）16:30-18:00 方法：ZOOM（美術準備室） 内容：STEAM 教育との密接に関連した長崎大学の授業「実社会課題解決プロジェクト」立ち上げの際のお話、実際の授業の様子についてご講演いただいた。 ・足利昌俊先生 日時：9/19（火）9:00-11:00 方法：教育系 3 号館美術準備室 内容：内田洋行の STEAM 教育に向けた取り組みについて。企業に求められる能力やニーズと STEAM 教育。
---	---

	・ 出口康夫先生 日時：9/13（水）13:00-15:00 方法：対面（京都大学文学部会議室） 内容：出口康夫教授（京都大学大学院文学研究科）は、NTT、日立製作所、小田急電鉄、福井県越前市など幅広い企業や行政と連携しながら、哲学をはじめとした人文学と科学技術の融合により、現代社会の諸問題を解決しようという試みを積極的に推進している（日立京大ラボ、先導的人文学・社会科学研究推進事業 学術知共創プログラム「よりよいスマート WE を目指して」、京都哲学研究所等）。こうした活動の理念と STEAM と重なる部分が大きいと考え、WG のメンバー4 名は 9 月 13 日に京都大学に伺った。 京都大学とトリノ工科大学との共同実践、高大連携事業、また出口教授の哲学や教育観など様々なお話を伺った。 目的③福井大発 STEAM オンライン・プラットフォームの開発・構築 について： 教材の開発と並行して、アーカイブ機能および発信機能をもつオンライン・プラットフォームのデザイン・構築に取り組み、ウェブサイト「ふくい STEAM 教育ラボ」＜https://steam.f-edu.na7.jp＞（仮アドレス）を制作した。学部予算にて外注したが、ロゴマークやビジュアルデザインは、デザインソフト等を用い WG メンバーが担当した。本サイトは R7 年度からの本格運用を予定している。
将来への発展性 （全学への波及効果はあったか／本学ならではの特色の創出につながったかを記載）	本プロジェクトは教員養成フラッグシップ大学としての新しい教員養成カリキュラムのモデル開発のコアを担うものであり、令和6年度のフラッグシップ大学中間評価において学部の特徴的な取組としてアピールできた。また、本プロジェクトは R6 年度以降も内容・方法を精査しながら継続することを想定しており、「福井大発 STEAM 教育プログラム」をより拡充しオンライン・プラットフォームに公開していくことで、先導的な教員養成学部としての存在意義を広く社会に発信することができる。

令和5年度「教育の質向上のための重点配分経費」実施報告書

プロジェクトの名称	教学 IR データを用いた教育評価・改善のための PDCA に基づく内部質保証体制の充実
プロジェクト代表責任者名 (所属部局)	藤枝 重治 (医学部長)
プロジェクトの目的、内容、期待される成果 (必要に応じ実施体制を記載)	(目的) 本プロジェクトは平成 29 年度から継続しており、昨年度のプロジェクトにおいて収集・分析・可視化した教学 IR データをエビデンスとして「医学部教育支援センタープログラム評価委員会」を実施し、学外委員から「医学科・看護学科ともに教育 IR がしっかりとされている」と高い評価を得ることができた。今年度は、次の4つを実施することで、更なる教育内部質保証体制の充実を図ることが目的であり、その成果をもとに本年度受審予定の医学教育分野別評価の実地調査を迎えたい。 (1) ICT を活用した本学医学教育についての情報公開の促進 (2) 教育 DX ツール「医学部附属教育支援センター 教育プログラムダッシュボード」に実践的な医学部教学 IR データポータル機能の追加 (3) 「医学部附属教育支援センター 教育プログラムダッシュボード」の体系化 (4) 医学教育の質向上を教職協働で実現していくための事務職員の専門性向上
	(内容) <u>(1) ICT を活用した本学医学教育についての情報公開の促進</u> 昨年開発した教育 DX ツール「医学部附属教育支援センター 教育プログラムダッシュボード (医学部附属教育支援センター公開用)」の約 100 項目の教学 IR データの内容を整理、選別し、(医学系教員公開用) (学生公開用) (一般公開用) を作成し、公開する。公開場所は、医学部附属教育支援センターのホームページとするが、このホームページも構成員の大幅な変更と医学教育分野別評価対応があるため、併せて改修するものとする。 <u>(2) 教育 DX ツール「医学部附属教育支援センター 教育プログラムダッシュボード」に実践的な医学部教学 IR データポータル機能の追加</u> <追加機能①> (1) で作成する (医学系教員公開用) に、2.3 年生の進級率問題及び令和 5 年度受験予定の医師国家試験対策などに活用できる実践的なデータポータル機能を追加する。これにより、今まで教員は委員会等に向けて資料作成し公表されたものだけしか閲覧できなかったが、教員が見たい時にいつでもデータの閲覧・検索が可能になる。具体的には、2.3 年生の成績下位グループについての入試区分及び成績や履修済み科目成績等の一覧・検索機能、4 年生に受験した CBT 成績下位グループの医師国家試験模擬試験及び卒業時学科試験成績等の一覧・検索機能を想定している。 <追加機能②> 昨年作成した (医学部附属教育支援センター用) に、医学教育分野別評価の対応として「学生数」「卒業者数」「教員数」を追加する。また「ストレート卒業率」「成績データの相関図」も追加することで、医学部附属教育支援センターの点検・評価機能の充実を併せて図る。

	<u>(3)「医学部附属教育支援センター 教育プログラムダッシュボード」の体系化</u> (1)(2)により「医学部附属教育支援センター 教育プログラムダッシュボード」を、①医学部附属教育支援センター公開用／医学部教学 IR データを網羅し、教育プログラム改善に向けての点検・評価機能 (Check) のメインツール、②医学系教員公開用／医学系教員が授業や学生支援の改善 (Action) のためにタイムリーに教学 IR データを活用できる実践ツール、③学生公開用／学生へのフィードバック強化ツール、④一般公開用／医学教育分野別評価領域 7.4 (広い範囲の教育の関係者に、課程および教育プログラムの評価の結果を閲覧することを許可するべきである) への対応ツールとして、医学教育分野別評価向けに体系化する。 <u>(4) 医学教育の質向上を教職協働で実現していくための事務職員の専門性向上</u> 福大ビジョン 2040 で掲げている「大学構成員がそれぞれの担当部署のプロフェッショナルとして、プライドを持ち生き生きと活動出来る環境を構築し、大学の力量を最大限に発揮するとともに、地域との相互交流により大学の総合力を高める。」を実現するため、今まで教員しか参加していなかった「日本医学教育学会大会」に医学部附属教育支援センターに関わる事務職員を派遣する。他大学の医学教育の現状を知り視座を高めることにより専門性を向上させ、充実した教職協働を目指す。 (実施体制) <u>(0) 全体統括</u> ・藤枝重治 (医学部長) <u>(1) ICT を活用した本学医学教育についての情報公開の促進</u> ・飯野哲 (医学部附属教育支援センター長)、松岡キャンパス学務課、 (株)永和システムマネジメント、能登印刷㈱ <u>(2) 教育 DX ツール「医学部附属教育支援センター 教育プログラムダッシュボード」に実践的な医学部教学 IR データポータル機能の追加</u> ・飯野哲 (医学部附属教育支援センター長)、松岡キャンパス学務課、 (株)永和システムマネジメント <u>(3)「医学部附属教育支援センター 教育プログラムダッシュボード」の体系化</u> ・飯野哲 (医学部附属教育支援センター長)、松岡キャンパス学務課、 (株)永和システムマネジメント、能登印刷㈱ <u>(4) 医学教育の質向上を教職協働で実現していくための事務職員の専門性向上</u> ・松岡キャンパス学務課 (期待される成果) 上記プロジェクト内容 (1) ～ (4) を実施することで、以下の成果が期待できる。 ・本学医学教育プログラムの評価を学内外に発信することで、より広い範囲の関係者の関与が得られる。 ・「医学部附属教育支援センター 教育プログラムダッシュボード」に実践的な医学部教学 IR データポータル機能を追加することで、教学 IR データを用いて改善する意識を、評価担当教員以外にも浸透させることができる。 ・更なる教育内部質保証体制の充実が図られるため、医学教育分野別評価などの評価項目の進捗管理ができる。 ・教育プログラム改善についての教職協働を推進することができる。
--	---

教育の 質向上への 貢献 (どの ように 貢献した か、 具体的に 記載)	医学部における教学 IR データの活用プロジェクトは、平成 29 年度から継続しているものである。今年度は、教育関係者間での現状・問題点の共有、改善点の抽出に役立つツールを取り上げ、教育プログラム改善のための PDCA サイクルのうち、点検・評価機能及び改善機能を重点的に充実させるための取組み 3 点を行った。 なお、以下 (A) 及び (B) の実績に基づき、令和 5 年 12 月に受審した医学教育分野別評価の自己点検評価報告書及び実地調査において、「教学 IR データの分析とそれによる教育活動の他、学内外の教育に関する各種自己点検・評価や大学評価に関わる種々の資料も掲載」している旨を報告した。同分野別評価の正式な結果通知は令和 6 年夏頃を予定しているが、適合評価を受ける見込みである旨の連絡を令和 6 年 2 月に受けることができた。評価報告書においても「カリキュラムの教育課程と学修成果について、医学部（教育支援センター）教育 IR 部門が定期的にモニタし、解析している」（案）と評価を受けている。本学医学部の PDCA サイクルにかかる今年度の取組みは、外部評価において評価基準を満たしたことからも、教育の質保証がなされたと考える。 ※詳細は実施計画欄に記載 (A) 令和 4 年に作成した「医学部附属教育支援センター 教育プログラムダッシュボード」（内部質保証に必要な IR データ項目の収集・分析結果のポータルサイト）に、さらに詳細なデータとして、①医学科 2、3 年生の進級率問題及び②令和 5 年度受験予定の医師国家試験対策などに活用できる実践的なデータポータル機能（在学生の入試区分、成績、履修済み科目成績等の一覧・検索機能）※プロジェクト内容（2）に対応を追加することができた。 (B) 既存の「医学部附属教育支援センター」HP を改修し、医学教育分野別評価対応状況の表示機能追加、及び、(A) 記載の「ダッシュボード」へのリンク付け等を行った※プロジェクト内容（1）に対応。 また、現状の医学部附属教育支援センター教員向けのページに加え、（医学系教員公開用）（学生公開用・一般公開用）のインターフェイスを追加した。 (C) 例年、教員のみが参加してきた医学教育学会大会※プロジェクト内容（3）に対応に、評価・分析を担当する事務職員も参加し、医学教育の質向上を教職協働で実現していくための事務職員の専門性向上を図った。
プロジェ クトの重 要性 (その成 果は教育 改善等 に寄与で きたかを 記載)	今年度は、次の 2 点において教育改善等に寄与した。 (A) 教学 IR データとその分析結果により令和 4 年度に作成した「医学部附属教育支援センター教育プログラムダッシュボード」への、掲載データを実質化した。及び「医学部附属教育支援センターホームページの改修（評価対応状況、上述ダッシュボード等の集約・一元化）」を行い、教学 IR データを基にした教育 PDCA のうち、点検・評価機能を強化することに寄与した。 (B) 本プロジェクトで扱った教学 IR データを用いた一連の PDCA の実質化は、教育の質向上を図る目的の各種外部評価（第 4 期法人評価、機関別認証評価、医学教育分野別評価など）の指標改善に直接繋がるものである。 今年度は、令和 5 年 12 月に医学教育分野別評価を受審し、同評価においては本ツールが教育プログラムの補助ツールとしてのみならず、教育プログラムにかかる情報を教員等の関係者間で周知するツールとしても重要であることが明らかになった。そのため、今後も随時見直しを加えつつ同ツールを活用することで、教育改善に貢献すると同時に、医学教育分野別評価以外の外部評価の指標等達成にも寄与することが可能となる。 なお、令和 5 年度受審の医学教育分野別評価においては、本ツールの活用についても報告し、結果として、適合評価を受ける見込みである旨の連絡を令和 6 年 2 月に受けることができた（正式な結果通知は令和 6 年夏頃を予定）。

プロジェクトの発展性 (継続のプロジェクトの場合に、従来からの発展性があったかを記載)	<平成 29 年～令和 4 年度> ・内部質保証体制の構築 (医学部附属教育支援センターの設置、医学科の統合 DB 整備等) ・統合 DB の実質化による改善事例の創出 ・医学科統合 DB を看護学科、大学院にも応用 ・統合 DB の実質化による改善事例の創出、それらを記載した各種評価報告書の作成 ・内部質保証体制の効率化を目的とした「F. MOCE」へのアンケート機能追加 ・内部質保証体制の効率化を目的とした「F. MOCE」への「Dream Campus」「GAKUEN」データ移管・管理機能追加 ・「F. MOCE」内での「学生個人別 e-ポートフォリオ」「科目別成績分布」自動計算機能を追加 ・収集、分析した教学 IR データを活用 (DX 化) した「福井大学医学部附属教育支援センター 教育プログラムダッシュボード」を作成 ・エビデンスベースの医学科 FD・SD の開催 <令和 5 年度> 以下のとおり、令和 4 年度までに確立した各種アンケートやその他教学 IR データ、及び、これらのデータを DX 化したプログラムダッシュボードを継続して発展させることで、PDCA サイクルのうち点検・評価機能、改善機能をさらに充実させた。 (A) 令和 4 年に作成された「医学部附属教育支援センター 教育プログラムダッシュボード」に、2.3 年生の進級率問題及び令和 5 年度受験予定の医師国家試験対策などに活用できる実践的なデータポータル機能 (在学生の入試区分、成績、履修済み科目成績等の一覧・検索機能) を追加。また、現状の「教育支援センター教員向け」の他に、「医学系教員公開用」「学生公開用・一般公開用」インターフェイスを追加。 (B) 既存の「医学部附属教育支援センター」HP を改修。レイアウト改修、掲載情報の体系化、医学教育分野別評価対応状況の表示機能追加、及び、上記ダッシュボードのリンク付け改修。これらの改修についての教員周知。 (C) 教員のみが参加してきた医学教育学会大会に、評価・分析を担当する事務職員が参加し、研鑽を積んだ。
--	---

実施計画
(プロジェクトの目的が達成できたかについて、実績を含めて記載)

【総括】

令和5年度には、当初設定の目的に基づき、以下取組(1)～(4)を実施した。

年度初めに、全学への展開として、一連の取り組みの中核をなす「教育プログラムダッシュボード」について、学長補佐会議(令和5年4月18日)、全学教学IRミーティング(同4月19日、4月26日)において対面デモンストレーション形式での発表を行い、高評価を得た。

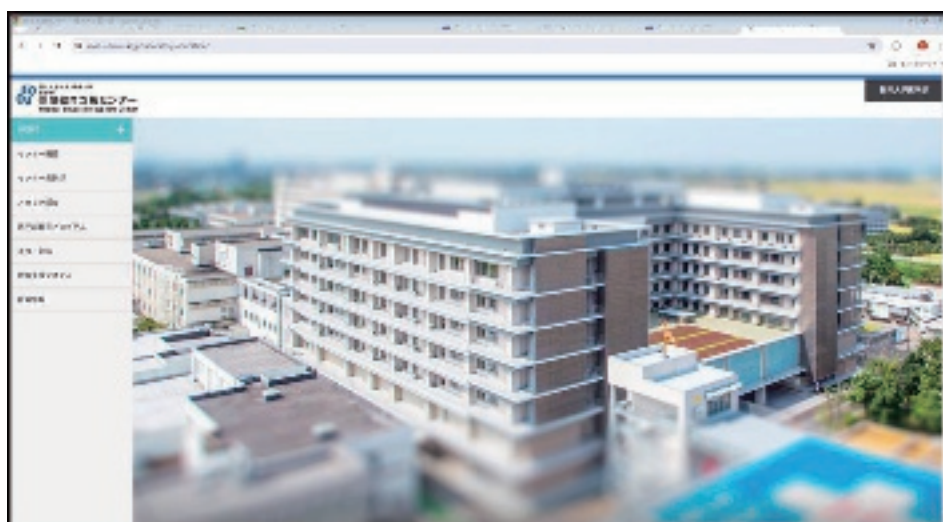
その後、取り組み(1)～(4)を進めたのち、令和5年度に受審した医学教育分野別評価(自己評価報告書提出の後、同年12月に実地調査を受審)において、「教学IRデータの分析とそれによる教育活動の他、学内外の教育に関する各種自己点検・評価や大学評価に関わる種々の資料も掲載」している旨を報告した。

同分野別評価の正式な結果通知は令和6年夏頃を予定しているが、適合評価を受ける見込みである旨の連絡を令和6年2月に受けることができた。本学医学部のPDCAサイクルにかかる今年度の取り組みは、外部評価において評価基準を満たしたことからも、教育の質保証がなされたと考える。

(1) ICTを活用した本学医学教育についての情報公開の促進

既存の「医学部附属教育支援センター」HPを改修し、医学教育分野別評価対応状況の表示機能追加、及び、後述「ダッシュボード」へのリンク付け等を行った。

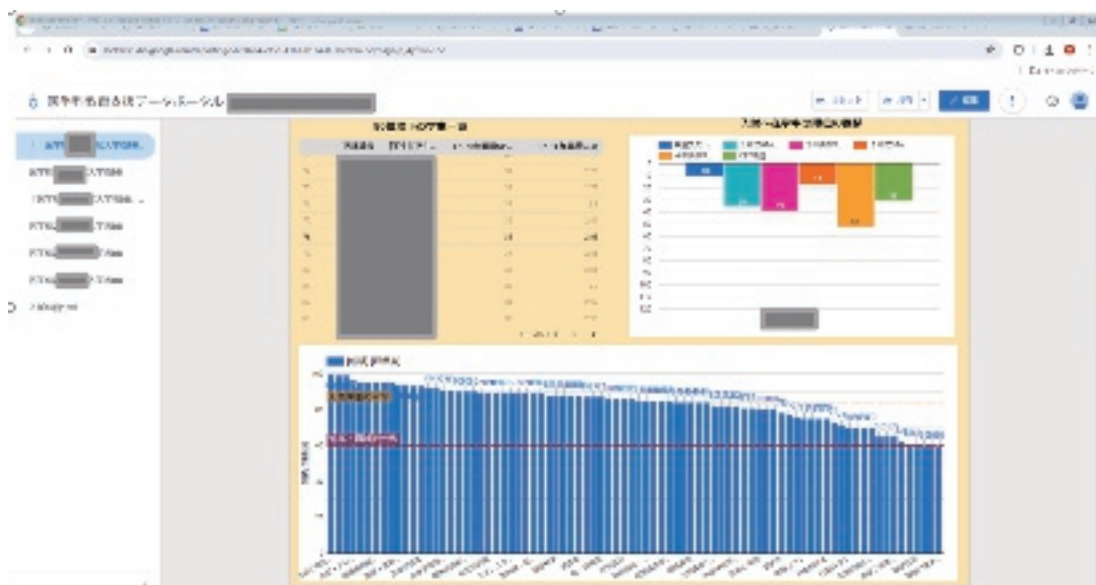
なお、後述取組(2)の②(医学系教育公開用ダッシュボード)について、全教員に対して閲覧を可とするデータ範囲の検討が長引き、公開が遅れることが確定したため、医学教育支援センターのホームページ改修を利用して、医学部の教育プログラム、PDCAサイクル・ロードマップ、過去のFD記録の掲載をセンターホームページ本体にも掲載することとした。



(2) 教育 DX ツール「医学部附属教育支援センター 教育プログラムダッシュボード」への実践的な医学部教学 IR データポータル機能の追加

令和4年に作成された「医学部附属教育支援センター 教育プログラムダッシュボード」(内部質保証に必要な IR データ項目の収集・分析結果のポータルサイト)に、さらに詳細なデータとして、①医学科2.3年生の進級率問題及び②令和5年度受験予定の医師国家試験対策などに活用できる実践的なデータを追加することができた。実際に追加したデータは以下のとおり。

- ・2.3年生の成績下位グループについての入試区分及び成績や履修済み科目成績等の一覧・検索機能
- ・4年生に受験した CBT 成績下位グループの医師国家試験模擬試験及び卒業時学科試験成績等の一覧・検索機能

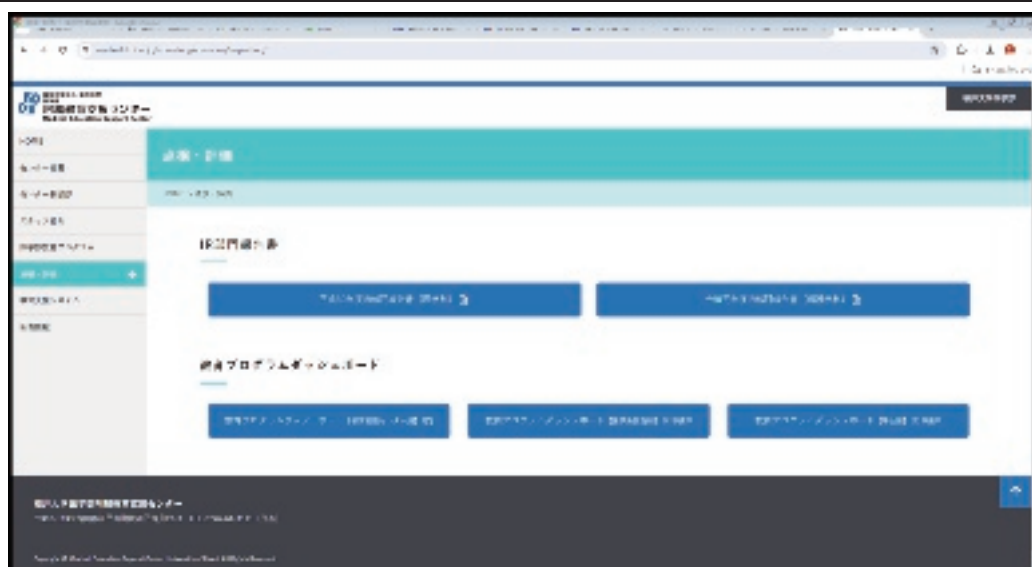


(3) 「医学部附属教育支援センター 教育プログラムダッシュボード」の体系化

・令和4年度末に、ダッシュボードへの集約を始めた、医学部の教育プログラムや医学部教学 IR データベース等の情報(約65項目)について、以下の考え方でインターフェイスの追加を行った。

- ① 医学部附属教育支援センター公開用/医学部教学 IR データを網羅し、教育プログラム改善に向けての点検・評価機能(Check)のメインツール
- ② 医学系教員公開用/医学系教員が授業や学生支援の改善(Action)のためにタイムリーに教学 IR データを活用できる実践ツール
- ③ 学生・一般公開用/教育の当事者である学生に、教育プログラムの点検・評価結果を周知するとともに、医学教育分野別評価領域7.4に示される、「広い範囲の教育の関係者に、課程および教育プログラムの評価の結果を閲覧することを許可する」ツール

ただし、②及び③については、それぞれの対象者に対して、閲覧を許可するデータ範囲の検討に時間を要し、引き続き令和6年度に同作業を継続する予定となった。



① (医学部附属教育支援センター公開用)については、令和5年度12月の医学教育分野別評価の受審を念頭に、以下の情報・機能を追加の上、令和5年9月7日の医学教育分野別評価専門部会の開催以降、これを活用した。

- ・IRデータに基づく教育プログラムの点検・評価とそれによる改善のデータ：
医学部プログラム評価委員会等の議事要旨、会議資料
分野別評価、機関別認証評価などの教育評価結果
- ・掲載済み各種データの更新

(参考)掲載済みの各種データ：

・教学IRデータ：

学生の入試状況、各学年の成績(コンピテンシー別カリキュラム・ツリー)、進級率、休学率、退学率、共用試験、国家試験模試、国家試験結果

入学アンケート、カリキュラム評価アンケート等計11のアンケート分析結果

・PDCAサイクル・ロードマップ、PDCAに基づくFD/SDなどの教育活動情報

(4) 医学教育の質向上を教職協働で実現していくための事務職員の専門性向上

例年、教員のみが参加してきた医学教育学会大会に、評価・分析を担当する事務職員も参加し、医学教育の質向上を教職協働で実現していくための事務職員の専門性向上を図った。

	・第55回日本医学教育学会大会 in 出島メッセ長崎（長崎大学） ・日程：7月28日（金）～29日（日） ・テーマ：カリキュラム開発・カリキュラム評価、臨床実習、研修での評価、キャリア支援、評価／FD・SD ・学会ではシンポジウム「教育プログラム評価における持続可能な体制づくりと担当者の働き方を考える」「次世代の医学教育に関する展望：ICTを用いた医学教育コンテンツの開発と医師国家試験CBTに関する研究」など本学での取組に直結する情報を得ることができた。
将来への発展性（全学への波及効果はあったか／本学ならではの特色の創出につながったかを記載）	「教育支援センターホームページ改修」及び「医学部附属教育支援センター 教育プログラムダッシュボード」に関しては、令和5年12月に受審した医学教育分野別評価の自己点検評価報告書及び実地調査において、「教学IRデータの分析とそれによる教育活動の他、学内外の教育に関する各種自己点検・評価や大学評価に関わる種々の資料も掲載」している旨を報告した。同分野別評価の正式な結果通知は令和6年夏頃を予定しているが、適合評価を受ける見込みである旨の連絡を令和6年2月に受けることができた。 分野別評価は、全学の内部質保証の仕組みにおいては、学部等の部局において実施することと位置づけられている評価だが、医学教育分野別評価は特に教育プログラム自体の評価の比重が大きく、評価基準も厳しいことが特徴である。そのため、本学医学部のPDCAサイクルにかかる今年度の取組みは、同評価において評価基準を満たしたことから、一定の質を保証されたと考えられる。全学として受審する第4期の法人評価（令和7年度に中間評価を予定）現況調査などでも、医学部の特徴として十分に一連のプロジェクトの成果を活用していくことができると考えている。 「医学部附属教育支援センター 教育プログラムダッシュボード」は、「医学部附属教育支援センター教員向け」において、フルパッケージのデータを公開し、内容を極めて詳細に充実させることができた。令和5年4月末の全学でのデモンストレーションにおいても、ダッシュボードは高評価を受けているため、引き続き全学の内部質保証にかかる会議体等と連携しながら改善していく。 また、教員への情報共有ツールとしても、今後、教育支援センターの会議やFD等での活用を図る。 「教学IRの整備・活用」は、第4期中期計画にも掲げられており（2－（2）－1）、大学として自己点検・対応をする必要がある項目である。次年度以降も、医学部での教学IRシステムの活用及び整備を継続し、より充実を図ることで、令和7年度提出予定の暫定評価においても一資料として活用することが可能となる。

令和5年度「教育の質向上のための重点配分経費」実施報告書

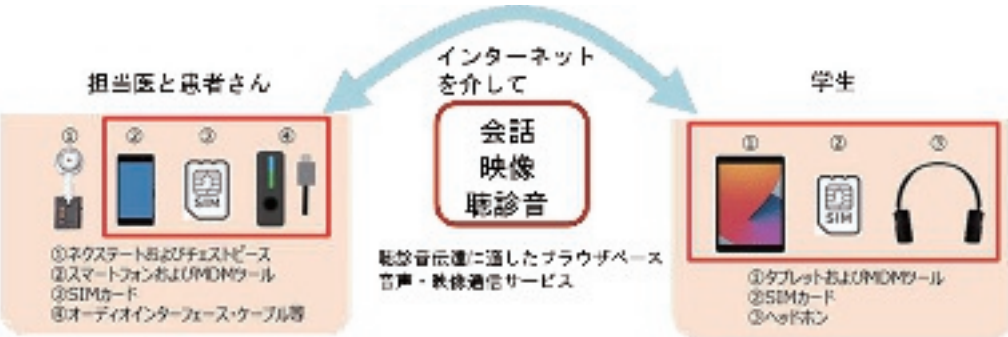
プロジェクトの名称	オンライン診療システム（問診+聴診）を利用したウィズコロナ時代における医学部学生の実践的効果的新実習教育法の確立
プロジェクト代表責任者名 (所属部局)	病態制御医学講座 内科学（1） 山内高弘
プロジェクトの目的、内容、期待される成果 (必要に応じ実施体制を記載)	(目的) 新型コロナウイルス感染症の猛威が丸 3 年続いた後、令和5年度からようやく以前の日常生活に戻る機運が高まってきた。しかしながらそれはあくまでも一般の生活のことであり、多くの重症患者を診療している大学病院の状況は依然コロナ前とは異なる。この様な中、私たちの診療科では医学部学生の臨床実習を少しでも実地に則して行えるように、今まで原則病棟立ち入りを禁じていたのを令和 5 年 1 月から学生たちが患者さんの問診をできるように緩和した。しかしながら未だ無菌室の出入り制限等以前の実習形態に復するところにはいかない。故に、以前の実習に近い効果をもたらすことのできる、従来には無い全く新しい方法を確立することが急務である。 令和 4 年度から2年継続して本重点配分経費のご援助をいただきました本プロジェクトでは、医学部学生と患者さんを NTT の回線を用いたインターネットで結び、遠隔からの問診・コミュニケーションと診察（聴診）を行うリモート実習を一部開始した（図1）。本法はNTT スマートコネク社の新開発である生体音を遠隔に伝送するシステムを利用した、学生が遠隔で患者さんと会話し聴診することのできる画期的リモート実習である。  図1 リモート実習 (内容) 本プロジェクトでは、NTT スマートコネク社が提供するオンライン診療システム向けの、聴診音リモート伝達に適した Web ブラウザベースの音声・映像通信サービス（2021 年 1 月下旬より提供開始）を利用する（図1）。本システムにより実習を行う担当医はスマートフォンを操作し（図2）、学生はタブレット端末を操作する（図3）。スマートフォンにはUSB Audio 出力器を介して聴診器が連結する（図2、4）。タブレット端末にはヘッドホンが接続される（図3、4）。 そして {担当医⇄患者さん} ⇄学生 の3者で行う。担当医がこのシステムを用いて患者さんと会話し、心音・肺音・腸音を聴診する。学生は遠隔でタブレット端末からその会話と聴診音を聴取することができる。現在本システムを外来に導入し、実習を行っている。

	 図2 担当医側のスマートフォンと聴診器	 図3 学生側のタブレット端末とヘッドホン
	 図4 聴診器部分 (期待される成果) 学生は患者さんの聴診音を主治医が聴診している正にその音をリアルタイムで同時に聴取することができる。コロナウイルス感染症の有無にかかわらず、今までにない画期的実習である。	
教育の質向上への貢献 (どのように貢献したか、具体的に記載)	新型コロナウイルス感染症による日常生活の制限は今後解除される方向にある。コロナウイルス感染症下ではリモート聴診により実習効果を改善させる。さらに、コロナウイルス感染症とは関連なく、本プロジェクトのリモート実習を活用すれば、主治医が正に聴診している場所の音を同時に聴診することができる。今までの方法ではなしえなかった画期的教育法であり、実際に経験した学生からは感嘆の声を頂いている。	
プロジェクトの重要性 (その成果は教育改善等に寄与できたかを記載)	医学教育では従来の卒業試験、医師国家試験に加え、OSCE による技能の評価が導入されて久しい。しかし技能は効果的な実習が行われてこそ身に着く。本プロジェクトが提案するリモート実習は対面実習が困難な診療科にあっても実習効果を上げることができる。さらにはコロナウイルス感染症の有無にかかわらず、主治医の選択した場所の聴診音を同時に聴診することができるという教育の質向上にダイレクトにつながる重要な手段である。	
	本システムを利用すれば、新型コロナウイルス感染症の状況がどう変わろうとも、密な接触が制限されるかにかかわらず、対面に勝るとも劣らぬ実習効果が期待できる。さらに主治医と同時に同じ聴診音を聴くことができる。 本実習形態が大きな発展性を秘めていることは、NTT 社のホームページで本プロジェクトが大々的に宣伝され、同社に多くの問い合わせが届いていることから窺われる。	

実施計画 (プロジェクトの目的が達成できたかについて、実績を含めて記載)	令和4年度からの臨床実習で2年間に亘り本システムを導入している。毎週私自身の外来日に実習で来る学生(2名)とともに本システムを利用し、患者さんの聴診を学生に聴かせている。毎回学生たちにアンケートを取りデータを収集した。その結果を平均すると、システム導入そのものは5段階評価で5/5、使い勝手は4/5、呼吸音4/5、心音4/5であった。個別の意見として、「非常に良く聴こえた」「呼吸音は美しく聴こえた」「ここにしかないということで、非常に貴重な体験をさせていただいた」「他の大学にないと知って驚いた」などであった。私はコロナウイルス感染症後に聴診を素肌でせず下着の上からするので、一部に、下着との摩擦音が入るので聴きづらい時があるとの意見があった。また、時々スマートフォンがうまく接続できないことがあり、システム上改善の余地があると考えられた。 本プロジェクトはNTTでも大々的に取り上げられた(教育機関による聴シクロの活用事例 NTT スマートコネクト (nttsmc.com))。
将来への発展性 (全学への波及効果はあったか／本学ならではの特色の創出につながったかを記載)	NTT スマートコネクト社の新開発である生体音を遠隔に伝送するシステムは2021年よりサービス提供が開始された。本来本システムは離島や無医村など対面で医師が患者さんを診察することの困難な状況下等での遠隔診療を可能とするためのものである。本プロジェクトではこのシステムを学生実習に応用するという日本はおろか世界的に見ても初めての試みを本学でおこなった。学生の皆さんの驚きは大きなものであり、実習に深みと楽しさをもたらしたと考えられた。

令和5年度「教育の質向上のための重点配分経費」実施報告書

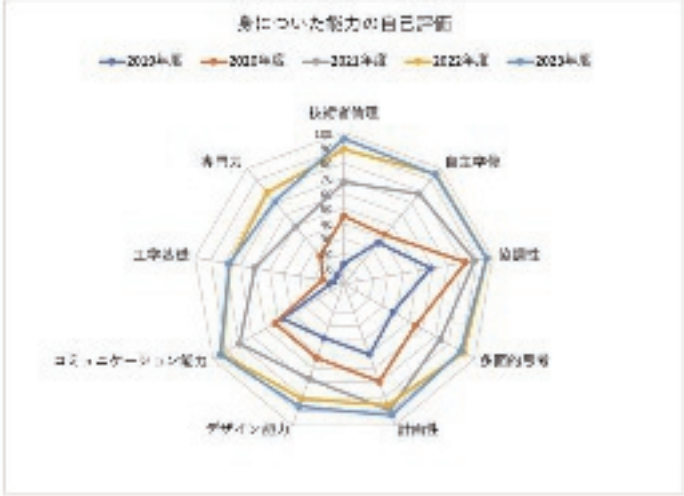
プロジェクトの名称	高大接続と専門基礎教育の支援の充実 ー 志願者数の減少と共通テスト『情報』への対応を見据えてー
プロジェクト代表責任者名 (所属部局)	橋本貴明 (工学部 工学基礎教育支援センター長)
プロジェクトの目的、内容、 期待される成果 (必要に応じ実施体制を記載)	(目的) 工学部では工学基礎教育支援センターが中心となって、専門基礎科目の数学や物理学の授業担当者共同で FD 研修や教材の開発を進めてきた。また数学・物理プレースメントテストや数学ステップアップと物理ステップアップの補習授業、数学・物理の学習支援室(科目名: 数学・物理オープン)などを通して、スムーズな高大接続を図るとともに、入学生の基礎学力の把握・向上にも務めてきた。数学プレースメントテストの成績データは、工学部の入試改革のためのデータとしても活用されている。教育効果は、第三期中期計画の実績として報告された。本プロジェクトでは、以上の実績を踏まえこれらの取り組みを一層充実させる。 (内容) 授業担当者の FD 研修などを通して蓄積されてきた数学や物理学の試験問題などをもとに、福井大学の学習管理システム WebClass や Google Workspace の Classroom で活用できる教材を開発する。物理プレースメントテストの実施方法を改善し、その成績データ等を可視化することで教育改善や入試改革などの資料として活用できるようにする。開発した教材を、福井大学の公開講座を通して、高大連携やデータサイエンス関連の情報発信に活用する。 (期待される成果) 工学基礎教育支援センターの数学部門と物理部門の専任教員を中心に実施体制を構築する。数学・物理プレースメントテストと数学・物理のステップアップクラスや学習支援室の整備またオンライン教材を活用した各種改善により、工学基礎教育の一層の充実を図る。具体的には、・志願者倍率の低下・多様な入試形態による基礎学力の低い学生のキャッチアップ・応用基礎レベル養成プログラムの充実が成果として期待される。
教育の質向上への貢献 (どのように貢献したか、具体的に記載)	本プロジェクトで準備する教材を工学部全体の専門基礎科目の数学や物理学の授業に導入することにより、学習管理システムの活用による学生の自主的活用の促しに繋げるため <u>TA の支援を受け教材の開発を行った</u>。また学習管理システムの活用による授業外学習時間の向上にも<u>今後用いることを予定している</u>。【資料1】01、02 入試の多様化により、入学生の能力・適性は様々なものとなっている。これに伴い基礎学力の不足をキャッチアップするためのサポートが必要な学生も増加傾向にある。この観点から、プレースメントテストとその結果によるステップアップ、<u>数学・物理オープンを充実しそのギャップを埋めるよう努めた</u>。【資料2】01、02 【資料3】01 また、基礎専門科目の電子教材の充実を進めることを通して、初年次教育の質の向上に貢献した。 入試での得点分布を調査し、今後の対策について FD を行うと共に、従来の物理学 A の FD を学生の変化を中心に行った。【資料4】03、04

プロジェクトの重要性 (その成果は教育改善等に寄与できたかを記載)	今回のプロジェクトに関わる工学部1、2年次の物理学と数学の授業は約70クラス(物理20クラス、数学50クラス)になる。補習授業も全14クラスで、のべ300名程が受講している。工学部のほぼすべての学生を対象としており、学生の学習効果向上に対する寄与は大きい。 また、数学のウェブ教材は、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度「応用基礎レベル」への申請に向けて開講されている共通教育科目でも利用することから、学部を超えた教育の質向上が期待できる。このため、【資料1】にある2種類の応用数学Eの教材の開発を行った。【資料1】06、07 数学・物理学学習支援室では、教員と共に大学院生のTAも学部生からの質問を受け支援に当たっている。このことは教えることを通してTA自身が学び直す貴重な教育の機会となっている。 いわゆる「大学全入時代」となって久しく、学生募集のため大学での入学者の選抜方法が多様化している。本学部でも、総合型選抜I、IIを実施している。このことは、学力以外の能力・適性注目した人材が確保される一方、基礎的な学力不足が懸念される。令和5年度入試では、入学志願者数の大幅な減少があり、総合型選抜の拡充の可能性のある中、高大接続と入学後のフォローアップの重要性が増している。このため将来の利用を想定して【資料1】にある微分積分I、線形代数I、応用数学A、応用力学の教材開発を行った。【資料1】03、04、05、08
プロジェクトの発展性 (継続のプロジェクトの場合に、従来からの発展性があったかを記載)	今年度が新規プロジェクトのため該当なし。
実施計画 (プロジェクトの目的が達成できたかについて、実績を含めて記載)	(1) 物理学AのWebClass教材の開発 これまで物理学Aの授業担当者共同でFD研修を実施し、2016年度から、試験問題共有Webシステムを通じて各学科の試験問題を共有する体制を整えている。共有された資料をもとに、物理学Aの教材を大学院生のTAと協力してWebClassで活用できる形に整理した。【資料1】09 【資料5】06 担当：工学基礎教育支援センター物理部門 (2) 物理プレースメントテストの実施方法を再検討 物理プレースメントテストは、補習授業(物理ステップアップ)の受講義務化に合わせて、2022年度より工学部の全新入生を対象に実施を始めた。採点は数学プレースメントテストと共同で行っている。採点用機材は「学士力GP」採択時に購入したもので購入から10年以上経過しており、2科目の採点を同時に行うためには十分でなく、OSのアップデートも必須であった。そのため補習授業クラス編成や成績データ利用を直ちに実施できる体制を整える必要があり、機材の更新を本経費にて行った。【資料5】02、03 物理プレースメントテストの実施方法を再検討し高校での履修科目のアンケートを追加した。今後、成績分布などの情報を可視化することで授業の改善や入試改革などに活用する。【資料3】01 【資料4】04 【資料5】04、08 担当：工学基礎教育支援センター物理部門 (3) 福井大学の公開講座で、数学の教材を利用した大学の授業紹介 公開講座に関して、令和2年度は藤島高校で「授業紹介」を実施(高校生2名と高校教員2名が参加)した。令和3年度、4年度は福井大学公開講座「高校生のための大学授業紹介(微分積分)」を実施(3年度：35名、4年度：26名参加)した。

	今年度も教材を拡充して実施を予定している。福井大学の公開講座では、数学の教材を利用した大学の授業紹介を行う。またデータ科学・AI 教育研究センターの兼任教員と協力し、共通教育科目「データサイエンスのための数学」等でも工学部のウェブ教材の活用を図った。【資料2】03 (4) データサイエンス教育に関わる大学教員による FD 研修 令和4年10月に、北陸4大学連携まちなかセミナー「北陸地区のデータサイエンス教育の現状と課題」として、福井県教育委員会の情報指導主事、福井大学教育学部教員（統計学・高大接続）、富山大学教員（富山大学データサイエンス推進センター長）による講演を実施した。令和7年度入試よりは、情報が大学入学共通テストの科目に追加され、数学も新しい内容が加わる。今後の大学入試や高大接続の参考とするため、データサイエンス教育に関わる大学教員による FD 研修として、<u>教員有志がオンラインで文部科学省の「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度説明会」にオンラインで参加した。</u> 担当：工学基礎教育支援センター数学部門 (5) TA を活用した授業時間外の演習 4月5日に実施した令和5年度数学・物理プレースメントテストの結果、専門基礎科目で必要とされる基礎学力が極めて不十分と判定される学生数が(18名から36名と)倍増した。 そのため数学ステップアップの受講生数を30名程度増やし、合わせて、TA を活用した授業時間外の演習6回（学習時間18時間相当）を実施した。（学士力経費による。） 担当：工学基礎教育支援センター数学部門
将来への発展性 （全学への波及効果はあったか／本学ならではの特色の創出につながったかを記載）	現在、大学で申請を準備している「数理・データサイエンス・AI 教育認定制度」のリテラシーレベルだけでなく、その先の応用基礎レベルへの対応（特に「数学基礎（統計数理等）」）まで含めて「<u>応用数学E（確率・統計）</u>」の授業の2タイプの教材の開発を行った。【資料1】06、07 【資料5】07 本プロジェクトで準備された教材の活用により、工学部1、2年次の専門基礎科目での今後の学習管理システムの利用促進が期待される。これらは数理・データサイエンスと関わる科目であり、その教育改善や学外への情報発信にも寄与する。 基盤部門のアドバイザーである産学官連携本部客員教授の葛生伸による日本工学教育協会の論文誌である「工学教育」へのリメディアル教育への論文が受理され、対外的に今までの活動のアクティビティを示すことができた。また同氏による日本工学教育協会の年次大会への参加報告が工学部全教員になされた。【資料4】01、02 【資料5】01

令和5年度「教育の質向上のための重点配分経費」実施報告書

プロジェクトの名称	デジタル人材育成を目指したプロジェクト型アクティブラーニング技法の開発と実践
プロジェクト代表責任者名 (所属部局)	工学部先端科学技術育成センター長 飛田英孝 (工学系部門)
プロジェクトの目的、内容、 期待される成果 (必要に応じ実施体制を記載)	(目的) プロジェクト型アクティブラーニングを活用して DX を担う実践的能力を有したデジタル人材の育成を行うことを目的とする。 DX を担うデジタル人材の育成は、我が国にとって喫緊の課題であり、特に工学教育においては、数理・データサイエンス・AI 教育の強化が求められている。社会で求められるデジタル人材は、座学を通じて関連分野の知識を修得するのみでなく、これらを使いこなす実践力を有した人材である。本プロジェクトでは、工学系課題に関する実践的能力を有したデジタル人材の育成を行う。 (内容) 過去3年間に取り組んだ「福井大学発の ICT を活用したプロジェクト型アクティブラーニング技法 (FICTPAL : フィクトパル) の開発と実践」を基盤とし、工学部先端科学技術育成センターが責任運営機関である①工学部共通科目「学際実験・実習」及び、②単位を伴わない創成活動 (全工学部学生に共通の時間枠を設け、教員及び学生が提案した活動を先端科学技術育成センターが認定した上で、工学部全体が支援して行うグループ活動)、さらに、③工学部の各学科で行われているプロジェクト型 AL を連携した教育実践の場として、教育技法の開発と実践を行う。 (期待される成果) プロジェクト型 AL は、学生自身が主体的に、自らの力を体感しながら取り組む統合型体験学習活動を教員の支援のもとに実践する学習者の当事者性を重視した教育活動である。通常の座学では修得困難な創造性・課題探求能力・企画力・リーダーシップ・説明能力といった実践的能力を有したデジタル人材を育成する教育システムの構築が期待できる。
教育の質向上への貢献 (どのように貢献したか、具体的に記載)	本プロジェクトが対象とするプロジェクト型 AL は、学生自身が主体的に、自らの力を体感しながら取り組む統合型体験学習活動を教員の支援のもとに実践する学習者の当事者性を重視した教育活動である。一例として、下記に機械学習・AI・VR 等の技術の応用を強化した「学際実験・実習 : Imagineer プロジェクト福井」における能力育成の自己評価結果を示す。特に重視した「情報スキル」を始め、ほぼすべての能力項目において、受講前の期待以上に能力向上が達成できているという実感を持つにいたったことが分かる。 ■「身に付けたい能力」と「身に付いた能力」の比較 物質・生命化学科で実施している創成実験 (必修) では、グループで商品の企画

	／プロトタイプ制作、プレゼンを行い、報告書の作成（個人）を行っているが、デジタル人材育成を強化すべく、商品を紹介する1分程度のCMビデオの制作もあわせて行った。物質・生命化学科が「学習・教育到達目標（JABEE 準拠）」に掲げているすべての項目において、昨年度と同等以上の能力獲得が達成されている。  上記の実施例が一端を示しているように、通常の座学では修得困難な創造性・課題探求能力・企画力・リーダーシップ・説明能力といった現代の高度専門技術者に必須の技能育成が効果的に達成できる有効な教育方法の実践を通じて、教育の質向上に貢献した。
プロジェクトの重要性 (その成果は教育改善等に寄与できたかを記載)	上記のように、本プロジェクトは学年／学科を問わず、通常の座学では修得困難な社会人基礎力やトランスファラブルスキルといった現代型実践能力を高める教育として効果的である。こうした教育手法を授業内外での教育に広く応用する活動を展開しており、公募型の事業として工学部内から「Imagineerを育む創成教育推進経費」を公募し、下記の6件を採択して支援した。成果については、年度末に発行する先端科学技術育成センターの広報紙「CIRCLE News」にて広く公開する。 ● 高校生のための無線通信可能トレースロボット製作実習プログラムの開発（授業外：創成教育活動） ● 組み込み機器デザイン教育のための実験機材開発プロジェクト（必修授業における創成教育の改善） ● 機械学習の導入と改善に基づくスチールブリッジコンペティション設計と実践（授業外：創成教育活動） ● 小規模連鎖型の保全的更新検討事業（授業外：創成教育活動） ● ロボット工学創造実験Ⅰ・Ⅱ（必修授業における創成教育の改善） ● 初心者でも本格的に楽器演奏を楽しめる支援システムの開発（授業外：創成教育活動） 授業外の創成教育活動では、Steel Bridge Competition チームが全国大会にて昨年に続いて連覇を達成すると共に、タイで開催されたアジア大会でも総合優勝を果たした。（福井大学 HP: https://www.u-fukui.ac.jp/news/93480/）本創成教育活動については、12月に福岡大学にて開催された「第20回ものづくり・創造性教育に関するシンポジウム」でも研究報告を行い、全国の大学教育の向上にも貢献した。 本学独自のユニークな取り組みとなっている創成教育については、12月7日に開催された令和5年度北陸信越工学教育協会福井県支部研究集会においても、学生自身が「マイコンを使ったゆで卵装置の試作」（Imagineer プロジェクト福井より、1年生の学生が発表）、「AI 援用の設計に基づくブリッジコンペティションの挑戦」（4

	年生の学生)、「空き地の創造的活用による都市や住環境の向上」(M2の学生)について報告を行った。 上記のように、本プログラムは、工学部におけるプロジェクト型教育を牽引するのみならず、北信越地域を始めとする日本の工学教育にも改善事例を提供する意義深い教育プログラムとなっている。
プロジェクトの発展性 (継続のプロジェクトの場合に、従来からの発展性があったかを記載)	データ科学・AI教育研究センター(以下、DAセンターと略す)と協働して学際実験・実習の中に、「AI・データサイエンス実践プロジェクト」を新設するとともに、知能ロボット・プロジェクト、Imagineerプロジェクト福井の活動内容にも機械学習、AI、VR、AR、デジタル・コンテンツ制作などのICT技術を積極的に取り入れ、技法と活動内容を総合的にDX化することに取り組んだ。その一つの成果が上述のSteel Bridge Competitionチームの活躍である。本チームは、学際実験・実習(工学部共通科目)のImagineerプロジェクト福井の中でも活動を行い、他の活動グループとも切磋琢磨して、高度な活動に昇華させることに成功した。 さらに、具体的な成果にも示したように、各学科で教育にも浸透したプロジェクト型教育活動として、大きな進展が見られた。
実施計画 (プロジェクトの目的が達成できたかについて、実績を含めて記載)	今年度は、すべての活動を対面で実施し、実施計画に沿った教育活動が実施できた。コロナ禍の中で培ったICT技術も活用し、効率的な教育活動が実施でき、「教育の質向上への貢献」の項目で例示した能力獲得の自己評価に示されるように通常の座学では修得困難な各種の社会人基礎力を身につけたデジタル人材を育成することができた。また、外部の専門家による報告書「調査及び教育評価のためのコンサルティング・資料整理業務報告書」(2024.3 納品)においても、本プロジェクトの目的が十分に達成できていることが報告されている。
将来への発展性 (全学への波及効果はあったか/本学ならではの特色の創出につながったかを記載)	ICT/データサイエンス技術は、就職活動やビジネスの進め方も急速に変化させており、こうした技術を使いこなすことは社会人必須の能力となりつつある。これまでの高い実績を有する本学工学部独自の教育システムである「夢を形にする技術者育成プログラム」にICT/AI/データサイエンスを効果的に結合し、教育におけるDX化を推進することにより、福井大学が発信する教育イノベーションを牽引するプロジェクトとして発展できるプロジェクトである。 さまざまな取り組みについては、先端科学技術育成センターの広報紙「CIRCLE News」(http://www.circle.u-fukui.ac.jp/circle_back.html)にて継続的に情報を発信しており、具体例としても示したように各学科での専門教育の実施方法にも波及しつつ、質の高い教育を創出していく本学独自のユニークな教育を牽引する発展性に富んだプロジェクトであると考えている。

令和5年度「教育の質向上のための重点配分経費」実施報告書

プロジェクトの名称	様々な学問分野に向けたデータサイエンス・AI の実践教育基盤開発プロジェクト
プロジェクト代表責任者名 (所属部局)	樋口 健 (データ科学・AI 教育研究センター 教授) 工学部および工学研究科データサイエンス・AI 教育推進ワーキンググループ長
プロジェクトの目的、内容、 期待される成果 (必要に応じ実施体制を記載)	(目的) 政府の戦略目標に、Society 5.0 や AI といった用語が多く見受けられるように、現在、AI やデータサイエンスの知識を有し、この技術を活用して社会をより良くできる人材が強く求められている。AI やデータサイエンスは様々な学問分野と連携することで、各分野の発展や、よりよい社会実現に結びつく技術である。したがって、AI・データサイエンス技術を発展させるスペシャリストを育成する観点と、技術を活用し各分野を発展させるジェネラリストを育成する観点の双方が重要となる。それに対して、本学では文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度 (リテラシーレベル)」認定の教育プログラムを実施しており、AI・データサイエンス教育を開始している。また、工学部においては応用基礎レベルの申請を予定しており、より高度な AI・データサイエンス教育の実施を目指している。この認定プログラムの必須教育項目として、PBL 型の実践的な AI・データサイエンス実習があり、これに対応するための教育体制の確立が急務である。そこで本プロジェクトでは、AI・データサイエンス教育にスケーラビリティをもたせる実践教育基盤を開発する。すなわち、AI・データサイエンスの基礎知識を有し、ツールを用いて自身の課題を解決できるジェネラリストから、プログラムをカスタマイズし諸問題への応用展開や新手法の開発ができるスペシャリストまで幅広く人材育成が可能な実践教育基盤を構築し、福井大学ならではの特色のある教育システムを実現することを目指す。 (内容) 図1 上部に示すように、一般的なデータ分析プロセスでは、データ収集から、整形、分析、結果の検証が行われる。シラバスを調べた結果、本学の教育では、図1 のデータ分析のレベル1～2に相当する項目が中心であり、その他の部分である、 (1) データ収集や整形、結果の検証等に関するジェネラリスト教育 (2) 図1 のレベル3～4に相当するスペシャリスト教育 の2点が十全ではないと考えられる。 一般的なデータ分析プロセス 図1のフローチャートは、データ収集、データ整形、データ分析、結果の検証という4つのステップを示している。データ分析のステップはさらに4つのレベルに分かれている。レベル1は「ツールを用いた分析」で「済」のステータス。レベル2は「プログラムを用いた分析」で「済」のステータス。レベル3は「諸問題へのカスタマイズ」。レベル4は「新分析手法の開発」。 本プロジェクトによる貢献 学内ビッグデータ基盤 (アイコン: サーバーラック) 学内データ活用実践教育 (アイコン: 人々がモニターを見ている) 図1. データ分析実践技術者育成に向けた本プロジェクトの貢献 そこで、本プロジェクトでは図1 下部に示す「学内ビッグデータ基盤」の構築および「学内データ活用実践教育」の実施、また「プログラミング教育の充実」により、様々な分野の学生が AI・データサイエンスを学び、スケーラビリティのある実践教育を受

けられる教育基盤を開発する。データ科学・AI 教育研究センターと工学系部門とが連携し、情報・メディア工学講座の教員が関わる学部・大学院教育を土台として以下の内容で整備を進めるが、その成果は汎用性を有し、工学部・工学研究科全体、さらには全学への展開も可能なものである。

学内ビッグデータ基盤：現在、学内には様々なデータが点在しており、利活用されずに埋もれていることが多い。そこで本プロジェクトでは、学内のビッグデータを、データ分析用に一元管理する Data Warehouse (DWH) 基盤を構築する。非センシティブな情報の収集から開始し、将来的には学内の多方面の協力を得ながらより広い範囲のデータセットを登録することも視野に入れる。このとき、多様な分野の教職員・学生からもデータ収集が行えるよう、収集から整形までの手順がポータルサイト上で学習できるような学習教材を整備する。収集したデータセットは、学内で自由に活用できるものとする。ことで、異なる分野の研究者が興味を持って利用可能となり、共同研究への可能性が高まる。

学内データ活用実践教育：講義や実験科目、PBL 等で、上記にて収集したデータセットを用いた実践教育を展開する。例えば、構築するビッグデータ基盤に e-ポートフォリオの機能を持たせることにより、自分の学修履歴等を題材として学習成果の分析・可視化などに取り組み、データの活用能力を実践的に高めることが期待できる。また、学内データのみではなく、オープンデータや自治体・企業から提供されたデータを格納・学内提供することで、より多様な実践的教育が可能となる。もちろん、これらのデータには使用目的や公開範囲の制限などがあるが、これらを満たす管理を行う。一方、実際の社会における AI・データサイエンス技術の活用では、オンプレミスでデータ分析・活用を行う場合よりも、Amazon AWS や Google Cloud などのクラウド環境で行われることが多い。そのため、これらを便利に活用可能なツールも用意されており、これらのツールを使いこなすことは、企業における実務として重要である。しかし、これらのクラウド環境では、環境・ツールは既存の技術によって構築されていることから、より先端的な研究に適しているとは言えない。実際に、先端的な研究においては、オンプレミス環境での自由度の高い環境構築は必須であり、非工学系分野においては、その環境づくりがネックとなる。そこで、クラウド環境での実践教育とオンプレミス環境での実践教育の2本柱で AI・データサイエンス教育を行うことを目標とする。クラウド環境での実践教育においては、データ科学・AI 教育研究センターが Amazon AWS や Google Cloud の取りまとめ役として契約し、それらを講義・実験等で容易に使用できる環境づくりを行う。一方、オンプレミス環境での実践教育では、本プロジェクト管理の GPU 搭載 PC サーバを用いたデータ分析・機械学習などを行う。また、データサイエンス・AI 実践のための環境づくり自体も重要な学習項目であるため、多数の Raspberry Pi や NVIDIA Jetson を用い、学生自身が環境構築・利用をする PBL 型実践教育を行う。これらにより、授業形態・対象学生・学習目標等の様々な状況に対応した教育が可能な実践教育環境を整備し、基礎から教育が必要な工学部以外の学生から、情報工学コースや知能システム科学コースの学生のようにプログラミング能力が既にある学生までの様々な学生に対応した実践教育を可能にし、学内の AI・データサイエンス教育のスケラビリティを一層向上させる。

プログラミング教育の充実：上記の環境を使いこなすためには Python をはじめとしたプログラミング言語の使用が必須であり、プログラミング能力が求められる。しかし、カリキュラム上の問題から即座にプログラミング能力育成のための講義を開講できない場合もあることや、非情報系の学生においては、プログラミング能力自体に差が大きいことも想定される。そのため、学生が自主的にプログラミング能力を修得できる

体制を整備することが必要となる。そこで、e-learningによりプログラミングを学ぶことができる環境を整備する。e-learningを含めたプログラミング教育においては、教員等による成果物への採点や指摘は多大な教育効果があるが、多くの成果物を採点することは非常に多くの労力を必要とし、教員への負担が多い。そこで、初歩的なプログラムに対する自動採点システムを構築し、その活用により教育の質の向上を目指す。

以上より、スケーラビリティのあるAI・データサイエンスの実践教育基盤が構築できるだけでなく、学内のビッグデータ利活用や、共同研究の促進にも繋がる、まさに一石三鳥なプロジェクトである。

2021年度から開始した本プロジェクトにおいては、「学内ビッグデータ基盤」、「学内データ活用実践教育」としてGPU搭載計算サーバを2台導入し、データベース、機械学習用計算機環境の構築を行い、電気電子情報工学科・情報工学コースおよび知識社会基礎工学専攻情報工学コースの講義にて使用し、学習効果についての検証を行い、一定の成果を得た。2022年度はGPU搭載計算サーバを2台追加導入し、それらの環境構築ならびに、合計4台の計算サーバが同一環境で稼働可能なようにNASの導入等を行った。2023年度においては学内ビッグデータ基盤に格納するデータセットを充実化し、オンプレミス環境でのAI・データサイエンス教育を継続するとともに、クラウド環境によるAI・データサイエンス教育の実践のための環境づくりを行う。また、学生が自ら実践環境を構築して実習を行うPBL型実践教育も行う予定である。

一方、2021年度の別プロジェクトである「SDGsの実現に向けた革新的プログラミング教育」（代表：木村）において、クラウド型e-learningによるプログラミング教育の検証が行われ、その有効性が確かめられた。2022年度からは本プロジェクトの一部として、クラウド型e-learningによるプログラミング教育の検証を継続し、その効果を確認した。また、これらの学習成果を確認するためには大量の解答を自動採点するシステムが必要となるため、2022年度には自動採点に関する研究も開始しており、卒業研究としてまとめられている。AI・データサイエンス教育においてはプログラミング教育が必須であることはすでに述べているが、プログラミング教育が充実していない工学部以外の学部においては、プログラミング教育をe-learningで行い、その成果の確認に自動採点を用いることで、学生側の能力向上とともに教員側の負荷軽減を行うことにつながる。このことから、2023年度もクラウド型e-learningによるプログラミング教育および自動採点の研究を継続して行い、データ科学・AI教育研究センターを通して、共通教育科目や他学部での利用を進める予定である。

これらのAI・データサイエンス教育では、各学部・学科における教育カリキュラムや学生の知識、その分野におけるAI・データサイエンス教育の必要性や必要なレベルなどについて、様々な状況が存在する。これらを考慮して各学部・学科に合わせた調整をし、最終的に全学へのAI・データサイエンス教育への適用を目指す。

2023年度には、以下の担当割で情報・メディア工学講座教員を中心としたプロジェクトを遂行する。

- 学内ビッグデータ基盤の構築（樋口）
- 学内データの登録（東海・福間・長谷川）
- 遠隔プログラミング教育（木村・樋口）
- プログラム自動採点システム（福間）
- 福井大学キャンパス全方位画像収集（東海）
- 数理・データサイエンス・AI教育プログラム（樋口）
- データ活用教育
 - 機械学習（学部3年）：長谷川

	➤ 深層学習（博士前期課程1年）：長谷川 ➤ PBL I（博士前期課程）：長谷川 ➤ データベース（学部3年）：樋口 ➤ データサイエンス（学部4年）：森（眞） （期待される成果） 1)すでに構築した学内ビッグデータ基盤に、学内にある公開可能な先進的研究に関するデータ、学外のオープンデータ、学生自身が集めたデータなどを登録・活用することで、身近なデータから今まで扱えなかったような興味深いデータなどを扱えることで、学生のモチベーションと理解度の向上、AI・データサイエンス手法や研究自体に対する興味を高める。これにより就職活動や大学院進学の意欲を高める、 (2)オンプレミス環境での教育とともにクラウド環境での教育を行うことで、より実社会におけるデータ分析・活用の手法を理解し、学生が社会におけるより実践的な能力を身につけることができ、学生の研究活動・就職活動における自信につなげる、 (3)講義やプログラミング教育の遠隔授業・e-learning 対応により、文系学生や社会人も含めたデータサイエンス系科目の受講者を増やすことができる、 (4)手軽に多様なデータセットや高性能計算機を利用可能とすることで、“やる気・能力の高い” 学生の研究室配属前の実践的演習のサポートや、非情報系の研究室におけるAI・データサイエンス技術・手法の適用の促進により、AI・データサイエンス分野への理解力・技術力・実践力を育てる、 (5)上記のAI・データサイエンス教育を全学に展開し、AI・データサイエンス教育の拡充を行う、 などが挙げられる。
教育の質向上への貢献 （どのように貢献したか、具体的に記載）	本プロジェクトが提供する4台のGPU搭載PCサーバにより、GPUを使用した機械学習等の実践教育を複数の講義・演習・実習においてスムーズに行うことができた。これらのPCサーバ群では、ユーザ認証を福井大学統一認証に、ホームディレクトリをNASによる共通化することで、GPUの占有的に利用しやすくしている。また、GPUおよびメモリを高性能なものにリプレースし、来年度以降、より高度な実践教育が可能とした。 学内データに関しては、本年度の進捗はなかったが、データサイエンス実践教育を見据え、オープンデータを取得・格納するためのWebアプリケーションの開発を開始し、今後のデータ収集の負担軽減を目指している。 e-learningによるプログラミング教育については、対象学生の拡大を行い、複数の科目においても希望者にe-learningを提供し、その効果・成果をアンケートにおいて検証した。アンケート結果としては学生からは講評であり、対象科目とは関係しない別の講座も意欲的に受けるなど、非常に効果が高いことが分かった。また、実際の企業においては、クラウド環境でのデータ分析・機械学習が行われるため、クラウドサービスとしては世界規模であるAmazon Web Serviceの高等教育機関向け無償e-learningシステムであるAWS Academyに登録し、研究室学生に試験的に開講し、システムの利用方法等を検証中である。 多くの学生に実際の機器を用いたデータサイエンス実習を考えた場合、小型のシングルボードコンピュータを用意し、センサー等を用いて実際のデータ収集・解析を行うことが考えられる。そこで、様々なシングルボードコンピュータを購入・利用可能なようにセッティングを行い、来年度以降に貸し出しを行う予定である。今年度は試験的に卒業研究において使用し、成果を上げている。これらの機器を用いることで、小規模であるが様々な科目にてデータサイエンス実践教育可能となる。

プロジェクトの重要性 (その成果は教育改善等に寄与できたかを記載)	AI・データサイエンス教育においては、プログラミング教育と実践境域が不可欠である。プログラミング教育においては、工学部を除く学部においては、その演習環境（特に自習環境）を確保することが難しい。この点、e-learning を用いてプログラミング教育を行うことは、非常に有益であり、学生にとっても自分のペースで学習可能となるなど、有効な点が多い。また、本プロジェクトで利用している paiza e-learning は初心者から受講可能な内容であり、様々な状況の学生が受講可能となっている。本年度は共通教育科目にて、文京キャンパスの学生を対象にして受講を薦めており、徐々に浸透している状況である。一方、クラウドサービスの e-learning である AWS Academy に参加し、学生に試験的な受講をしてもらい、成果を確認中である。これらの e-learning を全学的に展開する準備を行っている。 また、もう一つの重要な教育は実際のデータを用いた実践教育であり、GPU 搭載 PC サーバを用いた機械学習、対象データベースの格納を行っており、全学への提供が可能な状態である。実際に複数の科目で利用が開始しており、教育の質の向上につながっている。 次に、実際にデータを自分で収集して実践教育を行う方法として、シングルボードコンピュータを複数種類購入し、講義等に貸し出しを行うための準備を行った。実際に卒業研究で利用したが、貸出用のパッケージングを行い、今後は広く複数の学科・科目で利用可能としている。これら複数種類の手法を各学部・学科・科目に合わせて利用することで、利用規模を拡大し、全学における AI・データサイエンス教育への寄与を高めるとともに、その研究分野への波及を行うことが可能と思われる。
プロジェクトの発展性 (継続のプロジェクトの場合に、従来からの発展性があったかを記載)	本プログラムの 2023 年度で活動においては、以下の点が挙げられる。 ・GPU 搭載 PC サーバのより多くの講義・プロジェクトでの利用 ・e-learning の提供科目の拡大 ・クラウドサービスの e-learning の開始 ・シングルボードコンピュータの拡充 これらにより、より多くの学生が学習可能となり、教育的利用から研究の導入段階での利用まで対応可能なハードウェアの拡充が行われた。ただし、本年度は来年度以降への貸し出しサービス等の開始に向けての準備期間であり、来年度以降に本格的な稼働を見込んでいる。特に、e-learning は全学規模に展開する予定である。
実施計画 (プロジェクトの目的が達成できたかについて、実績を含めて記載)	【学内ビッグデータ基盤】 研究データの提供・公開を行うことはできなかったが、オープンデータ収集用の Web アプリケーションの開発を進行中である。これを用いることで、e-stat や RESAS などからブラウザ上で必要なデータをローカルのデータベースに格納可能となり、気軽に必要なデータ項目を取捨選択できるように可能となる。また、オープンデータとしては複数のファイルに分かれているものを 1 つにまとめることも可能となり、より多くの利用が可能となる予定である。これは、学部卒研究生、博士前期改定学生の研究として取り込んでおり、完成後にはアプリケーションの提供、データの公開を予定している。 【GPU 搭載 PC サーバを用いた実践教育】 GPU 搭載 PC サーバを複数の科目で利用し、教育的成果を上げている。2023 年度は以下の講義・演習において利用されている。 (1) データサイエンス（森眞一郎担当） 4 名の学生が利用し、2 名は GPU 搭載 PC サーバを利用して並列計算に関する演習を行い、2 名は Raspberry Pi を利用したセンサーノードの試作を行った。これにより、CPU の性能限界と GPU の効果を修得、環境センサー、GPS を利用したバッテリー駆動の可動式センサーノードを使って、情報集約サーバに GIS データを送るまでの一連の

	流れを自分でセンサーノードを構築して体験した。受講学生からは、「簡単な呪文を唱えるだけで GPU が使えて、早くなった」、「自分でこんな物が作れるとは思わなかった。精度は悪いがカーナビができてビックリ」と好評であった。 (2) 計算機組織構成論 (森眞一郎担当) 4 人の学生が、「CPU の性能限界と GPU の効果、CPU の柔軟性と GPU の使いにくさも同時に修得」を目的に利用した。学生からは「簡単な呪文を唱えるだけで CPU も GPU も使えて、早くなった」と利用の成果の報告がされている。 (3) データベース (樋口健担当) 20 人の学生がオープンデータを格納したデータベースを利用し、同じデータセットに対し、格納用テーブルのスキーマが異なることによりどのような違いができるのかを実際に体験をした。 (4) 学際実験・実習 AI・データサイエンス実践プロジェクト 2 名の学生が GPU 搭載 PC サーバを利用し、冷蔵庫内の画像からレシピを提案するシステムを機械学習を用いて作成した。データセットの収集に苦労したが、作成したシステムは非常によくできたものであった。 (5) プロジェクトやその他講義での利用 (長谷川達人担当) AI × 宇宙技術教育プログラム「AI-STEP」において、学生が利用し、モデル構築を行っている。また、機械学習、深層学習の講義で利用可能な状態ではあったが、利用者はいない状況であった。 【e-learning によるプログラミング教育の充実】 paiza 学校フリーパスを利用し、いくつかの科目においてプログラミング言語等の e-learning を実施した。 (1) 研究室所属学生へのプログラミング教育 (木村欣司担当) 電気電子工学講座教員の研究室学生の希望者に対して、実施を行った。受講学生は 11 名であり、各自の授業・研究室活動の合間を利用して自習学習を行った。学生は自分の興味のある講座を受講しており、Python を選ぶ学生が多いなど、現在の状況に合わせた受講となっていた。学生へのアンケート結果からは、細かいステップで学習ができ、解説もあることによって非常に効率的に学習できていることが確認できた。 (2) データサイエンス・AI 入門 (玉井良則担当) 文京キャンパス共通教育科目である本科目において実施し、希望者 9 名が受講した。講義においては Python を用いているが、講義内の内容としては時間があまりとれていないため、補修的な目的での利用を行っている。受講者からはらり来年度受講学生に勧めるという意見が多く、また、わかりやすかったなどの意見もあった。来年度も継続して提供を予定している。 (3) データベース (樋口健担当) SQL の学習用に 48 名の学生が受講した。SQL 自体は講義内でかなりの時間を使っているため、他のプログラミング言語の学習に使っているケースが多かった。受講生からは実際に演習が可能でありためになったなどの好評な意見が多く、来年度の学生にも勧めるという意見が多かった。来年度も継続して提供を予定している。 (4) AWS Academy (樋口健担当) AWS Academy の基礎コースを研究室学生に受講してもらい、教師用システム等の確認を行った。教材は日本語化されているものもあり、本年度において成果を確認することはできなかったため、来年度に向けてさらに規模を拡大して検証を行う必要がある。 【実践教育用シングルボードコンピュータ】 来年度以降の実践教育用にシングルボードコンピュータの貸し出しを計画しており、
--	---

	そのための準備を行った。 提供可能機材は以下となっている。 ● Raspberry Pi IV (10 セット) ● Nvidia Jetson Nano (5 セット) ● M5Stack (5 セット) ● Arduino また、Raspberry Pi, M5Stack にはセンサー等の追加機器も用意した。一部については本年度の卒業研究で利用している。 (1) 卒業研究 (福岡慎治担当) 卒業研究において、Raspberry Pi, Arduino, Wi-SUN, Haskylens を使用し、ワイヤレス AI カメラセンサーを設計・製作を行った。その結果、広域ワイヤレス AI センサネットワーク (射程距離 2km) のフレームワークができ、教育効果が得られている。
将来への発展性 (全学への波及効果はあったか／本学ならではの特色の創出につながったかを記載)	2023 年度においては、全学の波及と言えないが、e-learning においては共通教育科目での利用が開始され、2024 年度は医学部、国際地域学部における Python 学習で利用することが決まっている。また、2023 年度の各種機器の導入により、シングルボードコンピュータを用いた実践教育が可能となる。ただし、使用データセットがまだまだ少なく、オープンデータの活用など、この点における拡充が必要であり、そのためのアプリケーション開発が進められている。一方、GPU 搭載 PC サーバの利用は継続的に行われており、教育利用していない時間の研究利用も活発に行われていた。これらの全学部展開をデータ科学・AI 教育研究センターを中心に行い、多くの講義等で利用されることでデータサイエンス・AI 教育の拡充につながるものと思われる。そのための環境づくりと、利便性の改善を続けていく予定である。これらにより、本プロジェクトによって、質の高い AI・データサイエンス教育のみならず、研究における AI・データサイエンス利用のきっかけとなり得る。

令和5年度「教育の質向上のための重点配分経費」実施報告書

プロジェクトの名称	【福大版教学 I R 推進プロジェクト 2023】 ～ 5 つのアプローチで福大版教学 I R を推進する ～
プロジェクト代表責任者名 (所属部局)	江端 弘樹 (高等教育推進センター)
プロジェクトの目的, 内容, 期待される成果 (必要に応じ実施体制を記載)	【目 的】 根拠に裏付けされた教育改革を進めるにあたり、教学データの組織的な収集・分析、つまり全学的な「教学 I R 活動」は不可欠な活動である。しかしながら、本学における組織的な教学 I R 活動は始まったばかりである。教学 I R 活動は、日常的な教学面での取り組みの振り返り活動・評価そのものであり、近年の高等教育機関が強く求められている「教育の内部質保証」の中核をなすものである。 本プロジェクトは、令和 4 年度 重点配分経費「福大版教学 I R 推進プロジェクト」における活動ならびに令和 3 年度「教職協働に関する提言書」を礎とし、将来の福大版教学 I R 活動の柱となりうる 5 つのアプローチを模索・推進することで、第 4 期中期計画やその関連施策の必達に向けて全学的な教学 I R 体制を整備するとともに、本学が提供する教育サービスの課題を顕在化することを目的とする。
	【実施体制】 高等教育推進センターが主体となり、学内の幅広い組織と連携して取り組んだ。 ・連携部局 : 教育学部、医学部、工学部、国際地域学部 ・連携チーム : 総合戦略室 教学 I R 推進プロジェクトチーム ・連携事務局 : 教務課、学生サービス課、国際課、入試課、キャリア支援課、松岡キャンパス学務課
	【内 容】 1. 学士課程教育の質的向上に向けた大学間連携アプローチ 2. データ加工ツール導入による可視化アプローチ 3. パネル調査導入による教学の質向上アプローチ 4. 科目の質的高度化に応える教学 I R アプローチ 5. ステークホルダーとの教学 I R データ共有アプローチ
	【期待される成果】 ・大学間連携によって教学面における本学の位置が把握できる。 ・教学 I R マインドの醸成につながる「教学 I R の学内ネットワーク」が構築される。 ・BI ツール導入により教学 I R データの分析作業が効率化し、教学 I R データに関わる教職員の意識改革が進む。 ・本学が開講する科目の形成的評価の実態が明らかとなる。 ・学生へ各種調査結果の公開を進めることで、自身の回答が教育改善活動の一環であるとの意識定着が進む。また、様々な学内調査に対する回答の信頼性が高まる。 ・様々なレベルで教学 I R 活動を進めることで教職協働活動が推進する。

教育の質向上への貢献 (どのように貢献したか、具体的に記載)	本プロジェクトは、以下の点で本学の教育の質向上に貢献した。 ○教育を改善し、質の高い「学び」を提供しつづけるためには、提供した学びの内容を振り返り、効果を検証することが欠かせない。これに直結する学修成果や教育成果・過程の可視化に資するデータを提供可能とする礎を構築した。 ○福大版教学 IR 活動が推進されることで、学事データや学生の学修活動、大学の教育活動、入試、キャリア等に係る活動データ等の組織的な収集・分析が進展する。大学の施策立案・検証および継続的なPDCA 活動を確立・維持するために必要な根拠に基づいた政策判断(EBPM:Evidence-based policy making)への意識醸成を促した。 ○「学生評価」の実態を明らかになることで、科目の質向上活動の一環である教育活動への「振り返り」意識を教員に促した。																																																																																																																																																																																																										
プロジェクトの重要性 (その成果は教育改善等に寄与できたかを記載)	○プロジェクト終了後の成果 福大版教学IRにより、学事関連データ、学生の学修活動、大学の教育活動、入試、キャリアに係るデータ等が組織的に収集、分析、可視化されることで、全学ならびに各部局の執行部が計画立案や意思決定および施策評価に資するデータとして活用できるようになる。 ○教育改善への貢献内容 教学IR 環境を整備することで、高等教育機関への社会の要請である「教育の内部質保証を核とした教育改善」活動が推進される。 ○他プロジェクトへの貢献 本プロジェクトの一部は、令和5 年度ミッション実現戦略経費「教学 IR に基づく教育の質の向上一社会的ニーズに応えられる人材の輩出を目指して」へも貢献している。																																																																																																																																																																																																										
プロジェクトの発展性 (継続のプロジェクトの場合に、従来からの発展性があつたかを記載)	令和5 年度には「福大版教学 IR 推進プロジェクト 2023」として、主に次の5 点、大学間連携アプローチ、BI ツールによる教学 IR データの可視化アプローチ、パネル調査導入アプローチ、科目の質的高度化アプローチ、ステークホルダーとの IR 情報共有アプローチについて取り組んだ。 これら全ては、令和4年度の取り組みを発展させた内容となっている。																																																																																																																																																																																																										
実施計画 (プロジェクトの目的が達成できたかについて、実績を含め記載)	【実施工程】 大きく5 つのアプローチ(「学士課程教育の質的向上に向けた大学間連携」、「BI ツールによる教学 IR データの可視化」、「パネル調査導入による教学の質向上」、「科目の質的高度化に応える教学 IR」、「ステークホルダーとの教学 IR データ共有」)で、次の工程のもと教職協働体制で福大版教学 IR 活動の推進に向けて取り組んだ。 <table><tr><th colspan="2" rowspan="2">項 目</th><th colspan="12">令和5年</th><th colspan="3">令和6年</th></tr><tr><th>4月</th><th>5</th><th>6</th><th>7</th><th>8</th><th>9</th><th>10</th><th>11</th><th>12</th><th>1</th><th>2</th><th>3</th></tr><tr><td rowspan="4">●大学間連携</td><td>大学IRコンソーシアム 加盟更新</td><td></td><td></td><td>◆</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>調査準備(在学生調査)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>調査実施(1,3年生向け在学生調査)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>データ提出(コンソーシアムへ)</td><td></td><td></td><td>◆</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>◆</td></tr><tr><td>●BIツールによる教学IRデータの可視化</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="2">●パネル調査導入</td><td>在学生調査の設問見直し</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>新設調査の企画・設計</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="2">●科目の質的高度化</td><td>調査実施(教員向け)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>集計・分析</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="3">●ステークホルダーとのIR情報共有</td><td>学生へのヒアリング</td><td></td><td></td><td>◆</td><td></td><td></td><td></td><td>◆</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>ポスターシリーズ制作</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>ポスター発行・掲示</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 【実 績】 1. 学士課程教育の質的向上に向けた大学間連携アプローチ	項 目		令和5年												令和6年			4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	●大学間連携	大学IRコンソーシアム 加盟更新			◆											調査準備(在学生調査)														調査実施(1,3年生向け在学生調査)														データ提出(コンソーシアムへ)			◆										◆	●BIツールによる教学IRデータの可視化															●パネル調査導入	在学生調査の設問見直し														新設調査の企画・設計														●科目の質的高度化	調査実施(教員向け)														集計・分析														●ステークホルダーとのIR情報共有	学生へのヒアリング			◆				◆							ポスターシリーズ制作														ポスター発行・掲示													
項 目				令和5年												令和6年																																																																																																																																																																																											
		4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3																																																																																																																																																																																														
●大学間連携	大学IRコンソーシアム 加盟更新			◆																																																																																																																																																																																																							
	調査準備(在学生調査)																																																																																																																																																																																																										
	調査実施(1,3年生向け在学生調査)																																																																																																																																																																																																										
	データ提出(コンソーシアムへ)			◆										◆																																																																																																																																																																																													
●BIツールによる教学IRデータの可視化																																																																																																																																																																																																											
●パネル調査導入	在学生調査の設問見直し																																																																																																																																																																																																										
	新設調査の企画・設計																																																																																																																																																																																																										
●科目の質的高度化	調査実施(教員向け)																																																																																																																																																																																																										
	集計・分析																																																																																																																																																																																																										
●ステークホルダーとのIR情報共有	学生へのヒアリング			◆				◆																																																																																																																																																																																																			
	ポスターシリーズ制作																																																																																																																																																																																																										
	ポスター発行・掲示																																																																																																																																																																																																										

	学生調査の結果を学士課程教育の質的向上に結びつけるための全国的な IR コミュニティである「大学 IR コンソーシアム」に、令和 4 年度に引き続き加盟した。同団体開発の学生アンケートをベースに「在学生調査」を本学独自に設計し、令和 5 年 12 月に本学の全学部 1, 3 年生全員を対象として実施した【別添資料 ①-③】。また、同コンソーシアムを通して、他学との IR 面での連携を高めた。大学 IR コンソーシアムとの共通設問においては、他学と回答傾向の比較を行った【別添資料 ④】。 IR・大学評価系の団体「大学評価コンソーシアム」に積極的に参加し、団体運営に関わるとともに演者となり本学のプレゼンス拡大に努めた【別添資料 ⑤】。 <u>2. BI ツールによる教学 IR データの可視化アプローチ</u> 持続可能な形で教学 IR 活動の定着を図る上で、高度な専門知識を必要としない「データの見える化」を可能とする ICT の環境整備は大きなポイントである。本学教学 IR データとの親和性、操作性、拡張性や経済性などの観点から Tableau Desktop と Exploratory を令和 4 年度に選定した。今年度は、教学データを順次集約し、これらツールによる分析を行った【別添資料 ⑥-⑧】。 <u>3. パネル調査導入による教学の質向上アプローチ</u> 学生の思考変化の把握や学生自身が成長実感のために、本学調査に「パネル調査」の考え方を導入した。すでに実施の「在学生調査」とともにパネル調査の一翼を担う調査として、また大学入学時の基礎データとして「入学時調査」を設計し、令和 6 年 4 月実施に向けて準備を進めた【別添資料 ⑨】。 <u>4. 科目の質的高度化に応える教学 IR アプローチ</u> 本学が開講する科目の質的向上を目的とし、「学生をどのように評価し、その成果をどの程度フィードバックしているか」を把握するための基礎的調査として、1 コマ以上を担当する全教員を対象にした学内調査を、文京キャンパスの教員を対象に令和 5 年 5 月に実施した。これにより、本学開講科目の質的高度化の基礎データが得られた。調査対象教員の 71.6%(268 人中 192 人)から回答が得られた。また、開講コマでは、65.1%(17,945 コマ中 11,677 コマ)をカバーした。調査対象とした間接評価項目別、共通・専門科目別の集計は別添資料 ⑩の通りである。 <u>5. ステークホルダーとの教学 IR データ共有アプローチ</u> 調査の結果に基づいて学生へのヒアリングを実施した。 また、教学 IR に関する幅広い取り組みで得られた集計・分析結果を、学内(学生および教職員)に広くフィードバックするためのポスターシリーズ「数字でみる福井大学のいま」を、計 2 号(vol.2,3)を発行し、企画、取材から分析、制作、掲示までを一貫して担った【別添資料 ⑪,⑫】。また、新入生特別号としての vol.4 を企画し、入学式でのリリースに備えた【別添資料 ⑬】。加えて、学内でのポスターシリーズの認知度向上を図るため、ポップを製作し、学生の活動圏に広く配置した【別添資料 ⑭】。
将来への発展性 (全学への波及効果はあったか/本学ならではの特色の創出につながったかを記載)	【教職協働推進への貢献】 本プロジェクトは、令和 3 年度 教職協働推進プロジェクトチームによる「教職協働に関する提言書」に「特に推進すべき業務範囲」として取り上げられた「IR 業務」の推進につながる。また、教職協働で進める本プロジェクトは、第 4 期中期目標・中期計画「Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する事項」(11)で目標に掲げる「教職協働によるプロジェクト件数 10 件以上」に貢献する。

	【全学への波及効果：PDCA・点検評価への貢献】 大学の施策立案・検証や継続的なPDCA活動を確立・維持するために、根拠に基づいた政策判断および効果検証が求められており、この整備は急務である。本プロジェクトや付随する活動により福大版教学IRを推進させることが本学のEBPM(Evidence Based Policy Making:根拠に基づいた政策立案)環境の整備につながる。 また、第4期中期目標・中期計画「I-2 教育」(2)においては教育内部質保証関連組織への客観データ提供で、「IV 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する事項」(14)においては決裁組織への客観データ提供を通して貢献できる。 【ミッション実現戦略プロジェクトへの貢献】 社会的なインパクトを創出する取り組みに対して国から交付される「ミッション実現戦略分経費」は、第4期の国立大学法人運営費交付金の大きな柱を担っている。本学で立ち上がっているミッション実現戦略プロジェクトの内、テーマ「教学IRに基づく教育の質の向上」に貢献する。
--	--

2023年度 在学生調査 実施状況

2024/3/27 集計分

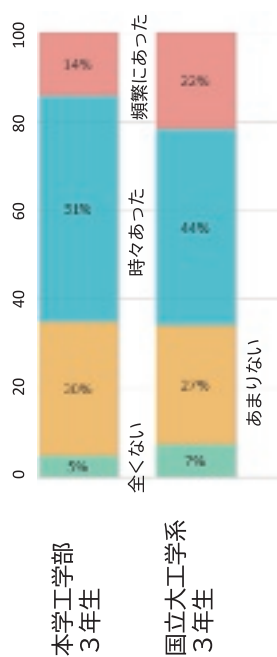
2023年度「在学生調査」実施状況

	1年生			3年生		
	調査対象数	提出計	回収率	調査対象数	提出計	回収率
学校教育課程						
初等教育コース	108	102	94.4%	106	85	80.2%
中等教育コース	64			61		
	44			45		
医学科						
看護学科	112	106	94.6%	110	88	80.0%
機械・システム工学科	64	61	95.3%	61	60	98.4%
	164	138	84.1%	174	152	87.4%
機械工学科	74			84		
ロボティクスコース	63			64		
原子力安全工学科	27			26		
電気電子情報工学科	123	116	94.3%	144	137	95.1%
電子特性工学科				16		
電気通信システム工学科				48		
情報工学科				80		
建築・都市環境工学科	62	61	98.4%	70	67	95.7%
建築学コース				44		
都市環境工学科				26		
物質・生命化学科	127	123	96.9%	131	113	86.3%
繊維・機能性材料工学科				55		
物質化学コース				34		
バイオ・応用医工学科				42		
応用物理学科	61	57	93.4%	48	42	87.5%
国際地域学科	64	63	98.4%	49	48	98.0%
グローバルアプローチ				4		
地域創生アプローチ				45		
計	885	827	93.4%	893	792	88.7%
全体				1778	1619	91.1%

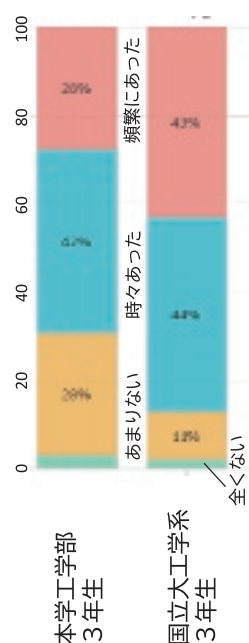
2022年度 在学生調査 実施結果

～ 他学との比較例 ～

■ 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ機会



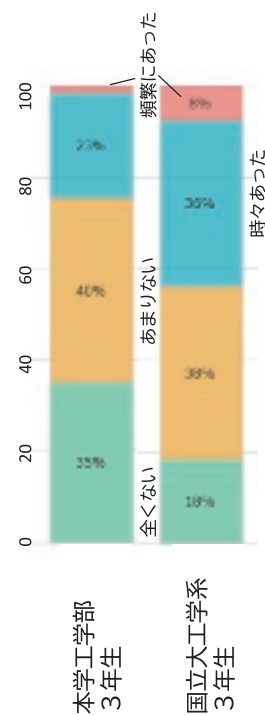
■ 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ



■ 授業中に教員の考え方や意見に異議を唱えた



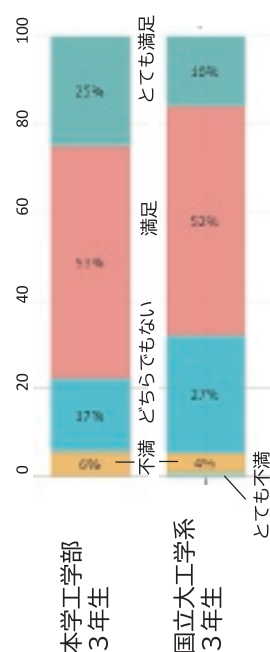
■ 教員に親近感を感じた



■ リーダーシップの能力(入学時に比べて)

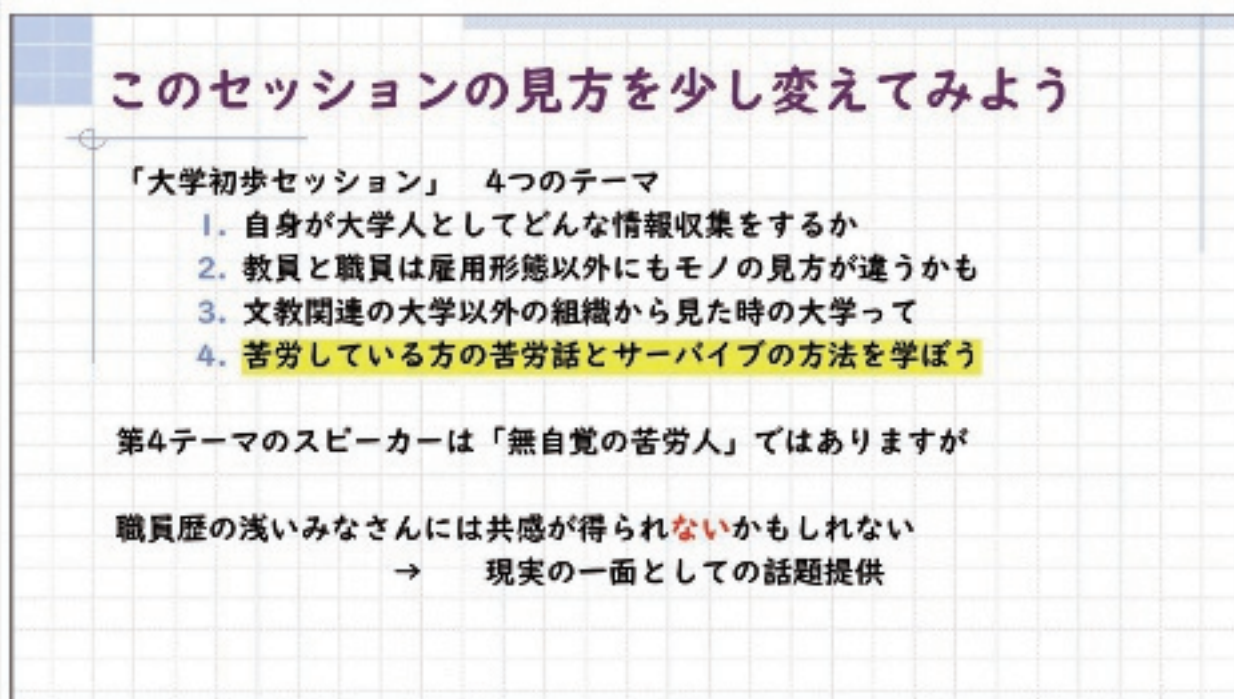
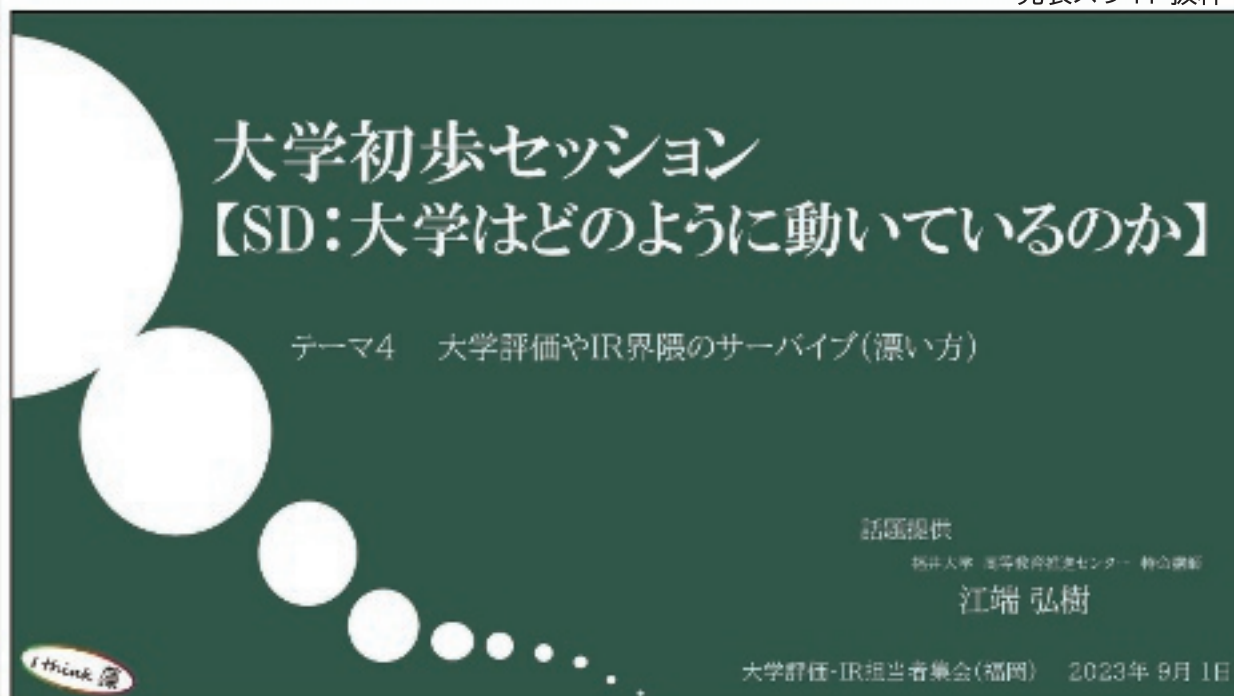


■ 大学での経験全般



大学評価・IR担当者集会(福岡)発表 (2023年 9月 1日)

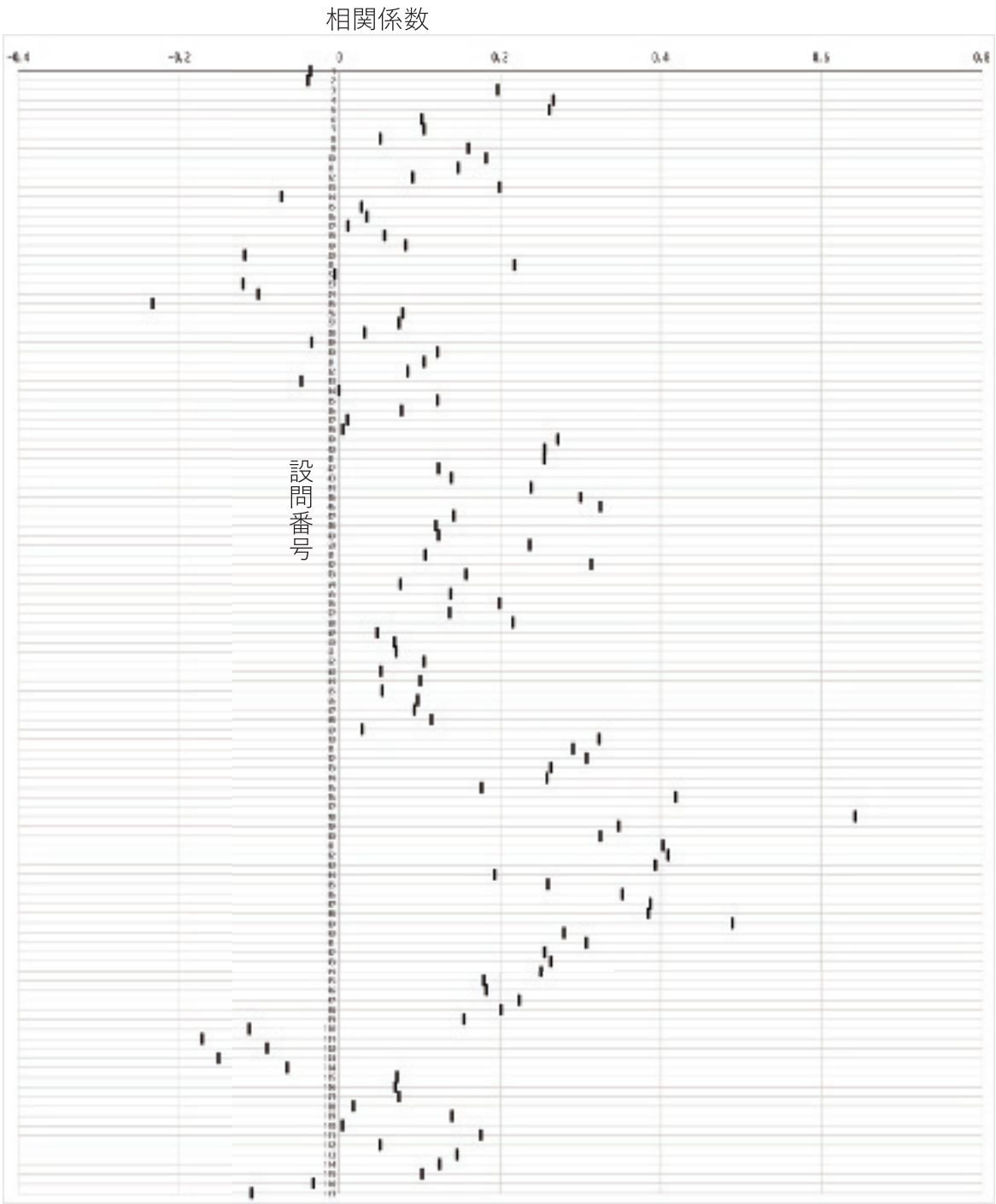
発表スライド抜粋



以降、省略

2023年度 在学生調査 分析結果

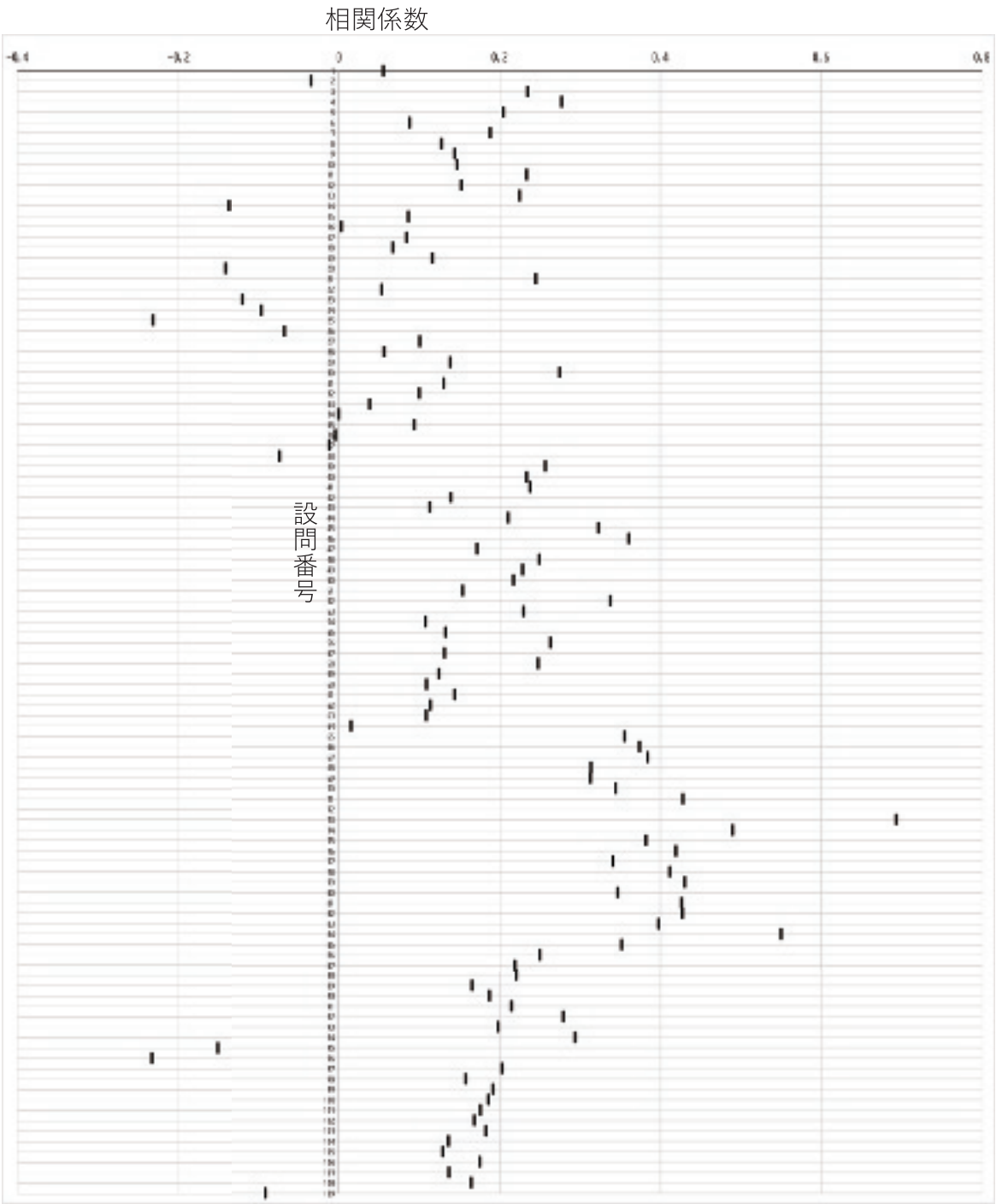
例：「総合満足度」と各設問の相関係数(1年生調査)



相関係数の絶対値	解 釈
0.0～0.2	ほとんど相関関係なし
0.2～0.4	やや相関関係がある
0.4～0.7	かなり相関関係がある

2023年度 在学生調査 分析結果

例：「総合満足度」と各設問の相関係数(3年生調査)



相関係数の絶対値	解 釈
0.0～0.2	ほとんど相関関係なし
0.2～0.4	やや相関関係がある
0.4～0.7	かなり相関関係がある

【別添 ⑧】

2023年度 在学生調査 分析結果

例：「総合満足度」と各設問の相関係数まとめ(3年生調査)

設 問	相関係数
学生生活は充実している	0.6933
専門教育あるいは所属学科の授業	0.4897
教員と話をする機会	0.4304
他の学生との友情を深める	0.4283
大学のなかでの学生同士の一体感	0.4275
他の学生と話をする機会	0.4263
授業の全体的な質	0.4193
将来の仕事と授業内容の結びつき	0.4120
多様な考え方を認め合う雰囲気	0.3983
効果的に学習する技能を修得する	0.3838
2年次生または3年次生を対象とした演習の教育内容	0.3826
大学教員の学問的な期待を理解する	0.3742
他の人と協力して物事を遂行する能力	0.3606
大学の学生向けサービスを上手に利用する	0.3561
1つの授業を履修する学生数	0.3523
学習支援や個別の学習指導	0.3465
大学教員と顔見知りになる	0.3444
日常生活と授業内容との関連	0.3406
コミュニケーションの能力	0.3370
人間関係を構築する能力	0.3225
大学が求める水準に応じて学習する	0.3134
時間を効果的に使う	0.3127

相関係数0.3以下の設問は省略

	授業に関すること
	同世代との交流に関すること
	教員との交流に関すること
	自身の能力に関すること

相関係数の絶対値	解 釈
0.0～0.2	ほとんど相関関係なし
0.2～0.4	やや相関関係がある
0.4～0.7	かなり相関関係がある

パネル調査導入例「2024年度 全学入学時調査」

2024年度 全学入学時調査

ご入学おめでとうございます。本学では教育の質向上に力を入れています。この一環として、教育や大学生活などに関する調査を入学時に実施しています。皆さんの声を大学の改善に活かす事が目的で、今後の成績等にも影響しません。調査結果は各学部から独立した高等教育推進センターが厳重に管理し、本学の教育の質向上活動にのみ利用します。その際も、個人が特定できる形での公開や二次利用はいたしません。

以下の期間に正直にお答えいただき、必ず提出してください。

2024年 4月 福井大学 理事(教育、評価担当)・副学長 安田 年博
高等教育推進センター 教学IR部門長 江端 弘樹

所属(学部)

教育・国際・医学・看護
機械・電気・建築・物質・応用

学籍番号 氏名

1 本学への入学について教えてください。 (学生証がない場合は空欄)

No.	質問
1	志望校として本学を選んだ理由は何ですか？ (近いものに○を、いくつでも)
	1. 教育理念や教育目的に惹かれた 2. 教員の教育力が高い 22. 家族・友人・知人の出身校だ
	2. カリキュラム(教育課程)に惹かれた 13. 教員の研究力が高い 23. 資格が取得できる
	3. 複数の学部がある総合大学だ 14. 家族に勧められた 24. 学習環境が整っている
	4. 国立大学だ 15. 友人・先輩・知人に勧められた 25. 自分の価値観にふさわしい
	5. 大学のイメージが良い 16. 高校・予備校で勧められた 26. 入試科目が自分に合っていた
	6. 校風や雰囲気が良い 17. オープンキャンパス等で気に入った 27. 将来、福井県内で働きたい
	7. 興味のある学問分野がある 18. 高校生向けイベント(公開講座、福井プレレジャ、出願授業など)で気に入った 28. 福井県に魅力がある
	8. 先達の学問を学べる 19. ウェブサイト・大学案内で気に入った 29. 福井県に住める・自宅から通える
	9. 将来性の高い分野を学べる 20. 本学出身の教師に習った 30. 習いたい教員がいる
	10. 目指す職に直結している 21. 本学出身の医師を奨励していた
	11. 卒業生の就職実績が良い

2 あなた自身について教えてください。 あてはまる評価にチェックをつけてください(以下同じ)。

No.	質問	評価			
		思う	やや思う	やや思わない	思わない
1	本学への入学に満足だ	☐	☐	☐	☐
2	英語の能力がある	☐	☐	☐	☐
3	授業の重要なポイントをノートにまとめるのが得意だ	☐	☐	☐	☐
4	重要な事項を暗記するのが得意だ	☐	☐	☐	☐
5	自分の意見を論議を立てて主張できる	☐	☐	☐	☐
6	ものごとの問題点を発見するのが得意だ	☐	☐	☐	☐
7	課題・問題点を解決するのが得意だ	☐	☐	☐	☐
8	パソコンを使って文書や資料を作成することができる	☐	☐	☐	☐
9	自分の意見と客観事実を分けて考えることができる	☐	☐	☐	☐
10	ものごとに対して粘り強く取り組める	☐	☐	☐	☐
11	定められた形式に従ってレポートを作成できる	☐	☐	☐	☐
12	リーダーシップが取れる	☐	☐	☐	☐
13	グループで何かを成し遂げるのが得意だ	☐	☐	☐	☐

裏面に続く

【別添 ⑩】

学生評価状況調査：（令和 5年 5月22日）

総開講コマ数			全体 17,945	共通	専門
回答コマ数			11,677	2,207	9,470
記述式テスト	実施回数		11.3%		10.1%
	結果返却		52.6%		55.5%
	問題解説		64.6%		65.3%
多肢選択式テスト	実施回数		4.9%		3.8%
	結果返却		55.3%		53.2%
	問題解説		79.4%		85.4%
口頭試問	実施回数		2.3%		2.3%
	結果返却		71.1%		75.0%
	問題解説		91.5%		89.4%
予習課題	実施回数		17.3%		17.7%
	結果返却		52.1%		49.0%
	問題解説		80.9%		82.9%
復習課題	実施回数		31.6%		30.3%
	結果返却		45.4%		46.8%
	問題解説		76.7%		78.8%
レポート提出	実施回数		27.3%		28.2%
	結果返却		50.6%		52.4%
	問題解説		63.3%		65.4%
プレゼンテーション	教員による	実施回数			
		結果返却			
		問題解説			
	学生自身による （自己評価）	実施回数			
		結果返却			
		問題解説			
	学生相互による （ピア評価）	実施回数			
		結果返却			
		問題解説			
観察記録	教員による	実施回数			
		結果返却			
		問題解説			
	学生自身による （自己評価）	実施回数			
		結果返却			
		問題解説			
	学生相互による （ピア評価）	実施回数			
		結果返却			
		問題解説			

ポスターシリーズ「数字でみる福井大学のいま」 vol.2 (令和 5年 7月)



ポスターシリーズ「数字でみる福井大学のいま」 vol.3 (令和 5年11月)

数字でみる 福井大学のいま

vol.3 (2023年11月)

〔発行元〕高等教育推進センター教学IR部門

第3号では、昨年12月に実施した「在学生調査」を紹介するよ。
福井大学では学生アンケートの結果を様々な改善活動につなげています。毎年1、3年生全員に実施している「在学生調査」では、大学生活への自己評価や学習意欲などを把握することで皆さんの大学生活をより素晴らしいものにすることが目的です。

○ 福井大学での学生生活に満足している

1年 & 3年



学生の3/4は満足しているけど、もっと多くの人が満足するようにしたい。そのためにも調査を通して色んなことを教えて欲しい。

○ 授業がつまらない

1 & 3

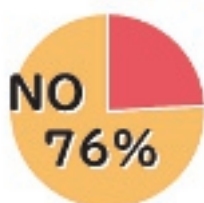


授業はLIVE!! みんなもLIVEの参加者だよ先生と一緒に盛り上げていこう!!



○ 教員に親近感を感じている

1 & 3



○ 専門分野の知識が増えた

1

YES 86%

3

YES 90%

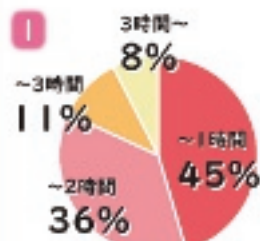
大きく増えた 変化なし 減った 大きく減った

すごいすごいやったね!

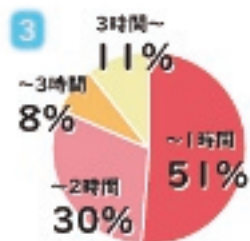


○ 授業以外の勉強時間(一日あたり)

1



3



1、2時間の勉強で予習・復習は大丈夫なの? 知識の定着には毎日の自学自習が欠かせないよ。

勉強と部活やバイトを両立させよう

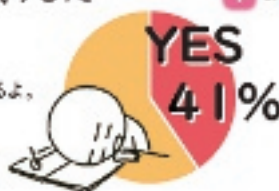


○ 授業中に居眠りした

1 & 3

睡眠不足が日中の眠気につながってるよ。

生活リズムを整えよう



○ アンケート提出率

1 & 3

81%

回答してくれたみんな ありがとう!! 他の調査より、はるかに高い提出率

でも

より良い改革のためには、全員の声が必要です。

目標は100%!!

「在学生調査」は今年もあるよ!! (十一月)



皆さんの回答を可能な限り今後の大学運営に反映していきます。「在学生調査」の結果公開も予定しています。

この壁新聞へのご意見、ご感想は
高等教育推進センター教学IR部門(ir-adm@ml.u-fukui.ac.jp)まで

ポスターシリーズ「数字でみる福井大学のいま」 vol.4 (令和 6年 4月予定)

数字でみる “新入生”

ご入学おめでとうございます。

福井大学にまつわる数字を紹介するシリーズ『数字でみる福井大学のいま』は、高等教育推進センター 教務IR部門が担当しています。今回は、新入生特別号として1年生のデータを紹介します。本学では学生アンケートの結果を様々な改善活動につなげています。

vol.4 (2024年4月)

(発行元) 高等教育推進センター教務IR部門



～ 数字でみる福井大学のいま 新入生特別号 ～

この春の新入生を数字で見よう

○ 2024年度 学部・学科別 (入学希望者数854人)

教育学部	医学部	工学部	経済学部
教育学	医学	工学	経済
103	110	63	159
			129
			139
			55
			61

(横文字2文字で学科名を表記しています)

○ 出身府県別

2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024(年度)
福井	福井	福井	福井	福井	福井	福井 334 (人)
愛知	愛知	愛知	愛知	愛知	愛知	愛知 167
石川	石川	石川	石川	石川	石川	石川 82
岐阜	岐阜	岐阜	石川	岐阜	岐阜	岐阜 69
滋賀	京都	三重	三重	京都	京都	京都 41
大阪	大阪	京都	京都	三重	大阪	大阪 28
京都	三重	大阪	富山	兵庫	三重	富山 23
三重	静岡	富山	大阪	滋賀	静岡	静岡 15
	兵庫			滋賀	富山	滋賀 14
					三重	三重 14

○ 福井県出身者



○ 男女比

(年度)	男	女
2024	65.6%	34.4%
2023	67.5%	32.5%
2022	67.3%	32.7%
2021	68.0%	32.0%
国公立大学平均 (2023)	50.9%	49.1%

○ 一年たったら・・・

(「入学1年後調査」から)

- ✓ **総合評価**
 - 大学生活に満足している 80.9%
- ✓ **通学 / 住まい**
 - 片道30分未満で大学に着く 71.3%
 - 自宅(や親戚の家)に住んでいる 38.4%
- ✓ **学びへの自己評価**
 - 一般的な教養が増えた 65.1%
 - コミュニケーション能力が増した 49.9%
 - 大学の授業以外の勉強時間 週8.3時間
- ✓ **1年生の授業であったこと**
 - 定期的な小テストやレポート 96.6%
 - 文献や資料からの調べもの 81.1%
 - 学生同士で議論する場面 66.2%
 - 課題を遅れて提出した 43.7%
- ✓ **学生生活**
 - サークルに参加した 71.0%
 - 学外でアルバイトをした 78.4%

毎回テーマを変えて定期的に発行する『数字でみる福井大学のいま』は学内各所の掲示板上に登場するよ。掲示板上には他にも重要な通知が貼られるので常に注目しよう!!



※ 新入生データは2024年4月1日現在
※ 「入学1年後調査」は本年1年生を対象とした「入学1年後調査」(2024年1月実施、回答率93.4%)の結果です

この紙製版へのご意見、ご感想は
高等教育推進センター教務IR部門 (ir-odn@mlu-fukui.ac.jp) まで

ポスターシリーズ「数字でみる福井大学のいま」の掲示状況



- 文京C(学生支援センター1F,2F、文京C生協食堂、総合図書館、本部棟、全校舎入口、各学部・学科事務室前、課外活動共用棟、運動場、体育館ほか)
- 松岡C、敦賀C、小浜サイト内の各所

【別添 ⑮】

ポスターシリーズ「数字でみる福井大学のいま」の周知を図る取り組み
学内各所に手作りポップを配置



左上から順に 文京C生協前、証明書自動発行機
文京C書店前、教務課・学生サービス課カウンター

各学部のFDの取り組み

2023 年度教育学部及び連合教職開発研究科におけるFD活動

教育学部及び連合教職開発研究科FDとして、大きく3つの取組を行った。第1は、「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びの姿の実現に向けた研修改革についてである。第2は、学生総合相談室の活用を踏まえた学生支援についてである。第3は、STEAM教育に関する取組の共有と学び合いについてである。

1. 「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びの姿の実現に向けて

福井大学連合教職大学院・総合教職開発本部においては、教職大学院設置以来、年間通して毎週2時間のFD（Faculty Development）を組織してきた。2023年度は、その一部の時間について、参加枠を拡大し、公開研修シリーズとして構成し、「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びの姿の実現に向けて、さまざまな立場や地域を越えて共に考えることとした。

それにより、教育学部及び連合教職開発研究科FD委員会・福井大学総合教職開発本部SDとしては、新たな教師の学びを担う大学としての使命と教職協働の可能性を掴みなおすことが期待された。また、福井県教育委員会や教職員支援機構（NITS）をはじめとする全国の研修ネットワークとの協働により、新たな教師の学びを生涯にわたって支える方策を共に探ることができ、さらに教職大学院協会との協働により、新たな教師の学びを支える教師教育協働ネットワークをさらに発展させていくことができると考えた。

企画の趣旨は、次の通りである。令和4年12月、中央教育審議会から、『「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～（答申）（令和4年12月19日）』が示された。令和3年答申において、「令和の日本型学校教育」は、「すべての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学び」と定義されてきた。これを担う教師には、変化を前向きに受け止めて生涯にわたり学び続け、子ども一人一人の学びを最大限に引き出し、主体的な学びを支援する伴走者としての役割を担っていくことが求められる。また教職員集団には、こうした資質・能力を向上させていきながら、チームとして学校をマネジメントしていくことが求められる。新たな答申でもこれらが改めて確認され、教師の養成、免許、採用、研修に関する制度改革の方向性が提起されている。その基軸となっているのは、子どもと教師の学習観の転換を踏まえた「新たな教師の学びの姿」であり、教職員集団の専門性と多様性を向上させ学校組織のレジリエンスを高めていくマネジメントである。これらを実現していくには、目先の制度の変更に目を向けるだけでなく、その背景や根幹に目を向け、課題を共有しながら解決に向けて多様な組織が協働していくことが必要となる。これからの教育を担う教師にはどのような資質能力が求められるのか。多様な専門性を有する質の高い教職員集団を形成していくために何が求められるのか。こうした問いについて、それぞれの組織で、それぞれの立場や役割の中で、これまでの状況と展開をどのようにつかみ、どのように応えていくことができるのか、公開研修シリーズを通して参加者と共に深めていきたい。

日程と内容は、次の通りである。いずれも zoom によるオンライン形式で行い、毎回、話題提供もしくは資料の検討を行ったあとに、小グループに分かれたグループ協議を行った。

回	日時	内容
1	4月25日(火) 17:00～18:00	新たな教師の学びの姿を探る： 中央教育審議会の提案を通して (教員養成企画室長による話題提供を踏まえた検討)
2	5月23日(火) 17:00～18:00	新たな教師の学びの実現に向けた取組に学ぶ： 校内研修に関する実践記録を通して (幼・小・中・高・特・教委さまざまな研修に関する13の実践記録を提示し関心のあるものを選び検討)
3	6月18日(土) 9:00～11:00	新たな教師の学びの実現に向けた取組に学ぶ： パネルディスカッションを通して (若狭高等学校・武生高等学校における校内研修の実践事例検討)
4	7月4日(火) 17:00～18:00	新たな教師の学びの実現に向けてどう取り組んでいくか： 協働での省察を通じた展望 (第3回の話題提供を踏まえた詳細な再検討)
5	10月24日(火) 17:00～18:00	教師の学びの転換を支える研修の高度化： 福井大学教職大学院の取組の動向を通して (福井大学教職大学院における研修の高度化の取組検討)
6	11月7日(火) 17:00～18:00	教師の学びの転換に向けて：基本的方向定位の再確認 (「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修の在り方に関する資料の検討)
7	11月14日(火) 17:00～18:00	教師の学びの転換を支える研修の実践1： (教職員支援機構、嶺南教育事務所による話題提供を踏まえた検討)
8	1月23日(火) 17:00～18:00	教師の学びの転換を支える研修の実践2： 実践の省察を通して (福井県教育総合研究所、嶺南教育事務所による話題提供を踏まえた検討)
9	2月17日(土) 9:00～11:00	新たな教師の学びを支える協働のために： パネルディスカッションを通して (福井県幼児教育支援センター、高浜町立認定こども園・保育所、福井大学教職大学院からの話題提供を踏まえた検討)

1年間にわたり一貫したテーマのもとで、文部科学省から示された大きな方向提起について検討しつつ、福井大学連合教職大学院としてはどのように教員研修の高度化に向けた取組を行っていくのかを公に報告し、学部・大学院のみならず、県教育委員会や教職員支援機構(NITS)をはじめとした多様な立場の参加者が多角的な視点で検討を行ってきた。同時に、福井県内の学校・園や福井県教育委員会、そして教職員支援機構(NITS)においてさまざまに研修改革が展開していることを共有し、こうした展開を支える大学の在り方について検討を深めることができた。

2. 学生総合相談室の活用を踏まえた学生支援

9月1日（金）13:00～13:30において、zoomによるオンライン形式で、「最近の『学生総合相談室』について」と題して、学生総合相談室カウンセラー（公認心理師・臨床心理士）米澤駿氏より、報告が行われた。学生総合相談室の役割として、保健管理センターが医療的な支援を担うのに対し、学生総合相談室は学生生活に関わるさまざまな相談を担うことが共有された。扱われる相談内容としては、修学相談、心理相談、総合相談など多様な相談と、教職員や家族等へのコンサルテーションが行われている。実際によくある相談を事例として示しながら、「大学生活のペースメイク」と「居場所づくり」が重要であること、そして学内者であっても基本的に情報開示ができない守秘義務があることが共有された。

教育学部教授会に先立って開催したため、多くの構成員が参加することとなり、学生総合相談室の活用を踏まえた学生支援について理解を深めることができた。

3. STEAM 教育に関する取組の共有と学び合い

3月15日（金）10:00～12:00において、教育系1号館1階・大1講義室で対面形式で、STEAM教育における新たな取り組みやアイデアを共有し、互いに学び合う機会として行われた。

企画の趣旨は次の通りである。福井大学は令和4年3月、文部科学省より「教員養成フラッグシップ大学」として指定されている。「令和の日本型学校教育」を担う教師の育成を先導し、教員養成の在り方自体を変革していくための牽引役としての役割を果たす大学として指定されたのである。

（1）先導的・革新的な教員養成プログラム・教職科目の研究・開発、（2）全国的な教員養成ネットワークの構築と成果の展開、（3）取組の検証を踏まえた教職課程に関する制度の改善への貢献、を通して、優れた研究・人材育成拠点として全国的な教員養成の高度化に貢献することが期待されている。福井大学では、教員養成改革の特徴として、小中学校両方に必要な資質・能力を培う授業を構築する、地域と連携して課題探究型の授業を実施する、カリキュラムマネジメントを行いSTEAM教育を実施することを掲げている。そのためさまざまワーキングを立ち上げ、組織的に改革を進めてきた。

本研修は、そのうちの一つである「STEAM ワーキング・グループ」からの報告を踏まえ、検討が行われた。まず、STEAM の考え方について先行研究や先行実践の検討を進めてきた結果が共有され、それを踏まえて現在試案として作成しているシラバスが示され、その根底にある「共同主義的 STEAM 教育」のコンセプトに関して話題提供が行われた。これらを踏まえて質疑応答が行われたあと、多様な講座のメンバーで構成された小グループで意見交流を行った。

教育学部教授会の開催日に行ったため、多くの構成員が参加し、対面で顔を合わせて話し合いを行ったため、STEAM ワーキング・グループの報告に対する率直な考えを交流すると共に、参加者それぞれが自分の授業や講座の取組の在り方について改めて考え、語り合うことができた。

各学部のFDの取り組み

2023 年度医学部FD活動

◆概 要

2023(令和 5)年度に実施した医学部FD活動は、以下のとおり。

年度	内容	開催日	参加人数
2023	医学科 FD 「Post-CC OSCE について」	R4.9.6(第 1 回) R4.9.11(第 2 回)	48
2023	医学科 FD 「2023CBT について」	R5.9.20	16
2023	看護学科 FD「看護実践能力評価の在り方について ―看護実践リトリの実施に向けて(テストラン)―	R5.8.29	25
2023	看護学科 FD「入学試験の面接について～評価表及び留意点の改定(令和 5 年)～」	R5.10.18	24
2023	改訂コアカリを臨床参加型臨床実習にどう取り入れるか～R4 年度改訂版医学教育モデル・コア・カリキュラムの理解と活用のためのオンラインシンポジウム～(リアルタイム配信)	R5.11.29	9
2023	R4 年度改訂版医学教育モデル・コア・カリキュラムの理解と活用のためのオンラインシンポジウム(オンデマンド視聴)	R5.12.11～	(不明)
2023	大学設置基準改正に関する SD 研修(オンライン研修)	R6.2.2	10
2023	医学科 FD 「新しい医学教育モデルコアカリキュラムを読み解く」	R6.3.1	111

◆ 主な FD 活動

医学部(看護学科)FD

(テーマ：入学試験の面接について～評価表及び留意点の改定(令和 5 年)～)

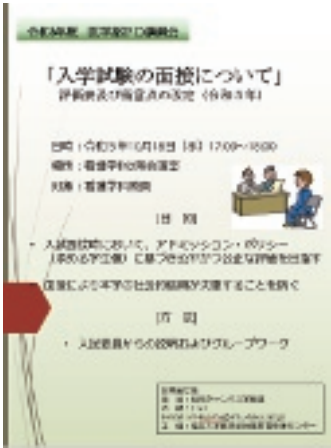
看護学科では、令和 5 年 10 月 18 日(水)に「入学試験の面接について～評価表及び留意点の改定(令和 5 年)」をテーマとした看護学科全教員によるワークショップを実施した。

アドミッションポリシーに基づいた公平かつ公正な面接試験の実施のため、入試改革ワーキングで検討した「入学試験時の面接の留意点及び評価表」を看護学科の全教員に周知し共通認識を固めることを目的に行われた。

四谷看護学科長の挨拶の後、評価表及び留意点の改定について入試改革ワーキングの上原悦子教授、磯見智恵教授から説明があった。

その後、参加全教員でグループワークが行われた。

実施後のアンケートでは、「AP、評価項目、面接時の留意点の理解が深ま



った。」「面接評価においては、AP に基づく視点で評価を行う必要があり、AP と現在の4つの評価項目の関連を確認することができた。」「今後の学生の教育や、面接に入る機会があった時に役立てたいと思います。」等、役立ったとの感想が寄せられた。

◆医学部(医学科)FD(テーマ:改訂コアカリを臨床参加型臨床実習にどう取り入れるか)

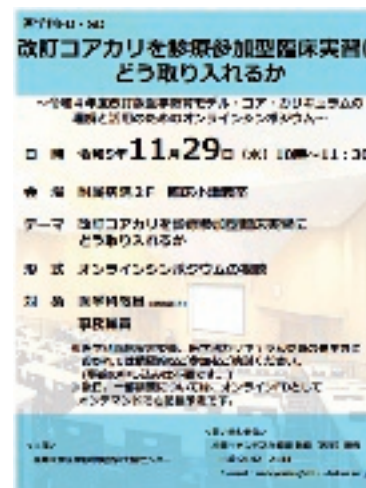
医学部附属教育支援センターでは、令和5年11月29日(水)に「改訂コアカリを診療参加型実習にどう取り入れるか」と題したFDを実施した。

学生が卒業時まで身に付けておくべき必須の実践的診療能力(知識・技能・態度)に関する学修目標等を示した「医学教育モデル・コア・カリキュラム(コアカリ)」の令和4年改訂版が公表され、令和6年度

入学者のカリキュラムから適用されることとなった。これに伴い、改訂版コアカリを新しいカリキュラムにどう反映させるか、とりわけ診療参加型臨床実習にどのように反映させていくかが課題となっている。

そこで、医学部全教員を対象として、日本医学教育学会のオンラインシンポジウムを活用して標記のFDを実施した。診療業務等で当日参加できない教員に配慮してオンラインの様子を録画してオンデマンド方式でも実施した。

実施後のアンケートでは、「分かりやすい講義で、勉強になった。」「福井大学で学生教育に今以上に取り組むには、専門スタッフ(医師+事務職員)を充実させる必要があると思いました。」等の感想が寄せられた。



各学部のFDの取り組み

2023 年度工学部FD活動

はじめに

工学部FD委員会では、「教員・事務にあまり負担をかけず、できる範囲で効率的に教育研究活動を支援する」、「学生・教員双方にメリットがあるような活動を実施する」ことを意識して取り組みを行っている。以下に、2023 年度に実施した教育支援を示す。

1. 「FD通信」の配信

昨今話題の ChatGPT について 2 件の情報提供があった。その他の話題についても一考に値する内容であったと考えている。執筆頂いた先生方に心より感謝申し上げる。

「FD通信」のタイトル

-
- (1) ChatGPT の利用について思うこと
 - (2) R4 年度「カリキュラム評価アンケート」について
 - (3) 壮大なコピペ社会について
 - (4) 建築構造分野の教育についての悩み と 一つの取り組み
 - (5) 「工学教育をともに考える学生と教員の意見交換会」を開催しました
-

2. FD研修会の開催

例年と同様、第二教授会に先立ち開催した。第二教授会の参加方式に準じ、教授は対面、准教授以下はオンラインでの聴講とした。講師についても、例年通り学生サービス課に検討頂いた。実施内容等は以下の通りである。

「大学教員における事前的改善措置と合理的配慮」

講師：林 亜希恵 氏（保健管理センター）

日時：2023 年 7 月 7 日（金）

参加者数：134 名

「コミュニケーションの期待とずれ」

講師：川端 瑞希 氏（学生総合相談室）

日時：2023 年 11 月 10 日（金）

参加者数：138 名

3. 「工学教育をともに考える学生と教員の意見交換会」の開催

工学部・工学研究科の学生に対し、カリキュラムなどについて良かった点・改善点などを聞き、今後のカリキュラムの見直しに役立てる目的として、オンラインでの意見交換会を実施している。

学生には事前に簡単なアンケートに答えてもらい、意見交換会当日の話題とした。学生からの意見は、FD 通信にて工学部全体で情報共有した。

開催日：2023 年 12 月 15 日（金）

① 13：30～14：25

電気電子情報工学科／物質・生命化学科（＋関連する専攻・コース）

② 15：00～15：55

機械・システム工学科／建築・都市環境工学科／応用物理学科（＋関連する専攻・コース）

開催方式：オンライン（Google Classroom の Meet）

参加者計：学生 14 名、教員 11 名、事務職員 2 名

「学部生・院生からの主な意見」

- ・科目の順番を適切にしてほしい。習っていない内容が、先に別の講義で話される。
- ・資料を紙媒体だけでなく、webclass や classroom にもアップしてほしい。
- ・匿名でいいので、出来のよいレポート解答を見せてくれると勉強になる。
- ・研究室配属までにもっと研究室を見学したい。
- ・研究室への所属を 3 年次からにしてほしい。せめて、研究の引継ぎができるように、4 年次の研究室への所属は 3 月中にしてほしい。
- ・1 年次はコース決めで忙しかった。コースを決める前にもう少し勉強したかった。

4. GPA データと合格率の各学科へのフィードバック

各科目の GPA データと合格度を各学科にフィードバックする取り組みを続けている。2023 年度後期分からは授業科目名も公開している。GPA については、以前は秀の割合がかなり高い学科も見られたが、近年は全学科とも適切な評価が行われているようである。一方、若干ではあるが合格度が低下傾向にあり、各学科で何らかの取り組みが必要ではないかと考えている。

おわりに

FD 活動については、個人的には「無駄なことはしない」、「やるからには効果が出るように」ということを念頭に実施してきた。学生からの意見については、時間割の見直しなど、既に改善された事例もある。また、研究室配属までにもっと研究室を見学したい、という積極的な学生の研究意欲の維持・向上を目的として、2024 年度より新たな取り組み（研究室への研究留学制度）を開始している。今後も学生・教員双方のメリットとなるような取り組みを実施していきたい。

（工学部 FD 委員長 内村智博）

各学部のFDの取り組み

令和5(2023)年度

教育・人文社会系部門 総合グローバル領域
(国際地域学部・国際地域マネジメント研究科)FD活動

1. 総合グローバル領域の教員の参加実績があるFD研修会等

(1) 総合グローバル領域(国際地域学部)FD研修会

日時: 令和5年7月7日

テーマ: 「最近の学生総合相談室について」

講師: 福井大学学生総合相談室カウンセラー 米澤駿氏

(2) 全学FD・SD研修会(第11回学生支援講演会)

日時: 令和5年9月29日

テーマ: 「大学におけるカルト問題の現状と課題

～予防啓発と相談支援のあり方を考える～」

講師: 大阪大学キャンパスライフ健康支援・相談センター教授 太刀掛俊氏

(3) データ科学・AI 教育研究センターFD シンポジウム 2023

日時: 令和5年11月21日

テーマ①: 「大規模言語モデルの仕組みと社会へのインパクト」

講師: 国立情報学研究所所長/京都大学特定教授 黒橋禎夫氏

テーマ②: 「「応用基礎力プログラム」の取り組みについて」

講師: 福井大学データ科学・AI教育研究センター教授 樋口健氏、福井大学総合グローバル領域教授 井上博行氏

(4) 国際地域マネジメント研究科主催講演会

日時: 令和6年3月1日

テーマ: 「グローバル戦略による外需型地方創生」

講師: 一般社団法人 Glocal Solutions Japan 代表理事 深野裕之氏

(5) 総合グローバル領域(国際地域マネジメント研究科)FD研修会

日時: 令和6年3月18日

テーマ: 「「コミュニケーション中国語」における授業方法の工夫について」

講師: 福井大学総合グローバル領域教授 永井崇弘氏

2. 総合グローバル領域におけるFD活動の現状と課題

(1) 総合グローバル領域(国際地域学部)のFD研修会について

総合グローバル領域のFD研修会は、例年、国際地域学部教授会の冒頭の30分がそれに充てられているため、領域に所属する教員の大多数がこれに参加することとなり、活発な質疑応答がなされている。研修会終了後のアンケートにおいても、各回ともに概ね高評価が得られており、取り上げられたテーマの妥当性も含めてFD活動として十分に機能していると見てよいだろう。

ただ、これらの研修会は本学の保健管理センターや学生総合相談室が全学的な課題と各部局の特性に応じた課題を勘案して企画・発案し、それを受けて領域のFD委員会が主催する形で実施されているものであり、領域独自の企画によるFD研修は久しく行われていない。また、上記1で挙げたFD研修会等は大部分が有識者の講演を中心に構成されたものであり、ワークショップ型の研修会がほとんど実施されていない点をも考慮すべきだろう。今後、領域の独自企画によるワークショップ型のFD研修会の実現に向けて準備を進める必要があると言える。

(2) 総合グローバル領域(国際地域マネジメント研究科)のFD研修会について

社会人である大学院生を主な対象とする国際地域マネジメント研究科の授業は土曜日と平日の6限目以降に開講されるため、その授業運営において他の研究科にはない課題が生じることになる。それらに対処するべく、同研究科の独自企画によるFD研修会が毎年実施されている。

また、年に一回、有識者を講師に招いて開催される講演会は、学外からも参加者があるなど、FD研修会の域にとどまらない同研究科の重要な年中行事のひとつとなっている。今後、他部局への案内を積極的に行うなど、全学のFD研修の一環としてこの講演会を活用することも検討されて然るべきかもしれない。

(3) FD研修の側面も併せ持つPBL型授業

国際地域学部の基幹科目に位置づけられている「課題探求プロジェクト」は、いわゆるPBL科目であり、全教員が協働でその運営を担っている。各プロジェクトが代表教員を中心に複数の教員が意見を出し合う形で運営されており、さらに、そうした個別のプロジェクトを束ねる全体会が定期的に行われることで、教員間で互いの授業実践を参照し合いながら、それを自らの授業改善に活かす取り組みが自発的に行われている。その意味では、PBL型の授業の実践にはFDに資する側面があると言えるかもしれない。

3. 今後の展望～FD活動とFD・SD活動～

令和4年度に発足した全学FD・SD研修検討プロジェクトチームの主催による第1回全学FD・SD研修会が令和5年9月28日に開催されたが、今後、令和4年度の全学FD・SDシンポジウムのテーマになった教職協働の動きが全学的に進むなかで、総合グローバル領域においても、FD研修会を授業改善に特化したものとし、他の諸々の課題についてはFD・SD研修会の機会を設けてそれに対処する方向で考えてゆくべきだろう。

教学企画・支援部門の活動報告

山田 徳史

(教学企画・支援部門長)

高等教育推進センターは、令和5年度の改組により、それまでの4部門（FD・教育企画部門、学生支援部門、COC教育部門、教学IR部門）から2部門（教学企画・支援部門、教学IR部門）の体制となった。山田は教学企画・支援部門の長を令和5年度の1年間務めさせていただいた。

教学企画・支援部門の業務は、FD・教育企画部門と学生支援部門の業務を整理・統合した内容となっている。詳細は「福井大学高等教育推進センターの部門に関する要項」に定められており、その業務は多岐にわたるが、令和5年度は『福井大学高等教育推進センター年報』がリニューアルして誕生した『福井大学高等教育研究』の第1号発行に向けて当部門が編集委員会の役割を担うこととなったこと、またセンターの自己点検評価の年でもあったことから、それらに対応しているうちに1年が過ぎてしまった。特に、全学FD・SDシンポジウムの開催を見送ったことは部門長の力不足ゆえであり、申し訳なく思う。

1.『福井大学高等教育研究』の発行

まず、令和4年度の動きを振り返る。令和4年度第2回高等教育推進センター運営委員会において、『福井大学高等教育推進センター年報』を『福井大学高等教育研究』としてリニューアルする方針が了承された。リニューアルの目玉は、査読制度を設けて学術論文（教育論文）を掲載できるようにすることであり、それを含め『福井大学高等教育研究』のありかたを定めた「福井大学高等教育推進センター年報刊行に関する申合せ」、および原稿の執筆・投稿に関する事項を定めた「『福井大学高等教育研究』執筆要領」が第4回運営委員会において決定された。これらは、FD・教育企画部門の松田和之部門長が中心となって整備されたものである。

令和5年度は、教学企画・支援部門が『福井大学高等教育研究』の発行に係る作業を引き継ぐこととなった。これは、令和5年度の第1回教学企画・支援部門会議において、「本来は別途編集委員会を立ち上げて作業を進めることとなっているが、今年度は時間的制約等を踏まえ当部門で対応したい」との山田の提案が了承されたことによる。8月の終わりに『福井大学高等教育研究』第1号の原稿募集を開始し、学術論文1編、報告2編の投稿を得た。それを受け、12月上旬に第2回教学企画・支援部門会議を開催し、『高等教育研究』の査読者選出について審議を行った。査読者の選び方や人数はその場で決まったものの、令和5年11月14日付文部科学省科学技術・学術政策局長の通知「査読における不適切な行為の防止について」を踏まえると、査読・採択に関するルールで作

成が不可欠であることから、令和5年度の査読・採択に係る暫定ルールを山田が急遽作成することとなった。

暫定ルールの作成にあたっては、まず以下の防止を念頭に置いた。

- ・ 特定不正行為（捏造、改ざん、盗用）
- ・ 二重投稿や不適切なオーサーシップ
- ・ 査読者による情報漏洩
- ・ 編集者による査読の不適切な管理

また、以下を明確化することに留意した。

- ・ 査読手順
- ・ 掲載可否判断の基準・手続きの流れ
- ・ 最終判断のあり方

さらに、掲載する学術論文はいわゆる教育論文であることから、査読および掲載可否の決定にあたっては、過度に新規性を求めるのではなく重要性・有用性を重視することとした。こうした観点・方針のもと、日本保健医療福祉連携教育学会、日本地域政策学会、日本看護学学会をはじめいくつかの学会の査読規定等を参考に、以下の名称の暫定ルールを作成した。

福井大学高等教育推進センター年報『福井大学 高等教育研究』に投稿された「学術論文」および「報告」の取扱い（2023年度）

これがメール審議によって承認されたのはクリスマスも迫る頃であった。査読者の決定は1月中旬（メール審議）であり、そこから査読依頼を行い、2月上旬には査読結果が出そろった。大変多忙な時期であるにもかかわらず、短期間でご対応いただいた査読者の先生方には感謝しかない。その後、上記の暫定ルールに従って掲載の可否判定を行い（2月中旬のメール審議）、B判定となった原稿についてはルールに則り著者に修正依頼を行った。修正された原稿については、3月上旬に開催された第6回教学企画・支援部門会議で確認を行い、A判定とした。これにより、投稿された3編すべてが掲載されることとなったが、その後も原稿の体裁を整える作業等が続き、『福井大学 高等教育研究』第1号が完成したのは年度末であった。

このように、1月以降は2週間単位でものごとが進行した。査読期間として1月などの繁忙期は避けるよう要望があったが、当然のことである。今回のことを教訓に、今後は余裕のあるスケジュールのもとで作業が進むことを期待している。

なお、上記暫定ルールを、最後に参考資料として添付した。

2. 全学FD・SDシンポジウムの開催見送り

令和5年度は、全学FD・SDシンポジウムの開催を見送った。ここでは、同シンポジウムの意義を改めて確認するとともに、見送りに至った経緯を記録として残しておきたい。

全学FD・SDシンポジウムは、外部講師等による基調講演、学内者による実践報

告等を中心に構成され、国の政策等も含め高等教育に係る最新の状況等を理解するとともに、学内で行われている優れた取組みを共有する貴重な場である。第3期中期目標期間では、全学FD・SDシンポジウムにおいてアクティブ・ラーニング（AL）促進に向けたテーマを扱い、そのことがALに関する数値目標達成の一助となったことは記憶に新しい。このように、同シンポジウムは、全学的な教育改善に大きな役割を果たしており、原則として毎年開催することとなっている。記憶の範囲で開催されなかったのは新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から中止となった令和元年度のシンポジウムのみである。センター改組前は、全学FD・SDシンポジウムの企画・運営はFD・教育企画部門の業務であった。

センター改組後は、教学企画・支援部門が全学FD・SDシンポジウムの企画・運営を担うこととなり、令和5年度も実施に向けて検討を進めていた。夏の段階（第1回教学企画・支援部門会議）では、令和5年度もシンポジウムを開催する方針であり、テーマについて以下の案が出されていた。

- ・生成AI
- ・高等教育に関する動向
- ・教学IR
- ・入学者動向
- ・教職協働

12月上旬に開催された第2回教学企画・支援部門会議においては、評価や教育内部質保証等に関する内容をテーマとすることが了承されたものの、具体的なことは引き続き検討することとなった。これではっきりすることは、夏以降12月までの間に部門長として具体的な検討を怠ったことが、シンポジウム中止の最大の原因だということである。実は、12月後半の段階においても開催に向けた望みを抱き、以下の案について関係の先生方に相談を行っていた。

<（幻に終わった）シンポジウムのイメージ>

- ・重視する対象：中堅・若手（教員、事務職員）
- ・内容：教育に関して、我々が立たされている「土俵」がどういうもので、その上でどのような「相撲」を取ることを求められているのか（高等教育の方向性はどうなっていて、部局レベルで何にどのように対応することが求められているか）
- ・構成
 - －高等教育の方向性（学習者主体、学習成果の重視など）を押さえたうえで、「自己点検評価に基づく教育の改善・向上」の観点から、部局レベルで何にどのように取り組むことが求められているのかを確認する
 - －各部局から、抱えている課題及び「自己点検評価に基づく教育の改善・向上」の取組を紹介（体制、事例、課題やネックとなっていること）
 - －ディスカッション

しかし、12月後半はすでに『高等教育研究』への対応で身動きが取れない状況になっており、上記のイメージを具体化することは困難になっていた。また、例年通り3月に開催することは、下に述べる自己点検・評価との両立の観点からも難しく思えた。このため、3月上旬に開催された第6回教学企画・支援部門会議において、令和5年度のシンポジウムの中止を提案し、了承された。表向きは、開催するにあたり各学部へ発表等の協力を依頼することが時期的に難しいこと、また適切な開催時期を改めて検討したほうがよいこと等の課題があるために中止したことになるが、前述のように夏から冬の間に検討を怠ってしまったことが、大元の原因である。

令和6年度から、センターの専任教員が教学企画・支援部門長を務めることになっており、全学FD・SDシンポジウムも新しい部門長のもと正常に企画・運営されるであろう。

3. 自己点検・評価

福井大学部局等自己点検・評価及び外部評価実施要項の定めるところにより、高等教育推進センターは原則6年ごとに自己点検・評価を実施しなければならない。令和5年度がその年にあたり、自己点検・評価報告書（平成28年度～令和4年度）の作成をお手伝いした。具体的には「基準3 活動状況と成果・効果」を中心に報告書の作成を担当した。活動状況に基づいて成果・効果があがっていることを示すことが、センターの意義を示すために最も重要であるとの認識のもと、評価期間内の取り組みによってセンターや大学の目的が達成されたことを様々なエビデンスによって具体的に示すことに注力し、

3-1 設置目的に沿った活動が、充分に行われていること

3-2 設置目的の達成に資する成果・効果があがっていること

3-3 本学の目的等の達成に資する成果・効果があがっていること

3-4 本学の中期目標・計画を含め本学の短期・中期的な目標等の達成に資する成果・効果があがっていること

の項目については、いずれもS（非常に優れている）と自己評価した。一方で、

3-5 活動状況及びその成果・効果が、学内及び地域・社会に対して公表されていること

についてはB（おおむね標準的である）と自己評価した。これらの自己評価に対し、全学内部質保証委員会からは、

3. センター等の設置目的等や活動は本学及びセンター等の目的・目標等に沿ったものであるか

について、「中期目標中期計画や本学のビジョンを踏まえた活動になっている」として「適切である」との評価をいただいた。

なお、自己点検・評価報告書は以下で公開されている。センターの様々な活動とその成果が把握できるため、ご覧いただければ幸いである。

https://www.ufukui.ac.jp/wp/wpcontent/uploads/faculties_self_inspecti

on15_1.pdf

なお、自己点検・評価書作成のお手伝いは、教学企画・支援部門長としてではなく、副センター長（自己点検・評価委員会の委員）として携わったものであるが、触れさせていただいた。

（おわりに）

1年間でしたが、センター長の安田年博理事、部門の委員、運営委員会の委員、教務課の皆様に支えられ、また松田和之教授には『福井大学 高等教育研究』第1号発行に向けて多くのご助言を賜り、なんとか部門長を務めることができました。この場をお借りして皆様に心より感謝申し上げますとともに、今後のセンターおよび部門の発展をお祈りいたします。

【参考資料】

福井大学高等教育推進センター年報『福井大学高等教育研究』に投稿された「学術論文」および「報告」の取り扱い（2023年度）

令和5年12月21日

高等教育推進センター教学企画・支援部門会議決定

＜査読者の選出等＞

- （1）編集委員会は、査読候補者の選出を同委員会の委員に依頼する。査読候補者は「学術論文」については2名、「報告」については1名選出する。依頼にあたっては、査読の対象となる「学術論文」や「報告」（以下、論文等）の内容と、委員の専門性を踏まえる。
- （2）依頼を受けた委員は、査読候補者の選出にあたり、以下に留意する。
 - ・査読候補者は学内の教員（非常勤を含む）とする。
 - ・著者との個人的関係が深い者など、利益相反の関係にある者を査読候補者とししない。
 - ・編集委員会の委員を、査読候補者とししない。
 - ・査読候補者の選出過程では、論文等の著者情報（氏名や所属など）を伏せる。
- （3）査読候補者を選出した委員は、結果を教務課を通し編集委員会に報告する。
- （4）編集委員会は、査読者を決定し、教務課を通し査読者に原稿を送付する。その際、著者情報は削除する。

＜査読の実施等＞

- （5）査読期間は2週間とする。

(6) 査読者は、以下の方針を理解した上で査読を行う。

- ・年報の目的が「高等教育（とりわけ大学教育）に係る研究・実践動向に関する知識の共有を図ることで、国内外の大学教育研究の発展ならびに本学の教育改善に寄与することをその目的とする。」であることを踏まえ、論文等の評価は主に重要性や有用性を重視して行う。「学術論文」については新規性や創造性の観点も加える。
- ・論文等の内容が、自身の意見と一致しない、自身の研究と競合する、あるいは相反するなどの観点を査読に持ち込まない。
- ・高等教育（とりわけ大学教育）の発展を支援する立場から、査読は建設的であることを旨とする。課題を指摘する場合は可能であれば代替案を示すなど、内容の改善を支援する姿勢で臨む。
- ・著者の主張に賛成できなくても、著者の主張が明らかに誤っているという十分な証拠がない限りはその主張を尊重し、過度の修正を求めない。
- ・研究の方法や論文の書き方は分野によって異なる。そうした多様性を尊重し、自身の専門分野における研究方法や論文の書き方を押しつけない。

(7) 査読者は、以下の観点を評価を行う。

「研究論文」

- (あ) 大学教育に係る重要な知見、あるいは本学の教育改善を進めるために有用な知見が含まれているか（重要性、有用性）。新規性や創造性が見られるか。（※重要性、有用性を重視しつつ、新規性や創造性があれば積極的に評価する。）
- (い) 目的が明確で、研究方法は適切か。また、考察が十分になされているか。
- (う) 構成は適切か
- (え) 倫理的な問題はないか

「報告」

- (あ) 大学教育に係る重要な知見、あるいは本学の教育改善を進めるために有用な知見が含まれているか（重要性、有用性）。
- (い) 構成は適切か
- (う) 倫理的な問題はないか

(8) 査読者は、査読を担当した論文等に関わる一切のことを（査読したという事実も含めて）口外してはならない。

(9) 査読者は、査読結果を以下の形にまとめ、教務課を通し編集委員会に報告する。

【評価】

以下の A～D のいずれか 1 つを選択。

- A（そのまま掲載可）、B（修正の上、掲載可）、C（修正の上、再審査）、D（掲載不可）

※Dは以下の場合が想定される。

1. 『福井大学高等教育研究』の目的から明らかに外れている。
2. 明白な事実誤認や論旨に不適切な点が認められる。
3. 他の媒体（雑誌など）に既発表または公知の内容である。
4. 書式に関する指示がほとんど守られていないなど、形式的な完成度が甚だしく低い。

【評価の理由】

A～Dの評価とした理由を説明。BあるいはC評価の場合には、どのような修正を求めるのか記す。Dの場合は、その根拠を具体的に記す。

【編集委員会へのコメント】

評価の理由で記したこと以外に編集委員会への付加的なコメントがあれば記す。

【著者へのコメント】

評価の理由で記したこと以外に著者への付加的なコメントがあれば記す。

＜掲載の可否に関する判定＞

- (10) 編集委員会は、査読者から提出された査読結果を踏まえ、掲載の可否について判定を行う。判定は以下のA～Dのいずれかとする。

A（そのまま掲載可）、B（修正の上、掲載可）、C（修正の上、再審査）、D（掲載不可）

「学術論文」の判定基準（※）

- 2名の査読者の評価結果がともにAの場合、判定は原則としてAとする。
- 2名の査読者の評価結果がAとBの場合、判定は原則としてBとする。
- 2名の査読者の評価結果がともにBの場合、判定は原則としてBとする。
- 2名の査読者の評価結果がBとCの場合、判定は原則としてCとする。
- 2名の査読者の評価結果がともにCの場合、判定は原則としてCとする。
- 2名の査読者の評価結果がCとDの場合、判定は原則としてC又はDとする。
- 2名の査読者の評価結果がともにDの場合、判定は原則としてDとする。
- 2名の査読者の評価結果がAとC、AとD、BとDの場合は、判定は原則としてCとする。

「報告」の判定基準（※）

原則として、査読者の評価結果と同じ判定とする。

（※）原則とは異なる判定をする場合は、(11)に述べる「編集委員会としての意見」を必ず付すものとする。

- (11) 編集委員会は、委員会としての判定結果を、査読者による評価結果とともに

に、教務課を通し投稿者に伝える。その際、必要に応じ、委員会としての意見を付すことができる。なお、査読者による意見やコメントに適切さを欠く表現がある場合、同委員会はそれを削除又は修正したうえで、投稿者に伝えるものとする（査読者による評価結果を変更することはできない）。

- (12) 当初の投稿原稿（以下、初稿）に対する判定が B 又は C の場合、修正のうえ提出された原稿（以下、修正原稿）については、原則として改めて査読を行うことなく編集委員会において判定を行う。ただし、必要があれば、初稿の査読者あるいは新たに選定した査読者に査読を依頼し、その結果を判定の参考とすることができる。
- (13) 修正原稿に対する判定は、A（そのまま掲載可）、B（修正の上、掲載可）、D（掲載不可）のいずれかとする。

＜その他＞

- (14) 投稿者は、初稿あるいは修正原稿に対する判定結果に異議がある場合には、速やかに編集委員会に申立てを行う。同部門は、申立てに対し、適切に対応する。
- (15) 査読前、査読中、査読後にかかわらず、特定不正行為（捏造、改ざん及び盗用）、二重投稿、不適切なオーサーシップ等が疑われる場合、編集委員会は速やかに調査を行い、適切な対応を取る。
- (16) (1) ～ (15) によっては処理できない事項が生じた場合、編集委員会において適切な対応を取る。

令和 5 年度 活動報告(教学 IR 部門)

江端 弘樹
(教学 IR 部門長)

はじめに

教学 IR 部門は、全学的な教学 IR 活動を推進するために、教学 IR に関するデータの収集・分析、教学 IR 関連情報の交換、学修成果・教育成果の可視化など全学的な方策の企画立案・提言、実施に取り組むことを目的に令和 4 年 9 月に教職協働組織として設置され、2 年度目の活動となります。

具体的には、学生向けの新たなパネル調査として導入した「在学生調査」の第 2 回目を実施しました。また、大学の諸活動を周知すること、大学構成員の数値やデータへの関心度を涵養すること、教学 IR 部門への認知度を向上することを目指し令和 4 年度に創刊した学内広報ポスターシリーズ「数字でみる福井大学のいま」を発行しました。さらに、令和 6 年度に新たに導入する学生調査を設計しました。

1. 教学 IR 部門設置の経緯と背景

今般高等教育機関が求められている学修成果の可視化を含めた教育の内部質保証活動を実施するにあたり、教学データの組織的な収集・分析による質の高い教学エビデンスの集積が不可欠です。第 4 期中期目標・中期計画の達成に向けて、本学でも早急に全学的な教学 IR 体制を整備し、取り組みを進めることが求められました。また、令和 3 年 4 月に福井大学の未来像を具現化するために策定された「福大ビジョン 2040」の教育に関するミッションで掲げられた「教学マネジメントによる学びの質保証の強化」への対応も急務でした。

そこで、総合戦略室の下、教職協働の体制による「教学 IR 推進プロジェクトチーム」が令和 3 年度に立ち上がり、検討が重ねられた結果、教学 IR に係る実施組織を高等教育推進センター(以下、センター)に設置する方針が打ち出され、それを受け、令和 4 年 9 月に教学 IR 部門が新たに設置されました。

当部門が推進に関わる「ミッション実現戦略経費」に係る取り組み「教学 IR に基づく教育の質の向上 ― 社会的ニーズに応えられる人材の輩出を目指して」は、共通指標の要件である「学修成果の可視化」、ならびに第 4 期中期目標・中期計画の目標の1つである「Ⅰ 教育研究の質の向上に関する事項」、さらには本学のミッションである「卓越した高度専門職業人の育成・輩出」の達成・実現にとって不可欠な活動となっています。

2. 令和5年度の活動報告

(ア) 取り組み事例(1) (パネル調査「在学生調査」)

本部門の役割である「教学 IR に係る課題に取り組み、全学的な方策等の企画立案・提言を行う」に応える取り組みとして、本学における教学 IR 活動の基礎データを得ることを目的に「在学生調査」を導入・実施し、結果の分析を行いました。

本調査を、全1・3年生を対象に令和4年 12 月に実施し、パネル調査の一つと位置づけました。設問内容は一般社団法人 大学 IR コンソーシアムが実施する「学生調査」をベースとし、コンソーシアム内他学との回答比較ができる形として本学独自の設問を加えて次の仕様で実施しました。

- ・ 調査名 2023 年度 在学生調査
- ・ 対象者 全学部 1, 3 年生 全員
- ・ 質問紙配布・マークシート方式・記名式 (図 1)
- ・ 設問 1 年生向け 計 111 問
3 年生向け 計 120 問
- ・ 全学回収率 1 年生 93.4% (827 人/885 人)
3 年生 88.7% (792 人/893 人)
※ 令和 4 年度実績 81.0% (全学平均)

調査結果の詳細は、添付資料①を参照して下さい。

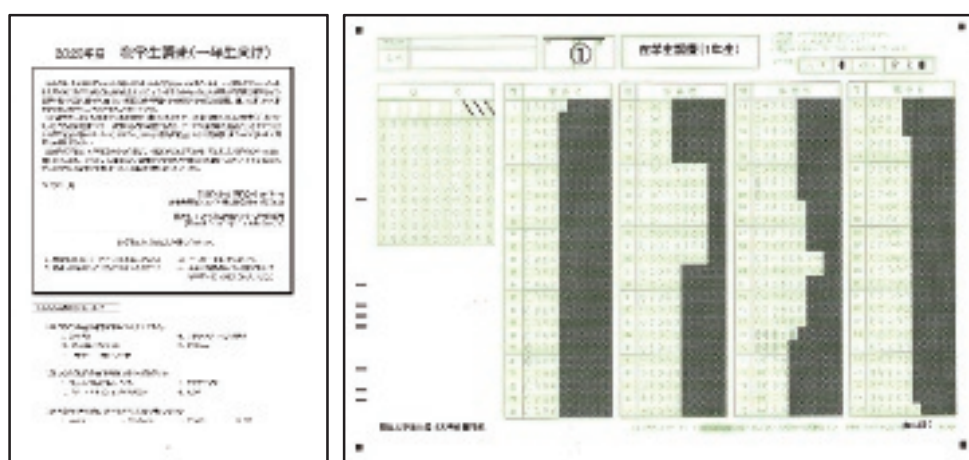


図 1. 調査用紙一式 (1 年生用)

(左)設問用紙 7 ページ。(右)マークシート、調査専用品とせず A4 横 10 折の汎用品を活用しコストを抑えた。設問数の多い中で平易な回答を促すため、選択肢以外のマーク欄を塗りつぶした上で配布した。

調査方法を工夫したこと、運営管理課、教務課、学務課の協力の下、従来の調査や前年度を上回る高い回収率でした。本学における教学 IR 活動の基礎データとなりますので今後の継続実施が期待されます。なお、調査結果については、学内の諸会議で情報共有されたほか、学生には後述の学内広報ポスター「数字でみる福井大学のいま Vol.3」などを通じてフィードバックしました。

(イ) 取り組み事例(2) (学内広報媒体「数字でみる福井大学のいま」の発行)

大学の諸活動や教学 IR 活動への認知向上を図る目的で、本学に埋没している数字を顕在化させ、学生を始めとしたステークホルダーにフィードバックならびに周知する学内広報ポスターシリーズ「数字でみる福井大学のいま」を創刊し、最大 A1 サイズに印刷し文京、松岡、敦賀の各キャンパス各所に計 37 枚掲出しました。

Vol.2 は令和 5 年 7 月に、Vol.3 は令和 5 年 11 月にそれぞれ発行しました。Vol.2 は、学生の利用が落ち込んでいる図書館と言う施設そのものを発信することに主眼を置き、福井大学図書館と共同で制作しました(別添資料②-1)。Vol.3 は、前年令和 4 年 12 月に実施した「在学生調査 2022」の結果を単純な一覧表ではない形式で発信することに主眼を置きました(別添資料②-2)。

本ポスターシリーズを年間数号発行し続けることで、各種学生向け調査の回答の質向上を図ります。加えて、学生や教職員からの教学 IR 活動や内部質保証活動への関心や信頼性の喚起と回答の質向上を期待しています。

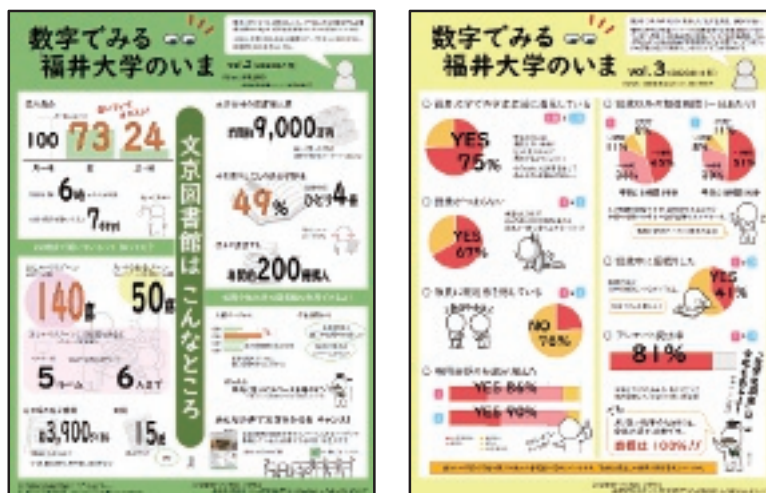


図 2. ポスターシリーズ Vol.2、Vol.3

Vol.2 「文京図書館特集号」

Vol.3 「在学生調査特集号」

(ウ) 取り組み事例(3) (新入生向け調査の企画・設計)

本学での 4,6 年間の学生生活のスタート(様々なオリエンテーションを受ける前)時点での新入生の率直な意見を集約するための「入学時調査」の実施に向けた準備を進めました。令和 6 年 4 月のオリエンテーション冒頭で調査する予定です。

図 3. 入学時調査(案)

以上

■添付資料

- ①-1 2023 年度 在学生調査 (1 年生向け) 集計結果
- ①-2 2023 年度 在学生調査 (3 年生向け) 集計結果
- ②-1 「数字でみる福井大学のいま」Vol.2(文京図書館特集号)
- ②-2 「数字でみる福井大学のいま」Vol.3(「在学生調査」特集号)

2023年度 在学生調査（1年生向け）質問項目

実施日 2023年11月

学 部	回答数	対象者数	回答率
教育学部	102	108	94.4%
医学部	167	176	94.9%
医学科	106	112	94.6%
看護学科	61	64	95.3%
工学部	495	537	92.2%
機械・システム工学科	138	164	84.1%
電気電子情報工学科	116	123	94.3%
建築・都市環境工学科	61	62	98.4%
物質・生命化学科	123	127	96.9%
応用物理学科	57	61	93.4%
国際地域学部	63	64	98.4%
総計	827	885	93.4%

I. あなた自身のことについて

〔1〕 あなたの片道の通学時間はどれくらいですか。

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部	機械	電気	建築	物質	応用	国際地域 学部	合計
1.30分未満	51.0%	89.6%	54.1%	74.8%	82.6%	65.8%	79.0%	70.7%	77.2%	61.9%	71.3%
2.30分以上ー1時間未満	27.5%	9.4%	31.1%	14.2%	8.7%	18.8%	14.5%	16.3%	14.0%	22.2%	17.0%
3.1時間以上ー1時間30分未満	16.7%		11.5%	8.3%	7.4%	10.3%	4.8%	8.9%	8.8%	11.1%	8.7%
4.1時間30分以上ー2時間未満	4.9%	0.9%	3.3%	1.8%	1.3%	2.6%	1.6%	2.4%		3.2%	2.3%
5.2時間以上				1.0%		2.6%		1.6%		1.6%	0.7%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔2〕 あなたの現在の居住形態は次のうちどれですか。

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部	機械	電気	建築	物質	応用	国際地域 学部	合計
1.家族または親戚と暮らしている	70.6%	14.2%	59.0%	33.3%	26.2%	41.9%	22.6%	38.2%	35.1%	47.6%	38.3%
2.アパート・学生マンションでひとり暮らし	28.4%	84.0%	39.3%	62.2%	64.4%	55.6%	77.4%	58.5%	61.4%	41.3%	57.6%
3.大学寮や合宿所	1.0%	0.9%	1.6%	4.3%	8.7%	2.6%		3.3%	3.5%	11.1%	3.8%
4.その他		0.9%		0.2%	0.7%						0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔3〕 総合的に考えて福井大学での学生生活に満足している。

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部	機械	電気	建築	物質	応用	国際地域 学部	合計
1.思わない	5.9%	7.5%	4.9%	4.7%	6.0%	1.7%	6.5%	4.9%	5.3%	4.8%	5.2%
2.やや思わない	8.8%	17.0%	13.1%	15.4%	13.4%	20.5%	8.1%	12.2%	24.6%	3.2%	13.7%
3.やや思う	51.0%	40.6%	39.3%	57.3%	59.7%	58.1%	45.2%	61.0%	54.4%	54.0%	52.9%
4.思う	34.3%	34.9%	42.6%	22.4%	20.8%	18.8%	40.3%	22.0%	15.8%	38.1%	28.1%
99.未回答				0.2%		0.9%					0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

Ⅱ. 大学に入学してからのあなたの学習状況について

● あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

1. まったくなかった	2. あまりなかった	3. ときどきあった	4. ひんぱんにあった
-------------	------------	------------	-------------

〔4〕 実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1	1.0%	1.9%	1.6%	13.6%	13.4%	35.9%	1.6%	2.4%	5.3%	4.8%	9.0%
2	12.7%	4.7%	3.3%	26.8%	36.9%	38.5%	16.1%	6.5%	31.6%	12.7%	19.5%
3	62.7%	64.2%	55.7%	43.7%	45.6%	23.1%	53.2%	53.7%	49.1%	69.8%	51.4%
4	23.5%	29.2%	39.3%	15.9%	4.0%	2.6%	29.0%	37.4%	14.0%	12.7%	20.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔5〕 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	2.0%	1.9%	1.6%	5.7%	6.7%	5.1%	3.2%	6.5%	5.3%	3.2%	4.3%
2	7.8%	15.1%	3.3%	29.5%	25.5%	30.8%	24.2%	25.2%	52.6%	25.4%	22.9%
3	45.1%	51.9%	37.7%	53.0%	54.4%	53.0%	54.8%	55.3%	42.1%	57.1%	51.1%
4	45.1%	31.1%	57.4%	11.8%	13.4%	11.1%	17.7%	13.0%		14.3%	21.8%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔6〕 授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.0%	1.9%	1.6%	4.9%	2.7%	4.3%	3.2%	4.1%	15.8%	3.2%	3.7%
2	19.6%	17.0%	11.5%	29.7%	26.2%	26.5%	25.8%	33.3%	42.1%	23.8%	25.1%
3	54.9%	55.7%	50.8%	52.6%	57.7%	58.1%	46.8%	49.6%	40.4%	49.2%	52.9%
4	24.5%	25.5%	36.1%	12.8%	13.4%	11.1%	24.2%	13.0%	1.8%	23.8%	18.3%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔7〕 授業の一環でボランティア活動をする

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	44.1%	40.6%	60.7%	72.2%	73.2%	77.8%	66.1%	72.4%	64.9%	54.0%	62.6%
2	29.4%	33.0%	32.8%	19.3%	18.8%	14.5%	22.6%	18.7%	28.1%	27.0%	23.8%
3	17.6%	17.0%	6.6%	7.5%	7.4%	6.8%	11.3%	6.5%	7.0%	17.5%	10.6%
4	8.8%	9.4%		1.0%	0.7%	0.9%		2.4%		1.6%	3.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔8〕 学生自身が文献や資料を調べる

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1		4.7%	1.6%	3.5%	2.0%	6.0%	3.2%	2.4%	5.3%	11.1%	3.7%
2	1.0%	22.6%		17.9%	14.8%	28.2%	17.7%	7.3%	28.1%	22.2%	15.5%
3	31.4%	57.5%	49.2%	51.0%	56.4%	54.7%	62.9%	36.6%	47.4%	42.9%	48.7%
4	67.6%	15.1%	49.2%	27.6%	26.8%	11.1%	16.1%	53.7%	19.3%	23.8%	32.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔9〕 定期的に小テストやレポートが課される

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1		0.9%	1.6%	0.4%	0.7%				1.8%	1.6%	0.6%
2	2.0%	3.8%	1.6%	3.0%	2.7%	6.0%	1.6%	2.4%		3.2%	2.9%
3	13.7%	48.1%	23.0%	19.5%	17.4%	19.7%	14.5%	22.8%	22.8%	23.8%	23.0%
4	84.3%	47.2%	73.8%	77.2%	79.2%	74.4%	83.9%	74.8%	75.4%	71.4%	73.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔10〕 教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	6.9%	13.2%	1.6%	2.0%	2.0%	3.4%		5.3%	4.8%	4.2%	
2	31.4%	30.2%	24.6%	23.2%	18.1%	33.3%	19.4%	20.3%	26.3%	22.2%	25.1%
3	49.0%	37.7%	57.4%	60.0%	71.1%	57.3%	61.3%	56.1%	43.9%	44.4%	54.5%
4	12.7%	18.9%	16.4%	14.6%	8.7%	6.0%	19.4%	22.8%	24.6%	27.0%	16.0%
99_未回答				0.2%				0.8%		1.6%	0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔11〕 学生が自分の考えや研究を発表する

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.0%	10.4%	1.6%	6.7%	6.7%	4.3%	3.2%	8.1%	12.3%	4.8%	6.0%
2	8.8%	42.5%	9.8%	37.0%	41.6%	38.5%	21.0%	34.1%	45.6%	19.0%	31.0%
3	47.1%	36.8%	49.2%	52.2%	51.0%	53.0%	71.0%	49.6%	38.6%	55.6%	49.6%
4	43.1%	10.4%	39.3%	4.1%	0.7%	4.3%	4.8%	8.1%	3.5%	20.6%	13.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔12〕授業中に学生同士が議論をする

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1		9.4%	1.6%	6.3%	5.4%	6.0%	3.2%	8.1%	8.8%	1.6%	5.2%
2	5.9%	30.2%	14.8%	36.8%	40.3%	35.0%	35.5%	30.9%	45.6%	11.1%	28.7%
3	25.5%	50.0%	49.2%	50.2%	49.7%	51.3%	56.5%	52.0%	38.6%	39.7%	46.3%
4	67.6%	10.4%	34.4%	6.7%	4.7%	7.7%	4.8%	8.9%	7.0%	47.6%	19.6%
99_未回答	1.0%										0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔13〕授業で検討するテーマを学生が設定する

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部							国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用			
1	7.8%	33.0%	16.4%	33.5%	36.2%	29.1%	25.8%	33.3%	43.9%	22.2%	28.2%	
2	29.4%	28.3%	41.0%	43.1%	45.0%	45.3%	46.8%	41.5%	33.3%	23.8%	38.0%	
3	45.1%	28.3%	34.4%	20.7%	17.4%	23.9%	22.6%	19.5%	22.8%	38.1%	26.9%	
4	17.6%	10.4%	8.2%	2.8%	1.3%	1.7%	4.8%	5.7%		14.3%	6.8%	
99_未回答										1.6%	0.1%	
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

〔14〕授業の進め方に学生の意見が取り入れられる

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部							国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用			
1	9.8%	6.6%	13.1%	28.7%	33.6%	25.6%	25.8%	28.5%	26.3%	17.5%	21.7%	
2	48.0%	35.8%	42.6%	46.7%	40.3%	51.3%	48.4%	48.8%	47.4%	27.0%	43.7%	
3	34.3%	46.2%	37.7%	22.8%	25.5%	20.5%	22.6%	20.3%	26.3%	41.3%	29.6%	
4	7.8%	11.3%	6.6%	1.8%	0.7%	2.6%	3.2%	2.4%		14.3%	5.0%	
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

〔15〕取りたい授業を履修登録できなかった

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部							国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用			
1	26.5%	21.7%	73.8%	19.1%	16.1%	20.5%	17.7%	19.5%	24.6%	19.0%	24.3%	
2	34.3%	18.9%	11.5%	32.5%	34.9%	34.2%	24.2%	35.0%	26.3%	28.6%	29.2%	
3	33.3%	48.1%	13.1%	39.6%	40.3%	32.5%	51.6%	38.2%	42.1%	42.9%	38.2%	
4	5.9%	11.3%	1.6%	8.9%	8.7%	12.8%	6.5%	7.3%	7.0%	9.5%	8.3%	
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

〔16〕 出席することが重視される

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用		
1	1.0%	2.8%	1.6%	1.4%	1.3%	0.9%	2.4%	1.8%	4.8%	1.8%
2	13.7%	14.2%	14.8%	15.7%	12.1%	16.2%	11.3%	20.3%	19.3%	20.6%
3	49.0%	50.0%	37.7%	45.9%	48.3%	42.7%	41.9%	49.6%	42.1%	41.3%
4	36.3%	33.0%	45.9%	37.0%	38.3%	40.2%	46.8%	27.6%	36.8%	31.7%
99_未回答									1.6%	0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔17〕 TAやSAなどの授業補助者から補助を受ける

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用		
1	9.8%	34.0%	41.0%	16.9%	17.4%	36.8%	4.8%	1.6%	21.1%	52.4%
2	19.6%	31.1%	36.1%	28.0%	30.9%	33.3%	17.7%	22.0%	33.3%	22.2%
3	58.8%	27.4%	18.0%	46.9%	47.7%	28.2%	71.0%	53.7%	42.1%	19.0%
4	11.8%	7.5%	4.9%	8.3%	4.0%	1.7%	6.5%	22.8%	3.5%	6.3%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

● 大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらい経験しましたか。

1. まったくしなかった	2. あまりしなかった	3. ときどきした	4. ひんぱんにした
--------------	-------------	-----------	------------

〔18〕 授業課題のために図書館の資料を利用した

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用		
1	34.3%	31.1%	3.3%	24.8%	29.5%	37.6%	27.4%	2.4%	31.6%	14.3%
2	20.6%	31.1%	14.8%	29.7%	36.9%	24.8%	43.5%	16.3%	35.1%	39.7%
3	34.3%	22.6%	63.9%	31.1%	25.5%	30.8%	25.8%	43.1%	26.3%	30.2%
4	10.8%	15.1%	18.0%	14.4%	8.1%	6.8%	3.2%	38.2%	7.0%	14.3%
99_未回答										1.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔19〕 授業課題のためにWeb上の情報を利用した

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用		
1	1.0%	0.9%	1.6%						1.6%	0.5%
2	3.9%	5.7%	3.3%	5.1%	4.0%	6.0%	6.5%	4.9%	5.3%	11.1%
3	27.5%	53.8%	31.1%	41.3%	40.3%	42.7%	51.6%	36.6%	40.4%	15.9%
4	67.6%	39.6%	63.9%	53.5%	55.7%	51.3%	41.9%	58.5%	54.4%	71.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔20〕 インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用		
1			1.6%	0.4%	0.9%		0.8%		1.6%	0.5%
2	1.0%	3.8%	1.6%	2.2%	1.3%	2.6%	3.2%	0.8%	5.3%	1.6%
3	13.7%	23.6%	24.6%	21.1%	16.1%	22.2%	25.8%	27.6%	12.3%	9.5%
4	85.3%	72.6%	72.1%	76.4%	82.6%	74.4%	71.0%	70.7%	82.5%	87.3%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔21〕 提出期限までに授業課題を完成できなかった

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用		
1	20.6%	29.2%	57.4%	16.7%	10.7%	23.1%	21.0%	17.9%	12.3%	23.8%
2	32.4%	26.4%	37.7%	35.8%	38.9%	29.1%	40.3%	39.0%	29.8%	23.8%
3	42.2%	37.7%	3.3%	40.6%	43.6%	41.0%	30.6%	37.4%	49.1%	34.9%
4	4.9%	6.6%	1.6%	6.9%	6.7%	6.8%	8.1%	5.7%	8.8%	17.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔22〕 授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用		
1	3.9%	2.8%	3.3%	9.1%	6.0%	10.3%	3.2%	10.6%	17.5%	7.9%
2	5.9%	15.1%	8.2%	17.9%	19.5%	23.1%	8.1%	15.4%	19.3%	12.7%
3	44.1%	39.6%	36.1%	43.5%	47.7%	43.6%	50.0%	37.4%	38.6%	47.6%
4	46.1%	42.5%	52.5%	29.5%	26.8%	23.1%	38.7%	36.6%	24.6%	31.7%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔23〕 授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用		
1	54.9%	68.9%	78.7%	70.9%	74.5%	65.8%	71.0%	72.4%	68.4%	66.7%
2	29.4%	24.5%	14.8%	22.0%	19.5%	27.4%	19.4%	19.5%	26.3%	22.2%
3	13.7%	6.6%	4.9%	5.3%	4.7%	6.0%	4.8%	5.7%	5.3%	7.9%
4	2.0%		1.6%	1.8%	1.3%	0.9%	4.8%	2.4%		3.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔24〕 授業を欠席した

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	10.8%	21.7%	14.8%	16.9%	11.4%	21.4%	16.1%	17.1%	22.8%	22.2%	17.0%
2	52.0%	47.2%	62.3%	39.0%	36.9%	40.2%	37.1%	41.5%	38.6%	38.1%	43.2%
3	34.3%	29.2%	23.0%	37.0%	46.3%	32.5%	37.1%	32.5%	31.6%	31.7%	34.3%
4	2.9%	1.9%		7.1%	5.4%	6.0%	9.7%	8.9%	7.0%	7.9%	5.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔25〕 授業に遅刻した

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	49.0%	27.4%	32.8%	29.7%	23.5%	35.9%	12.9%	36.6%	36.8%	36.5%	32.5%
2	25.5%	39.6%	44.3%	36.4%	37.6%	35.0%	37.1%	35.8%	36.8%	22.2%	35.0%
3	22.5%	30.2%	19.7%	27.8%	36.2%	23.9%	40.3%	19.5%	17.5%	27.0%	26.8%
4	2.9%	2.8%	3.3%	6.1%	2.7%	5.1%	9.7%	8.1%	8.8%	14.3%	5.7%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔26〕 授業をつまらなく感じた

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	3.9%	9.4%	3.3%	3.7%	4.0%	4.3%	4.8%	1.6%	5.3%	1.6%	4.3%
2	28.4%	37.7%	37.7%	26.4%	22.1%	32.5%	32.3%	22.0%	28.1%	22.2%	28.6%
3	52.9%	47.2%	52.5%	50.6%	57.0%	41.0%	41.9%	61.0%	40.4%	57.1%	51.1%
4	14.7%	5.7%	6.6%	19.3%	16.8%	22.2%	21.0%	15.4%	26.3%	19.0%	16.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔27〕 授業中に居眠りをした

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	15.7%	18.9%	8.2%	19.3%	21.5%	17.1%	12.9%	22.0%	19.3%	12.7%	17.5%
2	30.4%	37.7%	32.8%	41.5%	40.3%	39.3%	37.1%	45.5%	45.6%	39.7%	38.9%
3	47.1%	35.8%	44.3%	32.7%	34.2%	35.0%	37.1%	28.5%	28.1%	30.2%	35.5%
4	6.9%	7.5%	14.8%	6.5%	4.0%	8.5%	12.9%	4.1%	7.0%	17.5%	8.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔28〕 学内での学習支援を受けた（教職員に学習に関する相談をした、学内の学習支援室を利用した等）

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	60.8%	51.9%	47.5%	64.6%	59.1%	70.1%	62.9%	65.0%	68.4%	52.4%	60.4%
2	24.5%	26.4%	27.9%	20.5%	24.8%	16.2%	25.8%	15.4%	22.8%	23.8%	22.5%
3	9.8%	17.9%	18.0%	12.4%	14.8%	12.8%	6.5%	14.6%	7.0%	15.9%	13.5%
4	4.9%	3.8%	6.6%	2.4%	1.3%	0.9%	3.2%	4.9%	1.8%	7.9%	3.6%
99_未回答				0.2%			1.6%				0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔29〕 単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	67.6%	62.3%	67.2%	77.2%	77.9%	76.1%	80.6%	75.6%	77.2%	61.9%	72.3%
2	15.7%	20.8%	27.9%	14.0%	12.8%	15.4%	14.5%	16.3%	8.8%	20.6%	16.5%
3	11.8%	16.0%	4.9%	7.1%	8.7%	6.0%	1.6%	6.5%	12.3%	7.9%	8.7%
4	4.9%	0.9%		1.8%	0.7%	2.6%	3.2%	1.6%	1.8%	9.5%	2.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔30〕 大学の教職員に将来のキャリアの相談をした（卒業後の進路や職業選択など）

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	82.4%	62.3%	54.1%	79.3%	84.6%	78.6%	66.1%	78.0%	84.2%	61.9%	74.4%
2	5.9%	24.5%	26.2%	12.4%	9.4%	6.8%	29.0%	15.4%	7.0%	25.4%	15.1%
3	7.8%	12.3%	18.0%	7.1%	5.4%	12.0%	4.8%	4.9%	8.8%	3.2%	8.3%
4	3.9%	0.9%	1.6%	1.2%	0.7%	2.6%		1.6%		9.5%	2.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔31〕 教員に親近感を感じた

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	30.4%	28.3%	14.8%	45.3%	45.0%	48.7%	37.1%	43.9%	50.9%	20.6%	37.3%
2	42.2%	35.8%	44.3%	39.4%	40.9%	35.9%	46.8%	40.7%	31.6%	34.9%	39.3%
3	21.6%	30.2%	34.4%	13.8%	12.8%	14.5%	12.9%	13.8%	15.8%	33.3%	19.8%
4	5.9%	5.7%	6.6%	1.2%	0.7%	0.9%	3.2%	1.6%		11.1%	3.5%
99_未回答				0.4%	0.7%				1.8%		0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

● 入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか。

1. 全然ない	4. 3～6時間未満	7. 16～20時間未満
2. 1時間未満	5. 6～11時間未満	8. 20時間以上
3. 1～3時間未満	6. 11～16時間未満	

〔32〕 授業や実験に出席する

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用		
1				0.6%	0.9%	3.2%				0.4%
2	1.0%	4.7%	1.6%	0.6%	0.7%	0.9%	1.6%			1.2%
3	1.0%	2.8%	3.3%	1.8%	1.3%	3.4%	1.6%	1.8%	3.2%	2.0%
4	2.0%	8.5%	1.6%	3.3%	4.0%	0.9%	3.2%	4.1%	5.3%	4.2%
5	3.9%	5.7%	6.6%	6.3%	6.7%	11.1%	4.8%	4.9%	9.5%	6.2%
6	5.9%	23.6%	11.5%	17.3%	22.1%	15.4%	9.7%	18.7%	14.0%	15.9%
7	19.6%	18.9%	21.3%	33.9%	32.2%	42.7%	27.4%	31.7%	31.6%	34.9%
8	66.7%	35.8%	54.1%	36.0%	32.9%	23.9%	50.0%	39.0%	47.4%	27.0%
99 未回答				0.2%	0.9%					0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔33〕 (授業時間外に) 授業課題や準備学習、復習をする

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用		
1	1.0%	0.9%	1.6%	1.6%	0.7%	2.6%	1.6%	1.6%	1.8%	1.4%
2	5.9%	14.2%	6.6%	6.1%	3.4%	7.7%	6.5%	4.1%	14.0%	4.8%
3	9.8%	17.9%	14.8%	21.3%	29.5%	18.8%	24.2%	14.6%	15.8%	25.4%
4	28.4%	25.5%	34.4%	30.7%	28.9%	34.2%	38.7%	29.3%	22.8%	34.9%
5	31.4%	20.8%	24.6%	27.6%	27.5%	27.4%	22.6%	34.1%	19.3%	25.4%
6	11.8%	5.7%	13.1%	8.9%	6.7%	7.7%	3.2%	12.2%	15.8%	4.8%
7	5.9%	6.6%	4.9%	1.8%	1.3%	0.9%		1.6%	7.0%	1.6%
8	5.9%	8.5%		2.0%	2.0%	0.9%	3.2%	2.4%	1.8%	1.6%
99 未回答				0.2%					1.8%	0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔34〕 (授業時間外に) 授業に関連しない勉強をする

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用		
1	29.4%	34.0%	32.8%	37.2%	37.6%	33.3%	46.8%	37.4%	33.3%	27.0%
2	28.4%	31.1%	27.9%	28.3%	30.2%	32.5%	25.8%	21.1%	33.3%	23.8%
3	29.4%	15.1%	21.3%	17.9%	12.8%	20.5%	17.7%	23.6%	14.0%	30.2%
4	6.9%	12.3%	9.8%	9.4%	10.7%	8.5%	6.5%	9.8%	10.5%	12.7%
5	2.0%	4.7%	6.6%	4.9%	6.7%	4.3%	1.6%	4.1%	7.0%	3.2%
6	2.0%	0.9%		1.6%	2.0%	0.9%		2.4%	1.8%	
7	1.0%			0.2%				0.8%		
8	1.0%	1.9%	1.6%	0.4%			1.6%	0.8%		3.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔35〕 オフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談する

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1	88.2%	70.8%	75.4%	87.6%	88.6%	87.2%	83.9%	90.2%	84.2%	74.6%	83.7%
2	4.9%	16.0%	14.8%	6.1%	7.4%	4.3%	6.5%	5.7%	7.0%	11.1%	8.2%
3	4.9%	6.6%	3.3%	4.1%	2.7%	5.1%	6.5%	2.4%	7.0%	6.3%	4.6%
4	1.0%	1.9%	4.9%	1.0%	0.7%	1.7%		1.6%		4.8%	1.7%
5	1.0%	2.8%		0.4%		0.9%	1.6%			1.6%	0.8%
6		0.9%		0.6%	0.7%	0.9%			1.8%		0.5%
7			1.6%								0.1%
8		0.9%								1.6%	0.2%
99_未回答				0.2%			1.6%				0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔36〕 部活動や同好会に参加する

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部							国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用			
1	55.9%	1.9%	9.8%	32.3%	29.5%	35.0%	24.2%	33.3%	40.4%	23.8%	29.0%	
2	5.9%	6.6%	3.3%	11.4%	9.4%	11.1%	11.3%	15.4%	8.8%	15.9%	9.9%	
3	8.8%	7.5%	11.5%	19.5%	16.8%	20.5%	16.1%	21.1%	24.6%	15.9%	15.8%	
4	14.7%	18.9%	16.4%	18.5%	25.5%	16.2%	24.2%	11.4%	14.0%	23.8%	18.3%	
5	10.8%	47.2%	44.3%	10.2%	6.7%	11.1%	16.1%	13.8%	3.5%	14.3%	17.7%	
6	1.0%	10.4%	9.8%	5.1%	7.4%	3.4%	4.8%	3.3%	7.0%	3.2%	5.5%	
7	1.0%	0.9%	3.3%	1.2%	2.0%	0.9%	1.6%		1.8%		1.2%	
8	2.0%	5.7%	1.6%	1.8%	2.7%	1.7%	1.6%	1.6%		3.2%	2.4%	
99_未回答		0.9%									0.1%	
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

〔37〕 学外のアパートや仕事をする

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部							国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用			
1	9.8%	26.4%	1.6%	26.0%	27.5%	23.1%	16.1%	29.3%	31.6%	11.1%	21.2%	
2	2.9%	3.8%	1.6%	2.0%	0.7%	0.9%	3.2%	3.3%	3.5%	4.8%	2.5%	
3	7.8%	9.4%	3.3%	4.3%	3.4%	6.8%	4.8%	3.3%	3.5%	11.1%	5.8%	
4	7.8%	18.9%	14.8%	12.8%	13.4%	16.2%	12.9%	11.4%	7.0%	14.3%	13.2%	
5	33.3%	19.8%	32.8%	19.9%	19.5%	20.5%	19.4%	19.5%	21.1%	27.0%	23.0%	
6	21.6%	11.3%	27.9%	22.0%	23.5%	20.5%	27.4%	22.8%	14.0%	19.0%	20.8%	
7	8.8%	6.6%	11.5%	7.9%	6.7%	7.7%	12.9%	6.5%	8.8%	4.8%	7.9%	
8	7.8%	3.8%	6.6%	5.1%	5.4%	4.3%	3.2%	4.1%	10.5%	7.9%	5.6%	
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

〔38〕読書をする（マンガ・雑誌を除く）

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1	40.2%	42.5%	24.6%	53.7%	51.0%	48.7%	58.1%	55.3%	63.2%	49.2%	48.2%
2	31.4%	31.1%	36.1%	19.7%	20.8%	17.1%	22.6%	21.1%	15.8%	23.8%	24.0%
3	12.7%	14.2%	23.0%	14.4%	14.8%	22.2%	6.5%	14.6%	5.3%	11.1%	14.5%
4	8.8%	4.7%	6.6%	6.9%	8.7%	8.5%	6.5%	3.3%	7.0%	11.1%	7.1%
5	2.9%	3.8%	1.6%	1.8%	1.3%	1.7%	1.6%	1.6%	3.5%	1.6%	2.1%
6	2.0%	1.9%	6.6%	1.2%	1.3%		1.6%	1.6%	1.8%		1.7%
7			1.6%	0.6%			1.6%	0.8%	1.8%		0.5%
8	1.0%	1.9%		1.8%	2.0%	1.7%	1.6%	1.6%	1.8%	3.2%	1.7%
99.未回答	1.0%										0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔39〕個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1	2.0%	1.9%		0.8%		1.7%			3.5%	1.6%	1.1%
2	3.9%	8.5%	9.8%	2.2%	1.3%	0.9%	4.8%	2.4%	3.5%	1.6%	3.7%
3	13.7%	10.4%	14.8%	10.0%	6.7%	9.4%	9.7%	13.8%	12.3%	14.3%	11.2%
4	26.5%	17.0%	24.6%	13.2%	14.1%	9.4%	17.7%	16.3%	7.0%	15.9%	16.3%
5	13.7%	24.5%	14.8%	17.9%	18.8%	18.8%	27.4%	15.4%	8.8%	22.2%	18.3%
6	15.7%	12.3%	11.5%	11.8%	9.4%	16.2%	9.7%	10.6%	14.0%	12.7%	12.4%
7	7.8%	8.5%	9.8%	10.2%	11.4%	8.5%	6.5%	10.6%	14.0%	11.1%	9.8%
8	16.7%	17.0%	14.8%	33.9%	38.3%	35.0%	24.2%	30.9%	36.8%	20.6%	27.3%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

● 入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

1. 大きく減った	2. 減った	3. 変化なし	4. 増えた	5. 大きく増えた
-----------	--------	---------	--------	-----------

〔40〕一般的な教養

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1		1.9%	6.6%	1.0%		0.9%	1.6%	1.6%	1.8%	3.2%	1.5%
2	5.9%	7.5%	14.8%	7.5%	5.4%	7.7%	8.1%	8.1%	10.5%	9.5%	8.0%
3	8.8%	31.1%	14.8%	28.0%	25.5%	34.2%	16.1%	27.6%	35.1%	15.9%	24.2%
4	70.6%	48.1%	41.0%	55.3%	61.1%	53.8%	59.7%	53.7%	42.1%	57.1%	55.4%
5	13.7%	8.5%	18.0%	4.9%	5.4%	2.6%	9.7%	4.1%	5.3%	7.9%	7.6%
99. 未回答	1.0%	2.8%	4.9%	3.3%	2.7%	0.9%	4.8%	4.9%	5.3%	6.3%	3.3%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔41〕 分析力や問題解決能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用		
1		0.9%		0.8%	0.9%	1.6%	0.8%	1.8%	1.6%	0.7%
2	2.0%	4.7%	8.2%	5.3%	4.7%	8.5%	3.2%	3.3%	7.0%	6.3%
3	14.7%	44.3%	18.0%	36.0%	34.9%	35.0%	37.1%	37.4%	36.8%	30.2%
4	71.6%	42.5%	63.9%	53.1%	56.4%	52.1%	48.4%	53.7%	50.9%	55.6%
5	11.8%	7.5%	9.8%	4.7%	4.0%	3.4%	9.7%	4.9%	3.5%	6.3%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔42〕 専門分野や学科の知識

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用		
1				0.8%	0.9%	1.6%	0.8%	1.8%	3.2%	0.7%
2		4.7%		3.0%	3.4%	2.6%	1.6%	2.4%	5.3%	3.2%
3	4.9%	12.3%	4.9%	13.8%	14.1%	12.8%	12.9%	13.0%	17.5%	23.8%
4	61.8%	50.0%	44.3%	61.0%	62.4%	65.8%	48.4%	64.2%	54.4%	55.6%
5	33.3%	33.0%	50.8%	21.5%	20.1%	17.9%	35.5%	19.5%	21.1%	14.3%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔43〕 批判的に考える能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用		
1		0.9%		0.6%	0.7%		1.6%		1.8%	3.2%
2	1.0%	2.8%	3.3%	6.5%	5.4%	6.0%	6.5%	7.3%	8.8%	4.8%
3	16.7%	52.8%	37.7%	54.1%	55.7%	62.4%	46.8%	52.0%	45.6%	42.9%
4	68.6%	36.8%	50.8%	33.3%	34.9%	25.6%	41.9%	31.7%	38.6%	44.4%
5	13.7%	6.6%	8.2%	5.5%	3.4%	6.0%	3.2%	8.9%	5.3%	4.8%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔44〕 異文化の人々に関する知識

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用		
1		0.9%	3.3%	1.4%	0.7%		1.6%	2.4%	3.5%	1.6%
2	3.9%	6.6%	3.3%	3.9%	2.0%	5.1%	3.2%	3.3%	8.8%	3.9%
3	29.4%	52.8%	45.9%	59.6%	64.4%	59.0%	62.9%	55.3%	54.4%	27.0%
4	58.8%	34.9%	41.0%	32.1%	30.2%	32.5%	30.6%	34.1%	33.3%	55.6%
5	7.8%	3.8%	6.6%	3.0%	2.7%	3.4%	1.6%	4.9%		15.9%
99_未回答		0.9%								0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔45〕リーダーシップの能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用		
1	1.0%	1.9%	3.3%	1.8%	0.7%	0.9%	3.2%	0.8%	7.0%	3.2%
2	3.9%	7.5%	6.6%	7.9%	5.4%	8.5%	1.6%	12.2%	10.5%	3.2%
3	49.0%	61.3%	55.7%	70.9%	75.8%	66.7%	77.4%	65.9%	70.2%	57.1%
4	43.1%	23.6%	31.1%	17.1%	16.1%	20.5%	16.1%	17.9%	12.3%	30.2%
5	2.9%	5.7%	3.3%	2.4%	2.0%	3.4%	1.6%	3.3%		6.3%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔46〕人間関係を構築する能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用		
1		0.9%		2.4%	1.3%	3.4%		1.6%	7.0%	3.2%
2	2.9%	4.7%	3.3%	9.3%	6.7%	11.1%	4.8%	12.2%	10.5%	4.8%
3	15.7%	35.8%	21.3%	42.9%	44.3%	43.6%	46.8%	35.0%	50.9%	41.3%
4	58.8%	46.2%	45.9%	38.0%	41.6%	35.0%	38.7%	39.8%	29.8%	38.1%
5	22.5%	12.3%	29.5%	7.5%	6.0%	6.8%	9.7%	11.4%	1.8%	12.7%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔47〕他の人と協力して物事を遂行する能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用		
1				1.4%	0.7%	1.7%		0.8%	5.3%	1.6%
2	1.0%	1.9%	1.6%	5.9%	6.7%	7.7%	1.6%	4.9%	7.0%	1.6%
3	13.7%	43.4%	19.7%	40.7%	38.9%	47.0%	33.9%	37.4%	47.4%	33.3%
4	58.8%	46.2%	47.5%	45.9%	47.0%	39.3%	58.1%	48.8%	36.8%	52.4%
5	26.5%	8.5%	31.1%	6.1%	6.7%	4.3%	6.5%	8.1%	3.5%	11.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔48〕異文化の人々と協力する能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用		
1	2.0%	3.8%	4.9%	2.6%	1.3%	1.7%	4.8%	1.6%	7.0%	1.6%
2	2.0%	1.9%	6.6%	5.9%	5.4%	5.1%	4.8%	6.5%	8.8%	1.6%
3	50.0%	68.9%	57.4%	74.2%	78.5%	75.2%	75.8%	71.5%	64.9%	33.3%
4	41.2%	19.8%	27.9%	15.7%	13.4%	16.2%	12.9%	18.7%	17.5%	52.4%
5	4.9%	5.7%	3.3%	1.6%	1.3%	1.7%	1.6%	1.6%	1.8%	11.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔49〕 地域社会が直面する問題を理解する能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1				1.2%	0.7%			1.6%	5.3%	3.2%	1.0%
2	4.9%	1.9%	1.6%	3.3%	2.0%	3.4%	3.2%	2.4%	8.8%	1.6%	3.1%
3	33.3%	51.9%	27.9%	63.0%	65.1%	69.2%	56.5%	57.7%	63.2%	33.3%	53.2%
4	51.0%	38.7%	60.7%	29.9%	30.9%	24.8%	35.5%	34.1%	22.8%	52.4%	37.5%
5	10.8%	7.5%	9.8%	2.6%	1.3%	2.6%	4.8%	4.1%		9.5%	5.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔50〕 国民が直面する問題を理解する能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1				1.0%				1.6%	5.3%	4.8%	1.0%
2	2.0%	3.8%	6.6%	3.9%	3.4%	2.6%	3.2%	2.4%	12.3%	1.6%	3.7%
3	33.3%	51.9%	57.4%	59.6%	59.1%	63.2%	71.0%	53.7%	54.4%	39.7%	53.8%
4	58.8%	39.6%	32.8%	33.9%	37.6%	31.6%	24.2%	39.0%	28.1%	47.6%	38.6%
5	5.9%	4.7%	3.3%	1.6%		2.6%	1.6%	3.3%		6.3%	3.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔51〕 文章表現の能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1		3.8%	1.6%	2.0%	1.3%	0.9%		2.4%	7.0%	4.8%	2.1%
2	1.0%	10.4%	4.9%	10.0%	10.1%	10.3%	9.7%	9.8%	10.5%	7.9%	8.5%
3	14.7%	38.7%	16.4%	45.9%	43.6%	52.1%	50.0%	40.7%	45.6%	41.3%	38.7%
4	63.7%	41.5%	59.0%	38.2%	40.9%	32.5%	35.5%	42.3%	36.8%	39.7%	43.3%
5	20.6%	5.7%	18.0%	3.7%	3.4%	4.3%	4.8%	4.9%		6.3%	7.3%
99_未回答				0.2%	0.7%						0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔52〕 外国語の運用能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1	1.0%	5.7%	4.9%	3.9%	2.7%	3.4%	6.5%	4.9%	3.5%	1.6%	3.7%
2	15.7%	30.2%	27.9%	22.0%	17.4%	17.9%	17.7%	31.7%	26.3%	6.3%	21.5%
3	34.3%	37.7%	34.4%	46.3%	53.7%	41.9%	50.0%	38.2%	49.1%	23.8%	41.2%
4	43.1%	21.7%	32.8%	25.2%	24.2%	35.0%	22.6%	21.1%	19.3%	55.6%	29.8%
5	5.9%	4.7%		2.6%	2.0%	1.7%	3.2%	4.1%	1.8%	12.7%	3.8%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔53〕コミュニケーションの能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1		1.9%		1.8%	1.3%	1.7%		1.6%	5.3%	3.2%	1.5%
2	1.0%	7.5%	4.9%	7.1%	7.4%	7.7%		6.5%	14.0%	4.8%	6.1%
3	21.6%	41.5%	14.8%	52.0%	49.0%	53.8%	69.4%	46.3%	49.1%	25.4%	42.3%
4	54.9%	41.5%	55.7%	35.2%	38.3%	33.3%	29.0%	39.8%	28.1%	54.0%	41.3%
5	22.5%	7.5%	24.6%	3.9%	4.0%	3.4%	1.6%	5.7%	3.5%	12.7%	8.8%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔54〕プレゼンテーションの能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.0%	0.9%		1.8%	2.0%	0.9%		1.6%	5.3%	3.2%	1.5%
2	1.0%	7.5%	1.6%	4.1%	4.0%	5.1%		4.9%	5.3%	1.6%	3.8%
3	24.5%	56.6%	19.7%	45.7%	41.6%	43.6%	48.4%	46.3%	56.1%	46.0%	42.6%
4	52.9%	31.1%	59.0%	45.3%	48.3%	47.9%	51.6%	41.5%	33.3%	42.9%	45.2%
5	20.6%	3.8%	19.7%	3.1%	4.0%	2.6%		5.7%		6.3%	6.8%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔55〕数理的な能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	4.9%	10.4%	9.8%	1.4%	1.3%	0.9%		0.8%	5.3%	12.7%	4.4%
2	14.7%	24.5%	34.4%	5.7%	4.0%	4.3%	9.7%	8.9%	1.8%	23.8%	12.6%
3	46.1%	40.6%	26.2%	30.9%	34.2%	29.1%	37.1%	32.5%	15.8%	41.3%	34.4%
4	26.5%	20.8%	27.9%	53.9%	53.7%	56.4%	45.2%	52.8%	61.4%	17.5%	41.8%
5	7.8%	3.8%	1.6%	8.1%	6.7%	9.4%	8.1%	4.9%	15.8%	4.8%	6.8%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔56〕コンピュータの操作能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.0%		1.6%	0.4%					3.5%	3.2%	0.7%
2		5.7%	1.6%	1.8%	1.3%	1.7%		2.4%	3.5%	3.2%	2.1%
3	10.8%	32.1%	16.4%	19.5%	16.8%	10.3%	38.7%	19.5%	24.6%	11.1%	19.2%
4	58.8%	49.1%	59.0%	58.9%	63.1%	53.8%	58.1%	60.2%	56.1%	68.3%	58.3%
5	29.4%	13.2%	21.3%	19.5%	18.8%	34.2%	3.2%	17.9%	12.3%	14.3%	19.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔57〕時間を効果的に利用する能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1	1.0%	4.7%		3.1%	2.7%	5.1%	1.6%	0.8%	7.0%	1.6%	2.7%
2	4.9%	16.0%	6.6%	10.8%	12.1%	10.3%	9.7%	8.9%	14.0%	9.5%	10.4%
3	28.4%	38.7%	27.9%	47.4%	49.0%	50.4%	50.0%	43.1%	43.9%	49.2%	42.7%
4	53.9%	29.2%	50.8%	35.2%	34.2%	31.6%	37.1%	40.7%	31.6%	28.6%	37.4%
5	11.8%	11.3%	14.8%	3.3%	2.0%	2.6%	1.6%	6.5%	3.5%	11.1%	6.8%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔58〕グローバルな問題の理解

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1		1.9%	3.3%	1.4%		1.7%		1.6%	5.3%	1.6%	1.4%
2	4.9%	6.6%	11.5%	3.3%	4.7%	1.7%	3.2%	3.3%	3.5%	4.8%	4.6%
3	31.4%	62.3%	55.7%	66.9%	65.8%	71.8%	69.4%	60.2%	71.9%	31.7%	58.6%
4	57.8%	24.5%	27.9%	26.0%	27.5%	23.1%	24.2%	31.7%	17.5%	54.0%	31.9%
5	5.9%	4.7%	1.6%	2.4%	2.0%	1.7%	3.2%	3.3%	1.8%	7.9%	3.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔59〕卒業後に就職するための準備の度合い

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1	1.0%	0.9%		1.2%		0.9%		1.6%	5.3%	1.6%	1.1%
2	2.9%	3.8%	3.3%	3.5%	3.4%	1.7%	1.6%	4.9%	7.0%	1.6%	3.3%
3	40.2%	57.5%	37.7%	70.3%	71.1%	65.0%	69.4%	72.4%	75.4%	52.4%	61.3%
4	44.1%	32.1%	39.3%	23.2%	23.5%	29.9%	27.4%	20.3%	10.5%	34.9%	28.9%
5	11.8%	5.7%	19.7%	1.8%	2.0%	2.6%	1.6%	0.8%	1.8%	9.5%	5.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

Ⅲ. 英語の学習状況について

〔60〕渡航経験(期間)についておうかがいします。英語でコミュニケーションをすることを目指した渡航経験があれば、その期間(複数回の経験がある場合は最長のもの)について1つ選んで回答してください。
(アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド、インド、シンガポール等)

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1_渡航したことはない	88.2%	61.3%	90.2%	90.7%	89.9%	90.6%	95.2%	91.1%	87.7%	87.3%	86.4%
2_10日未満	5.9%	15.1%	4.9%	3.3%	5.4%	2.6%		3.3%	3.5%	4.8%	5.4%
3_10日以上1ヶ月未満	4.9%	18.9%	3.3%	3.1%	2.7%	1.7%	3.2%	3.3%	7.0%	3.2%	5.4%
4_1ヶ月以上6ヶ月未満		1.9%		2.4%	2.0%	5.1%	1.6%	1.6%		1.6%	1.8%
5_6ヶ月以上		2.8%	1.6%	0.2%				0.8%		3.2%	0.8%
99_未回答	1.0%			0.2%					1.8%		0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

Ⅳ. 大学生活に対するあなたの考えや満足度について

● 本学に入学してから、あなたにとって次のことがらはどれくらいうまくいきましたか。

1. まったくうまく いかなかった	2. あまりうまく いかなかった	3. いくらかうまく いった	4. とてもうまく いった
----------------------	---------------------	-------------------	------------------

〔61〕大学の学生向けサービスを上手に利用する

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用		
1	6.9%	3.8%	4.9%	6.5%	7.4%	6.0%	6.5%	5.7%	7.0%	6.3%
2	23.5%	23.6%	13.1%	27.2%	36.2%	22.2%	19.4%	23.6%	29.8%	27.0%
3	58.8%	59.4%	62.3%	58.7%	47.0%	67.5%	66.1%	62.6%	54.4%	60.3%
4	10.8%	13.2%	19.7%	7.7%	9.4%	4.3%	8.1%	8.1%	8.8%	6.3%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔62〕大学教員の学問的な期待を理解する

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用		
1	2.9%	0.9%	1.6%	7.5%	8.1%	6.8%	4.8%	7.3%	10.5%	4.8%
2	25.5%	29.2%	37.7%	48.4%	49.0%	47.9%	38.7%	54.5%	45.6%	33.3%
3	65.7%	61.3%	54.1%	42.3%	42.3%	42.7%	56.5%	35.0%	42.1%	55.6%
4	5.9%	8.5%	6.6%	1.8%	0.7%	2.6%	0.0%	3.3%	1.8%	6.3%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔63〕効果的に学習する技能を修得する

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用		
1	2.0%	2.8%	0.0%	6.1%	6.0%	6.0%	4.8%	5.7%	8.8%	4.8%
2	22.5%	17.9%	16.4%	36.8%	38.9%	35.9%	25.8%	35.8%	47.4%	25.4%
3	67.6%	62.3%	67.2%	53.0%	54.4%	52.1%	62.9%	53.7%	38.6%	66.7%
4	7.8%	17.0%	16.4%	4.1%	0.7%	6.0%	6.5%	4.9%	5.3%	3.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔64〕大学が求める水準に応じて学習する

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用		
1	3.9%	2.8%	0.0%	5.9%	4.0%	8.5%	3.2%	5.7%	8.8%	7.9%
2	24.5%	22.6%	21.3%	40.9%	47.0%	41.0%	30.6%	38.2%	42.1%	28.6%
3	58.8%	63.2%	67.2%	48.8%	47.0%	46.2%	61.3%	48.8%	45.6%	54.0%
4	12.7%	11.3%	11.5%	4.3%	2.0%	4.3%	4.8%	7.3%	3.5%	9.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔65〕時間を効果的に使う

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	2.0%	7.5%	1.6%	8.3%	8.1%	9.4%	4.8%	7.3%	12.3%	6.3%	6.8%
2	23.5%	31.1%	24.6%	42.7%	49.0%	39.3%	33.9%	41.5%	45.6%	33.3%	36.9%
3	58.8%	48.1%	55.7%	43.1%	39.6%	45.3%	51.6%	43.9%	36.8%	50.8%	47.1%
4	15.7%	13.2%	18.0%	5.9%	3.4%	6.0%	9.7%	7.3%	5.3%	9.5%	9.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔66〕大学教員と顔見知りになる

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	14.7%	15.1%	4.9%	34.3%	40.3%	34.2%	19.4%	31.7%	40.4%	15.9%	26.0%
2	29.4%	38.7%	31.1%	44.7%	44.3%	44.4%	50.0%	46.3%	36.8%	30.2%	40.0%
3	43.1%	38.7%	47.5%	18.7%	14.1%	17.9%	27.4%	19.5%	21.1%	42.9%	28.1%
4	12.7%	7.5%	16.4%	2.4%	1.3%	3.4%	3.2%	2.4%	1.8%	11.1%	6.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔67〕他の学生との友情を深める

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.0%	2.8%	0.0%	7.5%	6.0%	8.5%	4.8%	5.7%	15.8%	6.3%	5.5%
2	6.9%	6.6%	4.9%	15.9%	16.1%	19.7%	9.7%	12.2%	22.8%	12.7%	12.6%
3	37.3%	56.6%	34.4%	50.2%	53.7%	56.4%	48.4%	43.1%	45.6%	55.6%	48.7%
4	54.9%	34.0%	60.7%	26.2%	24.2%	14.5%	37.1%	39.0%	15.8%	25.4%	33.1%
99_未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

● あなたは、本学の教育内容・環境にどれくらい満足していますか。

1. とても不満	2. 不満	3. どちらでもない	4. 満足	5. とても満足
----------	-------	------------	-------	----------

〔68〕共通教育あるいは教養教育の授業

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1	0.0%	1.9%	3.3%	3.7%	2.7%	1.7%	3.2%	4.9%	8.8%	1.6%	2.9%
2	9.8%	11.3%	1.6%	9.4%	12.1%	6.8%	4.8%	8.1%	15.8%	9.5%	9.2%
3	28.4%	40.6%	24.6%	42.7%	45.0%	47.0%	45.2%	36.6%	38.6%	30.2%	38.5%
4	52.0%	42.5%	55.7%	38.8%	38.3%	36.8%	40.3%	44.7%	29.8%	46.0%	42.6%
5	8.8%	3.8%	14.8%	5.3%	2.0%	7.7%	6.5%	5.7%	7.0%	12.7%	6.8%
99_未回答	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔69〕初年次生を対象とした教育プログラム内容（フレッシュマンセミナー、基礎ゼミなど）

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	0.0%	0.9%	1.6%	4.3%	2.7%	6.0%	3.2%	4.9%	5.3%	3.2%	3.1%
2	5.9%	9.4%	1.6%	9.4%	8.7%	7.7%	8.1%	8.9%	17.5%	6.3%	8.2%
3	50.0%	45.3%	27.9%	55.1%	55.0%	55.6%	61.3%	52.8%	52.6%	55.6%	51.3%
4	38.2%	38.7%	54.1%	28.3%	30.9%	27.4%	24.2%	30.9%	22.8%	28.6%	32.7%
5	5.9%	5.7%	14.8%	2.8%	2.7%	3.4%	3.2%	2.4%	1.8%	6.3%	4.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔70〕授業の全体的な質

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	0.0%	0.9%	0.0%	2.6%	4.0%	2.6%	0.0%	1.6%	3.5%	1.6%	1.8%
2	2.9%	6.6%	1.6%	13.0%	12.1%	13.7%	14.5%	10.6%	17.5%	6.3%	9.6%
3	37.3%	34.0%	21.3%	44.5%	41.6%	42.7%	45.2%	47.2%	49.1%	42.9%	40.5%
4	51.0%	52.8%	63.9%	38.0%	40.3%	36.8%	38.7%	39.8%	29.8%	44.4%	43.8%
5	8.8%	5.7%	13.1%	2.0%	2.0%	4.3%	1.6%	0.8%	0.0%	4.8%	4.3%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔71〕日常生活と授業内容との関連

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	0.0%	0.9%	0.0%	3.7%	4.7%	2.6%	1.6%	3.3%	7.0%	1.6%	2.5%
2	7.8%	6.6%	3.3%	11.4%	10.7%	9.4%	11.3%	10.6%	19.3%	6.3%	9.4%
3	30.4%	44.3%	26.2%	54.3%	53.7%	53.8%	53.2%	55.3%	56.1%	46.0%	47.5%
4	55.9%	44.3%	52.5%	27.8%	27.5%	29.1%	30.6%	30.1%	17.5%	42.9%	36.2%
5	5.9%	3.8%	18.0%	2.8%	3.4%	5.1%	3.2%	0.8%	0.0%	3.2%	4.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔72〕将来の仕事と授業内容の結びつき

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1	1.0%	0.9%	1.6%	3.0%	2.7%	3.4%	1.6%	3.3%	3.5%	3.2%	2.4%
2	2.0%	3.8%	1.6%	8.7%	6.0%	6.0%	3.2%	10.6%	22.8%	19.0%	7.5%
3	24.5%	32.1%	14.8%	45.9%	43.6%	47.0%	43.5%	43.1%	57.9%	38.1%	38.7%
4	52.9%	45.3%	45.9%	36.6%	41.6%	36.8%	38.7%	39.8%	14.0%	34.9%	40.2%
5	19.6%	17.9%	36.1%	5.9%	6.0%	6.8%	12.9%	3.3%	1.8%	4.8%	11.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔73〕教員と話をする機会

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	2.9%	0.9%	0.0%	5.1%	6.0%	3.4%	1.6%	5.7%	8.8%	1.6%	3.7%
2	10.8%	14.2%	6.6%	15.7%	14.8%	11.1%	21.0%	19.5%	14.0%	9.5%	13.8%
3	45.1%	52.8%	42.6%	58.1%	59.7%	59.0%	61.3%	54.5%	56.1%	54.0%	54.4%
4	34.3%	28.3%	37.7%	18.7%	18.1%	19.7%	16.1%	18.7%	21.1%	31.7%	24.2%
5	6.9%	3.8%	13.1%	2.4%	1.3%	6.8%	0.0%	1.6%	0.0%	3.2%	3.9%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔74〕学習支援や個別の学習指導

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.0%	3.8%	0.0%	3.1%	2.7%	0.9%	4.8%	4.9%	3.5%	1.6%	2.6%
2	9.8%	9.4%	8.2%	11.0%	8.7%	10.3%	11.3%	15.4%	8.8%	9.5%	10.4%
3	49.0%	52.8%	42.6%	64.0%	67.8%	65.8%	71.0%	52.0%	68.4%	61.9%	59.0%
4	34.3%	30.2%	37.7%	18.5%	17.4%	17.1%	8.1%	26.0%	19.3%	22.2%	23.6%
5	5.9%	3.8%	11.5%	3.3%	3.4%	6.0%	4.8%	1.6%	0.0%	4.8%	4.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔75〕他の学生と話をする機会

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	0.0%	0.9%	0.0%	2.4%	0.7%	1.7%	1.6%	3.3%	7.0%	1.6%	1.7%
2	2.9%	8.5%	1.6%	10.0%	14.1%	7.7%	9.7%	6.5%	12.3%	7.9%	8.2%
3	16.7%	30.2%	13.1%	37.0%	32.2%	42.7%	37.1%	34.1%	43.9%	22.2%	30.8%
4	44.1%	47.2%	50.8%	38.8%	42.3%	36.8%	35.5%	42.3%	29.8%	57.1%	42.7%
5	36.3%	13.2%	34.4%	11.8%	10.7%	11.1%	16.1%	13.8%	7.0%	11.1%	16.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔76〕大学のなかでの学生同士の一体感

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	2.0%	0.9%	0.0%	4.7%	3.4%	5.1%	4.8%	5.7%	5.3%	4.8%	3.6%
2	2.0%	10.4%	3.3%	11.6%	12.8%	10.3%	11.3%	10.6%	14.0%	9.5%	9.5%
3	29.4%	43.4%	14.8%	53.3%	52.3%	51.3%	56.5%	50.4%	63.2%	52.4%	46.3%
4	52.0%	36.8%	52.5%	25.6%	27.5%	25.6%	22.6%	28.5%	17.5%	25.4%	32.1%
5	14.7%	8.5%	29.5%	4.5%	4.0%	6.8%	4.8%	4.9%	0.0%	7.9%	8.3%
99_未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔77〕 多様な考え方を認め合う雰囲気

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.0%	0.9%	1.6%	3.0%	1.3%	2.6%	4.8%	3.3%	5.3%	1.6%	2.3%
2	1.0%	8.5%	3.3%	6.5%	8.1%	2.6%	6.5%	5.7%	12.3%	6.3%	5.8%
3	18.6%	36.8%	19.7%	49.4%	51.7%	48.7%	50.0%	48.0%	47.4%	38.1%	41.1%
4	60.8%	46.2%	45.9%	36.6%	36.2%	39.3%	35.5%	39.0%	28.1%	41.3%	41.8%
5	18.6%	7.5%	29.5%	4.3%	2.7%	6.0%	3.2%	4.1%	7.0%	12.7%	8.9%
99.未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔78〕 大学での経験全般について

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%	2.0%	0.0%	1.6%	1.6%	1.8%	4.8%	1.2%
2	2.0%	4.7%	3.3%	7.9%	6.0%	11.1%	8.1%	3.3%	15.8%	0.0%	5.8%
3	28.4%	34.9%	21.3%	40.4%	38.3%	37.6%	48.4%	39.0%	45.6%	38.1%	36.7%
4	55.9%	50.0%	47.5%	45.5%	50.3%	44.4%	37.1%	51.2%	31.6%	46.0%	47.5%
5	13.7%	9.4%	27.9%	4.7%	3.4%	6.0%	4.8%	4.9%	5.3%	11.1%	8.6%
99_未回答	0.0%	0.9%	0.0%	0.2%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔79〕 1つの授業を履修する学生数

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1	0.0%	0.0%	1.6%	2.2%	1.3%	0.0%	0.0%	3.3%	8.8%	1.6%	1.5%
2	2.0%	9.4%	0.0%	6.9%	8.7%	6.0%	6.5%	4.1%	10.5%	3.2%	5.8%
3	32.4%	48.1%	14.8%	49.6%	48.3%	47.9%	50.0%	48.0%	59.6%	36.5%	43.8%
4	55.9%	36.8%	60.7%	37.2%	38.3%	39.3%	37.1%	42.3%	19.3%	52.4%	42.3%
5	9.8%	4.7%	23.0%	3.9%	3.4%	6.0%	6.5%	2.4%	1.8%	6.3%	6.3%
99_未回答	0.0%	0.9%	0.0%	0.2%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

● あなたは、本学の設備や学生支援制度にどの程度満足していますか。

1. とても不満	2. 不満	3. どちらでもない	4. 満足	5. とても満足
----------	-------	------------	-------	----------

〔80〕図書館の設備（蔵書やレファレンスサービス）

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	2.0%	0.0%	0.0%	2.2%	1.3%	0.9%	3.2%	2.4%	5.3%	1.6%	1.7%
2	5.9%	2.8%	1.6%	4.9%	4.0%	4.3%	4.8%	8.1%	1.8%	4.8%	4.5%
3	22.5%	18.9%	16.4%	32.7%	34.9%	36.8%	37.1%	18.7%	43.9%	31.7%	28.5%
4	48.0%	51.9%	37.7%	45.5%	46.3%	41.0%	40.3%	55.3%	36.8%	49.2%	46.3%
5	21.6%	25.5%	44.3%	14.4%	13.4%	15.4%	14.5%	15.4%	12.3%	12.7%	18.7%
99_未回答	0.0%	0.9%	0.0%	0.4%	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔81〕実験室の設備や器具

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%	0.7%	0.0%	4.8%	0.8%	1.8%	1.6%	0.8%
2	4.9%	2.8%	1.6%	4.5%	5.4%	1.7%	9.7%	4.1%	3.5%	0.0%	3.8%
3	47.1%	32.1%	24.6%	52.8%	63.8%	72.6%	56.5%	22.0%	45.6%	74.6%	49.0%
4	36.3%	55.7%	45.9%	33.3%	23.5%	20.5%	24.2%	56.9%	43.9%	17.5%	36.2%
5	11.8%	9.4%	27.9%	7.7%	6.7%	3.4%	4.8%	15.4%	5.3%	6.3%	9.8%
99_未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	1.7%	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%	0.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔82〕コンピュータの施設や設備

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.0%	0.0%	0.0%	1.4%	1.3%	1.7%	0.0%	1.6%	1.8%	1.6%	1.1%
2	4.9%	6.6%	1.6%	6.9%	6.7%	10.3%	6.5%	6.5%	1.8%	3.2%	6.0%
3	33.3%	21.7%	13.1%	33.3%	34.9%	24.8%	41.9%	27.6%	49.1%	31.7%	30.2%
4	47.1%	57.5%	42.6%	46.5%	47.7%	46.2%	37.1%	55.3%	35.1%	58.7%	48.6%
5	13.7%	14.2%	42.6%	11.4%	9.4%	15.4%	14.5%	8.9%	10.5%	4.8%	13.8%
99_未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%	0.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔83〕コンピュータの訓練や援助

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	3.9%	0.9%	0.0%	1.8%	1.3%	2.6%	3.2%	0.8%	1.8%	1.6%	1.8%
2	4.9%	12.3%	3.3%	11.6%	8.1%	9.4%	16.1%	13.8%	15.8%	4.8%	9.8%
3	36.3%	39.6%	27.9%	39.2%	38.3%	31.6%	46.8%	38.2%	50.9%	38.1%	38.0%
4	41.2%	38.7%	44.3%	40.2%	44.3%	43.6%	30.6%	42.3%	28.1%	47.6%	41.0%
5	13.7%	8.5%	24.6%	6.7%	8.1%	11.1%	3.2%	4.9%	1.8%	7.9%	9.2%
99_未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%	0.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔84〕 インターネットの使いやすさ

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1	7.8%	6.6%	3.3%	12.6%	14.1%	10.3%	12.9%	7.3%	24.6%	6.3%	10.1%
2	22.5%	18.9%	18.0%	24.2%	21.5%	23.1%	32.3%	24.4%	24.6%	17.5%	22.4%
3	20.6%	30.2%	23.0%	27.8%	30.9%	27.4%	30.6%	25.2%	22.8%	28.6%	26.9%
4	38.2%	36.8%	36.1%	29.3%	29.5%	28.2%	19.4%	39.0%	21.1%	44.4%	33.0%
5	10.8%	7.5%	19.7%	5.5%	4.0%	9.4%	4.8%	4.1%	5.3%	3.2%	7.3%
99_未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%	0.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔85〕 奨学金など学費援助の制度

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.0%	0.9%	0.0%	2.6%	2.7%	1.7%	0.0%	2.4%	7.0%	1.6%	1.9%
2	5.9%	3.8%	4.9%	6.5%	6.0%	4.3%	14.5%	4.9%	7.0%	3.2%	5.7%
3	61.8%	61.3%	52.5%	65.2%	69.1%	65.8%	64.5%	62.6%	59.6%	65.1%	63.3%
4	19.6%	28.3%	31.1%	19.9%	16.8%	20.5%	12.9%	26.0%	21.1%	25.4%	22.1%
5	11.8%	5.7%	11.5%	5.3%	5.4%	6.0%	8.1%	4.1%	3.5%	4.8%	6.5%
99_未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%	0.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔86〕 健康・保健サービス（心身の健康に関わる問題についての診療や相談）

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	0.0%	0.9%	1.6%	1.8%	1.3%	1.7%	4.8%	0.8%	1.8%	1.6%	1.4%
2	2.9%	6.6%	3.3%	4.1%	6.0%	2.6%	8.1%	2.4%	1.8%	0.0%	3.9%
3	49.0%	49.1%	42.6%	68.7%	68.5%	67.5%	64.5%	69.1%	75.4%	54.0%	60.8%
4	38.2%	35.8%	34.4%	20.5%	20.8%	22.2%	17.7%	22.8%	14.0%	34.9%	26.7%
5	9.8%	7.5%	18.0%	4.3%	3.4%	4.3%	4.8%	4.9%	5.3%	9.5%	6.8%
99_未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%	0.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔87〕 レクリエーション施設（ジムの設備など）

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	4.9%	2.8%	0.0%	5.1%	4.7%	2.6%	6.5%	4.9%	10.5%	3.2%	4.3%
2	9.8%	6.6%	4.9%	12.2%	15.4%	10.3%	11.3%	13.8%	5.3%	7.9%	10.4%
3	53.9%	50.0%	52.5%	68.3%	67.1%	69.2%	67.7%	65.9%	75.4%	71.4%	63.3%
4	23.5%	33.0%	32.8%	11.4%	10.7%	13.7%	12.9%	12.2%	5.3%	14.3%	17.4%
5	7.8%	7.5%	9.8%	2.4%	2.0%	2.6%	1.6%	3.3%	1.8%	3.2%	4.3%
99_未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%	0.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔88〕 キャリアカウンセリング（就職や進学に関する相談）

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	2.0%	0.9%	3.3%	2.4%	4.0%	0.9%	1.6%	1.6%	3.5%	1.6%	2.1%
2	2.0%	5.7%	0.0%	4.9%	3.4%	5.1%	9.7%	4.9%	3.5%	1.6%	4.0%
3	64.7%	60.4%	50.8%	77.8%	80.5%	72.6%	74.2%	78.9%	82.5%	65.1%	71.1%
4	24.5%	28.3%	31.1%	11.6%	10.1%	14.5%	12.9%	12.2%	7.0%	28.6%	18.0%
5	6.9%	4.7%	14.8%	2.8%	2.0%	5.1%	1.6%	2.4%	1.8%	3.2%	4.4%
99.未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%	0.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔89〕 あなたは学部卒業後、どのような進路を考えていますか。1つ選んで回答してください。

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1.就職する	75.5%	68.9%	83.6%	16.7%	8.7%	17.1%	30.6%	14.6%	26.3%	79.4%	40.0%
2.大学院に進学する	6.9%	5.7%	3.3%	43.1%	50.3%	39.3%	33.9%	45.5%	36.8%	1.6%	28.0%
3.他大学に(編)入学する	3.9%	1.9%		6.7%	8.1%	4.3%	8.1%	4.9%	10.5%	4.8%	5.1%
4.専門学校に入学する		4.7%		1.2%		1.7%		3.3%		3.2%	1.5%
5.まだわからない	13.7%	18.9%	13.1%	31.5%	32.9%	35.9%	27.4%	30.9%	24.6%	11.1%	24.9%
99.未回答				0.8%		1.7%		0.8%	1.8%		0.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

V. 大学に入学する前や高校時代のことについて

〔90〕 あなたは現役で本学に入学しましたか、それとも浪人しましたか。

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1_現役	89.2%	41.5%	95.1%	86.0%	83.9%	88.9%	85.5%	85.4%	87.7%	92.1%	81.9%
2_浪人	9.8%	56.6%	4.9%	11.8%	15.4%	9.4%	12.9%	11.4%	7.0%	7.9%	16.4%
3_その他(留学生、社会人など)	1.0%	1.9%		1.4%	0.7%		1.6%	2.4%	3.5%		1.2%
99_未回答				0.8%		1.7%		0.8%	1.8%		0.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔91〕 あなたの志望大学の中で、本学は第1志望でしたか。

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1_第1志望だった	71.6%	41.5%	85.2%	45.5%	45.6%	47.9%	53.2%	41.5%	40.4%	52.4%	51.5%
2_第1志望ではなかった	26.5%	58.5%	14.8%	53.9%	54.4%	50.4%	46.8%	58.5%	57.9%	47.6%	47.9%
99_未回答	2.0%			0.6%		1.7%			1.8%		0.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔92〕 あなたの高校での成績はどのあたりでしたか。

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1_上位の方	30.4%	37.7%	24.6%	14.8%	8.1%	13.7%	25.8%	14.6%	22.8%	19.0%	20.6%
2_中の上くらい	22.5%	29.2%	32.8%	32.9%	34.9%	33.3%	25.8%	34.1%	31.6%	30.2%	31.0%
3_中くらい	13.7%	8.5%	21.3%	17.5%	20.8%	16.2%	17.7%	15.4%	15.8%	22.2%	16.5%
4_中の下くらい	9.8%	8.5%	11.5%	13.0%	16.8%	9.4%	12.9%	12.2%	12.3%	7.9%	11.5%
5_下位の方	17.6%	12.3%	6.6%	17.9%	17.4%	22.2%	14.5%	17.9%	14.0%	12.7%	16.0%
6_その他 (わからない、覚えていない、など)	5.9%	3.8%	3.3%	3.3%	2.0%	3.4%	3.2%	5.7%	1.8%	7.9%	4.0%
99_未回答				0.6%		1.7%			1.8%		0.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

VI. その他

- あなたが、今までに受験したことのある英語の検定試験についておうかがいします。
それぞれの試験について取得した級またはスコアの中で最も高いものを教えてください。

〔93〕 今までに英語の検定試験を受けたことはありますか

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1_受けたことはある	86.3%	87.7%	91.8%	74.0%	69.1%	73.5%	72.6%	81.3%	73.7%	95.2%	80.1%
2_受けたことはない	12.7%	11.3%	8.2%	24.0%	30.9%	21.4%	25.8%	17.9%	22.8%	4.8%	18.5%
99_未回答	1.0%	0.9%		2.0%		5.1%	1.6%	0.8%	3.5%		1.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔94〕 実用英語技能検定(英検)の受験経験はありますか

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1_受験経験あり	89.2%	82.1%	91.8%	68.9%	62.4%	69.2%	69.4%	74.8%	71.9%	90.5%	76.3%
2_受験経験なし	8.8%	17.0%	6.6%	28.5%	36.9%	25.6%	29.0%	22.8%	24.6%	9.5%	21.7%
99_未回答	2.0%	0.9%	1.6%	2.6%	0.7%	5.1%	1.6%	2.4%	3.5%		2.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔96〕 TOEICテスト(公開テストまたはIPテスト)の受験経験はありますか ※10～990点

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1_受験経験あり	7.8%	9.4%	6.6%	8.9%	10.7%	4.3%	12.9%	8.9%	8.8%	11.1%	8.8%
2_受験経験なし	92.2%	90.6%	93.4%	91.1%	89.3%	95.7%	87.1%	91.1%	91.2%	88.9%	91.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔100〕TOEFL ITPテスト(団体受験)の受験経験はありますか

※Level.1 310～677点

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1_受験経験あり	10.8%	5.7%	3.3%	1.0%	1.3%		3.2%	0.8%		92.1%	9.8%
2_受験経験なし	88.2%	94.3%	96.7%	99.0%	98.7%	100.0%	96.8%	99.2%	100.0%	7.9%	90.1%
99_未回答	1.0%										0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔104〕インターネット版 TOEFLテスト(TOEFL iBT)の受験経験はありますか

※0～120点

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1_受験経験あり	6.9%	9.4%	4.9%	1.8%	2.0%		1.6%	2.4%	3.5%	3.2%	3.7%
2_受験経験なし	93.1%	90.6%	95.1%	98.2%	98.0%	100.0%	98.4%	97.6%	96.5%	96.8%	96.3%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

● 授業外学修について尋ねます。

〔108〕以下の条件から、あなたの1週間の授業外学修時間を教えてください。前期、後期の学期中の平均的なものを教えてください。

含まないもの	含むもの
・オンデマンド授業を含む大学の授業時間(講義、実験、演習) ・科目に関係のない資格の勉強	・授業の予習(予習課題に取り組んだり、ノートや教科書の内容を確認する時間など) ・授業の復習、宿題 ・レポート作成 ・グループワーク ・実験・演習のコマ時間以外に取り組んだ時間 ・正課外の授業関連イベント ・科目の学修に密接に関係する資格の勉強

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1_0～1時間未満	2.0%	1.9%	6.6%	1.6%	2.0%	1.7%	1.6%	0.8%	1.8%	3.2%	2.1%
2_1～3時間未満	4.9%	18.9%	8.2%	13.0%	14.1%	14.5%	21.0%	8.9%	7.0%	12.7%	12.4%
3_3～5時間未満	21.6%	29.2%	21.3%	20.3%	22.8%	17.1%	30.6%	12.2%	26.3%	12.7%	21.1%
4_5～7時間未満	18.6%	12.3%	23.0%	20.1%	21.5%	23.1%	19.4%	20.3%	10.5%	22.2%	19.3%
5_7～10時間未満	20.6%	10.4%	11.5%	15.6%	16.1%	12.0%	11.3%	18.7%	19.3%	12.7%	15.0%
6_10～15時間未満	14.7%	7.5%	11.5%	13.0%	10.1%	12.8%	8.1%	18.7%	14.0%	15.9%	12.6%
7_15～20時間未満	3.9%	7.5%	14.8%	9.4%	8.1%	9.4%	3.2%	13.0%	12.3%	11.1%	9.0%
8_20～25時間未満	5.9%	3.8%		2.4%	2.7%	1.7%	1.6%	2.4%	3.5%	4.8%	3.0%
9_25～30時間未満	5.9%	3.8%	3.3%	1.0%	2.0%			1.6%		1.6%	2.1%
0_その他				0.2%				0.8%			0.1%
99_未回答	2.0%	4.7%		3.5%	0.7%	7.7%	3.2%	2.4%	5.3%	3.2%	3.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

● 最後に3問!

〔109〕壁新聞「数字で見る福井大学のいま」(右画像)が掲示板、図書館や事務室付近などに貼られていることを知っていますか?

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1_知っている	44.1%	20.8%	16.4%	45.1%	42.3%	46.2%	40.3%	53.7%	36.8%	50.8%	40.2%
2_知らない	53.9%	73.6%	82.0%	51.8%	56.4%	47.0%	58.1%	44.7%	57.9%	46.0%	56.5%
99_未回答	2.0%	5.7%	1.6%	3.1%	1.3%	6.8%	1.6%	1.6%	5.3%	3.2%	3.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔110〕授業中に内職(授業に関係のないことを)したことがありますか。

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1_まったくしなかった	11.8%	12.3%	3.3%	9.6%	8.7%	14.5%	4.8%	8.9%	8.8%	3.2%	9.3%
2_あまりしなかった	40.2%	34.9%	23.0%	30.3%	28.2%	38.5%	24.2%	29.3%	28.1%	44.4%	32.6%
3_ときどきした	41.2%	42.5%	59.0%	45.7%	48.3%	33.3%	54.8%	48.0%	49.1%	39.7%	45.2%
4_ひんぱんにした	5.9%	4.7%	14.8%	11.2%	13.4%	6.8%	14.5%	12.2%	8.8%	9.5%	9.9%
99_未回答	1.0%	5.7%		3.1%	1.3%	6.8%	1.6%	1.6%	5.3%	3.2%	3.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔111〕様々なアンケートの回答を通じて大学がよくなっていると感じていますか。

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1_思う	8.8%	5.7%	13.1%	4.9%	2.0%	4.3%	8.1%	4.1%	12.3%	4.8%	6.1%
2_やや思う	42.2%	54.7%	49.2%	41.3%	46.3%	42.7%	35.5%	44.7%	24.6%	44.4%	43.9%
3_やや思わない	30.4%	26.4%	26.2%	34.1%	32.9%	33.3%	35.5%	37.4%	29.8%	30.2%	31.8%
4_思わない	16.7%	7.5%	11.5%	16.5%	17.4%	12.8%	19.4%	12.2%	28.1%	17.5%	15.1%
99_未回答	2.0%	5.7%		3.1%	1.3%	6.8%	1.6%	1.6%	5.3%	3.2%	3.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

2023年度 在学生調査（3年生向け）質問項目

実施日 2023年11月

学 部	回答数	対象者数	回答率
教育学部	85	106	80.2%
医学部	148	171	86.5%
医学科	88	110	80.0%
看護学科	60	61	98.4%
工学部	511	567	90.1%
機械・システム工学科	152	174	87.4%
電気電子情報工学科	137	144	95.1%
建築・都市環境工学科	67	70	95.7%
物質・生命化学科	113	131	86.3%
応用物理学科	42	48	87.5%
国際地域学部	48	49	98.0%
総計	792	893	88.7%

I. あなた自身のことについて

〔1〕 あなたの片道の通学時間はどれくらいですか。

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部	機械	電気	建築	物質	応用	国際地域 学部	合計
1_30分未満	60.0%	92.0%	71.7%	84.4%	83.7%	80.1%	92.6%	86.0%	83.3%	70.8%	80.9%
2_30分以上ー1時間未満	30.6%	6.8%	21.7%	8.3%	6.5%	11.3%	4.4%	8.8%	9.5%	22.9%	12.4%
3_1時間以上ー1時間30分未満	7.1%	1.1%	6.7%	4.8%	5.2%	6.4%	1.5%	3.5%	7.1%	6.3%	4.9%
4_1時間30分以上ー2時間未満	1.2%			2.3%	4.6%	2.1%		1.8%			1.6%
5_2時間以上	1.2%										0.1%
99_未回答				0.2%			1.5%				0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔2〕 あなたの現在の居住形態は次のうちどれですか。

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部	機械	電気	建築	物質	応用	国際地域 学部	合計
1_家族または親戚と暮らしている	67.1%	21.6%	48.3%	21.8%	18.3%	29.1%	17.6%	22.8%	14.3%	60.4%	30.9%
2_アパート・学生マンションでひとり暮らし	32.9%	77.3%	51.7%	73.9%	78.4%	66.7%	79.4%	71.1%	81.0%	33.3%	65.8%
3_大学寮や宿所		1.1%		3.9%	3.3%	3.5%	2.9%	6.1%	2.4%	2.1%	2.8%
4_その他				0.4%		0.7%			2.4%	4.2%	0.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔3〕 総合的に考えて福井大学での学生生活に満足している。

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部	機械	電気	建築	物質	応用	国際地域 学部	合計
1_思わない	2.4%	8.0%	1.7%	5.6%	4.6%	8.5%	2.9%	3.5%	9.5%	4.2%	5.1%
2_やや思わない	9.4%	23.9%	10.0%	20.7%	19.0%	28.4%	17.6%	11.4%	31.0%	6.3%	18.1%
3_やや思う	49.4%	55.7%	48.3%	53.7%	54.9%	50.4%	55.9%	56.1%	50.0%	72.9%	54.2%
4_思う	38.8%	12.5%	40.0%	20.1%	21.6%	12.8%	23.5%	28.9%	9.5%	16.7%	22.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

Ⅱ. 現在のあなたの学習状況について

● あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

1. まったくなかった	2. あまりなかった	3. ときどきあった	4. ひんぱんにあった
-------------	------------	------------	-------------

〔4〕 実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1	1.2%	5.7%	1.7%	2.9%	3.3%	5.0%		0.9%	4.8%	2.1%	2.9%
2	4.7%	20.5%	3.3%	14.3%	13.1%	19.9%	10.3%	9.6%	19.0%	18.8%	13.4%
3	37.6%	70.5%	18.3%	57.5%	66.7%	54.6%	64.7%	48.2%	47.6%	35.4%	52.6%
4	56.5%	3.4%	76.7%	25.3%	17.0%	20.6%	25.0%	41.2%	28.6%	43.8%	31.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔5〕 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1	1.2%	4.5%	0.0%	5.0%	4.6%	6.4%	0.0%	2.6%	16.7%	2.1%	4.0%
2	20.0%	12.5%	6.7%	25.3%	28.8%	22.0%	19.1%	24.6%	35.7%	22.9%	21.8%
3	40.0%	59.1%	25.0%	55.4%	54.2%	56.7%	52.9%	60.5%	45.2%	62.5%	52.3%
4	38.8%	23.9%	68.3%	14.3%	12.4%	14.9%	27.9%	12.3%	2.4%	12.5%	21.9%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔6〕 授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1	2.4%	5.7%	0.0%	6.0%	7.8%	6.4%	1.5%	1.8%	16.7%	2.1%	4.9%
2	30.6%	31.8%	23.3%	25.3%	24.8%	29.8%	22.1%	21.1%	28.6%	22.9%	26.3%
3	47.1%	51.1%	48.3%	52.3%	51.6%	51.8%	50.0%	58.8%	42.9%	52.1%	51.3%
4	20.0%	11.4%	28.3%	16.4%	15.7%	12.1%	26.5%	18.4%	11.9%	22.9%	17.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔7〕 授業の一環でボランティア活動をする

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1	25.9%	53.4%	61.7%	63.3%	64.7%	63.1%	55.9%	63.2%	71.4%	45.8%	57.1%
2	36.5%	21.6%	30.0%	23.7%	20.3%	22.0%	32.4%	27.2%	19.0%	18.8%	25.0%
3	23.5%	23.9%	8.3%	10.8%	13.7%	12.8%	8.8%	7.0%	7.1%	29.2%	14.5%
4	14.1%	1.1%		2.1%	1.3%	2.1%	2.9%	2.6%	2.4%	6.3%	3.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔8〕 学生自身が文献や資料を調べる

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.2%	6.8%	1.7%	3.5%	5.2%	6.4%	0.0%	0.0%	2.4%	0.0%	3.3%
2	5.9%	31.8%	10.0%	17.6%	20.9%	24.1%	10.3%	10.5%	14.3%	16.7%	17.3%
3	36.5%	53.4%	51.7%	45.0%	47.1%	45.4%	57.4%	37.7%	35.7%	33.3%	44.8%
4	56.5%	8.0%	36.7%	34.0%	26.8%	24.1%	32.4%	51.8%	47.6%	50.0%	34.7%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔9〕 定期的に小テストやレポートが課される

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	0.0%	3.4%	0.0%	0.8%	0.7%	0.7%	0.0%	0.0%	4.8%	2.1%	1.0%
2	4.7%	14.8%	5.0%	4.8%	7.8%	3.5%	1.5%	4.4%	4.8%	8.3%	6.1%
3	23.5%	56.8%	36.7%	25.9%	25.5%	33.3%	16.2%	21.9%	28.6%	18.8%	29.4%
4	71.8%	25.0%	58.3%	68.5%	66.0%	62.4%	82.4%	73.7%	61.9%	70.8%	63.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔10〕 教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	4.7%	38.6%	3.3%	6.9%	3.9%	13.5%	7.4%	3.5%	4.8%	10.4%	10.1%
2	45.9%	37.5%	28.3%	24.7%	21.6%	29.8%	29.4%	26.3%	7.1%	37.5%	29.4%
3	41.2%	22.7%	58.3%	52.5%	57.5%	48.2%	48.5%	57.0%	42.9%	43.8%	47.9%
4	8.2%	1.1%	10.0%	15.8%	17.0%	8.5%	14.7%	13.2%	45.2%	8.3%	12.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔11〕 学生が自分の考えや研究を発表する

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	0.0%	21.6%	1.7%	7.5%	8.5%	7.8%	0.0%	7.0%	16.7%	2.1%	7.5%
2	8.2%	43.2%	11.7%	35.3%	40.5%	31.9%	14.7%	42.1%	42.9%	4.2%	29.7%
3	43.5%	35.2%	51.7%	47.1%	43.1%	53.2%	57.4%	43.9%	33.3%	54.2%	46.2%
4	48.2%	0.0%	35.0%	10.0%	7.8%	7.1%	27.9%	7.0%	7.1%	39.6%	16.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔12〕授業中に学生同士が議論をする

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	0.0%	29.5%	1.7%	11.2%	13.1%	17.0%	1.5%	7.0%	11.9%	2.1%	10.8%
2	8.2%	39.8%	1.7%	40.5%	43.1%	40.4%	26.5%	50.9%	26.2%	10.4%	32.3%
3	32.9%	29.5%	46.7%	42.3%	38.6%	38.3%	61.8%	37.7%	50.0%	33.3%	39.7%
4	58.8%	1.1%	50.0%	6.0%	5.2%	4.3%	10.3%	4.4%	11.9%	54.2%	17.3%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔13〕授業で検討するテーマを学生が設定する

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	5.9%	47.7%	15.0%	28.0%	32.7%	22.0%	10.3%	34.2%	42.9%	10.4%	25.8%
2	38.8%	31.8%	36.7%	44.8%	46.4%	46.8%	39.7%	47.4%	33.3%	31.3%	41.3%
3	32.9%	19.3%	36.7%	23.2%	18.3%	28.4%	41.2%	15.8%	14.3%	41.7%	25.9%
4	22.4%	1.1%	11.7%	4.1%	2.6%	2.8%	8.8%	2.6%	9.5%	16.7%	7.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔14〕授業の進め方に学生の意見が取り入れられる

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	10.6%	35.2%	20.0%	18.7%	19.6%	17.0%	13.2%	21.9%	21.4%	6.3%	19.0%
2	42.4%	37.5%	50.0%	39.8%	34.6%	40.4%	48.5%	40.4%	40.5%	43.8%	40.8%
3	35.3%	27.3%	23.3%	35.7%	37.9%	37.6%	30.9%	33.3%	35.7%	45.8%	34.4%
4	11.8%	0.0%	6.7%	5.8%	7.8%	5.0%	7.4%	4.4%	2.4%	4.2%	5.8%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔15〕取りたい授業を履修登録できなかった

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	36.5%	55.7%	75.0%	39.2%	28.8%	41.8%	45.6%	47.4%	35.7%	27.1%	42.7%
2	29.4%	22.7%	16.7%	36.9%	47.7%	29.8%	35.3%	33.3%	33.3%	31.3%	32.7%
3	27.1%	20.5%	8.3%	19.7%	20.9%	24.1%	16.2%	14.0%	21.4%	37.5%	20.8%
4	7.1%	1.1%	0.0%	4.2%	2.6%	4.3%	2.9%	5.3%	9.5%	4.2%	3.9%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔16〕 出席することが重視される

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.2%	8.0%	1.7%	3.5%	2.6%	4.3%	0.0%	3.5%	9.5%	4.2%	3.6%
2	14.1%	17.0%	5.0%	19.5%	17.6%	18.4%	14.7%	27.2%	16.7%	10.4%	17.0%
3	49.4%	58.0%	28.3%	42.1%	40.5%	46.1%	38.2%	38.6%	50.0%	37.5%	43.3%
4	35.3%	17.0%	65.0%	34.9%	39.2%	31.2%	47.1%	30.7%	23.8%	47.9%	36.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔17〕 TAやSAなどの授業補助者から補助を受ける

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	15.3%	48.9%	31.7%	6.8%	5.9%	7.8%	10.3%	5.3%	4.8%	62.5%	17.5%
2	41.2%	27.3%	40.0%	20.1%	20.3%	17.7%	22.1%	21.1%	21.4%	18.8%	24.5%
3	40.0%	21.6%	25.0%	55.4%	56.2%	56.7%	57.4%	50.9%	57.1%	16.7%	45.4%
4	3.5%	2.3%	3.3%	17.8%	17.6%	17.7%	10.3%	22.8%	16.7%	2.1%	12.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

● 大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらい経験しましたか。

1. まったくしなかった	2. あまりしなかった	3. ときどきした	4. ひんぱんにした
--------------	-------------	-----------	------------

〔18〕 授業課題のために図書館の資料を利用した

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1	18.8%	20.5%	3.3%	17.8%	17.0%	28.4%	25.0%	7.0%	2.4%	20.8%	17.3%
2	31.8%	29.5%	3.3%	32.4%	30.7%	40.4%	48.5%	21.9%	14.3%	31.3%	29.8%
3	29.4%	36.4%	48.3%	36.1%	39.9%	26.2%	20.6%	46.5%	52.4%	29.2%	35.9%
4	18.8%	13.6%	45.0%	13.7%	12.4%	5.0%	5.9%	24.6%	31.0%	18.8%	16.9%
99_未回答	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔19〕 授業課題のためにWeb上の情報を利用した

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	0.0%	4.5%	1.7%	1.2%	0.7%	1.4%	0.0%	0.9%	4.8%	0.0%	1.4%
2	5.9%	10.2%	0.0%	5.8%	6.5%	7.8%	1.5%	6.1%	2.4%	2.1%	5.6%
3	32.9%	63.6%	25.0%	35.1%	37.9%	37.6%	30.9%	31.6%	33.3%	22.9%	36.5%
4	61.2%	21.6%	73.3%	57.9%	54.9%	53.2%	67.6%	61.4%	59.5%	75.0%	56.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔20〕 インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	0.0%	2.3%	1.7%	1.2%	0.7%	0.7%	1.5%	1.8%	2.4%	2.1%	1.3%
2	2.4%	5.7%	0.0%	2.7%	4.6%	2.1%	0.0%	1.8%	4.8%	0.0%	2.6%
3	17.6%	51.1%	21.7%	23.9%	17.6%	34.0%	20.6%	23.7%	19.0%	14.6%	25.5%
4	80.0%	40.9%	76.7%	72.2%	77.1%	63.1%	77.9%	72.8%	73.8%	83.3%	70.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔21〕 提出期限までに授業課題を完成できなかった

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1	18.8%	47.7%	86.7%	20.3%	15.0%	21.3%	11.8%	30.7%	21.4%	12.5%	27.7%
2	31.8%	30.7%	8.3%	37.5%	40.5%	36.9%	47.1%	36.0%	16.7%	31.3%	33.5%
3	44.7%	19.3%	3.3%	34.6%	34.0%	35.5%	32.4%	28.9%	52.4%	47.9%	32.4%
4	4.7%	2.3%	0.0%	7.7%	10.5%	6.4%	8.8%	4.4%	9.5%	8.3%	6.3%
99_未回答	0.0%	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔22〕 授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.2%	17.0%	1.7%	7.5%	7.2%	9.9%	5.9%	4.4%	11.9%	0.0%	7.0%
2	11.8%	22.7%	5.0%	18.5%	24.2%	15.6%	10.3%	20.2%	16.7%	25.0%	17.6%
3	41.2%	37.5%	38.3%	45.8%	51.6%	46.8%	42.6%	43.9%	31.0%	50.0%	44.1%
4	45.9%	22.7%	53.3%	28.2%	17.0%	27.7%	41.2%	31.6%	40.5%	25.0%	31.2%
99_未回答	0.0%	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔23〕 授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	49.4%	72.7%	76.7%	61.6%	54.2%	63.8%	63.2%	66.7%	64.3%	68.8%	63.1%
2	36.5%	15.9%	15.0%	28.4%	32.7%	27.0%	29.4%	25.4%	23.8%	16.7%	26.2%
3	10.6%	11.4%	5.0%	8.7%	11.8%	8.5%	7.4%	6.1%	7.1%	8.3%	8.9%
4	3.5%	0.0%	3.3%	1.4%	1.3%	0.7%	0.0%	1.8%	4.8%	6.3%	1.9%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔24〕授業を欠席した

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	18.8%	11.4%	41.7%	13.9%	11.8%	13.5%	14.7%	18.4%	9.5%	4.2%	15.6%
2	49.4%	48.9%	51.7%	40.3%	45.8%	41.1%	35.3%	41.2%	23.8%	39.6%	43.1%
3	27.1%	34.1%	5.0%	37.3%	34.6%	36.9%	42.6%	33.3%	50.0%	43.8%	33.8%
4	4.7%	5.7%	1.7%	8.3%	7.8%	8.5%	5.9%	7.0%	16.7%	12.5%	7.4%
99_未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔25〕授業に遅刻した

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部							国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用			
1	34.1%	11.4%	56.7%	23.7%	20.9%	20.6%	14.7%	36.0%	26.2%	29.2%	26.3%	
2	40.0%	44.3%	30.0%	36.9%	41.8%	38.3%	39.7%	31.6%	23.8%	29.2%	37.0%	
3	20.0%	36.4%	11.7%	29.5%	28.8%	30.5%	35.3%	23.7%	35.7%	29.2%	27.9%	
4	5.9%	8.0%	1.7%	9.8%	8.5%	10.6%	10.3%	8.8%	14.3%	12.5%	8.8%	
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

〔26〕授業をつまらなく感じた

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	4.7%	2.3%	6.7%	3.3%	2.0%	2.1%	1.5%	8.8%	0.0%	4.2%	3.6%
2	31.8%	21.6%	36.7%	27.4%	34.0%	23.4%	27.9%	28.1%	14.3%	35.4%	28.4%
3	49.4%	51.1%	50.0%	53.9%	50.3%	53.2%	57.4%	53.5%	64.3%	39.6%	51.9%
4	14.1%	25.0%	6.7%	15.4%	13.7%	21.3%	13.2%	9.6%	21.4%	20.8%	16.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔27〕授業中に居眠りをした

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部							国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用			
1	17.6%	11.4%	26.7%	22.6%	25.5%	17.7%	17.6%	24.6%	31.0%	25.0%	21.3%	
2	42.4%	40.9%	26.7%	37.3%	34.6%	43.3%	29.4%	38.6%	35.7%	37.5%	37.4%	
3	34.1%	39.8%	40.0%	34.9%	37.3%	31.9%	47.1%	31.6%	26.2%	25.0%	35.2%	
4	5.9%	8.0%	6.7%	5.2%	2.6%	7.1%	5.9%	5.3%	7.1%	12.5%	6.1%	
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

〔28〕 学内での学習支援を受けた（教職員に学習に関する相談をした、学内の学習支援室を利用した等）

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	41.2%	54.5%	36.7%	47.5%	47.7%	49.6%	45.6%	48.2%	40.5%	43.8%	46.6%
2	28.2%	29.5%	30.0%	32.6%	33.3%	32.6%	33.8%	31.6%	31.0%	37.5%	31.9%
3	25.9%	14.8%	26.7%	16.4%	18.3%	15.6%	13.2%	16.7%	16.7%	6.3%	17.4%
4	4.7%	1.1%	6.7%	3.5%	0.7%	2.1%	7.4%	3.5%	11.9%	12.5%	4.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔29〕 単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	37.6%	53.4%	61.7%	67.8%	69.9%	67.4%	61.8%	70.2%	64.3%	68.8%	62.6%
2	35.3%	23.9%	25.0%	19.9%	17.0%	22.7%	20.6%	19.3%	21.4%	12.5%	21.9%
3	22.4%	18.2%	10.0%	9.8%	11.8%	9.9%	11.8%	7.0%	7.1%	14.6%	12.4%
4	4.7%	4.5%	3.3%	2.5%	1.3%	0.0%	5.9%	3.5%	7.1%	4.2%	3.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔30〕 大学の教職員に将来のキャリアの相談をした（卒業後の進路や職業選択など）

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	43.5%	68.2%	21.7%	50.2%	51.6%	52.5%	30.9%	53.5%	59.5%	29.2%	48.1%
2	31.8%	21.6%	31.7%	30.9%	31.4%	30.5%	38.2%	28.9%	23.8%	29.2%	29.9%
3	21.2%	9.1%	38.3%	15.8%	14.4%	16.3%	26.5%	13.2%	9.5%	35.4%	18.5%
4	3.5%	1.1%	8.3%	3.1%	2.6%	0.7%	4.4%	4.4%	7.1%	6.3%	3.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔31〕 教員に親近感を感じた

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1	17.6%	35.2%	10.0%	32.0%	32.0%	42.6%	16.2%	28.9%	31.0%	20.8%	28.5%
2	32.9%	42.0%	35.0%	42.3%	43.1%	39.7%	47.1%	42.1%	40.5%	33.3%	40.2%
3	42.4%	21.6%	40.0%	20.8%	19.6%	14.9%	32.4%	23.7%	19.0%	41.7%	25.9%
4	7.1%	1.1%	15.0%	4.6%	4.6%	2.8%	4.4%	5.3%	9.5%	4.2%	5.3%
99_未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

● 今年度になってから、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか。

1. 全然ない	4. 3～6時間未満	7. 16～20時間未満
2. 1時間未満	5. 6～11時間未満	8. 20時間以上
3. 1～3時間未満	6. 11～16時間未満	

〔32〕授業や実験に出席する

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1	1.2%	4.5%	3.3%	1.2%	0.7%	2.1%	0.0%	1.8%	0.0%	2.1%	1.8%
2	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	2.6%	1.4%	2.9%	1.8%	4.8%	0.0%	1.5%
3	1.2%	2.3%	5.0%	4.4%	5.9%	5.0%	4.4%	3.5%	0.0%	8.3%	4.1%
4	10.6%	6.8%	5.0%	14.1%	20.9%	6.4%	16.2%	14.9%	9.5%	12.5%	12.1%
5	35.3%	12.5%	8.3%	22.8%	29.4%	9.9%	25.0%	30.7%	16.7%	27.1%	22.2%
6	31.8%	12.5%	8.3%	23.9%	24.8%	27.0%	22.1%	21.9%	19.0%	29.2%	22.7%
7	10.6%	27.3%	3.3%	18.3%	10.5%	27.7%	20.6%	8.8%	38.1%	12.5%	17.0%
8	9.4%	34.1%	66.7%	12.9%	5.2%	20.6%	8.8%	16.7%	11.9%	8.3%	18.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔33〕（授業時間外に）授業課題や準備学習、復習をする

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1	2.4%	15.9%	3.3%	4.4%	5.9%	4.3%	1.5%	4.4%	4.8%	6.3%	5.5%
2	2.4%	11.4%	5.0%	11.6%	16.3%	8.5%	13.2%	11.4%	2.4%	8.3%	9.9%
3	20.0%	19.3%	15.0%	19.9%	26.8%	14.9%	16.2%	18.4%	21.4%	27.1%	19.9%
4	32.9%	18.2%	15.0%	34.2%	27.5%	37.6%	32.4%	43.0%	26.2%	37.5%	31.0%
5	22.4%	9.1%	13.3%	18.5%	15.0%	21.3%	13.2%	18.4%	31.0%	16.7%	17.4%
6	11.8%	13.6%	15.0%	5.8%	4.6%	8.5%	8.8%	2.6%	4.8%	4.2%	7.9%
7	3.5%	5.7%	6.7%	1.4%	0.7%	0.7%	4.4%	0.9%	2.4%	0.0%	2.4%
8	4.7%	6.8%	26.7%	4.2%	3.3%	4.3%	10.3%	0.9%	7.1%	0.0%	6.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔34〕（授業時間外に）授業に関連しない勉強をする

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1	20.0%	36.4%	48.3%	27.0%	24.2%	29.8%	25.0%	28.1%	28.6%	8.3%	27.8%
2	24.7%	22.7%	25.0%	27.6%	32.7%	25.5%	36.8%	20.2%	21.4%	22.9%	26.3%
3	25.9%	12.5%	10.0%	22.2%	24.8%	22.0%	13.2%	23.7%	23.8%	31.3%	21.2%
4	17.6%	12.5%	8.3%	13.3%	13.7%	9.2%	17.6%	15.8%	11.9%	8.3%	13.0%
5	5.9%	10.2%	1.7%	6.2%	2.6%	7.8%	4.4%	7.9%	11.9%	10.4%	6.5%
6	2.4%	1.1%	3.3%	1.7%	1.3%	2.8%	2.9%	0.0%	2.4%	6.3%	2.1%
7	1.2%	1.1%	0.0%	0.8%	0.0%	1.4%	0.0%	1.8%	0.0%	4.2%	1.0%
8	2.4%	3.4%	3.3%	1.2%	0.7%	1.4%	0.0%	2.6%	0.0%	8.3%	2.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔35〕 オフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談する

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1	67.1%	77.3%	75.0%	80.9%	76.5%	86.5%	75.0%	82.5%	83.3%	66.7%	77.7%
2	24.7%	14.8%	18.3%	12.0%	15.7%	8.5%	17.6%	9.6%	7.1%	20.8%	14.6%
3	3.5%	4.5%	3.3%	3.1%	3.3%	2.1%	2.9%	3.5%	4.8%	6.3%	3.5%
4	2.4%	1.1%	3.3%	3.5%	3.9%	2.8%	4.4%	3.5%	2.4%	2.1%	3.0%
5	1.2%	1.1%	0.0%	0.4%	0.7%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	2.1%	0.6%
6	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%	0.3%
8	1.2%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.4%	0.0%	0.3%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔36〕 部活動や同好会に参加する

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1	72.9%	19.3%	61.7%	55.2%	50.3%	58.9%	58.8%	57.0%	50.0%	56.3%	53.7%
2	3.5%	4.5%	6.7%	7.5%	8.5%	5.0%	10.3%	7.9%	7.1%	4.2%	6.5%
3	7.1%	3.4%	10.0%	10.4%	14.4%	7.8%	5.9%	10.5%	11.9%	10.4%	9.3%
4	9.4%	20.5%	8.3%	10.2%	11.1%	11.3%	7.4%	10.5%	7.1%	14.6%	11.4%
5	4.7%	33.0%	8.3%	8.5%	9.8%	5.7%	10.3%	6.1%	16.7%	4.2%	10.5%
6	2.4%	8.0%	3.3%	4.4%	0.7%	7.8%	4.4%	6.1%	2.4%	10.4%	4.9%
7	0.0%	3.4%	1.7%	1.0%	1.3%	1.4%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	1.1%
8	0.0%	8.0%	0.0%	2.7%	3.9%	2.1%	2.9%	0.9%	4.8%	0.0%	2.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔37〕 学外のアパートや仕事をする

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1	7.1%	12.5%	8.3%	15.4%	17.0%	20.6%	8.8%	9.6%	19.0%	4.2%	13.0%
2	3.5%	5.7%	1.7%	4.2%	2.0%	6.4%	1.5%	5.3%	7.1%	2.1%	4.0%
3	1.2%	8.0%	3.3%	4.8%	4.6%	5.7%	0.0%	5.3%	9.5%	6.3%	4.8%
4	9.4%	15.9%	11.7%	9.1%	8.5%	7.8%	10.3%	10.5%	9.5%	14.6%	10.4%
5	20.0%	23.9%	20.0%	17.4%	13.7%	24.8%	8.8%	17.5%	19.0%	25.0%	19.0%
6	24.7%	17.0%	31.7%	21.6%	21.6%	19.1%	27.9%	25.4%	9.5%	16.7%	21.9%
7	17.6%	6.8%	13.3%	14.3%	15.7%	9.2%	19.1%	16.7%	11.9%	25.0%	14.4%
8	16.5%	10.2%	10.0%	13.1%	17.0%	6.4%	23.5%	9.6%	14.3%	6.3%	12.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔38〕読書をする（マンガ・雑誌を除く）

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1	45.9%	46.6%	51.7%	49.0%	48.4%	48.9%	52.9%	48.2%	47.6%	39.6%	48.1%
2	24.7%	29.5%	25.0%	22.2%	25.5%	18.4%	20.6%	22.8%	23.8%	29.2%	23.9%
3	14.1%	4.5%	11.7%	15.3%	15.0%	16.3%	16.2%	14.0%	14.3%	12.5%	13.5%
4	9.4%	12.5%	6.7%	9.7%	9.2%	9.9%	10.3%	8.8%	11.9%	14.6%	10.0%
5	2.4%	2.3%	5.0%	1.9%	0.7%	4.3%	0.0%	2.6%	0.0%	2.1%	2.3%
6	0.0%	2.3%	0.0%	1.2%	0.7%	2.1%	0.0%	1.8%	0.0%	2.1%	1.1%
7	1.2%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.3%
8	2.4%	2.3%	0.0%	0.6%	0.7%	0.0%	0.0%	0.9%	2.4%	0.0%	0.9%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔39〕個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1	2.4%	3.4%	3.3%	2.1%	2.0%	2.8%	1.5%	0.9%	4.8%	2.1%	2.4%
2	7.1%	6.8%	3.3%	3.3%	3.3%	2.8%	7.4%	1.8%	2.4%	8.3%	4.4%
3	14.1%	19.3%	18.3%	9.1%	8.5%	11.3%	7.4%	8.8%	7.1%	10.4%	11.5%
4	22.4%	12.5%	25.0%	17.2%	15.7%	19.1%	11.8%	18.4%	21.4%	18.8%	17.9%
5	14.1%	21.6%	16.7%	17.6%	15.7%	14.9%	27.9%	16.7%	19.0%	22.9%	17.9%
6	11.8%	14.8%	6.7%	12.0%	11.8%	11.3%	7.4%	15.8%	11.9%	8.3%	11.6%
7	8.2%	3.4%	11.7%	7.7%	8.5%	8.5%	10.3%	4.4%	7.1%	10.4%	7.8%
8	20.0%	18.2%	15.0%	31.1%	34.6%	29.1%	26.5%	33.3%	26.2%	18.8%	26.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

● 入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

1. 大きく減った	2. 減った	3. 変化なし	4. 増えた	5. 大きく増えた
-----------	--------	---------	--------	-----------

〔40〕一般的な教養

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.2%	1.1%	0.0%	0.8%	0.7%	0.7%	0.0%	0.9%	2.4%	4.2%	1.0%
2	5.9%	4.5%	0.0%	3.9%	5.2%	2.1%	7.4%	3.5%	0.0%	2.1%	3.8%
3	7.1%	35.2%	8.3%	15.8%	18.3%	17.0%	11.8%	12.3%	19.0%	6.3%	15.9%
4	63.5%	53.4%	75.0%	60.8%	58.2%	68.1%	60.3%	58.8%	52.4%	60.4%	61.3%
5	18.8%	2.3%	15.0%	14.9%	13.1%	10.6%	19.1%	18.4%	19.0%	16.7%	14.0%
99_未回答	3.5%	3.4%	1.7%	3.9%	4.6%	1.4%	1.5%	6.1%	7.1%	10.4%	4.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔41〕 分析力や問題解決能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.2%	2.3%	0.0%	0.8%	0.0%	0.7%	1.5%	0.9%	2.4%	4.2%	1.1%
2	2.4%	5.7%	0.0%	2.9%	4.6%	2.8%	2.9%	0.9%	2.4%	2.1%	2.9%
3	11.8%	50.0%	3.3%	19.5%	26.8%	17.7%	14.7%	14.9%	19.0%	10.4%	20.3%
4	57.6%	39.8%	63.3%	64.1%	58.2%	68.1%	60.3%	71.1%	59.5%	68.8%	61.0%
5	27.1%	2.3%	33.3%	12.7%	10.5%	10.6%	20.6%	12.3%	16.7%	14.6%	14.8%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔42〕 専門分野や学科の知識

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.2%	1.1%	0.0%	0.8%	0.0%	1.4%	0.0%	0.9%	2.4%	2.1%	0.9%
2	0.0%	1.1%	0.0%	1.4%	2.0%	2.1%	0.0%	0.9%	0.0%	4.2%	1.3%
3	4.7%	10.2%	0.0%	9.5%	11.8%	9.2%	5.9%	6.1%	16.7%	10.4%	8.4%
4	44.7%	54.5%	41.7%	58.1%	64.7%	55.3%	48.5%	60.5%	52.4%	70.8%	55.8%
5	49.4%	33.0%	58.3%	30.3%	21.6%	31.9%	45.6%	31.6%	28.6%	12.5%	33.7%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔43〕 批判的に考える能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	0.0%	1.1%	0.0%	0.8%	0.7%	0.7%	0.0%	0.9%	2.4%	0.0%	0.6%
2	1.2%	3.4%	0.0%	4.1%	4.6%	3.5%	2.9%	4.4%	4.8%	4.2%	3.4%
3	14.1%	58.0%	10.0%	36.5%	37.9%	36.9%	33.8%	36.0%	35.7%	18.8%	33.4%
4	56.5%	33.0%	70.0%	49.2%	46.4%	48.9%	51.5%	52.6%	47.6%	72.9%	51.2%
5	28.2%	4.5%	20.0%	9.5%	10.5%	9.9%	11.8%	6.1%	9.5%	4.2%	11.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔44〕 異文化の人々に関する知識

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	0.0%	2.3%	0.0%	2.3%	3.3%	1.4%	2.9%	1.8%	2.4%	2.1%	1.9%
2	4.7%	8.0%	5.0%	4.2%	4.6%	5.7%	1.5%	3.5%	4.8%	0.0%	4.5%
3	36.5%	60.2%	38.3%	51.7%	52.3%	52.5%	42.6%	54.4%	54.8%	10.4%	47.6%
4	42.4%	27.3%	50.0%	32.8%	30.7%	32.6%	38.2%	32.5%	33.3%	66.7%	36.5%
5	16.5%	2.3%	6.7%	8.9%	9.2%	7.8%	14.7%	7.9%	4.8%	20.8%	9.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔45〕リーダーシップの能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	0.0%	5.7%	3.3%	1.5%	2.6%	1.4%	0.0%	0.9%	2.4%	6.3%	2.3%
2	3.5%	10.2%	3.3%	6.2%	5.2%	5.7%	5.9%	6.1%	11.9%	2.1%	5.9%
3	27.1%	47.7%	16.7%	53.3%	58.8%	53.2%	38.2%	56.1%	50.0%	25.0%	45.4%
4	54.1%	29.5%	63.3%	31.3%	25.5%	30.5%	44.1%	31.6%	33.3%	60.4%	37.7%
5	15.3%	6.8%	13.3%	7.7%	7.8%	9.2%	11.8%	5.3%	2.4%	6.3%	8.8%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔46〕人間関係を構築する能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	0.0%	4.5%	0.0%	2.1%	3.9%	1.4%	0.0%	1.8%	2.4%	2.1%	2.0%
2	1.2%	6.8%	0.0%	5.6%	6.5%	5.0%	2.9%	3.5%	14.3%	6.3%	4.9%
3	15.3%	40.9%	10.0%	28.4%	32.0%	32.6%	17.6%	24.6%	28.6%	20.8%	26.5%
4	51.8%	39.8%	60.0%	46.3%	41.2%	46.1%	51.5%	51.8%	42.9%	54.2%	47.7%
5	31.8%	8.0%	30.0%	17.6%	16.3%	14.9%	27.9%	18.4%	11.9%	16.7%	18.9%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔47〕他の人と協力して物事を遂行する能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	0.0%	2.3%	0.0%	1.4%	2.0%	0.7%	0.0%	1.8%	2.4%	0.0%	1.1%
2	1.2%	6.8%	1.7%	2.5%	2.6%	3.5%	0.0%	0.9%	7.1%	2.1%	2.8%
3	17.6%	51.1%	5.0%	23.6%	26.1%	25.5%	14.7%	21.9%	26.2%	10.4%	23.8%
4	49.4%	34.1%	50.0%	56.6%	54.2%	56.0%	63.2%	58.8%	50.0%	70.8%	53.7%
5	31.8%	5.7%	43.3%	16.0%	15.0%	14.2%	22.1%	16.7%	14.3%	16.7%	18.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔48〕異文化の人々と協力する能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	4.7%	3.4%	3.3%	3.3%	3.3%	3.5%	4.4%	1.8%	4.8%	0.0%	3.3%
2	4.7%	10.2%	6.7%	4.4%	3.9%	8.5%	1.5%	0.9%	7.1%	8.3%	5.5%
3	56.5%	67.0%	51.7%	64.7%	70.6%	61.0%	47.1%	69.3%	71.4%	20.8%	60.5%
4	25.9%	17.0%	35.0%	22.0%	17.6%	22.7%	35.3%	21.9%	14.3%	56.3%	24.9%
5	8.2%	2.3%	3.3%	5.6%	4.6%	4.3%	11.8%	6.1%	2.4%	14.6%	5.9%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔49〕 地域社会が直面する問題を理解する能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.2%	2.3%	0.0%	1.7%	1.3%	3.5%	0.0%	0.9%	2.4%	2.1%	1.6%
2	1.2%	5.7%	1.7%	4.4%	5.9%	6.4%	0.0%	2.6%	4.8%	0.0%	3.8%
3	35.3%	55.7%	13.3%	50.8%	56.9%	52.5%	27.9%	50.0%	61.9%	10.4%	44.4%
4	44.7%	36.4%	73.3%	36.5%	31.4%	34.8%	52.9%	39.5%	26.2%	62.5%	41.7%
5	17.6%	0.0%	11.7%	6.4%	4.6%	2.8%	19.1%	6.1%	4.8%	25.0%	8.4%
99_未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔50〕 国民が直面する問題を理解する能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	2.4%	2.3%	0.0%	1.9%	1.3%	2.8%	0.0%	2.6%	2.4%	0.0%	1.8%
2	3.5%	8.0%	1.7%	3.9%	3.9%	5.0%	2.9%	2.6%	4.8%	4.2%	4.1%
3	36.5%	58.0%	23.3%	48.6%	46.4%	53.9%	35.3%	50.9%	54.8%	22.9%	44.9%
4	48.2%	28.4%	66.7%	39.6%	41.8%	34.8%	48.5%	39.5%	33.3%	68.8%	43.1%
5	9.4%	3.4%	8.3%	6.0%	6.5%	3.5%	13.2%	4.4%	4.8%	4.2%	6.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔51〕 文章表現の能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	2.4%	5.7%	1.7%	2.5%	3.3%	1.4%	0.0%	3.5%	4.8%	4.2%	2.9%
2	3.5%	13.6%	3.3%	7.5%	5.2%	9.9%	7.4%	5.3%	14.3%	6.3%	7.4%
3	17.6%	50.0%	11.7%	32.0%	37.3%	28.4%	36.8%	26.3%	33.3%	16.7%	30.0%
4	52.9%	30.7%	51.7%	50.4%	44.4%	53.9%	45.6%	59.6%	42.9%	64.6%	49.4%
5	23.5%	0.0%	31.7%	7.5%	9.8%	6.4%	10.3%	5.3%	4.8%	8.3%	10.3%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔52〕 外国語の運用能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1	8.2%	5.7%	3.3%	6.6%	8.5%	4.3%	5.9%	7.0%	7.1%	4.2%	6.3%
2	27.1%	26.1%	20.0%	21.0%	19.0%	19.9%	26.5%	21.9%	21.4%	12.5%	21.7%
3	31.8%	45.5%	51.7%	41.7%	42.5%	41.8%	47.1%	38.6%	38.1%	29.2%	41.1%
4	20.0%	20.5%	20.0%	26.8%	26.8%	31.2%	13.2%	28.1%	31.0%	41.7%	25.8%
5	12.9%	2.3%	5.0%	3.9%	3.3%	2.8%	7.4%	4.4%	2.4%	12.5%	5.3%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔53〕コミュニケーションの能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.2%	3.4%	0.0%	1.4%	2.6%	0.7%	0.0%	0.9%	2.4%	0.0%	1.4%
2	1.2%	5.7%	0.0%	4.6%	5.2%	4.3%	2.9%	2.6%	11.9%	10.4%	4.4%
3	9.4%	44.3%	6.7%	32.0%	33.3%	35.5%	27.9%	29.8%	28.6%	14.6%	28.0%
4	60.0%	44.3%	56.7%	48.1%	44.4%	49.6%	44.1%	52.6%	50.0%	50.0%	49.7%
5	28.2%	2.3%	36.7%	13.9%	14.4%	9.9%	25.0%	14.0%	7.1%	25.0%	16.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔54〕プレゼンテーションの能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	0.0%	5.7%	0.0%	1.4%	2.6%	0.0%	0.0%	1.8%	2.4%	2.1%	1.6%
2	1.2%	10.2%	0.0%	1.9%	2.0%	4.3%	0.0%	0.9%	0.0%	4.2%	2.8%
3	9.4%	58.0%	11.7%	36.1%	37.3%	36.2%	22.1%	36.0%	54.8%	16.7%	32.7%
4	62.4%	23.9%	75.0%	50.4%	49.0%	50.4%	57.4%	52.6%	38.1%	58.3%	51.1%
5	27.1%	2.3%	13.3%	10.2%	9.2%	9.2%	20.6%	8.8%	4.8%	18.8%	11.9%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔55〕数理的な能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	3.5%	5.7%	3.3%	1.9%	2.6%	0.0%	0.0%	4.4%	2.4%	10.4%	3.1%
2	20.0%	28.4%	18.3%	6.6%	7.2%	8.5%	5.9%	6.1%	0.0%	20.8%	12.1%
3	36.5%	50.0%	51.7%	24.7%	23.5%	24.1%	27.9%	23.7%	28.6%	39.6%	31.7%
4	27.1%	15.9%	23.3%	53.9%	54.2%	53.9%	58.8%	52.6%	47.6%	27.1%	42.9%
5	12.9%	0.0%	3.3%	12.9%	12.4%	13.5%	7.4%	13.2%	21.4%	2.1%	10.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔56〕コンピュータの操作能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.2%	1.1%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	2.4%	2.1%	0.8%
2	1.2%	10.2%	1.7%	1.4%	2.6%	1.4%	0.0%	0.9%	0.0%	2.1%	2.4%
3	12.9%	45.5%	23.3%	16.0%	17.0%	10.6%	23.5%	16.7%	16.7%	4.2%	18.8%
4	51.8%	40.9%	58.3%	52.5%	51.0%	51.8%	39.7%	64.9%	47.6%	66.7%	52.4%
5	32.9%	2.3%	16.7%	29.3%	29.4%	35.5%	36.8%	15.8%	33.3%	25.0%	25.5%
99_未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔57〕 時間を効果的に利用する能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	4.7%	2.3%	0.0%	2.3%	2.6%	2.1%	1.5%	1.8%	4.8%	6.3%	2.6%
2	2.4%	13.6%	1.7%	9.7%	12.4%	7.8%	5.9%	7.0%	19.0%	10.4%	8.8%
3	31.8%	39.8%	18.3%	30.3%	31.4%	36.9%	27.9%	21.9%	31.0%	18.8%	29.9%
4	47.1%	39.8%	61.7%	45.4%	39.2%	42.6%	44.1%	62.3%	33.3%	54.2%	46.7%
5	14.1%	4.5%	18.3%	12.4%	14.4%	10.6%	20.6%	7.0%	11.9%	10.4%	12.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔58〕 グローバルな問題の理解

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.2%	2.3%	1.7%	1.5%	2.6%	1.4%	0.0%	0.9%	2.4%	0.0%	1.5%
2	4.7%	6.8%	0.0%	4.1%	3.3%	5.7%	1.5%	3.5%	7.1%	4.2%	4.1%
3	41.2%	68.2%	50.0%	56.9%	60.8%	53.2%	50.0%	57.0%	66.7%	18.8%	53.7%
4	43.5%	18.2%	43.3%	32.0%	26.1%	34.8%	38.2%	37.7%	19.0%	62.5%	34.4%
5	9.4%	4.5%	5.0%	5.4%	7.2%	5.0%	10.3%	0.9%	4.8%	14.6%	6.3%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔59〕 卒業後に就職するための準備の度合い

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	0.0%	5.7%	0.0%	1.2%	1.3%	0.7%	0.0%	1.8%	2.4%	2.1%	1.5%
2	2.4%	4.5%	1.7%	3.1%	3.9%	3.5%	1.5%	1.8%	4.8%	2.1%	3.0%
3	18.8%	54.5%	10.0%	34.2%	36.6%	36.2%	29.4%	28.1%	42.9%	14.6%	31.8%
4	49.4%	31.8%	71.7%	47.5%	43.1%	46.8%	50.0%	55.3%	40.5%	56.3%	48.3%
5	29.4%	3.4%	16.7%	14.1%	15.0%	12.8%	19.1%	13.2%	9.5%	25.0%	15.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

Ⅲ. 英語の学習状況について

〔60〕 渡航経験(期間)についておうかがいします。英語でコミュニケーションをすることを目指した渡航経験があれば、その期間(複数回の経験がある場合は最長のもの)について1つ選んで回答してください。
(アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド、インド、シンガポール等)

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1_渡航したことはない	80.0%	45.5%	73.3%	87.3%	84.3%	91.5%	79.4%	88.6%	92.9%	52.1%	78.7%
2_10日未満	7.1%	25.0%	10.0%	6.2%	7.8%	2.8%	8.8%	7.0%	4.8%	8.3%	8.8%
3_10日以上1ヶ月未満	11.8%	21.6%	5.0%	4.6%	5.2%	4.3%	8.8%	2.6%	2.4%	27.1%	8.6%
4_1ヶ月以上6ヶ月未満	1.2%	4.5%	6.7%	0.2%				0.9%		8.3%	1.8%
5_6ヶ月以上		3.4%	1.7%	1.4%	2.0%	1.4%	1.5%	0.9%			1.4%
99_未回答			3.3%	0.4%	0.7%		1.5%			4.2%	0.8%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

Ⅳ. 大学生活に対するあなたの考えや満足度について

● 本学に入学してから、あなたにとって次のことがらはどれくらいうまくいきましたか。

1. まったくうまく いかなかった	2. あまりうまく いかなかった	3. いくらかうまく いった	4. とてもうまく いった
----------------------	---------------------	-------------------	------------------

〔61〕大学の学生向けサービスを上手に利用する

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部							国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用				
1	4.7%	10.2%	8.3%	9.7%	10.5%	10.6%	4.4%	7.9%	16.7%	4.2%	8.8%	
2	29.4%	37.5%	26.7%	29.2%	28.1%	32.6%	26.5%	23.7%	40.5%	25.0%	29.7%	
3	58.8%	50.0%	60.0%	54.2%	52.9%	51.8%	64.7%	57.9%	40.5%	50.0%	54.4%	
4	7.1%	2.3%	5.0%	6.9%	8.5%	5.0%	4.4%	10.5%	2.4%	20.8%	7.1%	
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

〔62〕大学教員の学問的な期待を理解する

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	3.5%	10.2%	3.3%	8.1%	7.8%	9.2%	7.4%	8.8%	4.8%	4.2%	7.3%
2	30.6%	36.4%	20.0%	37.6%	41.8%	40.4%	36.8%	27.2%	42.9%	31.3%	35.0%
3	60.0%	51.1%	73.3%	50.4%	45.8%	48.2%	52.9%	57.9%	50.0%	60.4%	53.8%
4	5.9%	2.3%	3.3%	3.9%	4.6%	2.1%	2.9%	6.1%	2.4%	4.2%	3.9%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔63〕効果的に学習する技能を修得する

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	0.0%	4.5%	1.7%	5.2%	5.9%	6.4%	2.9%	4.4%	4.8%	6.3%	4.4%
2	27.1%	26.1%	18.3%	28.6%	30.7%	31.9%	29.4%	17.5%	38.1%	25.0%	27.2%
3	62.4%	64.8%	70.0%	59.8%	58.8%	54.6%	63.2%	67.5%	54.8%	60.4%	61.5%
4	10.6%	4.5%	10.0%	6.4%	4.6%	7.1%	4.4%	10.5%	2.4%	8.3%	7.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔64〕大学が求める水準に応じて学習する

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	2.4%	3.4%	0.0%	7.1%	7.8%	9.9%	4.4%	5.3%	4.8%	4.2%	5.5%
2	22.4%	18.2%	13.3%	37.8%	37.9%	39.7%	36.8%	32.5%	47.6%	25.0%	31.4%
3	70.6%	76.1%	80.0%	49.6%	48.4%	46.1%	54.4%	56.1%	40.5%	60.4%	57.7%
4	4.7%	2.3%	6.7%	5.4%	5.9%	4.3%	4.4%	6.1%	7.1%	10.4%	5.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔65〕時間を効果的に使う

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.2%	10.2%	1.7%	7.3%	7.8%	9.9%	4.4%	3.5%	11.9%	10.4%	6.8%
2	23.5%	22.7%	15.0%	33.8%	32.0%	38.3%	27.9%	30.7%	42.9%	22.9%	29.4%
3	55.3%	63.6%	58.3%	48.5%	47.7%	44.7%	52.9%	53.5%	42.9%	58.3%	52.2%
4	20.0%	3.4%	25.0%	10.4%	12.4%	7.1%	14.7%	12.3%	2.4%	8.3%	11.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔66〕大学教員と顔見知りになる

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	2.4%	22.7%	1.7%	22.0%	24.2%	29.8%	10.3%	15.8%	23.8%	2.1%	17.3%
2	23.5%	42.0%	13.3%	43.2%	45.1%	46.1%	41.2%	37.7%	45.2%	41.7%	38.7%
3	60.0%	33.0%	66.7%	29.9%	26.1%	21.3%	39.7%	41.2%	26.2%	39.6%	36.8%
4	14.1%	2.3%	18.3%	4.8%	4.6%	2.8%	8.8%	5.3%	4.8%	14.6%	7.1%
99_未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%	0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔67〕他の学生との友情を深める

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.2%	4.5%	0.0%	6.4%	7.2%	8.5%	4.4%	4.4%	4.8%	2.1%	4.9%
2	2.4%	19.3%	3.3%	18.1%	21.6%	17.0%	14.7%	14.9%	23.8%	10.4%	15.0%
3	42.4%	53.4%	38.3%	46.9%	47.7%	51.1%	42.6%	38.6%	59.5%	43.8%	46.3%
4	54.1%	22.7%	58.3%	28.6%	23.5%	23.4%	38.2%	42.1%	11.9%	43.8%	33.8%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

● あなたは、本学の教育内容・環境にどれくらい満足していますか。

1. とても不満	2. 不満	3. どちらでもない	4. 満足	5. とても満足
----------	-------	------------	-------	----------

〔68〕専門教育あるいは所属学科の授業

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	0.0%	3.4%	0.0%	2.5%	1.3%	4.3%	0.0%	0.9%	9.5%	2.1%	2.1%
2	8.2%	12.5%	3.3%	9.5%	7.2%	17.7%	5.9%	4.4%	9.5%	6.3%	9.0%
3	16.5%	44.3%	6.7%	34.2%	39.9%	34.0%	25.0%	28.9%	42.9%	25.0%	30.8%
4	54.1%	38.6%	76.7%	46.9%	44.4%	40.4%	57.4%	55.3%	38.1%	54.2%	49.4%
5	21.2%	1.1%	13.3%	6.8%	7.2%	3.5%	10.3%	10.5%	0.0%	10.4%	8.4%
99_未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	1.5%	0.0%	0.0%	2.1%	0.3%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔69〕2年次生または3年次生を対象としたゼミ（演習）などの教育内容

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1	1.2%	2.3%	0.0%	3.9%	3.3%	5.7%	1.5%	0.9%	11.9%	2.1%	3.0%
2	2.4%	8.0%	5.0%	8.1%	7.8%	13.5%	5.9%	4.4%	4.8%	10.4%	7.4%
3	22.4%	65.9%	30.0%	46.1%	44.4%	48.2%	52.9%	36.0%	61.9%	33.3%	43.8%
4	44.7%	23.9%	60.0%	37.5%	40.5%	29.8%	33.8%	50.9%	21.4%	43.8%	38.8%
5	29.4%	0.0%	5.0%	4.4%	3.9%	2.8%	5.9%	7.9%	0.0%	10.4%	7.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔70〕授業の全体的な質

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1	2.4%	2.3%	0.0%	2.7%	3.3%	3.5%	0.0%	0.9%	7.1%	0.0%	2.3%
2	9.4%	19.3%	11.7%	10.0%	9.2%	19.1%	2.9%	3.5%	11.9%	10.4%	11.1%
3	31.8%	50.0%	11.7%	41.7%	46.4%	39.0%	41.2%	36.8%	47.6%	22.9%	38.2%
4	49.4%	28.4%	70.0%	42.5%	37.9%	35.5%	51.5%	55.3%	33.3%	62.5%	44.9%
5	7.1%	0.0%	6.7%	3.1%	3.3%	2.8%	4.4%	3.5%	0.0%	4.2%	3.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔71〕日常生活と授業内容との関連

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1	0.0%	2.3%	0.0%	2.9%	1.3%	5.0%	0.0%	1.8%	9.5%	0.0%	2.1%
2	7.1%	10.2%	6.7%	11.6%	13.1%	18.4%	5.9%	4.4%	11.9%	8.3%	10.4%
3	36.5%	63.6%	31.7%	49.8%	52.3%	48.2%	44.1%	47.4%	61.9%	29.2%	47.3%
4	51.8%	21.6%	51.7%	31.9%	30.1%	26.2%	44.1%	39.5%	16.7%	56.3%	35.8%
5	4.7%	2.3%	10.0%	3.9%	3.3%	2.1%	5.9%	7.0%	0.0%	6.3%	4.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔72〕将来の仕事と授業内容の結びつき

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1	1.2%	2.3%	0.0%	2.3%	0.0%	4.3%	0.0%	1.8%	9.5%	2.1%	2.0%
2	9.4%	3.4%	0.0%	10.2%	14.4%	12.1%	7.4%	1.8%	16.7%	8.3%	8.5%
3	20.0%	48.9%	0.0%	34.7%	35.3%	36.9%	22.1%	31.6%	54.8%	33.3%	32.0%
4	47.1%	35.2%	78.3%	46.9%	46.4%	42.6%	55.9%	57.9%	19.0%	45.8%	47.9%
5	22.4%	10.2%	21.7%	5.6%	3.3%	4.3%	14.7%	7.0%	0.0%	10.4%	9.4%
99 未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔73〕教員と話をする機会

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	0.0%	3.4%	0.0%	3.5%	3.3%	7.1%	0.0%	0.9%	4.8%	2.1%	2.8%
2	4.7%	17.0%	5.0%	13.3%	17.0%	17.0%	10.3%	6.1%	11.9%	16.7%	12.4%
3	43.5%	61.4%	36.7%	55.6%	54.2%	56.7%	55.9%	54.4%	59.5%	37.5%	52.4%
4	36.5%	18.2%	51.7%	24.1%	20.3%	17.0%	26.5%	36.8%	23.8%	37.5%	27.7%
5	15.3%	0.0%	6.7%	3.5%	5.2%	2.1%	7.4%	1.8%	0.0%	6.3%	4.8%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔74〕学習支援や個別の学習指導

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	0.0%	4.5%	0.0%	4.6%	4.6%	7.1%	2.9%	0.9%	9.5%	6.3%	3.9%
2	11.8%	17.0%	6.7%	11.0%	17.0%	9.9%	4.4%	8.8%	9.5%	14.6%	11.6%
3	48.2%	59.1%	50.0%	60.0%	59.5%	57.4%	69.1%	57.0%	64.3%	47.9%	57.2%
4	29.4%	19.3%	38.3%	22.6%	16.3%	24.1%	20.6%	32.5%	16.7%	29.2%	24.5%
5	10.6%	0.0%	5.0%	1.7%	2.6%	1.4%	2.9%	0.9%	0.0%	2.1%	2.8%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔75〕他の学生と話をする機会

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.2%	4.5%	1.7%	3.1%	2.6%	4.3%	0.0%	1.8%	9.5%	0.0%	2.8%
2	1.2%	5.7%	1.7%	9.5%	8.5%	13.5%	4.4%	11.4%	2.4%	8.3%	7.5%
3	9.4%	46.6%	3.3%	37.1%	41.2%	35.5%	33.8%	33.3%	42.9%	20.8%	31.7%
4	48.2%	36.4%	60.0%	37.1%	34.6%	35.5%	47.1%	36.8%	35.7%	52.1%	40.8%
5	40.0%	6.8%	33.3%	13.3%	13.1%	11.3%	14.7%	16.7%	9.5%	18.8%	17.3%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔76〕大学のなかでの学生同士の一体感

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.2%	6.8%	0.0%	5.6%	4.6%	9.9%	1.5%	4.4%	4.8%	6.3%	4.9%
2	5.9%	9.1%	10.0%	11.4%	13.7%	12.1%	14.7%	4.4%	14.3%	10.4%	10.4%
3	24.7%	55.7%	11.7%	51.5%	57.5%	48.9%	39.7%	55.3%	47.6%	39.6%	45.4%
4	50.6%	26.1%	51.7%	25.7%	18.3%	24.1%	35.3%	30.7%	28.6%	39.6%	31.2%
5	17.6%	2.3%	26.7%	5.8%	5.9%	5.0%	8.8%	5.3%	4.8%	4.2%	8.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔77〕多様な考え方を認め合う雰囲気

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用		
1	0.0%	6.8%	0.0%	2.3%	2.6%	3.5%	0.0%	0.9%	4.8%	2.3%
2	4.7%	6.8%	5.0%	5.4%	2.6%	7.1%	11.8%	3.5%	4.8%	5.5%
3	23.5%	56.8%	10.0%	49.2%	53.6%	52.5%	32.4%	49.1%	50.0%	43.3%
4	49.4%	27.3%	63.3%	36.3%	34.0%	33.3%	44.1%	38.6%	35.7%	39.5%
5	22.4%	2.3%	21.7%	6.8%	7.2%	3.5%	11.8%	7.9%	4.8%	9.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔78〕大学での経験全般について

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用		
1	0.0%	4.5%	0.0%	1.9%	2.0%	4.3%	0.0%	0.0%	2.4%	1.8%
2	1.2%	5.7%	5.0%	7.3%	9.8%	7.8%	5.9%	3.5%	9.5%	6.1%
3	15.3%	48.9%	5.0%	33.2%	33.3%	36.2%	27.9%	28.9%	42.9%	29.9%
4	56.5%	36.4%	68.3%	46.5%	45.1%	42.6%	54.4%	50.9%	40.5%	49.4%
5	27.1%	4.5%	21.7%	11.0%	9.8%	9.2%	11.8%	16.7%	4.8%	12.8%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔79〕1つの授業を履修する学生数

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用		
1	2.4%	6.8%	0.0%	1.0%	1.3%	0.0%	0.9%	4.8%	2.1%	1.8%
2	5.9%	4.5%	1.7%	6.9%	8.5%	5.7%	1.5%	8.8%	9.5%	6.1%
3	28.2%	61.4%	6.7%	46.3%	44.4%	56.7%	35.3%	40.4%	52.4%	42.2%
4	54.1%	27.3%	70.0%	38.6%	40.5%	31.9%	50.0%	39.5%	33.3%	42.3%
5	9.4%	0.0%	21.7%	6.9%	4.6%	5.7%	13.2%	10.5%	0.0%	7.5%
99_未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

● あなたは、本学の設備や学生支援制度にどの程度満足していますか。

1. とても不満	2. 不満	3. どちらでもない	4. 満足	5. とても満足
----------	-------	------------	-------	----------

〔80〕図書館の設備（蔵書やレファレンスサービス）

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.2%	2.3%	0.0%	0.8%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.3%	1.3%
2	17.6%	8.0%	3.3%	5.0%	4.6%	4.3%	7.4%	3.5%	9.5%	2.1%	6.4%
3	25.9%	22.7%	16.7%	28.2%	33.3%	36.9%	22.1%	14.0%	28.6%	22.9%	26.2%
4	38.8%	54.5%	48.3%	51.0%	47.7%	45.4%	57.4%	57.9%	52.4%	58.3%	50.3%
5	16.5%	12.5%	31.7%	14.9%	11.8%	13.5%	13.2%	23.7%	9.5%	10.4%	15.8%
99_未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔81〕実験室の設備や器具

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	2.4%	2.3%	0.0%	1.4%	1.3%	2.1%	0.0%	0.0%	4.8%	4.2%	1.6%
2	5.9%	3.4%	0.0%	8.7%	5.9%	12.8%	8.8%	4.4%	16.7%	6.3%	7.0%
3	47.1%	42.0%	48.3%	35.5%	37.3%	39.0%	47.1%	23.7%	31.0%	77.1%	40.9%
4	31.8%	47.7%	38.3%	43.8%	45.1%	42.6%	36.8%	48.2%	42.9%	10.4%	40.6%
5	12.9%	4.5%	13.3%	10.6%	10.5%	3.5%	7.4%	23.7%	4.8%	2.1%	9.9%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔82〕コンピュータの施設や設備

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	3.5%	3.4%	0.0%	1.9%	3.3%	2.8%	0.0%	0.0%	2.4%	0.0%	2.0%
2	10.6%	5.7%	1.7%	13.3%	13.7%	21.3%	8.8%	8.8%	4.8%	4.2%	10.8%
3	29.4%	43.2%	25.0%	32.8%	32.7%	28.4%	42.6%	32.5%	33.3%	25.0%	32.5%
4	43.5%	45.5%	60.0%	43.4%	43.1%	41.8%	39.7%	44.7%	52.4%	60.4%	45.9%
5	12.9%	2.3%	13.3%	8.5%	7.2%	5.7%	8.8%	14.0%	7.1%	10.4%	8.8%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔83〕コンピュータの訓練や援助

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.2%	5.7%	1.7%	2.5%	3.9%	0.7%	2.9%	1.8%	4.8%	2.1%	2.6%
2	14.1%	11.4%	1.7%	10.8%	12.4%	7.8%	14.7%	13.2%	2.4%	6.3%	10.3%
3	51.8%	55.7%	48.3%	45.9%	46.4%	44.0%	51.5%	44.7%	45.2%	29.2%	46.8%
4	24.7%	26.1%	40.0%	34.4%	32.7%	40.4%	26.5%	30.7%	42.9%	58.3%	34.3%
5	8.2%	1.1%	8.3%	6.4%	4.6%	7.1%	4.4%	9.6%	4.8%	4.2%	6.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔84〕インターネットの使いやすさ

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用		
1	17.6%	15.9%	1.7%	10.2%	13.1%	10.6%	10.3%	7.9%	4.8%	8.3%
2	27.1%	18.2%	25.0%	24.9%	24.8%	22.7%	30.9%	23.7%	26.2%	29.2%
3	30.6%	44.3%	18.3%	33.6%	36.6%	33.3%	25.0%	30.7%	45.2%	27.1%
4	22.4%	20.5%	48.3%	26.1%	20.9%	29.1%	26.5%	31.6%	19.0%	29.2%
5	2.4%	1.1%	6.7%	5.2%	4.6%	4.3%	7.4%	6.1%	4.8%	6.3%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔85〕奨学金など学費援助の制度

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用		
1	2.4%	5.7%	0.0%	1.5%	3.3%	1.4%	0.0%	0.9%	0.0%	1.9%
2	4.7%	5.7%	1.7%	6.4%	8.5%	6.4%	4.4%	4.4%	7.1%	8.3%
3	60.0%	62.5%	51.7%	63.7%	64.7%	63.8%	63.2%	58.8%	73.8%	60.4%
4	23.5%	23.9%	40.0%	19.9%	15.0%	24.8%	19.1%	22.8%	14.3%	25.0%
5	8.2%	2.3%	6.7%	8.5%	8.5%	3.5%	13.2%	13.2%	4.8%	6.3%
99 未回答	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔86〕健康・保健サービス（心身の健康に関わる問題についての診療や相談）

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用		
1	3.5%	3.4%	0.0%	1.4%	1.3%	2.8%	1.5%	0.0%	0.0%	2.1%
2	3.5%	1.1%	3.3%	7.3%	11.1%	5.0%	7.4%	6.1%	4.8%	6.3%
3	58.8%	60.2%	33.3%	64.9%	63.4%	70.2%	60.3%	59.6%	73.8%	58.3%
4	23.5%	33.0%	50.0%	22.0%	21.6%	17.7%	23.5%	28.1%	19.0%	31.3%
5	10.6%	2.3%	13.3%	4.4%	2.6%	4.3%	7.4%	6.1%	2.4%	2.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔87〕レクリエーション施設（ジムの設備など）

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用		
1	11.8%	6.8%	0.0%	10.8%	11.8%	9.2%	13.2%	8.8%	14.3%	6.3%
2	12.9%	12.5%	5.0%	16.8%	18.3%	9.9%	26.5%	15.8%	21.4%	22.9%
3	64.7%	52.3%	63.3%	60.0%	62.7%	66.7%	45.6%	56.1%	61.9%	60.4%
4	9.4%	28.4%	25.0%	10.4%	5.9%	12.8%	10.3%	16.7%	2.4%	10.4%
5	1.2%	0.0%	6.7%	1.9%	1.3%	1.4%	4.4%	2.6%	0.0%	0.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔88〕 キャリアカウンセリング（就職や進学に関する相談）

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	2.4%	4.5%	0.0%	1.7%	2.6%	1.4%	0.0%	0.9%	4.8%	2.1%	2.0%
2	2.4%	10.2%	8.3%	5.4%	5.9%	3.5%	7.4%	3.5%	11.9%	6.3%	5.9%
3	55.3%	67.0%	58.3%	58.1%	56.9%	67.4%	45.6%	50.9%	71.4%	31.3%	57.2%
4	28.2%	18.2%	28.3%	24.7%	26.8%	19.9%	27.9%	31.6%	9.5%	47.9%	26.0%
5	11.8%	0.0%	5.0%	10.0%	7.8%	7.8%	19.1%	13.2%	2.4%	12.5%	8.9%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

V. 将来のことについて

〔89〕 あなたは学部卒業後、どのような進路を考えていますか。1つ選んで回答してください。

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1.就職する	82.4%	78.4%	85.0%	37.3%	28.8%	50.4%	52.9%	24.6%	33.3%	85.4%	53.1%
2.大学院に進学する	7.1%	1.1%		45.8%	54.2%	30.5%	36.8%	60.5%	40.5%		30.5%
3.他大学に(編)入学する	1.2%	2.3%	3.3%	1.5%	0.7%	1.4%	1.5%	2.6%	2.4%		1.6%
4.専門学校に入学する	2.4%	2.3%	3.3%	1.2%	0.7%	0.7%	1.5%	1.8%	2.4%	4.2%	1.8%
5.まだわからない	7.1%	15.9%	8.3%	14.3%	15.7%	17.0%	7.4%	10.5%	21.4%	10.4%	13.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

● あなたが大学（学部）卒業後の進路の準備をしたり考えたりするために、次のようなことがらを大学在学中に経験したいと思いませんか。

1. そう思わない	2. どちらかといえば そう思わない	3. どちらかといえば そう思う	4. そう思う
-----------	-----------------------	---------------------	---------

〔90〕 専門分野をしっかりと身につける

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	2.4%	2.3%	0.0%	2.3%	3.3%	2.1%	1.5%	0.9%	4.8%	2.1%	2.1%
2	5.9%	0.0%	5.0%	4.1%	4.6%	5.7%	1.5%	1.8%	7.1%	8.3%	4.1%
3	21.2%	35.2%	15.0%	33.2%	33.3%	42.6%	19.1%	28.9%	35.7%	39.6%	31.2%
4	69.4%	58.0%	78.3%	57.5%	54.9%	47.5%	76.5%	65.8%	47.6%	47.9%	59.8%
99.未回答	1.2%	4.5%	1.7%	2.9%	3.9%	2.1%	1.5%	2.6%	4.8%	2.1%	2.8%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔91〕専門分野だけでなく、幅広い知識を身につけ視野を広げる

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	2.4%	2.3%	0.0%	1.7%	3.9%	1.4%	0.0%	0.0%	2.4%	2.1%	1.8%
2	2.4%	1.1%	1.7%	2.5%	2.6%	3.5%	0.0%	1.8%	4.8%	8.3%	2.6%
3	17.6%	42.0%	25.0%	38.4%	41.8%	46.8%	27.9%	28.1%	42.9%	31.3%	35.2%
4	77.6%	54.5%	73.3%	57.3%	51.6%	48.2%	72.1%	70.2%	50.0%	58.3%	60.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔92〕職業意識の形成につながる教育を受ける

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	2.4%	2.3%	0.0%	1.7%	3.3%	2.1%	0.0%	0.0%	2.4%	0.0%	1.6%
2	5.9%	2.3%	3.3%	6.4%	5.9%	7.1%	1.5%	5.3%	16.7%	6.3%	5.6%
3	31.8%	52.3%	26.7%	49.4%	50.3%	56.7%	52.9%	42.1%	35.7%	31.3%	45.1%
4	58.8%	43.2%	70.0%	42.3%	40.5%	33.3%	45.6%	52.6%	45.2%	62.5%	47.4%
99. 未回答	1.2%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔93〕企業での体験実習等を踏まえた上で、専門知識を学ぶ

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	3.5%	6.8%	0.0%	1.2%	2.0%	0.7%	1.5%	0.0%	2.4%	4.2%	2.1%
2	4.7%	8.0%	5.0%	9.1%	5.2%	12.8%	5.9%	8.8%	16.7%	6.3%	8.0%
3	37.6%	52.3%	31.7%	49.8%	52.3%	56.0%	42.6%	44.7%	45.2%	41.7%	46.9%
4	54.1%	33.0%	63.3%	40.0%	40.5%	30.5%	50.0%	46.5%	35.7%	47.9%	42.9%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔94〕教員が設定した特定の課題に対して、チームで取り組むプロジェクト型の授業を受ける

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	4.7%	5.7%	1.7%	3.1%	3.9%	3.5%	1.5%	2.6%	2.4%	2.1%	3.4%
2	11.8%	25.0%	11.7%	13.1%	9.8%	16.3%	11.8%	11.4%	21.4%	8.3%	13.9%
3	50.6%	52.3%	53.3%	53.3%	52.3%	54.6%	58.8%	50.9%	50.0%	43.8%	52.3%
4	32.9%	17.0%	33.3%	30.5%	34.0%	25.5%	27.9%	35.1%	26.2%	45.8%	30.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔95〕自分で課題を見つけ、自分で解決していくような訓練を受ける

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	4.7%	6.8%	0.0%	1.4%	2.0%	1.4%	0.0%	0.0%	4.8%	2.1%	2.3%
2	7.1%	9.1%	8.3%	7.1%	7.8%	8.5%	5.9%	3.5%	11.9%	8.3%	7.5%
3	47.1%	62.5%	48.3%	52.9%	51.6%	55.3%	55.9%	51.8%	47.6%	37.5%	52.1%
4	41.2%	21.6%	43.3%	38.6%	38.6%	34.8%	38.2%	44.7%	35.7%	52.1%	38.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔96〕ディベートやプレゼンテーションの訓練を受ける

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	2.4%	5.7%	0.0%	1.2%	2.6%	0.7%	0.0%	0.0%	2.4%	6.3%	2.0%
2	9.4%	17.0%	11.7%	8.1%	5.2%	9.9%	4.4%	8.8%	16.7%	4.2%	9.3%
3	47.1%	55.7%	51.7%	52.7%	53.6%	57.4%	51.5%	44.7%	57.1%	33.3%	51.2%
4	41.2%	21.6%	36.7%	38.0%	38.6%	31.9%	44.1%	46.5%	23.8%	56.3%	37.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔97〕実践的で専門性のある資格を取得するためのプログラムを受ける

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.2%	4.5%	1.7%	2.5%	4.6%	2.1%	0.0%	1.8%	2.4%	0.0%	2.4%
2	11.8%	11.4%	11.7%	9.8%	7.2%	14.2%	4.4%	9.6%	14.3%	6.3%	10.1%
3	47.1%	52.3%	41.7%	50.6%	57.5%	50.4%	42.6%	48.2%	45.2%	47.9%	49.6%
4	40.0%	31.8%	45.0%	37.1%	30.7%	33.3%	52.9%	40.4%	38.1%	45.8%	37.9%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔98〕レポートや論文指導により、文書作成能力を高める

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.2%	5.7%	0.0%	1.7%	2.6%	2.1%	0.0%	0.9%	2.4%	2.1%	2.0%
2	9.4%	18.2%	8.3%	9.5%	10.5%	12.1%	7.4%	5.3%	11.9%	8.3%	10.3%
3	41.2%	48.9%	41.7%	47.9%	45.8%	52.5%	52.9%	41.2%	50.0%	39.6%	46.3%
4	48.2%	27.3%	50.0%	40.9%	41.2%	33.3%	39.7%	52.6%	35.7%	50.0%	41.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔99〕卒業後の進路について、教職員に対して個別に相談する

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	3.5%	8.0%	0.0%	2.3%	2.0%	2.8%	2.9%	1.8%	2.4%	0.0%	2.8%
2	12.9%	15.9%	8.3%	12.9%	12.4%	15.6%	11.8%	9.6%	16.7%	8.3%	12.6%
3	49.4%	53.4%	38.3%	50.8%	51.6%	53.9%	44.1%	50.0%	50.0%	45.8%	49.7%
4	34.1%	22.7%	53.3%	34.0%	34.0%	27.7%	41.2%	38.6%	31.0%	45.8%	34.9%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔100〕卒業後の進路について、本学の卒業生や先輩と話をする

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	4.7%	3.4%	3.3%	2.3%	2.6%	2.1%	1.5%	1.8%	4.8%	2.1%	2.8%
2	4.7%	6.8%	5.0%	11.0%	9.8%	14.2%	5.9%	9.6%	16.7%	14.6%	9.6%
3	43.5%	61.4%	46.7%	48.3%	47.7%	56.7%	45.6%	42.1%	42.9%	41.7%	48.7%
4	47.1%	28.4%	45.0%	38.4%	39.9%	27.0%	47.1%	46.5%	35.7%	41.7%	38.9%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔101〕本学の教職員以外の大人と話をする

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	8.2%	10.2%	10.0%	8.7%	12.4%	6.4%	1.5%	8.8%	14.3%	14.6%	9.3%
2	5.9%	12.5%	15.0%	18.3%	17.0%	24.1%	11.8%	16.7%	19.0%	4.2%	15.3%
3	37.6%	48.9%	36.7%	45.8%	43.1%	46.8%	47.1%	47.4%	45.2%	37.5%	44.1%
4	47.1%	27.3%	36.7%	26.4%	26.8%	21.3%	38.2%	27.2%	21.4%	43.8%	30.5%
99. 未回答	1.2%	1.1%	1.7%	0.8%	0.7%	1.4%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

VI. その他

- あなたが、今までに受験したことのある英語の検定試験についておうかがいします。
それぞれの試験について取得した級またはスコアの中で最も高いものを教えてください。

〔102〕今までに英語の検定試験を受けたことはありますか

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1_受けたことはある	87.1%	85.2%	85.0%	69.9%	69.9%	67.4%	72.1%	71.1%	71.4%	89.6%	71.7%
2_受けたことはない	10.6%	14.8%	13.3%	29.2%	29.4%	31.2%	25.0%	28.9%	28.6%	10.4%	24.9%
99_未回答	2.4%		1.7%	1.0%	0.7%	1.4%	2.9%				3.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔103〕実用英語技能検定(英検)の受験経験はありますか

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1_受験経験あり	85.9%	81.8%	91.7%	63.7%	58.8%	63.8%	75.0%	61.4%	69.0%	89.6%	71.7%
2_受験経験なし	10.6%	17.0%	3.3%	32.8%	37.3%	32.6%	20.6%	36.8%	26.2%	6.3%	24.9%
99_未回答	3.5%	1.1%	5.0%	3.5%	3.9%	3.5%	4.4%	1.8%	4.8%	4.2%	3.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔105〕TOEICテスト(公開テストまたはIPテスト)の受験経験はありますか ※10～990点

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1.受験経験あり	10.6%	10.2%		27.4%	22.9%	25.5%	26.5%	36.0%	28.6%	27.1%	21.7%
2.受験経験なし	89.4%	89.8%	100.0%	72.6%	77.1%	74.5%	73.5%	64.0%	71.4%	72.9%	78.3%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔109〕TOEFL ITPテスト(団体受験)の受験経験はありますか ※Level.1 310～677点

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1.受験経験あり	4.7%	2.3%	1.7%	1.7%	2.0%	2.1%		1.8%	2.4%	91.7%	7.5%
2.受験経験なし	95.3%	97.7%	98.3%	98.3%	98.0%	97.9%	100.0%	98.2%	97.6%	8.3%	92.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔113〕インターネット版 TOEFLテスト(TOEFL iBT)の受験経験はありますか ※0～120点

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1.受験経験あり	1.2%	4.5%		1.0%	0.7%	0.7%		1.8%	2.4%	6.3%	1.6%
2.受験経験なし	98.8%	95.5%	100.0%	99.0%	99.3%	99.3%	100.0%	98.2%	97.6%	93.8%	98.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

● 授業外学修について尋ねます。

〔117〕以下の条件から、あなたの1週間の授業外学修時間を教えてください。前期、後期の学期中の平均的なものを教えてください。

含まないもの	含むもの
・オンデマンド授業を含む大学の授業時間(講義、実験、演習) ・科目に関係のない資格の勉強	・授業の予習(予習課題に取り組んだり、ノートや教科書の内容を確認する時間など) ・授業の復習、宿題 ・レポート作成 ・グループワーク ・実験・演習のコマ時間以外に取り組んだ時間 ・正課外の授業関連イベント ・科目の学修に密接に関係する資格の勉強

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
					機械	電気	建築	物質	応用		
1_0～1時間未満	2.4%	18.2%	1.7%	3.3%	5.9%	2.8%	1.5%	1.8%	2.4%	2.1%	4.6%
2_1～3時間未満	9.4%	17.0%	5.0%	13.9%	20.3%	10.6%	7.4%	16.7%	4.8%	12.5%	13.0%
3_3～5時間未満	15.3%	18.2%	11.7%	17.0%	21.6%	13.5%	19.1%	17.5%	7.1%	25.0%	17.0%
4_5～7時間未満	21.2%	10.2%	8.3%	20.1%	15.7%	19.9%	26.5%	22.8%	19.0%	22.9%	18.4%
5_7～10時間未満	15.3%	6.8%	13.3%	16.6%	13.7%	19.1%	16.2%	16.7%	19.0%	14.6%	15.0%
6_10～15時間未満	11.8%	9.1%	11.7%	11.2%	10.5%	14.2%	4.4%	10.5%	16.7%	6.3%	10.8%
7_15～20時間未満	10.6%	8.0%	11.7%	8.1%	2.6%	9.2%	13.2%	7.9%	16.7%	10.4%	8.8%
8_20～25時間未満	5.9%	5.7%	15.0%	4.1%	2.0%	5.7%	4.4%	4.4%	4.8%	2.1%	5.1%
9_25～30時間未満	4.7%	6.8%	16.7%	2.9%	3.3%	2.8%	1.5%	1.8%	7.1%	4.2%	4.6%
0_その他			1.7%	0.6%			2.9%		2.4%		0.5%
99_未回答	3.5%		3.3%	2.3%	4.6%	2.1%	2.9%				2.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

● 最後に3問!

〔118〕壁新聞「数字で見る福井大学のいま」(右画像)が掲示板、図書館や事務室付近などに貼られていることを知っていますか?

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1_知っている	37.6%	25.0%	21.7%	41.1%	37.3%	46.8%	38.2%	41.2%	40.5%	60.4%	38.7%
2_知らない	56.5%	75.0%	76.7%	56.9%	59.5%	51.8%	58.8%	57.9%	59.5%	39.6%	59.3%
99_未回答	5.9%		1.7%	1.9%	3.3%	1.4%	2.9%	0.9%			2.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔119〕授業中に内職(授業に関係のないことを)したことがありますか。

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1_まったくしなかった	10.6%	4.5%	8.3%	11.4%	13.7%	10.6%	4.4%	13.2%	11.9%	14.6%	10.5%
2_あまりしなかった	32.9%	14.8%	25.0%	26.6%	21.6%	31.9%	23.5%	34.2%	11.9%	29.2%	26.0%
3_ときどきした	45.9%	59.1%	50.0%	51.9%	52.9%	48.2%	61.8%	43.0%	69.0%	43.8%	51.4%
4_ひんぱんにした	7.1%	21.6%	15.0%	8.9%	9.8%	8.5%	8.8%	8.8%	7.1%	12.5%	10.8%
99_未回答	3.5%		1.7%	1.2%	2.0%	0.7%	1.5%	0.9%			1.3%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔120〕様々なアンケートの回答を通じて大学がよくなっていると感じていますか。

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部						国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用			
1_思う	3.5%	2.3%	6.7%	5.4%	5.9%	6.4%	7.4%	4.4%			4.6%
2_やや思う	30.6%	29.5%	58.3%	43.6%	40.5%	43.3%	50.0%	48.2%	33.3%	29.2%	40.9%
3_やや思わない	29.4%	36.4%	25.0%	29.5%	34.6%	24.8%	25.0%	28.1%	38.1%	47.9%	31.0%
4_思わない	31.8%	31.8%	8.3%	19.7%	16.3%	24.1%	14.7%	18.4%	28.6%	22.9%	21.7%
99_未回答	4.7%		1.7%	1.7%	2.6%	1.4%	2.9%	0.9%			1.8%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

【資料 ②-1】

数字でみる 福井大学のいま

福井大学にまつわる数字をシリーズで紹介する『数字でみる福井大学のいま』は、高等教育推進センターが担当しています。

今回は、文京にある総合図書館のデータを中心に紹介するよ。図書館利用の参考にしてね。

vol.2 (2023年7月)

(発行元) 附属図書館

高等教育推進センター教学IR部門



混み具合



22時まで開いているって 知ってた?

おしゃべりゾーン

会話のできる席数

140席

おしゃべりゾーンには個室もあるよ
(グループ学習室)



モニター付

Webで空き状況チェック

5ルーム

たべられるゾーン

「おしゃべりゾーン」の内、飲食のできる席数

50席

6人まで

日本語の電子書籍

約3,900タイトル

・明治から令和まで

・小説、観光案内、専門書、就活本など

新聞

15紙

読んでる?

1階

文京図書館は
こんなところ

大学全体の図書購入費

年間約9,000万円

新しく買った本は
3階の新刊コーナーに並ぶよ

本を借りたことのある学部生

年間平均 49% ひとり4冊

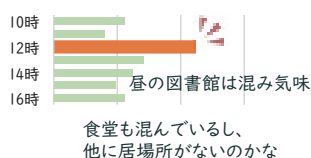
うれしい...
みつけた

学生の要望でも

年間約200冊購入

松岡や他大学の図書館も利用できるよ!

入館データから



学生調査から

お昼前後に
過ごせる場所が欲しい

自由に使える
スペースがない

だったら

学内に憩いのスペースを増やそう

この他、キャンパスの利便性向上のため 大学はがんばっています。



みんなの声で大学をかえる チャンス!



食堂西側の緑地を学生スペースにするアイデアを募集しているよ。応募できるのは 学生だけ!!

締切: 8月31日(木)

詳しくは [こちら](#)



2018年4月から2023年5月までのデータに基づいています。
詳しい開館情報・蔵書情報は図書館ホームページを確認して下さい。
※1 電子ジャーナル等を含みます。 ※2 ブックハンディングと購入リクエストの合計です。

この壁新聞へのご意見、ご感想は

高等教育推進センター教学IR部門 (ir-adm@ml.u-fukui.ac.jp) まで

【資料 ②-2】

数字でみる 福井大学のいま

vol.3 (2023年11月)

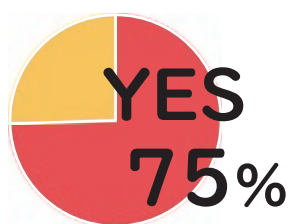
(発行元) 高等教育推進センター教学IR部門



第3号では、昨年12月に実施した「在学生調査」を紹介するよ。
福井大学では学生アンケートの結果を様々な改善活動につなげています。毎年1、3年生全員に実施している「在学生調査」では、大学生活への自己評価や学習意欲などを把握することで皆さんの大学生活をより素晴らしいものにすることが目的です。

○ 福井大学での学生生活に満足している

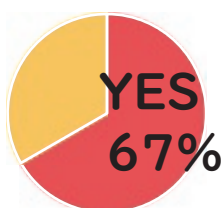
1年 & 3年



学生の3/4は満足しているけどもっと多くの人が満足するようにしたい。
そのために調査を通して色々なことを教えて欲しい。

○ 授業がつまらない

1 & 3

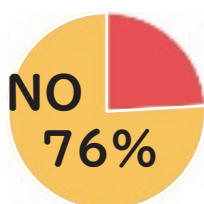


授業はLIVE!!
みんなもLIVEの参加者だよ
先生と一緒に盛り上げていこう!!

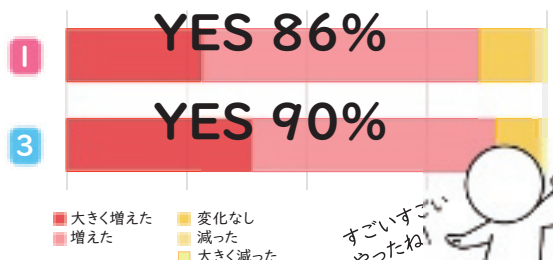


○ 教員に親近感を感じている

1 & 3

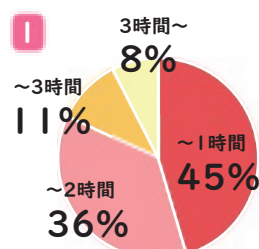


○ 専門分野の知識が増えた

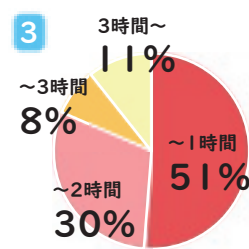


すごいすごい
やったね!

○ 授業以外の勉強時間(一日あたり)



平均: 1時間19分



平均: 1時間14分

1、2時間の勉強で予習・復習は大丈夫なの?
知識の定着には毎日の自学自習が欠かせないよ。

勉強と部活やバイトを両立させよう

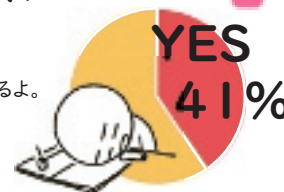


○ 授業中に居眠りした

1 & 3

睡眠不足が
日中の眠気につながってるよ。

生活リズムを整えよう



○ アンケート提出率

1 & 3



回答してくれたみんな ありがとう!!
他の調査より、はるかに高い提出率

でも

より良い改革のためには、
全員の声が必要です。

目標は 100%!!

「在学生調査」は
今年もあるよ!
(十一月)



皆さんの回答を可能な限り今後の大学運営に反映していきます。「在学生調査」の結果公開も予定しています。

この壁新聞へのご意見、ご感想は
高等教育推進センター教学IR部門 (ir-adm@ml.u-fukui.ac.jp) まで

令和5年度 高等教育推進センター委員会等名簿

委員会等	氏 名	所属等
運営委員会	安田 年博	センター長、理事（教育，評価担当）／副学長
	山田 徳史	副センター長、教学企画・支援部門長、工学研究科
	江端 弘樹	教学IR部門長、高等教育推進センター
	北島 弘一	学務部長
	浅原 雅浩	教育学部
	安倍 博	医学部
	松田 和之	国際地域学部
教学企画・支援部門	山田 徳史	部門長、工学研究科
	江端 弘樹	専任教員、高等教育推進センター
	大和真希子	教育学部
	磯見 智恵	医学部
	内村 智博	工学研究科
	松田 和之	国際地域学部
	北島 弘一	教務課長
	廣田 龍彰	松岡キャンパス学務課長
	山本 恭弘	学生サービス課長
	安倍 博	医学部
教学IR部門	江端 弘樹	部門長、高等教育推進センター
	西沢 徹	教育学部
	安倍 博	医学部
	石川浩一郎	工学研究科
	松田 和之	国際地域学部
	北島 弘一	教務課長
	廣田 龍彰	松岡キャンパス学務課長
	林 大剛	経営戦略課
	山田 徳史	工学研究科
	矢野 真弓	教務課

福井大学高等教育研究 編集委員会

編集委員長 安倍 博 (高等教育推進センター副センター長)

編集委員 江端 弘樹 (高等教育推進センター)

大和 真希子 (教育・人文社会系部門教員養成領域)

磯見 智恵 (医学系部門看護学領域)

内村 智博 (工学系部門工学領域)

磯崎 康太郎 (教育・人文社会系部門総合グローバル領域)

北島 弘一 (教務課)

山本 恭弘 (学生サービス課)

亀江 洋子 (松岡キャンパス学務課)

福井大学高等教育研究 vol.2

Higher Education Studies, University of Fukui vol.2

2025年3月31日 発行

編集 福井大学高等教育研究編集委員会

発行 福井大学高等教育推進センター

〒910-8507 福井県福井市文京3-9-1

印刷 能登印刷株式会社

